

深谷市
まえ いだて
前・居立

一般国道17号上武道路関係埋蔵文化財発掘調査報告

— III —

(第1分冊)

1995



前・居立遺跡全景



前遺跡全景



居立遺跡全景



居立遺跡第14号住居跡出土遺物



居立遺跡第108号住居跡出土遺物



居立遺跡出土近世遺物



居立遺跡出土近世遺物

序

近年、都心への通勤圏が広がり、埼玉県では全国的に見ても高い人口増加率を示しております。これに伴って、主要幹線道路の混雑は激しさを増す一方で、県内を縦断する国道17号においても例外ではありません。建設省では、この問題を解消するため、熊谷市西別府から深谷市北東部を通り、利根川を経て群馬県に達する上武道路を計画いたしました。

計画された路線内には埋蔵文化財包蔵地が認められたことから、関係各機関で慎重な協議が重ねられ、路線決定にあたってどうしても避けきれない遺跡について当事業団が記録保存のための発掘調査を実施することになりました。

調査された遺跡は10遺跡に及び、このうち前遺跡・居立遺跡では古墳時代から近世までの数多くの資料が発見されました。その中心は古墳時代から奈良・平安時代の集落跡で、膨大な土器とともに、132軒の住居跡が検出されております。また、江戸時代の陶磁器がまとめて出土しており、当地の近世史を考える上で貴重な資料を得ることができました。

また、古代の大地震によって生じた液状化現象の跡である噴砂が確認され、地質学・地震学等の関係者からも注目されました。

本書はこれらの成果をまとめたものであります。埋蔵文化財の保護や学術研究の基礎資料として、また教育・普及の資料として広く御活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から報告書刊行に至るまで多大な御指導と御協力を賜りました埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課をはじめ、建設省大宮国道工事事務所・同熊谷出張所、深谷市教育委員会、熊谷市教育委員会、妻沼町教育委員会、並びに地元関係各位に対し、厚くお礼申し上げます。

平成7年3月

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
理事長 荒井 桂

例 言

1 本書は一般国道17号（上武道路）改築工事事業にかかる、前遺跡・居立遺跡の発掘調査報告書である。各遺跡の略号、コード番号、所在地及び、発掘調査に対する文化庁長官からの指示通知は以下に示すとおりである。

前 遺跡	ME	60-175	深谷市大字本田ヶ谷字前177番地他 昭和63年5月23日付 委保第5の684号
居立遺跡	IDT	60-176	深谷市大字上増田字居立1-1番地他 平成元年6月15日付 委保第5の544号

2 発掘調査は埼玉県教育庁生涯学習部文化財保護課の調整を経て、建設省大宮国道工事事務所の委託により、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。

3 一般国道17号上武道路関係の既刊の報告書は下記の通りである。

「ウツギ内・砂田・柳町」	一般国道17号上武道路関係埋蔵文化財発掘調査報告-I- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第126集	1993
「清水上遺跡」	一般国道17号上武道路関係埋蔵文化財発掘調査報告-IV- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第152集	1994

4 発掘調査は、昭和63年7月1日から平成2年3月31日まで実施し、報告書作成作業は平成5年4月1日から平成7年3月31日まで実施した。

5 発掘調査は、今井 宏、利根川章彦、立石盛詞、栗島義明、岩瀬 譲が行い、報告書作成事業は、岩瀬が行った。なお、発掘調査、報告書作成事業の組織は第I章に示した。

6 遺跡基準点測量、自然科学分析及び巻頭集合写真撮影については下記へ委託した。

基準点測量及び航空写真測量	中央航業株式会社
土器胎土分析	第四紀地質研究所
巻頭土器集合写真撮影	小川忠博

7 発掘調査時の写真撮影は各担当者が、遺物撮影は岩瀬が行った。

8 出土品の整理及び図版の作成は山崎えり子、中島令子の補助を得て岩瀬が行い、磯崎 一、富田和夫、黒坂禎二の協力があった。

9 本書の執筆は主に岩瀬があたり、第V章の一部を文末に記したとおり分担した。

10 本書の編集は資料部資料整理第1課の岩瀬が行った。

11 本書にかかる資料は平成7年度以降埼玉県立埋蔵文化財センターが保管する。

12 本書の作成にあたり下記の方々から御教示、御協力を賜った。

青木克尚	荒川 弘	金子正之	古池青緑	澤出晃越	鈴木裕子	立石盛詞
鳥羽政之	野沢 均	平田重之	三田光明	渡辺 一		

凡 例

1 本書における挿図の指示は以下のとおりである。

• X、Yによる座標表示は国家標準直角座標第Ⅱ系に基づく座標値を示し、方位は全て座標北を表す。

• 大グリッドは30×30mで、南から北に50音順、東から西に算用数字で表し、小グリッドはその中を6×6mに25分割したものである。呼称は、50音-数字-小グリッドの順である（例あ-1-1）。グリッドの名称は南東隅の杭名称を用いた。

• 挿図の縮尺は以下を原則とし、それ以外については個別に示した。

遺構 住居跡・井戸跡・土塋 1/60 カマド 1/30 掘立柱建物跡 1/80

遺物 土器・焙烙（破片）・板碑 1/4 石製品・土製品・古銭 1/2 鉄製品 1/3

焙烙 1/6 編み物石・石門 1/8

• 挿図中の遺構には略号を使用した。

竪穴住居跡 S J 掘立柱建物跡 S B 井戸跡 S E 土塋 S K 溝跡 S D

神社跡・屑溝状遺構 S X

• 挿図中のスクリーントーンは以下のことを示す。



• 土器の断面図は土師器を白抜きで、須恵器を黒塗りて表現した。

• 遺構図中のドットは遺物の出土位置及び接合関係を示し、番号は遺物実測図と一致する。

2 遺物観察表の表記は以下のとおりである。

• 量量の単位はcmで、() 内の数値は推定値である。なお、器高は破片の場合残存高を表す。

• 胎土は肉眼で観察できる物質について以下のように示し、透明・半透明のものにはダッシュ（'）を付けた。

白色 W 黒色 B 赤色 R 白色針状物質 針 片岩粒子 片

• 焼成は4ランクに分け、良好 A、普通 B、やや不良 C、不良 Dとした。

• 色調は『新版標準土色帖』（農林省農林水産技術会議事務局監修 1967）に照らし、最も近い色相を記した。

• 残存率は5%刻みで表したが、図示した部位に対するものである。

• 出土位置・その他に記載した数値は註記番号である。() 内の数値は住居の床面を基準とした遺物の高さである。

目 次

序	
例言	
凡例	
I 発掘調査の概要	1
1 調査に至るまでの経過	1
2 発掘調査の組織	2
3 調査の経過	3
II 遺跡の立地と環境	5
1 立地と周辺遺跡	5
2 居立遺跡の噴砂について	9
III 前遺跡の調査	11
1 遺跡の概要	11
2 検出された遺構と遺物	14
IV 居立遺跡の調査	75
1 遺跡の概要	75
2 検出された遺構と遺物	80
V 調査のまとめ	429
附篇	447

挿 図 目 次

(第1分冊)

第1図	埼玉県の地形と遺跡の位置	5	第45図	土塚(3)	55
第2図	周辺の主な遺跡	6	第46図	土塚(4)	56
第3図	周辺の地形図	8	第47図	土塚(5)	57
	前遺跡		第48図	土塚(6)	58
第4図	前遺跡全体図	12	第49図	土塚出土遺物	59
第5図	第1号住居跡・出土遺物	14	第50図	溝跡配置図(1)	60
第6図	第2号住居跡	15	第51図	溝跡配置図(2)	62
第7図	第2号住居跡出土遺物	16	第52図	溝跡土層図(1)	63
第8図	第3号住居跡・出土遺物	17	第53図	溝跡土層図(2)	64
第9図	第4号住居跡	18	第54図	溝跡出土遺物(1)	65
第10図	第4号住居跡出土遺物	19	第55図	溝跡出土遺物(2)	66
第11図	第5号住居跡・出土遺物	20	第56図	神社跡	67
第12図	第6号住居跡・出土遺物	21	第57図	神社跡土層図	68
第13図	第7号住居跡	22	第58図	神社跡出土遺物(1)	69
第14図	第7号住居跡カマド	23	第59図	神社跡出土遺物(2)	70
第15図	第7号住居跡出土遺物	23	第60図	グリッド出土及び表採遺物	70
第16図	第8号住居跡	24	第61図	縄文土器及び石器	71
第17図	第8号住居跡カマド	25		居立遺跡	
第18図	第8号住居跡出土遺物(1)	26	第62図	居立遺跡全体図	76
第19図	第8号住居跡出土遺物(2)	27	第63図	遺構配置図(1)	78
第20図	第9号住居跡	28	第64図	遺構配置図(2)	79
第21図	第9号住居跡出土遺物	29	第65図	第1号住居跡	80
第22図	第10号住居跡出土遺物	29	第66図	第1号住居跡出土遺物(1)	82
第23図	第10号住居跡	30	第67図	第1号住居跡出土遺物(2)	83
第24図	第10号住居跡カマド	31	第68図	第1号住居跡出土遺物(3)	84
第25図	第11号住居跡	32	第69図	第2号住居跡	85
第26図	第11号住居跡出土遺物	33	第70図	第2号住居跡カマド・貯蔵穴	86
第27図	第12号住居跡	35	第71図	第2号住居跡出土遺物(1)	87
第28図	第12号住居跡出土遺物	35	第72図	第2号住居跡出土遺物(2)	88
第29図	第12号住居跡カマド	36	第73図	第2号住居跡出土遺物(3)	89
第30図	第13号住居跡・出土遺物	37	第74図	第3号住居跡(1)	90
第31図	第14号住居跡	38	第75図	第3号住居跡(2)	91
第32図	第15号住居跡・出土遺物	39	第76図	第3号住居跡カマド	92
第33図	第16号住居跡・出土遺物	40	第77図	第3号住居跡出土遺物(1)	94
第34図	第1号掘立柱建物跡・出土遺物	41	第78図	第3号住居跡出土遺物(2)	95
第35図	井戸跡・土塚・溝跡配置図	43	第79図	第3号住居跡出土遺物(3)	96
第36図	井戸跡(1)	45	第80図	第4号住居跡	97
第37図	井戸跡(2)	46	第81図	第4号住居跡カマド	98
第38図	井戸跡(3)	47	第82図	第4号住居跡出土遺物	99
第39図	井戸跡(4)	48	第83図	第5号住居跡	100
第40図	井戸跡(5)	49	第84図	第5号住居跡カマド	101
第41図	井戸跡(6)	50	第85図	第5号住居跡出土遺物	102
第42図	井戸跡出土遺物	51	第86図	第6号住居跡・出土遺物	103
第43図	土塚(1)	53	第87図	第7号住居跡	104
第44図	土塚(2)	54	第88図	第7号住居跡出土遺物	105
			第89図	第8号住居跡	106

第90図	第8号住居跡カマド	107	第138図	第20号住居跡カマド	158
第91図	第8号住居跡出土遺物	108	第139図	第21号住居跡・出土遺物	158
第92図	第9号住居跡	109	第140図	第22号住居跡・出土遺物	160
第93図	第9号住居跡カマド	110	第141図	第23号住居跡	161
第94図	第9号住居跡出土遺物(1)	111	第142図	第23号住居跡カマド	162
第95図	第9号住居跡出土遺物(2)	112	第143図	第23号住居跡出土遺物	163
第96図	第10号住居跡	113	第144図	第24号住居跡	165
第97図	第10号住居跡カマド	114	第145図	第25号住居跡(1)	166
第98図	第10号住居跡出土遺物(1)	115	第146図	第25号住居跡カマド	167
第99図	第10号住居跡出土遺物(2)	116	第147図	第25号住居跡(2)	168
第100図	第11号住居跡(1)	118	第148図	第25号住居跡出土遺物(1)	169
第101図	第11号住居跡(2)	119	第149図	第25号住居跡出土遺物(2)	170
第102図	第11号住居跡出土遺物(1)	120	第150図	第25号住居跡出土遺物(3)	171
第103図	第11号住居跡出土遺物(2)	121	第151図	第25号住居跡出土遺物(4)	172
第104図	第11号住居跡出土遺物(3)	122	第152図	第26号住居跡	173
第105図	第12号住居跡(1)	124	第153図	第26号住居跡カマド	174
第106図	第12号住居跡(2)	125	第154図	第26号住居跡出土遺物(1)	175
第107図	第12号住居跡カマド	126	第155図	第26号住居跡出土遺物(2)	176
第108図	第12号住居跡出土遺物(1)	127	第156図	第27号住居跡(1)	176
第109図	第12号住居跡出土遺物(2)	128	第157図	第27号住居跡(2)	177
第110図	第12号住居跡出土遺物(3)	129	第158図	第27号住居跡カマド	178
第111図	第13号住居跡	129	第159図	第27号住居跡出土遺物(1)	179
第112図	第13号住居跡カマド	130	第160図	第27号住居跡出土遺物(2)	181
第113図	第13号住居跡出土遺物	131	第161図	第27号住居跡出土遺物(3)	182
第114図	第14号住居跡	132	第162図	第28号住居跡	183
第115図	第14号住居跡カマド	133	第163図	第28号住居跡カマド	184
第116図	第14号住居跡出土遺物(1)	134	第164図	第28号住居跡出土遺物(1)	185
第117図	第14号住居跡出土遺物(2)	136	第165図	第28号住居跡出土遺物(2)	186
第118図	第14号住居跡出土遺物(3)	137	第166図	第29号住居跡・出土遺物	188
第119図	第14号住居跡出土遺物(4)	138	第167図	第30号住居跡・出土遺物	189
第120図	第15号住居跡	140	第168図	第31号住居跡・出土遺物	190
第121図	第15号住居跡カマド	141	第169図	第32号住居跡カマド	191
第122図	第15号住居跡出土遺物(1)	141	第170図	第32号住居跡	192
第123図	第15号住居跡出土遺物(2)	142	第171図	第32号住居跡出土遺物	193
第124図	第16号住居跡	143	第172図	第33号住居跡	195
第125図	第16号住居跡カマド	144	第173図	第33号住居跡カマド	196
第126図	第16号住居跡出土遺物(1)	145	第174図	第33号住居跡出土遺物(1)	197
第127図	第16号住居跡出土遺物(2)	146	第175図	第33号住居跡出土遺物(2)	198
第128図	第16号住居跡出土遺物(3)	147	第176図	第33号住居跡出土遺物(3)	198
第129図	第16号住居跡出土遺物(4)	148	第177図	第34号住居跡	199
第130図	第16号住居跡出土遺物(5)	149	第178図	第34号住居跡出土遺物	200
第131図	第16号住居跡出土遺物(6)	151	第179図	第35号住居跡	201
第132図	第17号住居跡・出土遺物	152	第180図	第35号住居跡出土遺物	201
第133図	第17号住居跡カマド	153	第181図	第36号住居跡	203
第134図	第18号住居跡	154	第182図	第36号住居跡出土遺物	204
第135図	第18号住居跡出土遺物	155	第183図	第37・38号住居跡	205
第136図	第19号住居跡	156	第184図	第37号住居跡出土遺物	206
第137図	第20号住居跡・出土遺物	157	第185図	第38号住居跡出土遺物	207

第186図	第39号住居跡・出土遺物	208	第234図	第60号住居跡出土遺物	259
第187図	第40号住居跡・出土遺物	209	第235図	第61号住居跡出土遺物	260
第188図	第41号住居跡	210	第236図	第61号住居跡	261
第189図	第41号住居跡出土遺物	211	第237図	第62号住居跡	262
第190図	第42号住居跡・出土遺物	212	第238図	第62号住居跡カマド	263
第191図	第43号住居跡(1)	214	第239図	第62号住居跡出土遺物(1)	264
第192図	第43号住居跡(2)	215	第240図	第62号住居跡出土遺物(2)	264
第193図	第43号住居跡出土遺物(1)	216	第241図	第63号住居跡出土遺物	265
第194図	第43号住居跡出土遺物(2)	217	第242図	第63号住居跡	266
第195図	第44号住居跡・出土遺物	217	第243図	第64号住居跡	267
第196図	第45号住居跡出土遺物	218	第244図	第64号住居跡出土遺物(1)	268
第197図	第45号住居跡	219	第245図	第64号住居跡出土遺物(2)	269
第198図	第46号住居跡・出土遺物	220	第246図	第65号住居跡カマド	270
第199図	第47号住居跡出土遺物	221	第247図	第65・66号住居跡	271
第200図	第47号住居跡	222	第248図	第65・66号住居跡出土遺物(1)	272
第201図	第48号住居跡	223	第249図	第65・66号住居跡出土遺物(2)	273
第202図	第49号住居跡	224	第250図	第67・68号住居跡	275
第203図	第49号住居跡カマド	225	第251図	第67・68号住居跡カマド	276
第204図	第49号住居跡出土遺物(1)	226	第252図	第67号住居跡出土遺物	277
第205図	第49号住居跡出土遺物(2)	227	第253図	第68号住居跡出土遺物	278
第206図	第50号住居跡・出土遺物	228	第254図	第69号住居跡	279
第207図	第51号住居跡出土遺物	229	第255図	第69号住居跡出土遺物	280
第208図	第51号住居跡	230	第256図	第70号住居跡・出土遺物	
第209図	第52号住居跡・出土遺物	231		第71号住居跡	282
第210図	第53・54号住居跡	232	第257図	第71号住居跡出土遺物	283
第211図	第53・54号住居跡カマド	234	第258図	第72号住居跡	284
第212図	第53号住居跡出土遺物	235	第259図	第73号住居跡	285
第213図	第54号住居跡出土遺物	236	第260図	第73号住居跡出土遺物(1)	286
第214図	第55号住居跡	237	第261図	第73号住居跡出土遺物(2)	287
第215図	第55号住居跡カマド	238	第262図	第74号住居跡・出土遺物	289
第216図	第55号住居跡出土遺物(1)	239	第263図	第75・76号住居跡	291
第217図	第55号住居跡出土遺物(2)	240	第264図	第75号住居跡カマド	292
第218図	第56号住居跡	241	第265図	第75・76号住居跡出土遺物(1)	293
第219図	第56号住居跡カマド	242	第266図	第75・76号住居跡出土遺物(2)	294
第220図	第56号住居跡出土遺物	243	第267図	第77号住居跡	295
第221図	第57号住居跡(1)	244	第268図	第77号住居跡出土遺物	296
第222図	第57号住居跡(2)・出土遺物	245		(第2分冊)	
第223図	第57号住居跡カマド	246	第269図	第78号住居跡・出土遺物	297
第224図	第58号住居跡	248	第270図	第79号住居跡	298
第225図	第58号住居跡カマド	249	第271図	第79号住居跡出土遺物	299
第226図	第58号住居跡出土遺物(1)	250	第272図	第80号住居跡出土遺物	300
第227図	第58号住居跡出土遺物(2)	251	第273図	第80号住居跡	301
第228図	第59号住居跡	253	第274図	第81号住居跡	302
第229図	第59号住居跡カマド	254	第275図	第81号住居跡出土遺物	303
第230図	第59号住居跡出土遺物(1)	255	第276図	第82・83号住居跡	304
第231図	第59号住居跡出土遺物(2)	256	第277図	第82・83号住居跡出土遺物	305
第232図	第60号住居跡	258	第278図	第82号住居跡出土遺物	305
第233図	第60号住居跡カマド	259	第279図	第84号住居跡	306

第280回	第84号住居跡カマド	307	第328回	第108号住居跡出土遺物(4)	360
第281回	第84号住居跡出土遺物	308	第329回	第108号住居跡出土遺物(5)	361
第282回	第85号住居跡・出土遺物	309	第330回	第109号住居跡(1)	363
第283回	第86号住居跡出土遺物	310	第331回	第109号住居跡(2)	364
第284回	第86号住居跡	311	第332回	第109号住居跡カマド	365
第285回	第87号住居跡	313	第333回	第109号住居跡出土遺物(1)	366
第286回	第87号住居跡出土遺物	314	第334回	第109号住居跡出土遺物(2)	367
第287回	第88号住居跡・出土遺物	315	第335回	第110号住居跡・出土遺物	368
第288回	第89号住居跡	316	第336回	第111号住居跡	369
第289回	第89号住居跡出土遺物	317	第337回	第111号住居跡出土遺物	370
第290回	第90号住居跡・出土遺物	318	第338回	第112号住居跡出土遺物(1)	371
第291回	第91号住居跡	319	第339回	第112号住居跡	372
第292回	第91号住居跡出土遺物	320	第340回	第112号住居跡出土遺物(2)	373
第293回	第92号住居跡	321	第341回	第113号住居跡・出土遺物	375
第294回	第93号住居跡	322	第342回	第114号住居跡・出土遺物	376
第295回	第93号住居跡カマド	323	第343回	第115号住居跡・出土遺物	377
第296回	第93号住居跡出土遺物	323	第344回	第116号住居跡	378
第297回	第94号住居跡	324	第345回	第116号住居跡出土遺物(1)	379
第298回	第95号住居跡	325	第346回	第116号住居跡出土遺物(2)	380
第299回	第95号住居跡出土遺物(1)	326	第347回	第117号住居跡	382
第300回	第95号住居跡出土遺物(2)	327	第348回	第117号住居跡出土遺物	383
第301回	第95号住居跡出土遺物(3)	329	第349回	第118号住居跡	384
第302回	第95号住居跡出土遺物(4)	330	第350回	第118号住居跡出土遺物(1)	386
第303回	第96号住居跡・出土遺物	332	第351回	第118号住居跡出土遺物(2)	387
第304回	第97号住居跡	334	第352回	第1号掘立柱建物跡	388
第305回	第97号住居跡出土遺物	335	第353回	井戸跡(1)	390
第306回	第98号住居跡	336	第354回	井戸跡(2)	391
第307回	第99号住居跡	337	第355回	井戸跡(3)	392
第308回	第99号住居跡カマド	338	第356回	井戸跡(4)	393
第309回	第99号住居跡出土遺物	339	第357回	井戸跡(5)	394
第310回	第100号住居跡・出土遺物	340	第358回	井戸跡出土遺物(1)	395
第311回	第101号住居跡	341	第359回	井戸跡出土遺物(2)	396
第312回	第101号住居跡出土遺物	342	第360回	土壇・出土遺物	398
第313回	第102号住居跡	343	第361回	第13号土壇(1)	399
第314回	第103号住居跡	344	第362回	第13号土壇(2)	400
第315回	第103号住居跡出土遺物	345	第363回	第13号土壇出土遺物(1)	401
第316回	第104号住居跡	346	第364回	第13号土壇出土遺物(2)	402
第317回	第104号住居跡出土遺物	347	第365回	第13号土壇出土遺物(3)	403
第318回	第105号住居跡	348	第366回	第13号土壇出土遺物(4)	404
第319回	第105号住居跡出土遺物	349	第367回	第13号土壇出土遺物(5)	405
第320回	第106号住居跡カマド	350	第368回	第14号土壇	406
第321回	第106号住居跡	351	第369回	第14号土壇出土遺物(1)	407
第322回	第106号住居跡出土遺物	352	第370回	第14号土壇出土遺物(2)	408
第323回	第107号住居跡・出土遺物	353	第371回	溝跡配戻区(1)	409
第324回	第108号住居跡	354	第372回	溝跡配戻区(2)	410
第325回	第108号住居跡出土遺物(1)	355	第373回	溝跡土層区(1)	411
第326回	第108号住居跡出土遺物(2)	357	第374回	溝跡土層区(2)	412
第327回	第108号住居跡出土遺物(3)	358	第375回	溝跡出土土層	412
		359			

第376図	溝跡出土遺物(1)……………	413	第388図	前・居立遺跡Ⅶ期の土器(1)……………	434
第377図	溝跡出土遺物(2)……………	414	第389図	前・居立遺跡Ⅶ期の土器(2)……………	435
第378図	第1号周溝状遺構……………	415	第390図	前・居立遺跡Ⅶ期の土器……………	436
第379図	第2号周溝状遺構……………	416	第391図	前・居立遺跡Ⅷ期の土器……………	437
第380図	グリッド出土遺物(1)……………	417	第392図	前・居立遺跡Ⅸ期の土器……………	438
第381図	グリッド出土遺物(2)……………	418	第393図	前・居立遺跡Ⅹ期の土器……………	439
第382図	グリッド出土土錘……………	420	第394図	前・居立遺跡Ⅺ期の土器……………	440
第383図	縄文土器及び石器……………	423	第395図	鉄の型式……………	444
第384図	深谷市大字石塚地内出土遺物……………	424	第396図	鉄の出土例……………	445
第385図	前・居立遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの土器……………	430	第397図	前・居立遺跡出土土錘……………	449
第386図	前・居立遺跡Ⅳ期の土器……………	431	第398図	近世遺構と周辺の地形……………	453
第387図	前・居立遺跡Ⅴ期の土器……………	433			

表 目 次

前遺跡井戸跡新旧対照表……………	72	居立遺跡井戸跡新旧対照表……………	426
前遺跡土壌新旧対照表……………	72	居立遺跡土壌新旧対照表……………	426
前遺跡井戸跡一覧表……………	73	居立遺跡掘立柱建物跡新旧対照表……………	426
前遺跡土壌一覧表……………	73	居立遺跡井戸跡一覧表……………	427
居立遺跡住居跡新旧対照表……………	425	居立遺跡土壌一覧表……………	428

写真図版目次

- | | | | |
|-------|-------------------------------------|------|--|
| 巻頭図版1 | 前・居立遺跡全景 | 図版17 | 第14号住居跡
第14号住居跡カマド |
| 巻頭図版2 | 前遺跡全景
居立遺跡全景 | 図版18 | 第15号住居跡
第16号住居跡
第18号住居跡
第20号住居跡 |
| 巻頭図版3 | 居立遺跡第14号住居跡出土遺物
居立遺跡第108号住居跡出土遺物 | 図版19 | 第23号住居跡
第25号住居跡
第26号住居跡 |
| 巻頭図版4 | 居立遺跡出土近世遺物
居立遺跡出土近世遺物 | 図版20 | 第27号住居跡
第27号住居跡カマド
第27号住居跡遺物出土状況 |
| 図版1 | 前遺跡全景 | 図版21 | 第28号住居跡
第28号住居跡貯蔵穴
第32・33・34号住居跡 |
| 図版2 | 第1号住居跡
第2号住居跡
第2号住居跡カマド | 図版22 | 第34号住居跡
第49号住居跡
第50号住居跡 |
| 図版3 | 第6号住居跡
第7号住居跡
第8号住居跡 | 図版23 | 第51号住居跡
第51号住居跡カマド
第53・54号住居跡 |
| 図版4 | 第8号住居跡カマド
第9号住居跡
第10号住居跡 | 図版24 | 第55号住居跡カマド
第56号住居跡
第59号住居跡 |
| 図版5 | 第11号住居跡
第13号住居跡
第14号住居跡 | 図版25 | 第75号住居跡
第111号住居跡
第112号住居跡 |
| 図版6 | 第15号住居跡
第16号住居跡
第1号掘立柱建物跡 | 図版26 | 第116号住居跡
第117号住居跡
第117号住居跡カマド |
| 図版7 | 第7・10～15号土壇
第10号溝跡
神社跡 | 図版27 | 第1号井戸跡
第6号井戸跡
第18号井戸跡 |
| 図版8 | 須恵器 坏類 土師器 坏(1) | 図版28 | 第13号土壇
第3～5号溝跡 |
| 図版9 | 土師器 坏(2)・鉢・甕他 | 図版29 | トレンチ内に見られた噴砂 |
| 図版10 | 手づくね 人形 土鍾 | 図版30 | 調査区壁面に見られた噴砂 |
| 図版11 | 居立遺跡全景 | 図版31 | 須恵器 蓋・坏他 |
| 図版12 | 第2号住居跡
第2号住居跡カマド
第3号住居跡 | 図版32 | 土師器 坏(1) |
| 図版13 | 第3号住居跡カマド
第4号住居跡
第5号住居跡 | 図版33 | 土師器 坏(2) |
| 図版14 | 第7号住居跡貯蔵穴
第9号住居跡
第10号住居跡 | 図版34 | 土師器 坏(3) |
| 図版15 | 第10号住居跡カマド
第11号住居跡
第12号住居跡 | 図版35 | 土師器 坏(4) |
| 図版16 | 第12号住居跡
第12号住居跡カマド
第13号住居跡 | 図版36 | 土師器 坏(5) |
| | | 図版37 | 土師器 坏(6) |
| | | 図版38 | 土師器 坏(7) |

図版39 土師器 坏(8)
図版40 土師器 坏(9)
図版41 土師器 坏(10)
図版42 土師器 坏(11)
図版43 土師器 坏(12)
図版44 土師器 坏(13)
図版45 土師器 坏(14)
図版46 土師器 坏(15)
図版47 土師器 坏(16)
図版48 土師器 坏(17)
図版49 土師器 坏(18)
図版50 土師器 坏(19)
図版51 土師器 坏(20)
図版52 土師器 高坏(1)
図版53 土師器 高坏(2)
図版54 土師器 钵・鉢(1)
図版55 土師器 鉢(2)
図版56 土師器 鉢(3)・埴・甗(1)
図版57 土師器 甗(2)
図版58 土師器 甗(3)
図版59 土師器 甗(4)・転用器台(1)
図版60 土師器 転用器台(2)・小形甗・甗類(1)
図版61 土師器 小形甗・甗類(2)
図版62 土師器 小形甗・甗類(3)
図版63 土師器 小形甗・甗類(4)
図版64 土師器 甗・甗類(1)
図版65 土師器 甗・甗類(2)
図版66 土師器 甗・甗類(3)
図版67 土師器 甗・甗類(4)
図版68 土師器 甗・甗類(5)
図版69 土師器 甗・甗類(6)
図版70 土師器 甗・甗類(7)
図版71 土師器 甗・甗類(8)
図版72 土師器 甗・甗類(9)
図版73 土師器 甗・甗類(10)
図版74 土師器 甗・甗類(11)
図版75 土師器 甗・甗類(12)
図版76 土師器 甗・甗類(13)
図版77 土師器 甗・甗類(14)
図版78 土師器 甗・甗類(15)
図版79 土師器 甗・甗類(16)
図版80 土師器 甗・甗類(17)
図版81 土師器 甗・甗類(18)
図版82 土師器 甗・甗類(19)
図版83 土師器 甗・甗類(20)
図版84 土師器 甗・甗類(21)
図版85 土師器 甗・甗類(22)
図版86 土師器 甗・甗類(23)

図版87 土師器 甗・甗類(24)
図版88 土師器 甗・甗類(25)
図版89 土師器 甗・甗類(26)
図版90 土師器 甗(5)
図版91 土師器 甗(6)
図版92 土師器 甗(7)
図版93 土師器 甗(8)
図版94 支脚・ミニチュア他
図版95 近世 陶磁器類(1)
図版96 近世 陶磁器類(2)
図版97 近世 陶磁器類(3)
図版98 焙烙(1)
図版99 焙烙(2)・火鉢他
図版100 耳環・玉類
紡錘車
図版101 土錘・括(1)
図版102 土錘・括(2)
図版103 土玉・括・鉢

I 発掘調査の概要

1 発掘調査に至るまでの経過

建設省では、首都圏における交通量の増大に対処するため、さまざまな施策を推し進めてきた。埼玉県内においても昭和30年代の後半から特に交通量の激しい幹線道路を中心に、各種のバイパス建設が計画された。昭和40年代後半にはその大綱が示され、埋蔵文化財の取り扱いについての事前協議が開始された。

昭和46年には各種バイパスの建設計画に伴い、建設省関東地方建設局大宮国道工事事務所調査課長から埼玉県教育局文化財保護室長（当時）あて、昭和46年11月25日付大宮調第146号をもって「一般国道16号線の東大宮バイパス、西大宮バイパス及び一般国道17号線の熊谷バイパス、深谷バイパス、上武バイパスの建設予定地内における埋蔵文化財の所在について（依頼）」があった。これを受けて文化財保護室では、埋蔵文化財包蔵地地図と照合した結果、各バイパス建設予定地内に周知の埋蔵文化財が所在することを確認し、その旨教文第854号をもって回答するとともに、今後は各事業計画に沿って順次対応していくこととした。

上武道路は、熊谷市西別府を起点とし、深谷市の北東部をかすめて利根川を渡り、群馬県伊勢崎市から前橋市に至る全長約40kmの道路である。このうち約5kmが埼玉県を通過するが、県内の事業予定地については埋蔵文化財の所在が不明確なので、改めて分布調査を実施する必要があった。そこで、昭和62年11月5日付大宮調第155号をもって建設省関東地方建設局大宮国道工事事務所長から県教育委員会教育長あて「一般国道17号（上武道路）改築工事の実施に伴う埋蔵文化財の所在について（照会）」があったのを受け、県内の事業予定地内全線にわたり詳細な分布調査を実施した。その結果、同改築予定地内に12箇所の埋蔵文化財包蔵地が確認されたので、昭和62年12月7日付教文第1091号をもって県教育委員会教育長から大宮国道工事事務所長あて次のとおり回答した。

- (1) 上記の埋蔵文化財については、工事着手に先立って発掘調査を実施すること。
- (2) 発掘調査の実施に際しては、第1次調査を実施して事業予定地内の埋蔵文化財包蔵地の規模及び性格等について明確にした後、第2次調査を実施すること。
- (3) 第1次調査の実施については、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団と別途協議すること。
- (4) 第2次調査の実施については、別途当教育局文化財保護課と協議すること。

この回答に基づき、(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団が第1次調査を実施した結果、深谷市内に所在する10箇所の埋蔵文化財包蔵地について、第2次調査を実施することが必要となった。そこで県教育委員会教育長から大宮国道工事事務所長あて、昭和63年3月31日付教文第1596号で事業予定地内に所在する埋蔵文化財については、事前に記録保存のための発掘調査を実施するよう通知した。

これら10箇所の遺跡のうち、ウツギ内、尾立、前、根絡の4遺跡が昭和63年度当初から発掘調査が開始された。

(文化財保護課)

2 発掘調査の組織

主体者 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

(1) 発掘調査 (昭和63年～平成元年度)

理事長	長井五郎 (S63)
	荒井修二 (H1)
副理事長	百瀬陽二
常務理事兼 調査研究部長	早川智明 (S63)
常務理事兼 管理部長	古市芳之 (H1)
理事兼 管理部長	原田家次 (S63)
理事兼 調査研究部長	古川國男 (H1)
管理部	
管理部長	原田家次 (S63)
	古市芳之 (H1)
管理課長	関野栄一
主事	江田和美
主事	長滝美智子
主事	木庄朗人
主事	斉藤勝秀
調査研究部	
調査研究部長	早川智明 (S63)
	古川國男 (H1)
調査研究部副部長	塩野博
調査研究部第一課長	坂野和信
主任調査員	今井宏 (H1)
主任調査員	利根川章彦 (S63)
主任調査員	立石盛詞 (H1)
調査員	栗島義明
調査員	岩瀬譲 (S63)

(2) 整理・報告書刊行 (平成5年～6年度)

理事長	荒井桂
副理事長	富田真也
専務理事	横川好富 (H5)
	橋原副雄 (H6)
常務理事兼 管理部長	柴崎光生 (H5)
	加藤敏昭 (H6)
理事兼 調査部長	中島利治 (H5)
	小川良祐 (H6)
管理部	
管理部長	柴崎光生 (H5)
	加藤敏昭 (H6)
庶務課長	萩原和夫 (H5)
	及川孝之 (H6)
主査	費田清 (H5)
	市川有三 (H6)
主事	長滝美智子 (H6)
主事	菊池久
専門調査員兼 經理課長	関野栄一
主任	江田和美
主事	長滝美智子 (H5)
主事	福田昭美
主事	腰塚雄二
資料部	
資料部長	小川良祐 (H5)
	塩野博 (H6)
資料部副部長兼 資料整理第一課長	谷井彪
主任調査員	岩瀬譲

3 調査の経過

一般国道17号上武道路改築工事事業予定地内の各遺跡についての調査経過は、『ウツギ内・砂田・柳町』（埋蔵文化財調査事業関係報告書 第126集）に詳しい。このためここでは前遺跡・居立遺跡に関して調査経過の概要を年度毎に記す。

前遺跡は昭和63年度の7・8月と、平成元年度の下半期の2度に分けて実施され、居立遺跡は昭和63年度の9月から平成元年度の上半期にかけて実施された。

発掘調査

昭和63年度

7月1日、前遺跡の福川旧流路と県道弁財・深谷線の間、4,700㎡を対象に重機による表土除去を開始する。遺構確認面が福川の旧流路に向かって低くなり、これに伴って出水が激しくなった。周辺の崩落を避けるため、遺構がないことを確認の後、北側半分以上を埋め戻す処置を講じた。調査区西側の県道拡幅部分は重機による表土除去が出来ないため、人力によって遺構確認面まで掘り下げた。遺構は南側の平坦面に住居跡・溝跡が散漫に見られた程度で、8月中旬にこの区域全ての調査を終了した。

9月1日、居立遺跡の調査に着手する。調査対象面積は11,700㎡である。福川の現流路の南側では、旧流路に向かう斜面となり、遺構分布は散漫で、調査区南端の最深部では前遺跡と同様に出水が見られた。11月から福川の北側の調査を始めた。遺構の密度は徐々に濃くなり、特に調査区の中央部では数十軒の住居跡や溝跡、井戸跡が重複していることが確認された。また、遺構確認面が現地表から浅いところで0.5m、深いところでは1.5m程で、遺構の遺存度が良いものもあり、調査はかなり手取った。12月には福川の南側の航空写真測量を実施した。2月、小規模現地説明会のモデルケースとして地元住民を対象としたミニ現地説明会を開催したが、当日の雨にたたられ、見学者は30名程度であった。3月までに住居跡13軒、溝跡4条、土壇4基、井戸跡2基の調査を終了し、60軒以上の住居跡を確認した。

平成元年度

4月、居立遺跡の調査を継続する。遺構の重複が激しい部分に対して再度確認を行なった。その結果、80軒を超える住居跡が確認され、狭い範囲に十数軒が重なり合う状況が数ヶ所見受けられた。住居跡は古墳時代後期のものを主体に、平安時代のものまでが検出された。平面プランが不明瞭な住居跡は、随時小トレンチを設定したり、カマドを基準にして掘り進み壁を捜し当てる方法と取ったが、新旧関係の確認が難しいものもかなり存在した。このような状況の中で8月には遺構が密集する地点を終了し、調査区の北側に移っていった。調査区北側では住居跡の分布が散漫となり、さらにその北側は埋没河川（城北川）に向かって低くなり、遺構は見られなくなる。9月中旬に全ての遺構の測量を終え、居立遺跡の調査は終了した。

10月、前遺跡の県道弁財・深谷線以南の調査を開始する。調査区の稲荷社の祠は、既に遷座していた。対象面積は8,900㎡である。調査区の北側から遺構確認を始めたが、土採りが行われたためか遺構の遺存状態は悪かった。確認面は地表から約40cm程と浅く、数条の溝跡が検出される程度で

あった。調査区の中央付近にまで来ると急激に遺構の数が増し、特に中世の墓塚と思われた長方形の土壇や井戸跡が集中して確認された。深い井戸跡は、危険を避けるため、随時重機を使用して底面の検出に務めた。住居跡の大半は後世の遺構に壊され、遺存状態はあまり良いとは言えない状態であった。調査前まで現存していた稲荷社の周囲からは区画溝跡が検出され、近世から近代にかけての遺物が見られた。調査区南側になると遺構は散漫になり、溝跡以外は全く見られなくなり、3月、前遺跡の発掘調査が終了した。

なお、発掘調査が終了した居立遺跡では11月から12月にかけて大形地震に伴う液状化が起きた痕跡を示す噴砂の調査が行われた。

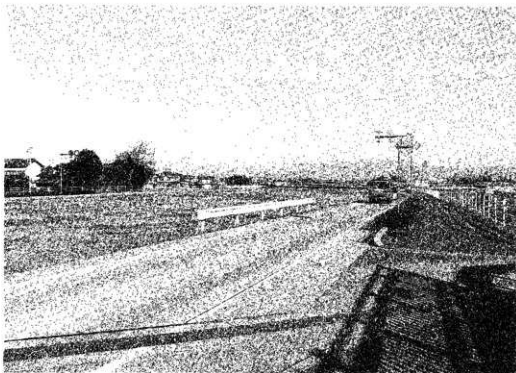
整理・報告書作成

平成5年度

前遺跡の整理に着手する。遺物接合・復元、図面・写真整理を並行して行ない、5月から遺物実測を開始した。前遺跡の遺物接合・復元、図面・写真整理終了後、居立遺跡に入る。2月、遺構及び遺物トレースを開始する。

平成6年度

4月に遺物接合・復元が、7月には遺物実測が終了する。4月～8月遺構・遺物のトレースを行なう。8月、版組み・原稿執筆を開始し、11月、遺物写真撮影を行なう。12月までに割り付け・編集を終了し、1月に入札を行なう。2～3月の校正を経て、報告書の刊行となる。



開通した上武道路（後方は赤城山）

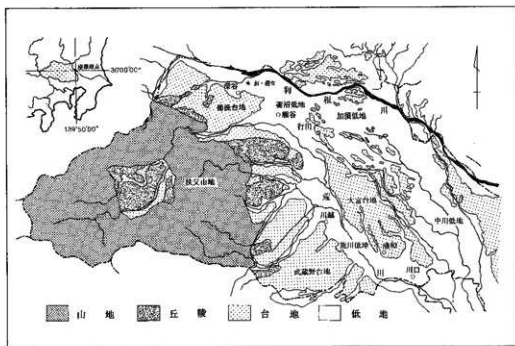
II 遺跡の立地と環境

1 立地と周辺遺跡

前遺跡・居立遺跡は深谷市の北東部に位置し、東へ約300m程行くと熊谷市となる。また、JR 竜原駅へは南へ約4.0km、群馬県との県境へは北へ約2.2kmの地点である。深谷市の地形は、大きく南半の櫛挽台地と北半の妻沼低地とに二分される。櫛挽台地は荒川によって形成された洪積扇状台地で、現在の唐沢川付近を境に西側の櫛挽面と東側の寄居面の二つの段丘面より成っている。妻沼低地は利根川によって形成された沖積地形であり、これによって形成された自然堤防の発達が顕著で、他にも南側の櫛挽台地から流れ込む中小の河川による小規模の自然堤防が随所に認められる。2つの遺跡は地形的には別々の自然堤防上に立地しており、昭和56年から57年にかけて実施された福川の河川改修前の流路によって分けられている。

妻沼低地周辺における歴史的環境は『新屋敷東・本郷前東』(田中広明 埋蔵文化財調査事業団報告書 第111集 1992)において詳細に述べられ、上武道路関係の各遺跡については『ウツギ内・砂田・柳町』(鯉持和夫 埋蔵文化財調査事業団報告書 第126集 1993)で時代毎に説明が加えられている。このため、ここでは本報告書に関係するものだけに限り、前出の2書では触れられる部分が少ない中世以降を中心にみてみる。

古墳時代、五領期まで周辺での大規模な集落の展開は見られない。上武道路関係に限って見れば横間栗・根根跡・清水上の各遺跡と前遺跡において1軒から10軒程度の住居跡が検出されており、



第1図 埼玉県の地形と遺跡の位置



第2図 周辺の主な道跡

前遺跡から南東約1kmの東川端遺跡では墓域としての方形周溝墓が調査されている。それが和泉期の後半から集落は急激な展開を示すようになり、鬼高期に至ると最高潮に達する。この傾向は上武道路関係の遺跡にも顕著に表われ、砂田・柳町・城北・居立の4遺跡で該期の住居跡が400軒近くに達している。居立遺跡から西へ約1.0kmに上増田古墳群がある。この古墳群は6世紀中葉から7世紀代の築造で、ほとんど古墳跡しか確認されず、完全に墓域として周辺から隔離されていたと考えられる。

奈良・平安時代になると集落の様相は一変する。遺跡数は減少し、集落の規模も小さくなっていくのである。上武道路関係ではウツギ内・砂田・柳町・居立・前の各遺跡から住居跡や掘立柱建物跡が検出されているが、糸里制の影響によるものなのか古墳時代後期に比べると極めて小規模になっている。

平安時代末以降、この付近一帯は武蔵武士の中でも武蔵七党と総称される武士団やそれらに属さない中小の武士団の活躍の場となってくる。武士たちはそれぞれに所領を獲得していき、各地に「名字」としての地名が見られる。周辺では、別府・蓮沼・荏(江)原をはじめ、奈良・玉井・岡部・滝瀬等がこれにあたり、蓮沼氏館・荏原氏館・別府氏館・別府城等の城館が多く築かれている。

14世紀の後半頃、上杉憲英が庁鼻和城を現在の深谷市国済寺の地に築いた。憲英は深谷上杉氏の祖である。この時代は南北朝の末期にあたり、上野国に本拠を置き、足利幕府に反抗していた新田氏の動きを抑えることや、関東から越後国への交通路の確保を目的として築城されたと考えられている。

康正2年(1456)、憲英の曾孫、房憲が深谷城を築いた。深谷城は戦国時代末までは上杉氏の居城であったが、徳川家康の関東入国後は、徳川家の普代大名が城主となった。しかし、寛永3年(1626)、酒井忠勝が忍へ移封となると深谷城は廃城となり、正保元年(1644)取り壊された。深谷上杉氏の時代に、周辺には出域的機能を持った城塞が造られている。深谷城の東に東方城、北に皿沼城(上敷免城)、西に曲田城(谷之城)、南に秋本氏館と四方に見られる。東方城は深谷城の東約2.5km、前遺跡の南西約2.1kmの所にあり、台地が低地帯へ突出した部分に本丸があったと伝えられている。築造年代や築造者は不明だが慶長6年(1602)廃城となっている。

東方城の北側の低地内に城下遺跡がある。昭和56年の発掘調査では、東方城の外堀の機能が想定できる幅約4mの溝跡が検出されており、昭和57年の第2次調査では小規模な船着き場と想定される石敷遺構が検出され、17世紀末から18世紀の陶磁器類が出土している。

居立遺跡の西方約450mの所に増田氏館跡がある。新編武蔵風土記稿によると増田四郎重富の館

- | | | | | | | |
|--------------|------------|-------------|-----------|------------|------------|-----------|
| A. ウツギ内遺跡 | B. 砂田遺跡 | C. 柳町遺跡 | D. 城北遺跡 | E. 居立遺跡 | F. 前遺跡 | G. 清水上遺跡 |
| H. 根持遺跡 | I. 横間栗遺跡 | J. 関下遺跡 | | | | |
| 1. 草遺跡 | 2. 宮ヶ谷戸遺跡 | 3. 明戸東遺跡 | 4. 新田東遺跡 | 5. 新田敷東遺跡 | 6. 本郷東遺跡 | 7. 上敷免遺跡 |
| 8. 森下遺跡 | 9. 戸森松原遺跡 | 10. 新田寛次郎館跡 | 11. 荏原氏館跡 | 12. 夷城跡 | 13. 蓮沼氏館跡 | |
| 14. 飯塚南遺跡 | 15. 上敷免北遺跡 | 16. 上増田古墳群 | 17. 増田氏館跡 | 18. 皿沼城跡 | 19. 輪羅太郎館跡 | 20. 堀の内遺跡 |
| 21. 東川端遺跡 | 22. 深谷城 | 23. 秋元氏館跡 | 24. 庁鼻和城跡 | 25. 木の本古墳群 | 26. 城下遺跡 | 27. 東方城跡 |
| 28. 湯殿神社祭祀遺跡 | 29. 西別府館跡 | 30. 別府氏館跡 | 31. 別府城跡 | | | |

であり、重富はこの地を離れ、比叡郡高見村四ツ山に移り、文明15年（1483）男会郡野原村文殊寺を再興し、長享元年（1487）に没したと伝えている。

居立遺跡の北東約600mの深谷市藤ノ木において江戸時代中頃までは存在したと考えられる館跡が確認されており、東方城の北約1.3kmの宮ヶ谷戸堀の内にも戦国時代から江戸時代にかけての館跡が確認されている。（註1）

2 居立遺跡と噴砂について

上武道路・深谷バイパス関係の大半の遺跡では古代大地震の痕跡である噴砂が検出されており、多くの遺構がこれによる被害を受けている。噴砂とは、大地震の地震動にともなって地下の砂層が液状化し、地盤の割れ目に沿って地表に噴出した砂（層）のことであり、最近の大地震で多く認められ、建物の倒壊や、港湾施設の破壊など大きな災害をひきおこしている。噴砂は気象庁震度Ⅴ以上の強い地震動を受けた場合に形成される（堀口1986）とされている。

居立遺跡では、発掘調査が終了した平成元年11月、埼玉大学教授堀口萬吉氏によって噴砂と地層の層相や累重状況及び地下割れ目系についての調査が行われた。平面形は遺構確認面で行われ、8本のトレンチを設定して断面観察が行われた。その結果は以下のようになっている。

- 1 居立遺跡のある地域は、後背湿地としての水田とそれに取り囲まれた自然堤防からなり、遺跡はその自然堤防上につくられた集落遺跡で、北側は低地に向かって傾斜地となっている。
- 2 居立遺跡における古代地震の液状化は、古墳時代以前の砂礫層を主体にして生じ、上位の古墳時代のシルト層の中に砂礫が貫入し、或いはそれを切って噴砂が生じている。
- 3 古代地震にともなう地下割れ目系は、調査区中央の平坦面北縁から北の傾斜地にかけて形成されている。割れ目系の幅は一般的に3～20cmくらいのもが多いが、最大100cmにおよんでいる。割れ目系の長さは、数mくらいのもが多く、ときには20～40cmのものもある。これらの割れ目は平行して配列している。
- 4 地下割れ目系を充填する砂は、細粒砂およびシルト質砂もあるが、中粒砂および粗粒砂に細礫を含むことが多く、ときには直径10cmにもおよぶ礫を含むことがある。（註2）

堀口氏は昭和60年、深谷バイパス関係の原遺跡で噴砂の調査を行い、その年代を上器編年を参考に9世紀代とした。そして、規模の大きな噴砂を引き起こす大地震は古記録にも残るものと考え、弘仁9年（818）と元慶2年（878）の可能性を指摘している（堀口1985）。自然堆積層が厚く残っていた居立遺跡や関下遺跡では、噴砂は埋没した古墳時代の住居跡を噴き抜け、10世紀代の遺物包含層で止まり、上は天仁元年（1109）の浅間川の軽石層（浅間B）に覆われている。また、柳町遺跡では、9世紀第2四半期の住居跡（第58号住居跡）を切っており、上敷免遺跡では、反対に噴砂を切り込んで10世紀代の住居跡が2軒検出されている（第258・260号住居跡）。この2遺跡の事例と古記録の記載とを考え合わせると、大地震が襲った年代は元慶2年と推察される。しかし、上敷免遺跡では、9世紀前半の住居跡の数が極めて少数となり、後半になると増加する現象から、地震

の年代を弘仁9年の可能性を示唆している。一方居立遺跡では、前述のように噴砂の調査が行われたにもかかわらず、柳町遺跡や上敷免遺跡のように住居跡の覆土の詳細な観察が出来なかったため、遺構・遺物から地震の年代を決める手掛かりに乏しいのが実状である。

柳町遺跡では噴砂を切っているが別の噴砂に切られている中世の井戸跡が検出され、新しい噴砂は西埼玉地震（1931）によるものと考えられている。このことは、遺跡に表われる噴砂の起源が一元的ではないことを示しているのではないだろうか。何れにしろ、発掘調査時の細密な観察と記録が重要となり、古記録や地質学的な内容を含めて検討が必要になってくるであろう。

平成7年1月17日早朝、兵庫県南部地震が淡路島や阪神間を襲った。この地震では震度Ⅴが記録され、埋め立て地を中心に広い範囲で液状化現象が見られたという。地震による被害は甚大で、5000人以上の貴い命が失われ、今なお多くの住民が不自由な生活を強いられている。噴砂の解明を進めることによって、将来の地震による災害を最低限に食い止めることができると考える。

註1 この項をはじめ遺跡の概要等に関して深谷市教育委員会 古池晋禄 青木克尚氏には多くの御教示をいただいた。各箇所を示せなかったことをお詫びしたい。

註2 堀口1994を要約した。

引用・参考文献

- 飯持和夫 1993 『ウツギ内・砂田・柳町』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第126集
- 澤出晃越 1983 『城下遺跡』 深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 第6集 深谷市教育委員会
- 澤出晃越 1984 『城下遺跡（第2次）』 深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 第7集 深谷市教育委員会
- 澤出晃越 1988 『東方上跡』 深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 第20集 深谷市教育委員会
- 澤出晃越 1991 『深谷城跡（第3次）』 深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 第27集 深谷市教育委員会
- 澤出晃越・古池晋禄 1991 『明戸南部遺跡群Ⅰ』 深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 第29集 深谷市教育委員会
- 瀧兼芳之・山本 靖 1993 『上敷免遺跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第128集
- 田中広明 1992 『新屋敷東・本郷前東』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第111集
- 堀口萬吉・角田史雄他 1985 『埼玉県深谷バイパス遺跡で発見された古代の“噴砂”について』『埼玉大学教養部紀要（自然科学編）』 第21巻
- 堀口萬吉 1986 『埼玉県北部でみられる古代の噴砂について』『歴史地震』 第2号 東京大学地震研究所
- 堀口萬吉 1991 『利根川中流低地における古代（9世紀）地震の液状化現象』 第1回環境地質シンポジウム講演論文集
- 堀口萬吉 1994 『埼玉県深谷市居立遺跡における古代（9世紀）地震の地下割れ目系と地質の調査』『埼玉大学紀要（自然科学編）』 第29巻

Ⅲ 前遺跡の調査

1 遺跡の概要

前遺跡は、妻沼低地の自然堤防上に立地している。妻沼低地には利根川によって形成された自然堤防と、南側の櫛状台地から流れ込む河川による小規模な自然堤防が認められる。遺跡は後者の自然堤防上にあると思われる。また、福川は現在よりかなり南側を流れていたとされ、遺跡の内側にある上増田古墳群の発掘調査でも3条の埋没した流路が検出しされている。遺跡は県道深谷・弁財線によって南北に分断され、北端は福川の旧流路になり、対岸には居立遺跡が所在する。標高は29.5m～30.5mで、調査区の北端と南端がやや低くなっている。県道の南側調査区中央の第9号溝跡と第19号溝跡に挟まれた地域が最も高くなっている。遺構の多くはこの高くなった地域に集中する傾向が伺える。遺構確認は現地表下40cm程度で、さらに40cmから75cm掘り下げると礫層に達する。

前遺跡が所在する深谷市本田ヶ谷の人の話によると、現在は遺跡の北東部に集落があるが、以前(どれくらい前かはわからないが、江戸時代以前であるらしい)は調査区内にあった稲荷社の周辺にあった。それが伝染病の流行で、集落は現在の地と南の台地上に分かれていった、と言うことである。この話の真偽の程を確かめる術を持たないが、調査区内にあった稲荷社と本田ヶ谷の集落との関係を考える上で興味深い。

検出された遺構は、住居跡16軒、掘立柱建物跡1棟、井戸跡31基、土壇6基、溝跡42条、神社跡1か所と自然流路である。住居跡からの出土遺物は、土師器・須恵器・土鍾等が認められるが、量的には少ない傾向にある。しかし、第8号住居跡では須恵器は極めて少量だが、土師器が比較的良好な状態で出土しており、時代は降るが第11号住居跡では、床面から須恵器坏類が数枚重ねられた状態で出土するなど住居跡毎の格差が大きい。井戸跡・土壇からの遺物は極めて少なく、時期的な決め手になるものが見当たらないが、住居跡との重複関係などから概ね中世以降と考えられる。

住居跡のほとんどは奈良・平安時代のもので、唯一第5号住居跡だけが古墳時代前期に属する。奈良・平安時代の住居跡は、調査区北端の福川旧流路の河畔に立地する住居跡群と、そこから約80m南の調査区内で最も標高が高い地点に分布する一群に分けられる。前者は5軒検出され、概ね7世紀末から8世紀の所産と考えられる。また、これら5軒は他の遺構との重複は少ないが、遺構確認が浅いためか遺存状態は悪く、総じて出土遺物に乏しい。もう一方の地点の住居跡群は10軒検出され、8世紀から10世紀に営まれたと考えられる。これらは他の遺構との重複が激しいが、福川河畔の5軒に比べると住居跡の遺存状態のよいものも数軒見られ、遺物もやや多めに出土している。古墳時代前期の住居跡は1軒のみだが、第1調査時に、調査区内の北西端に開削したトレンチより該期の土器片が出土しており、集落は調査区外に展開していると想定できる。

掘立柱建物跡は1棟のみ検出されたが、出土遺物に乏しく時期の決め手に欠けるが、概ね住居跡と同じと考えられる。

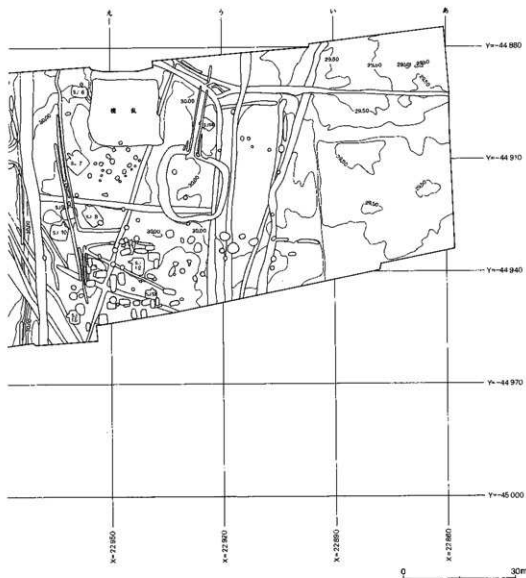
井戸跡は、大小様々な大きさのものが検出されているが、全て円形の平面プランを示し、素掘りである。調査区の中央部に集中する傾向はあるが、住居跡や土壇に比べると南側にも検出されてい



第4図 前遺跡全体図

る。大型の井戸跡が2基隣接して掘削されている地点が3か所あり、一方の井戸跡の覆土には浅間A軽石が検出され、もう一方には確認できないという状況が見られた。

土壁は、長方形のプランを示すものとほぼ円形をするものが検出されている。長方形を示すものは出土遺物に乏しく決め手に欠けるが、中世の墓塚と考えられる。長軸方向が東西と南北のものに分かれ、東西のものが南北の上に構築されている。墓塚は調査区の中央西寄りに集中して検出さ



れており、この付近が墓域となっていたことが窺える。

神札跡は調査区の中央よりやや南で確認されている。調査直前まで小さな祠があり、その周囲から区画溝と参道の側溝と考えられる溝が検出されている。出土遺物は近世或いは近代の瓦・陶器・人形等が大半を占めるが、奈良時代の瓦塔の破片が1片出土している。

2 検出された遺構と遺物

(1)住居跡

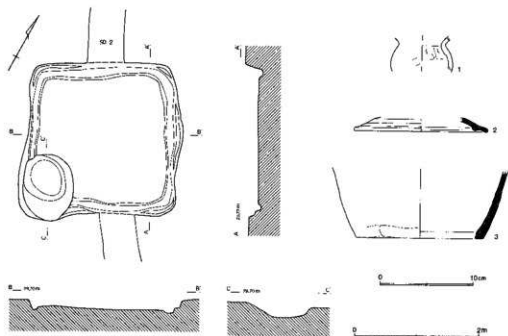
第1号住居跡 (第5図)

カー4-11グリッドを中心に位置する。第2号溝跡と重複し、本住居跡が古い。第2号溝跡は極めて浅く住居跡の床面は壊されていない。形態は方形で、規模は長軸2.49m、短軸2.44m、深さ0.1-0.17mである。主軸方位はN-28°-Wを指す。

床面はわずかに中央部が凹むが、概ね平坦である。壁は段を持って立ちあがる部分が見られ、コーナー付近と東壁中央において顕著であった。覆土の状態は不明である。

カマドは検出されていない。貯蔵穴は南西コーナーに位置し、111cm×70cmの楕円形で、深さは約14cmを測る。ピットは検出されなかった。壁溝は貯蔵穴部分を除き全周し、幅13-26cm、深さ3-7cmである。

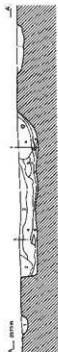
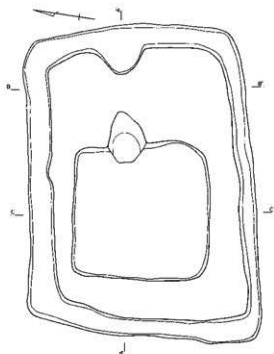
出土遺物は土師器の坏や甕の小破片、須恵器片が検出されたが、図示できたのは3点に留まった。1はミニチュアと思われるが、小片のうえ内外面の磨耗が著しく全体の形態は不明瞭である。



第5図 第1号住居跡・出土遺物

第1号住居跡出土遺物観察表 (第5図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	ミニチュア		3.9		BB'WW'RS	B	橙	25%	覆土 内外面磨耗著しい
2	甕	(14.4)	1.5		W	A	灰	10%	覆土 胎土緻密
3	甕		7.4	13.5	B'WW'	A	灰	10%	覆土



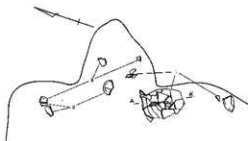
第2号住居跡

- 1 10YR4/1 褐色 埴輪土粒多量、やや砂質
- 2 10YR6/1 褐色 焼土・灰化物少量、やや砂質
- 3 10YR7/2 にじみ・黄褐色、灰化灰層・鉄・マンガン粒多量 シルト質
- 4 10YR5/1 褐色 灰白色地紋やや多
- 5 10YR7/2 にじみ・黄褐色 焼土・灰化物少量 粘質シルト
- 6 5Y7/4 褐色 灰白色粘土・焼土・灰化物多量 砂質

第2号住居跡キツ

- a 10YR6/1 褐色 鉄・マンガン粒多量、やや砂質
- b 5Y7/2 灰白色 灰白色砂粒多量
- c 10YR6/1 褐色 灰白色砂粒・焼土・灰化物多量
- d 5YR6/3 褐色 焼土層
- e 7.5YR2/1 黄色 灰層 埴輪の底があらわしく見ゆ
- f 5Y7/4 褐色 灰白色粘土・焼土・灰化物多量 砂質

0 2m



0 2m

第6図 第2号住居跡

第2号住居跡 (第6図)

か-3-24グリッドに位置する。一辺2.20mの方形で、深さ0.24~0.29m、主軸方位はN-78°-Eを指す。

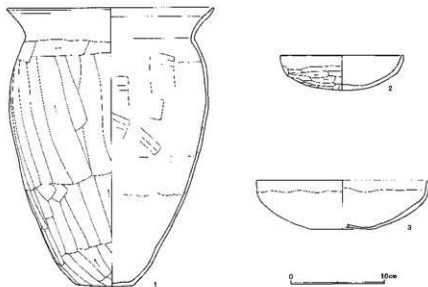
床面はやや凹凸が目立つ。壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は6層に区分されるが、自然堆積とは考え難い。

カマドは東壁の中央よりやや北寄りに設置される。底面は住居床面をわずかに掘り込む程度だが、下層には焼土層 (d層)、灰層 (e層) が明瞭に残っていた。袖は検出されなかった。

貯蔵穴、ピットは検出されていない。

周囲には住居跡を囲むように長方形に溝が巡っており、規模は長辺4.98m、短辺3.60m、幅0.23~0.52m、深さ0.03~0.12mである。溝の東辺の内側にカマドに対面する部分では、カマド煙道部に向かって突出する。覆土は褐灰色土で構成される。溝が本住居跡に伴うか否かは明確ではないが、住居の周囲を軸を同じにして巡る点や、カマドに向かって内側に突出することからすると住居跡に付帯するものと考えられる。

出土遺物は土師器の小片が多量に検出されたが、接合率は極めて悪く、図示できたものは3点で、それらはカマドやその周辺に集中して検出された。なお、住居跡を囲む溝からは遺物の出土は見られなかった。



第7図 第2号住居跡出土遺物

第2号住居跡出土遺物観察表 (第7図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	甕	22.1	29.8	6.1	WW'BBRS	B	褐色	95%	No7,9他 カマド
2	坏	13.1	3.7		BB'WWS	A	鈍い褐色	95%	No1,2他 カマド付近
3	坏	(18.2)	5.2	(6.8)	BB'WWS	A	褐色	30%	No1,4他 カマド 内外面磨耗著しい

第3号住居跡 (第8図)

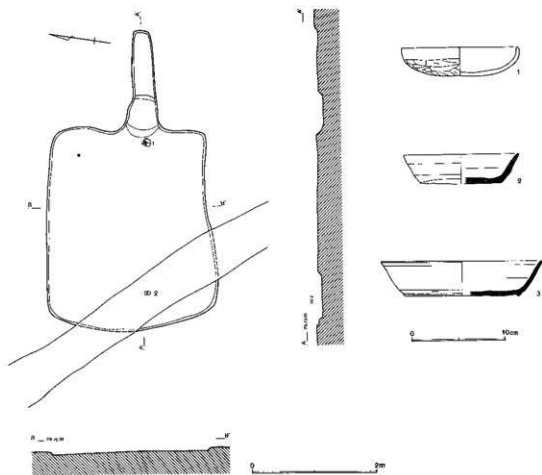
か-4-16グリッドを中心に位置する。第2号溝跡と重複し、床面まで壊されている。形態は東西にやや長い長方形で、規模は長軸3.05m、短軸2.53m、深さは約0.05mと極めて浅い。主軸方位はN-83°-Eを指す。

床面はほぼ平坦で、壁はわずかに開き気味に立ち上がる傾向が見られる。深度が浅く覆土の状態は不明である。

カマドは東壁に設置される。燃焼部は壁外に延び、10cm程掘り込まれる。煙道は1m程直線的に延び、煙出部がわずかに深くなっている。袖は検出されなかった。

貯蔵穴、ピットは検出されていない。

出土遺物は土師器の坏、甕の小破片と須恵器の破片が僅かに出土したに過ぎなかった。1はカマド前面の床面直上から出土した。



第8図 第3号住居跡・出土遺物

第3号住居跡出土遺物観察表 (第8図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	(12.4)	2.9		WW'BRS	B	橙	80%	No1 カマド前床面
2	坏	(12.3)	3.1	(8.2)	B'WR	A	青灰	20%	S11出土土器と接合 産地不明
3	高台坏	(17.2)	3.7	(12.0)	WS	A	灰	40%	No4 覆土下層 高台別り出し 群馬産

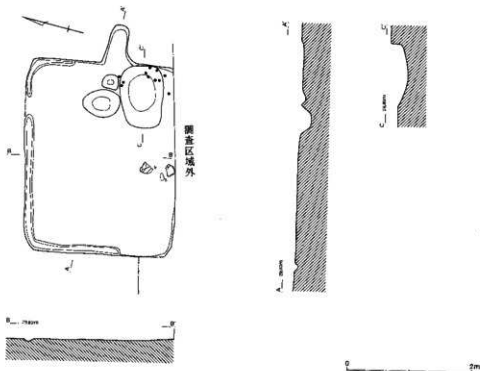
第4号住居跡 (第9図)

か-4-7グリッドを中心に位置する。南壁付近は調査区域外にあり不明であるが、南西コーナーの下場は検出されており、ほぼ全容は捉えられる。形態は長方形で、規模は長軸3.08m、短軸は残存で2.42mである。深さは0.01-0.03mと極めて浅く、北壁は壁溝の掘り込みのみ残存している。主軸方位はN-78°-Eを指す。

床面はほぼ平坦で、覆土の状態は不明である。カマドは東壁中央よりやや南寄りに設置される。掘り込みは浅く、残存状態は良くない。カマド前面には直径約26cmで円形と、61cm×44cmで楕円形の2基のピットが検出されたが、後者は本住居跡に伴うものか疑問である。

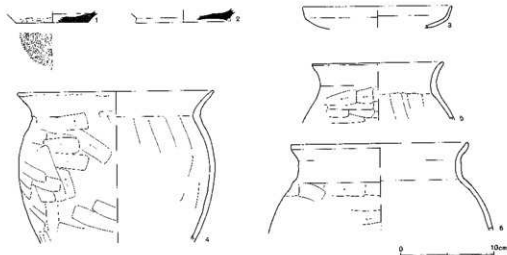
貯蔵穴はカマド右脇に位置し、101cm×70cmの楕円形に近く、深さは約15cmを測る。壁際は垂直に立ち上がるが、反対側はなだらかである。柱穴と思われるピットは検出されなかった。壁溝は北東コーナーから北壁の一部で途切れるが、西壁まで検出された。幅は10-16cm、深さ2-7cmである。

出土遺物は住居跡の深度が浅いためか、あまり多くない。また接合率も悪く、図示した6点以外



第9図 第4号住居跡

にも土師器の胴部と思われる破片や、甕底部片、坏小片が存在する。出土状況は貯蔵穴付近と南壁付近で多く出土する傾向が伺える。



第10図 第4号住居跡出土遺物

第4号住居跡出土遺物観察表 (第10図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成色	調	残存	出土位置・その他
1	坏		1.0	(7.6)	BW	A	灰黄	25%	覆土
2	高台坏		0.9	(10.0)	BW	A	灰白	15%	覆土
3	坏	(16.0)	2.0		BB'WW'	B	橙	10%	覆土 内外面磨耗著しい
4	甕	(20.8)	16.2		BB'WW'R	B	鈍い橙	25%	No1,3 覆土
5	甕	(14.0)	6.2		WW'BB'RS	B	灰褐	15%	覆土
6	甕	(18.8)	9.3		BB'WW'RS	B	灰褐	10%	No1 覆土

第5号住居跡 (第11図)

かー5-4グリッドを中心に位置する。他の遺構からは離れて、調査区の西端で南コーナー付近が検出された。住居跡の大半が調査区域外にあり詳細は不明である。検出規模は長軸3.53m、短軸2.71m、深さ0.01~0.03mである。主軸方位は西壁を基準にするとN-64°-Wとなる。

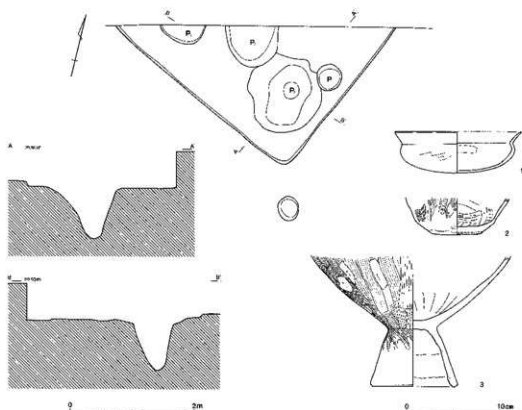
床面は概ね平坦で、壁の立上りは概ね垂直であるがほぼ垂直と思われる。覆土の状態は不明である。

か跡は検出されていない。

ピットは4基検出された。このうちP2は貯蔵穴と思われ、南コーナーに位置している。129cm×121cmの不整形円形で、深さは83cmを測る。P1、P3、P4は深さがそれぞれ11cm、9cm、3cmと浅く、住居跡に伴うかどうか疑問である。住居跡コーナー部の外側に直径約34cm、深さ約10cmのピットが検出されたが、これも伴うものかどうか確認できなかった。

出土遺物は、土師器の破片が少量出土しただけである。図示できた物は3点で、残りは3の土師器の胴部破片が多くみられる。

本住居跡は他の遺構から距離をおいて検出されており、時期的にも唯一古墳時代前期に属する。



第11図 第5号住居跡・出土遺物

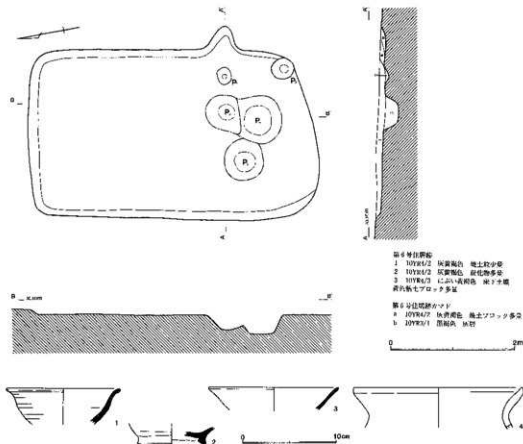
第5号住居跡出土遺物観察表 (第11図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	13.5	4.0		WW'BB'R	A	浅黄橙	95%	覆土 底部被熱 磨耗著しい
2	堑		4.0	(5.4)	WW'BB'R	B	灰白	70%	覆土 内面調整粗い 外面底部に抉り痕
3	台付堑		13.9	(8.9)	BB'WW'RS	A	灰白	90%	覆土 被熱

第6号住居跡 (第12図)

えー2ー7グリッドを中心に位置する。形態は長方形だが、南壁は非常に浅くなっており立上がりはほとんど見られなくなっている。規模は長軸3.66m、短軸2.17m、深さ0-0.15mである。主軸方位はN-79°-Wを指す。

床面はほぼ平坦で、壁はやや開き気味に立ち上がる。覆土は深度が浅いため灰黄褐色土1層で、堆積状態は把握できなかった。カマドは東壁中央より南寄りに設置される。遺存状態は悪く最下層の灰層とその上層のみ残存していた。カマド前面には直径約22cm、深さ7cmのピット(P1)が検出されており、カマドの施設の一部の可能性もある。P3~P5は床下土壌である。それぞれの深さは22cm、31cm、5cmである。また、南東コーナー部に直径約35cm、深さ12cmのピット(P2)が検出されている。出土遺物は、土師器がやや多目に出土したものの接合率は悪く、図示したものの以外に器種の判明するものは胴部が2片あるだけである。須恵器は図示したものの以外には高台付坏



第12図 第6号住居跡・出土遺物

第6号住居跡出土遺物観察表 (第12図)

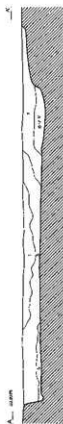
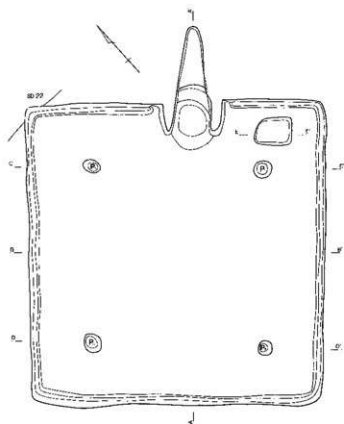
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成色調	残存	出土位置・その他
1	坏	(12.0)	3.8		WW'BB'RS	B 褐灰	10%	床下上端 高台坏か
2	高台坏		2.2	(7.4)	BD'WW'R	B 灰黄	40%	覆土 張り付け高台 などで付けは難
3	坏	(13.6)	2.4		WW'BB'R	A 明褐色	10%	覆土
4	甕	(18.0)	4.3		WW'BB'	A 褐	10%	床下上端

片が4片と器種不明が1片出土している。

第7号住居跡 (第13・14図)

え-3-6グリッドを中心に位置する。僅かであるが北側コーナー部で第22号溝跡と重複し、本住居跡の方が古い。形態は極めて整った方形で、規模は長軸4.88m、短軸4.75m、深さ0.3~0.37mである。主軸方位はN-44°-Eを指す。

床面はほぼ平床だが、中央部が極僅かに高まっている。壁は垂直に立ち上がる。カマドは東壁の中央より僅かに南寄りに設置される。燃焼部は床面を7cm程掘り下げている。最下層には炭化物層が、その上層には焼土ブロックを含む層が検出されたが、全体的には覆土の遺存状態は悪い。貯蔵



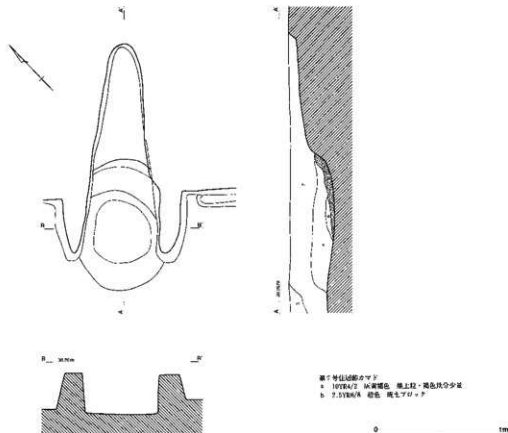
- 第7号住居層
- 1 10YR5/7 黒褐色 炭化層・褐色成分少量
 - 2 10YR2/7 灰色 炭化層・粘土質層
 - 3 10YR5/2 赤褐色 炭化層少量 褐色成分多量
 - 4 10YR2/7 赤褐色 2層に透氣
 - 5 10YR5/1 暗褐色 炭化層少量
 - 6 10YR5/1 暗褐色 褐色成分多量
 - 7 10YR5/2 赤褐色 3層に透氣 褐色成分の少量



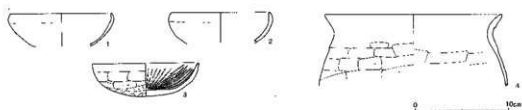
第13図 第7号住居跡

穴はカマド右側に位置し、60cm×44cmの長方形で、深さは約11cmを測る。ピットは4本検出され、位置的に柱穴と思われる。壁溝はカマド両端から全周し、幅14~17cm、深さ4~6cmである。

出土遺物は土師器が少量で、図示した以外には坏口縁部と甕胴部の小片があるのみである。



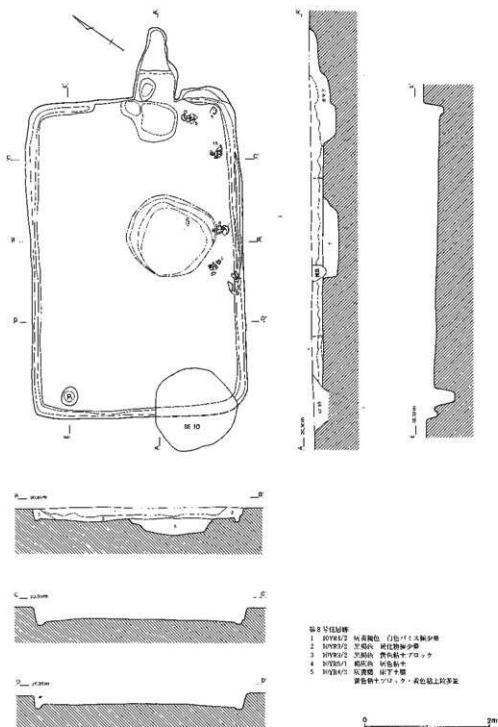
第14図 第7号住居跡カマド



第15図 第7号住居跡出土遺物

第7号住居跡出土遺物観察表 (第15図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	(10.7)	3.5		WW'BB'	B	橙	15%	覆土 内外面磨耗著しい
2	坏	(10.5)	3.3		WW'BB'S	B	橙	20%	覆土 器面磨耗著しい
3	坏	13.3	3.5		B'W'WRS	B	橙	90%	覆土 放射状暗文 やや磨減
4	甕	(19.0)	7.6		BB'WW'R	B	橙	20%	カマド 口縁一部に煤附着



第16図 第8号住居跡

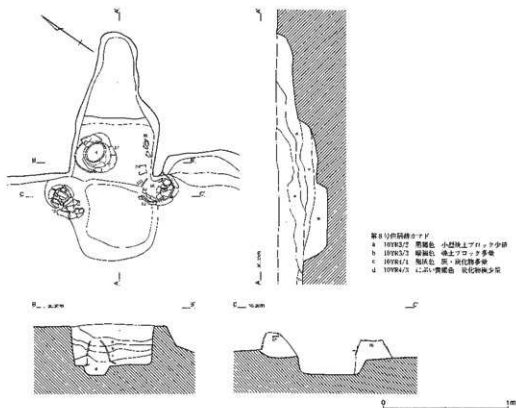
第8号住居跡 (第16・17図)

え-3-3グリッドを中心に位置する。西壁の一部で第10号井戸跡と重複し、本住居跡は旧い。形態は東西に長い長方形で、規模は長軸5.12m、短軸3.40m、深さ0.17~0.24mである。主軸方位はN-55°-Eを指す。

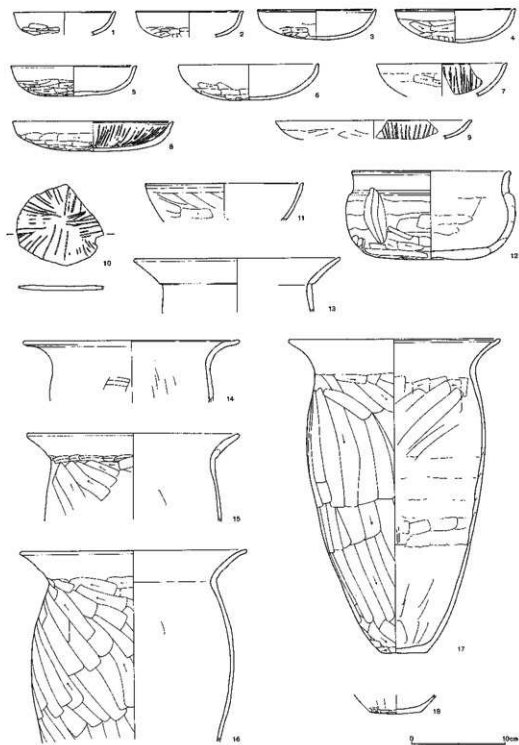
床面は中央部が僅かに高くなっている。壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は基本3層で自然堆積と思われる。

カマドは東壁中央より南寄りに設置される。燃燒部は床面を20cmほど掘り込み、段を持って煙道へと続く。カマド内には小ピットが検出され、その上に倒位の土師器甕内に坏が入った状態で出土している。カマド袖は両袖とも補強材として甕が使用されている。右袖は甕の口縁部が2個体分出土している(13と16)。左袖からは甕と鉢1つが出土しているが、甕は図示できる状態にまでは至らなかった。貯蔵穴は検出されない。ピットは南西コーナー付近に1基検出された。直径約30cm、深さ32cmであるが、柱穴とは考えにくい。壁溝はカマド両端より全周し、幅13~21cm、深さ3~7cmである。住居中央付近に床下土層が見られ、規模は134cm×126cm、深さ約22cmを測る。覆土には粘土ブロックや粘土粒子を多く含む。

出土遺物は、カマド内及びその付近と南壁中央部に集中している。カマド内には補強材を含む甕類が多く出土する傾向が見られる。南壁中央の壁際でいわゆる編み物石が6個まとまって床面から



第17図 第8号住居跡カマド



第18圖 第8号住居跡出土遺物(1)

出土している。図示した以外の遺物は土師器の甕胴部小片が少量と、須恵器の高台坏と思われる小片が1片、甕胴小片が4片出土している。



第19図 第8号住居跡出土遺物(2)

第8号住居跡出土遺物観察表 (第18図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成・色調	残存	出土位置・その他
1	坏	(10.8)	2.6		HH'WW'S	B 鈍い橙	20%	No4 カマド 内外面磨耗
2	坏	(11.6)	2.9		WW'BB'R	A 鈍い赤褐	15%	No3 カマド ていねいな作り
3	坏	12.7	3.3		BB'WW'RS	B 橙	80%	No11 床面
4	坏	12.8	3.7		BH'WW'RS	B 橙	50%	No2 カマド
5	坏	13.4	3.3		WW'BB'RS	B 橙	95%	No5 覆土
6	坏	(14.8)	4.0		BB'WS	B 橙	30%	No7 覆土 内外面磨耗
7	坏	(14.0)	3.5		BB'WW'RS	B 橙	20%	No9 覆土下層 放射状暗文
8	坏	17.0	3.3		WW'BB'RS	B 橙	95%	No9 覆土下層 放射状暗文
9	皿	(21.0)	1.5		BB'WW'S	B 橙	10%	覆土 放射状暗文
10	坏				BB'WW'R	A 橙		カマド 放射状暗文
11	碗	(16.8)	4.0		WBB'RS	B 橙	10%	覆土
12	鉢	16.6	9.5	11.5	WW'BB'RS	B 橙	95%	No1 カマド左袖 外面輪積み痕
13	甕	(21.9)	5.8		WW'BS	B 橙	25%	No4 カマド右袖 胴部調整不明瞭
14	甕	(23.0)	7.7		BB'WW'RS	B 橙	10%	カマド 内外面磨耗
15	甕	22.5	9.3		WW'BB'RS	B 橙	40%	No7,9 覆土下層 口縁部外部に甘い積
16	甕	24.0	20.4		WW'BB'RS	B 鈍い橙	70%	No4 カマド右袖 胴部炭化物付着
17	甕	22.6	33.4	4.7	WW'BB'RS	B 明赤褐	90%	No2 カマド 底部もヘラケズリ
18	甕		2.1	(5.6)	BB'WW'S	B 鈍い橙	40%	No3 カマド 内面磨耗

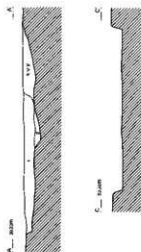
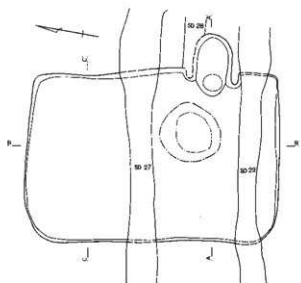
第9号住居跡 (第20図)

えー3-8グリッドを中心に位置する。第22、27、28号清跡と重複し、本住居跡が最も古い。形態は南北に長い長方形で、規模は長軸4.10m、短軸2.76m、深さ0.09-0.19mである。主軸方位はN-80°-Eを指す。

床面には凹凸が見られ、壁はやや開き気味に立ち上がる。覆土は基本1層だが、詳細は不明である。

カマドは東壁中央より南寄りに設置される。一部を第28号溝によって切られるが、全体の把握は可能である。熱焼部は床面を僅かに掘り下げ緩やかに煙道へつながる。最下層には灰や炭化物を多く含む層があり、その上層に大型焼土ブロックを含む層がある。カマド袖は左右ともあまり大きくはないが地山を残して構築されている。カマド前面に直径約96cm、深さ13cmの床下土壌が検出され、覆土には粘土ブロックや粘土粒子を多量に含んでいる。

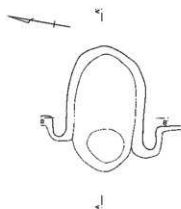
遺物の量は少なく、図示したものの以外にも土師器坏の口縁部小片が1片と甕の胴部片が少量、須恵器坏細片が少量出土だけである。



第9号住居跡

- 1 10YR4/2 灰青褐色 焼土粒・白色/1.2.3
- 2 10YR4/3 に近い黄褐色 焼土粒・黄色粒上アロック
- 3 10YR3/3 暗褐色 焼土粒 状下土層
- 4 黄色粒上アロック・焼土粒多量

0 2000

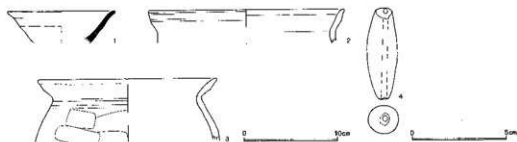


第9号住居跡のサマツ

- a 10YR4/3 に近い黄褐色 焼土粒・黄色粒上土多量
- b 10YR3/3 暗褐色 人間地上アロック
- c 10YR5/3 に近い黄褐色 焼土アロック・黄色粒土粒
- d 10YR4/2 灰青褐色 灰・炭化物多量
- e 10YR5/3 に近い黄褐色 焼土アロック多量
- f 10YR5/4 に近い黄褐色 焼土粒少量

0 1000

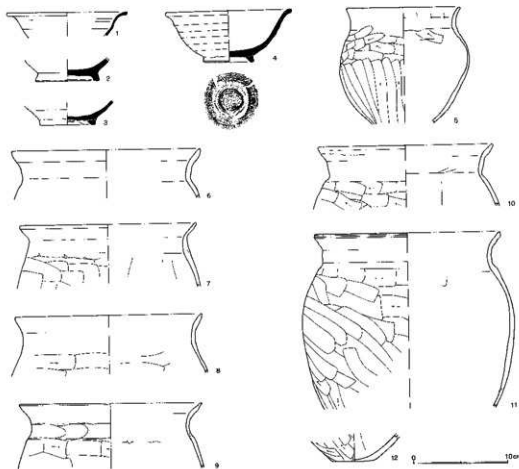
第20図 第9号住居跡



第21図 第9号住居跡出土遺物

第9号住居跡出土遺物観察表 (第21図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	(11.4)	3.4		B'WS	C	灰白	15%	覆土
2	类	(20.6)	3.7		BB'WRS	B	浅黄橙	10%	覆土
3	类	(18.9)	6.7		BRW	B	鈍い黄橙	20%	カマド
4	土師	覆土			RBB'W		鈍い褐		長4.9cm 径1.7cm 孔0.3cm 重10.35g



第22図 第10号住居跡出土遺物

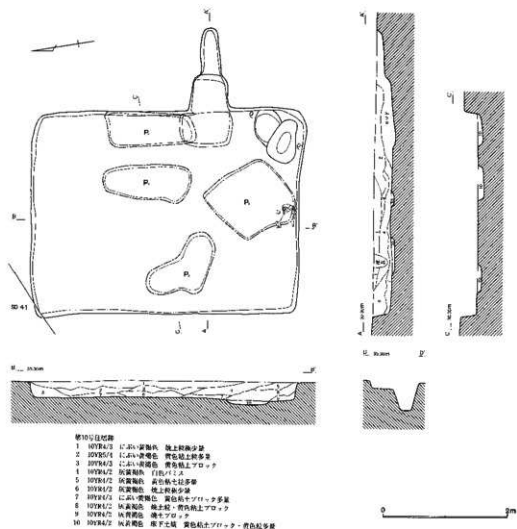
第10号住居跡 (第23・24図)

えー3-14グリッドを中心に位置する。自然流路と思われる第41号溝跡と重複し、本住居跡が上に乗る。形態は南北に長い長方形で、規模は長軸4.30m、短軸3.25m、深さ0.25~0.28mである。主軸方位はS-80°-Eを指す。

床面は中央部が僅かであるが高くなっている。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

カマドは東壁中央より南寄りに設置される燃焼部は床面を5cmほど掘り込み、緩やかに立上がりながら段を持って煙道部へと移行する。最下層には灰・焼土ブロックを多く含む層が見られるが、遺存状態はあまりよくない。

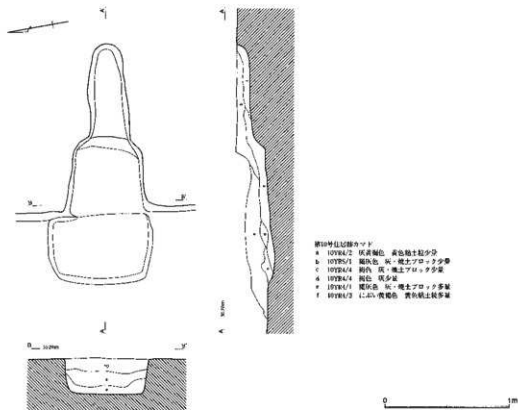
貯蔵穴は南東コーナー付近に位置し、直径約48cm、深さ14cmの円形と、70cm×48cmの楕円形で深さ64cmの2基が重なって検出されており、後者の方が新しいと思われる。ピットは4基検出され、



第23図 第10号住居跡

何れも床下土壌である。床下土壌の深さは全て10cm以下で、覆土には粘土ブロック・粘土粒子を多く含む。壁溝は検出されていない。

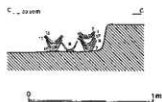
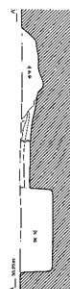
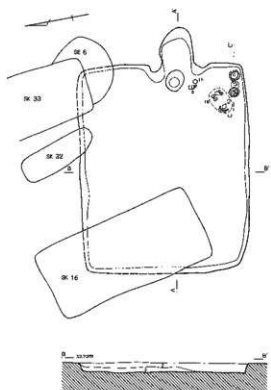
出土遺物は、図示したものがほとんどで、他には土師器甕の破片があるが、接合率が悪く全て小片である。



第24図 第10号住居跡カマド

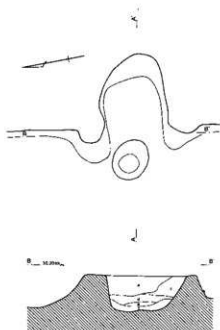
第10号住居跡出土遺物観察表 (第22図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	(13.0)	3.0		WBR	C	明褐色	20%	ビット3覆土
2	高台坏		2.3	(6.8)	WW'RS	C	黄い黄褐色	30%	カマド 酸化焙焼成 作りはていねい
3	高台坏		2.5	(5.9)	WW'B	B	灰	90%	No5 床面 張り付け高台 ナデ付けは雑
4	高台坏	13.2	5.6	5.0	WW'BR'S	B	褐色	70%	ビットNo3 床面 高台のナデ付けは雑
5	甕	12.0	12.3		WW'BB'RS	B	鈍い橙	50%	貯穴 胴部下半に煤付着
6	甕	(20.0)	5.2		WW'BB'R	B	橙	15%	覆土 胎土緻密
7	甕	(18.7)	6.8		BB'WW'R	B	鈍い橙	20%	カマド
8	甕	(20.0)	6.3		WW'BB'R	B	鈍い橙	15%	カマド 胎土緻密
9	甕	(18.8)	6.9		WW'BB'R	B	鈍い橙	30%	No1,4 床面
10	甕	(18.4)	6.6		WW'BB'RS	B	鈍い橙	15%	覆土
11	甕	19.7	19.3		WW'BB'RS	B	鈍い橙	30%	カマド 胎土はきめ細かいがザラつく
12	甕		2.9	4.6	WW'BB'RS	B	黄い黄褐色	75%	貯穴 カマド



第11号住居跡

- 1 30YR4/3 紅褐色 灰化層・焼土ブロック少量
- 2 30YR5/2 紅褐色 灰化層 大量黄色粘土ブロック多量
- 3 30YR4/3 紅褐色 灰化層・焼土ブロック多量

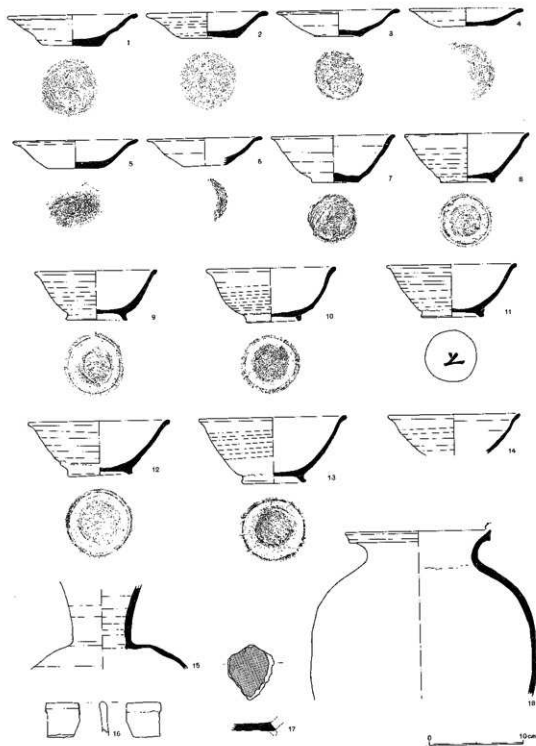


第11号住居跡2マ

- a 30YR4/2 紅褐色 焼土ブロック少量
- b 2.5YR4/2 紅褐色 焼土ブロック多量
- c 30YR4/2 灰化層内 黄色粘土ブロック多量
- d 30YR2/1 灰化層内 黄色粘土・灰化層
- e 30YR5/3 紅褐色 灰・灰化層
- f 30YR3/1 赤褐色 灰・灰化層



第25図 第11号住居跡



第26图 第11号住居跡出土遺物

第11号住居跡 (第25図)

う-3-24グリッドを中心に位置する。第16、32、33号土壌跡、第6号井戸跡と重複し、本住居跡が最も古い。形態は東西にやや長い長方形で、規模は長軸3.33m、短軸2.71m、深さ0.14~0.17mである。主軸方位はN-79°-Wを指す。

床面は平坦で、壁は開き気味に立ち上がる。覆土は2層に大別され、下層ほど焼土ブロック・炭化物粒子を多く含む。

カマドは東壁中央よりやや南寄りに設置される。燃焼部の掘り込みは浅いが、直径約30cm、深さ10cmほどのピットが検出されている。覆土は下層ほど炭化物、灰の混入が多い。

貯蔵穴、ピット、壁溝は検出されていない。

出土遺物は、カマドから南東コーナー付近にかけて集中している。南東コーナーでは9枚の須恵器の坏・高台坏・皿が3か所に分けられ正位で重なって出土した。これらの須恵器には完全に還元化されず、褐色や橙色に近い色調を示すものが多く見られる。11の高台坏の外側底部には「上」の墨書が見られ、17は高台坏を利用した転用硯である。16は常滑の大平鉢の口縁部片で混入である。図示したものの以外には土師器が3片と、須恵器が4片ある。

第11号住居跡出土遺物観察表 (第26図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	皿	13.6	3.3	4.2	WW'BB'RS	A	鈍い橙	100%	No2 床面 酸化焙焼成
2	皿	12.4	2.8	6.0	WW'B'RS	A	褐 灰	100%	No1 床面 一部分は還元化されず淡赤橙
3	皿	12.6	2.8	5.0	WW'RS	B	灰	95%	No10, 11 床面
4	皿	12.0	2.1	6.0	WW'B'RS	B	赤 褐	50%	カマド 酸化焙焼成
5	皿	(13.0)	3.0	(5.2)	WW'B'RS	B	赤 橙	25%	カマド 酸化焙焼成
6	坏	(12.4)	3.1	(4.7)	WW'RS	B	灰	40%	カマド
7	坏	13.0	5.0	4.8	WW'RS	B	灰	100%	No12 床面
8	高台坏	13.1	5.2	5.5	WW'B'RS	A	灰	95%	No5 床面
9	高台坏	12.8	5.4	6.2	WW'B'RS	A	灰	95%	No4 床面
10	高台坏	13.2	5.8	5.4	WW'B'RS	A	褐 灰	100%	No13 床面 酸化焙焼成
11	高台坏	13.9	5.6	6.2	WW'BB'RS	A	灰 白	100%	No7 床面 酸化焙焼成 底部墨書「上」か
12	高台坏	14.8	5.9	6.4	WW'BB'RS	A	明赤褐	95%	No3 床面 酸化焙焼成
13	高台坏	15.6	7.0	6.4	WW'BB'RS	片A	褐 灰	100%	No6 床面 酸化焙焼成
14	坏	14.0	4.4		WW'S	B	灰	40%	カマド
15	長頸壺		9.4		WB	A	灰	30%	No9 床面 灰輪陶器
16	大平鉢				WBS	A	灰 白		カマド 常滑 混入品
17	高台坏				WW'B	A	灰 白		カマド 転用硯
18	甕	(15.6)	18.9		WW'S	A	灰	35%	No8 床面

第12号住居跡 (第27・29図)

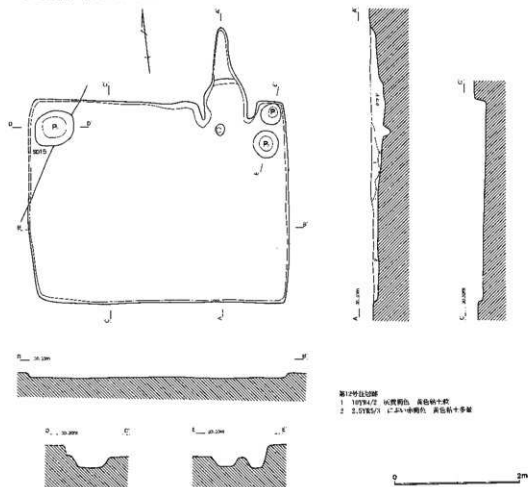
う-3-20グリッドを中心に位置する。北西コーナーで第15号溝跡と重複し、本住居跡が古い。形態は東西に長い長方形で、規模は長軸4.20m、短軸3.19m、深さ0.06~0.15mである。主軸方位はN-6°-Eを指す。

床面は中央部が僅かに高くなる。壁はやや開き気味に立ち上がる。覆土は2層で、黄色粘土粒子を含んでいる。

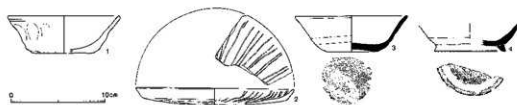
カマドは北壁のかなり東寄りに設置される。燃焼部の掘り込みはなく、段を持って煙道へと移行する。燃焼部の中央やや左袖寄りに直径約15cm、深さ約15cmのピットが検出され、焼土ブロックや灰が充填されていた。

ピットは3基検出された。P 1、P 2は北東コーナーで検出されている。P 3は第15号溝跡による擾乱を受けているものの北西コーナーで検出されている。

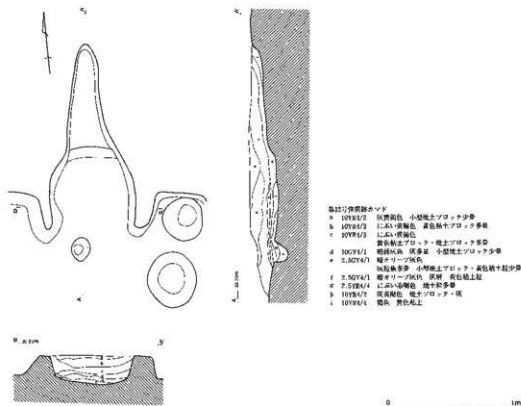
出土遺物は少なく、図示したもの以外には土師器の小片が2片あるだけである。



第27図 第12号住居跡



第28図 第12号住居跡出土遺物



第29図 第12号住居跡カマド

第12号住居跡出土遺物観察表 (第28図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	(11.8)	4.1	(6.6)	WW'BB'S	B	鈍い橙	15%	カマド
2	皿	(17.0)	1.7		WW'B'	B	橙	20%	覆土 放射状暗文 やや磨耗
3	坏	(12.0)	3.8	5.3	WW'BR'S	B	浅黄橙	40%	覆土 酸化焙焼成
4	高台坏		3.0	(7.4)	WW'B'	B	灰白	30%	カマド

第13号住居跡 (第30図)

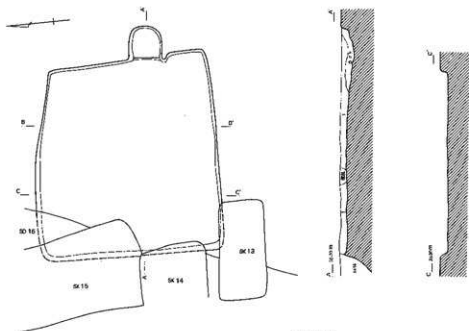
うー4ー17グリッドを中心に位置する。西壁で第13、14、15号土壁、第16号溝跡と重複し、本住居跡が最も古い。形態はやや東西に長い長方形で、規模は長軸3.20m、短軸2.94m、深さ0.08～0.10mである。主軸方位はN-86°-Wを指す。

床面は中央部がやや高くなっており、壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は単一層であった。

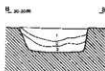
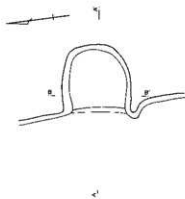
カマドは東壁中央よりやや南寄りに設置される。遺存状態は悪く、底面には凹凸があり、覆土に焼土粒子を少量含む程度であった。

貯蔵穴、柱穴、壁溝は検出されなかった。

出土遺物は極めて少なく、図示した須恵器坏のみである。口径は10.4cm、器高3.5cm、底径4.7cmで、褐灰色をしている。残存率は90%、焼成はBランクで、一部は還元化していない。



第13号住居跡
1 20YR4/3 に、赤い黄褐色 白色パリス少量



第13号住居跡カマド
a 20YR4/3 に、赤い黄褐色 焼土、ブロック少量
b 20YR4/3 に、赤い黄褐色 黄色粘土、ブロック少量
c 20YR4/3 に、赤い黄褐色 灰化物・焼土粒少量

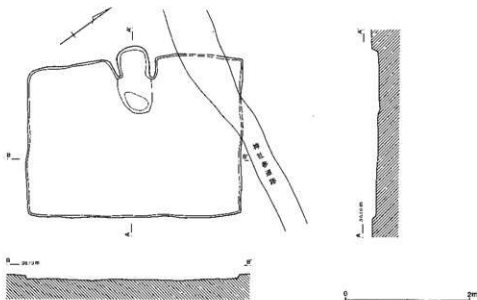
第30図 第13号住居跡・出土遺物

第14号住居跡 (第31図)

う-2-4グリッドを中心に位置する。北側コーナー近くで神社跡(参道)の溝跡と重複し本住居跡が古い。形態は東西に長い長方形で、規模は長軸3.43m、短軸2.56m、深さ0.06~0.11mである。主軸方位はN-59°-Wを指す。

床面は僅かに凹凸があり、壁はやや開き気味に立ち上がる。覆土の状態は不明である。

カマドは西壁中央に設置されている。遺存状態は悪く、覆土の状態は不明である。燃焼部は床面を3cmほど掘り込み、底面は平坦になっている。遺物は全く出土していない。



第31図 第14号住居跡

第15号住居跡 (第32図)

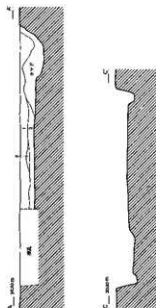
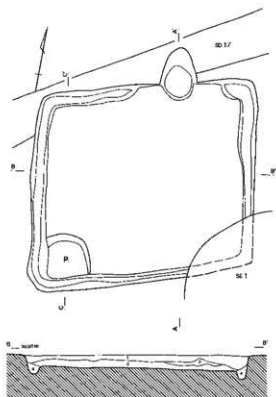
え-4-7グリッドを中心に位置する。自然流路の一部と思われる第17号溝跡の上に構築され、南東コーナーを第1号井戸跡によって壊される。形態はやや歪んだ方形で、規模は長軸3.60m、短軸3.18m、深さ0.15~0.25mである。主軸方位はN-7°-Wを指す。

床面は概ね平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は4層に分かれ、全体に灰色粘土と黄色粘土を含んでいる。

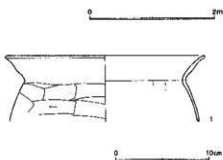
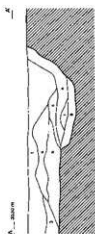
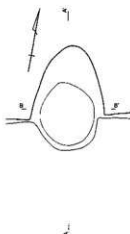
カマドは北壁の中央より東寄りに設置される。燃焼部は床面を約14cm掘り下げ、底面は中央が僅かに凹む。覆土中層に焼土ブロックを多量に含む(c層)以外には焼土・灰・炭化物の混入は少ない。

ピットは南西コーナー部の壁溝に沿って1基検出された。一辺70cmほどで深さは9cmを測る。貯蔵穴の可能性も考えられる。壁溝はカマド両端から全周すると思われ、幅は17~28cmと比較的広く、深さは4~9cmである。

出土遺物は少なく、図示した土師器甕は口縁部のみ40%の残存で、推定口径21.4cm、橙色をし、



- 第12号住居跡
- 1 10YR5/2 に黒い黄褐色 灰白粘土・黄色粘土
 - 2 10YR1/3 に黒い黄褐色 灰白粘土・黄色粘土
 - 3 10YR4/2 灰黄褐色 灰白粘土・黄色粘土
 - 4 10YR4/7 黄褐色 黄白粘土



- 第15号住居跡ホマド
- a 10YR6/1 に黒い黄褐色 黄色粘土少量
 - b 10YR4/2 灰黄褐色 白色・L土少量
 - c 10YR6/1 黄褐色 粘土・L土少量
 - d 10YR3/2 に黒い黄褐色 灰・粘土・L土・L土少量
 - e 10YR4/1 黄褐色 灰・灰化土少量
 - f 10YR5/4 に黒い黄褐色 灰・灰化土少量
 - g 10YR4/3 に黒い黄褐色 灰少量

第32図 第15号住居跡・出土遺物

胎土には白色粒子が目立つ。これ以外には土師器坏が2片（うち1片は暗文）と器種不明の小片が8片あるのみである。

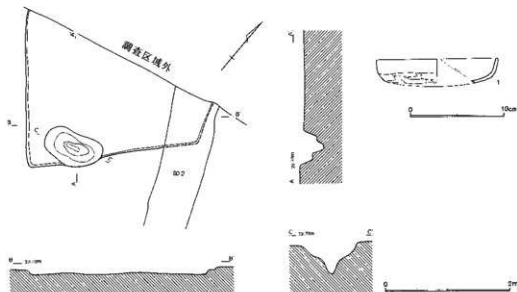
第16号住居跡（第33図）

か-3-4グリッドを中心に位置する。東壁で第2号溝跡と重複し、本住居跡が旧いが、溝跡が浅いため下場は検出している。南壁及び西壁と東壁の一部を検出し、北半は調査区域外にある。西壁の北端は東に屈曲するような形態を示しており、この付近をコーナーと考えれば一辺が2.6m程の方形になるものと思われる。深さは0.05-0.10mである。主軸方位は、西壁を基準とすればN-42°-Wとなる。

床面はやや起伏があり、壁は開き気味に立上がる。覆土の状態は不明である。

カマドは未検出の北壁或いは東壁に取りつくと考えられる。柱穴、壁溝は検出されていない。南壁に94cm×55cmで深さ約30cmの中段を持つピットが検出されたが住居跡に伴うかは明確でない。

出土遺物は極めて少量で、図示した土師器坏は底部を欠損している。口径は12.8cm、褐色をしている。口縁部内面にはナデの抜き上げ跡が僅かに残る。これ以外には、器種不明の土師器4片と須恵器1片があるのみである。

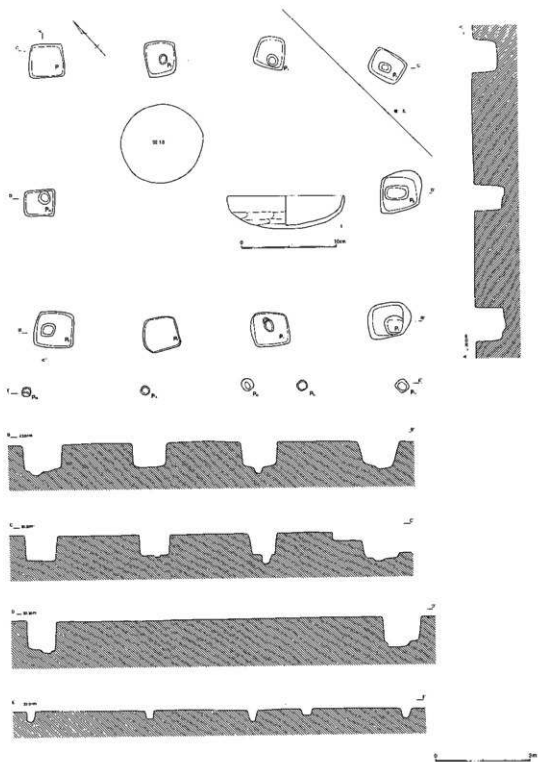


第33図 第16号住居跡・出土遺物

(2) 掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡（第34図）

う-3-21グリッドを中心に位置する。2×3間の東西棟で、規模は桁7.22m、梁行5.48mである。主軸方位はN-47°-Wを指す。



第34图 第1号掘立柱建物跡・出土遺物

柱穴は方形のプランを示し、一辺60cm～85cm前後で、深さは40cmから60cm程のものが主体を占める。これらのうち、P 2からP 7とP 9、P 10において柱穴の底面に小ピットが穿たれており、柱の最下部の痕跡と考えられる。一部不明な部分があるが、この痕跡を基準にした柱間寸法は桁行2.4m（約8尺）、梁行2.7m（約9尺）等間と復原できる。北側の桁行の側柱は隅柱を結んだラインよりやや外側にずれている。北東隅柱は上半部を攪乱によって削り取られているが、底面は明瞭に検出された。

南側桁柱から1.2m程離れたところに直径20cm前後、深さ14～23cmの小ピット列が検出されている。建物の庇とするには柱筋が揃わない点や規模が小さすぎる点、柱間が不揃いな点など疑問が残る。むしろ建物に付随する構列の可能性の方が高いと思われる。

出土遺物は極めて少なく、P 1～P 8で土師器、須恵器の細片が微量みられるだけである。図示した土師器杯はP 2からの出土で、推定口径12.2cm、器高3.4cmである。50%の残存で、橙色をしており、内外面ともに磨耗が著しい。

(3)井戸跡（第35～41図）

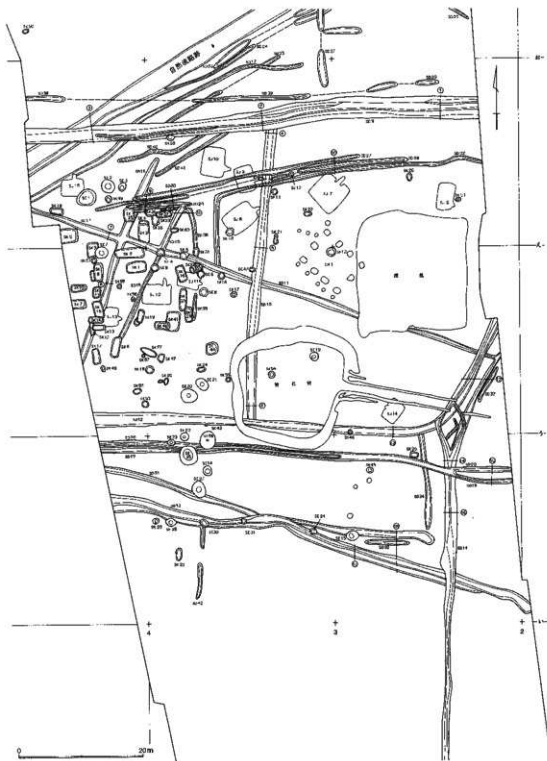
井戸跡は31基検出されている。その分布は概ね調査区域の南半に片寄っており、特に第9号溝跡と第13号溝跡に囲まれた地域の西半に集中する。より細かく観察すると、4か所のまとまりが見られる。第1号井戸跡付近、第5号井戸跡付近、第20号井戸跡付近、第25号井戸跡付近である。

第1号井戸跡付近は、第1～3号井戸跡の3基であるが、周辺の溝跡に平行するように配置されている。第5号井戸跡付近は9基の井戸跡（第4～10、16、17号井戸跡）が、第11号溝跡に沿って配置される傾向にある。第20号井戸跡付近は、3基（第18、20、21号溝跡）と数は少ない。第25号井戸跡付近は6基の井戸跡（第14、22、23、25～27号井戸跡）が東西に配される傾向が見られる。この他にも第13号溝跡に沿うように東西に6基（第15、24、28～31号井戸跡）が配置されている。

井戸跡は全て素掘り、石組みや木組みのものは検出されなかった。平面プランは全て円形である。最大径は0.8～3m近いものまでであるが、1m前後のものと3mに満たないものが主体を占める。深さは1mに満たないものから2mを越すものまで様々であるが、一部重機による掘削を含め、全ての井戸跡で底面まで確認している。但し、土層断面が観察できたものは僅か9基に留まった。最大径が1m前後以下の小型のものは概して浅く、壁の崩落も少ない。最大径が2m～3mに達する大型のものは、深いと底面が礫層にまで達するため壁の崩落が激しく、断面形態がかなり乱れる傾向がある。

第1・2号、第20・21号、第25・26号井戸跡のように2基の井戸跡が隣接して検出された場合、一方の井戸跡の覆土上層に浅岡A軽石が含まれており、他方の井戸跡との関係や使用時期を考える上で興味深い結果が得られた。

遺物の出土は極めて少なく、常滑の鉢や在地産の瓦質土器・須恵器片・土師質の細片・鉄製品等を含めても遺物が出土したものは8基にすぎない。



第35回 井戸跡・土塚・溝跡配置図

第1・2号井戸跡 (第36図)

両井戸跡共に、えー4ー7グリッドに位置し、隣接して検出された。重機による掘削によって断面観察を行った。

第1号井戸跡は最大径は2.99m、深さ1.97mの大型の井戸である。最下層は礫層まで達しているが壁の崩落は見られず、底面の中心に直径約50cm、深さ約20cmのピットを持つ。覆土下半は明らかに埋め戻された土(10-29層)であるが、上半部は自然堆積の可能性もある。尚、上層の2・3層にはA軽石が含まれる。遺物は、刀(第42図-5)と土師質土器の小片が2片出土している。

第2号井戸跡は最大径2.39m、深さ1.06mである。第1号井戸跡ほど深くないが、最下層は礫層に達する。壁はオーバーハングし、底面は概ね平坦である。遺物の出土はない。

第5号井戸跡 (第37図)

うー3ー24グリッドに位置する。第11号溝跡と重複し、本井戸跡が新しい。最大径1.82m、深さ1.14m中型の井戸である。壁はオーバーハングしている。細かい断面観察はできなかったが、覆土は最上層にA軽石を含み、中層には粘土ブロック、下層には礫を多量に含んでおり、中層以下は崩落の後埋め戻された可能性が高いと思われる。出土遺物は須恵系系陶器大甍片(第42図-3)と釘と思われる鉄製品(第42図-6)の他、土師質土器の小片が2片ある。

第7号井戸跡 (第37図)

うー4ー22グリッドに位置する。第9号土塚と重複し、本井戸跡が古い。最大径2.30m、深さ1.56mの大型の井戸跡である。壁は崩落のため一部オーバーハングしている。覆土全体に礫や粘土を多量に含み、埋め戻された可能性も考えられる。遺物は出土していない。

第9号井戸跡 (第37図)

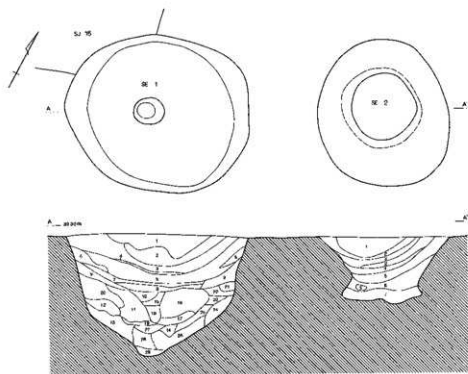
うー3ー25グリッドに位置する。第15号溝跡と重複し、本井戸跡は溝跡の上に構築されている。最大径1.08m、深さ0.93mの小型の井戸跡である。壁は垂直で、底面は平坦である。土層観察はできなかった。土師質土器の小片が2片出土している。

第11号井戸跡 (第38図)

えー3ー7グリッドに位置する。最大径0.97m、深さ1.01mの小型の井戸跡である。壁は垂直で、底面は平坦である。土層観察はできなかった。出土遺物は刀子と思われる鉄製品(第42図-7)が1片あるだけである。

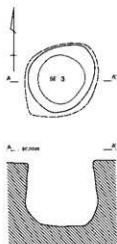
第15号井戸跡 (第38図)

いー2ー15グリッドに位置する。第31号溝と重複し、本井戸跡が上に構築されている。最大径1.91m、深さ1.95mの中型の井戸跡である。壁の一部はオーバーハングしている。覆土下層は、粘土を主体としており、土層変化に乏しい。遺物の出土はなかった。



第1号跡

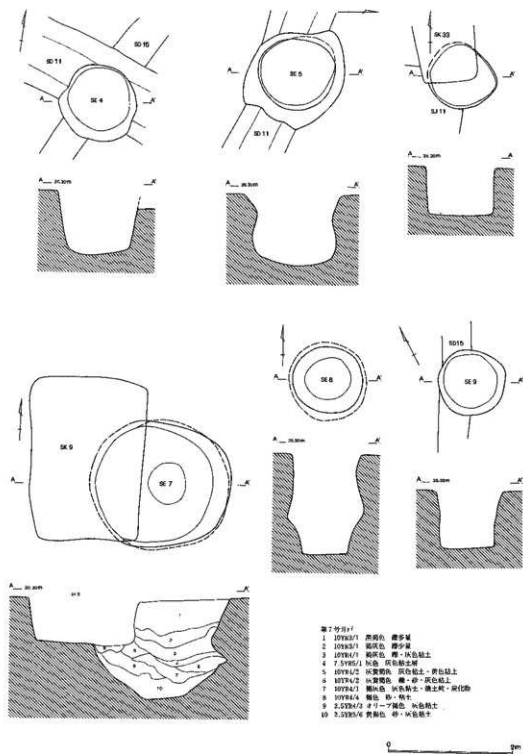
- 1 7.5YR3/3 灰褐色 土 (2-5cm) 多量
 - 2 7.5YR7/2 灰褐色 赤褐色鉄分、灰褐色少量
 - 3 7.5YR7/2 明褐色 赤褐色鉄分、少量A、少量少量
 - 4 7.5YR4/2 灰褐色 粘土質、赤褐色鉄分少量
 - 5 7.5YR4/2 灰褐色 灰褐色、少量少量
 - 6 7.5Y7/4 灰褐色 赤褐色鉄分、灰褐色鉄分少量
 - 7 7.5Y7/4 灰褐色 赤褐色鉄分、灰褐色鉄土、灰褐色少量
 - 8 7.5Y7/4 灰褐色 赤褐色鉄分少量
 - 9 7.5Y7/4 褐色 褐色鉄分、灰褐色鉄土少量
 - 10 10YR2/2 赤褐色 褐色鉄分少量
 - 11 10YR2/2 赤褐色 褐色鉄分少量
 - 12 10YR2/2 赤褐色 褐色鉄分少量 灰白粘土和灰質
 - 13 10YR2/2 赤褐色 褐色鉄分少量 灰白粘土和少量
 - 14 10YR2/2 浅黄褐色
 - 15 7.5YR5/2 灰褐色 褐色鉄分少量
 - 16 7.5YR5/2 灰褐色 褐色鉄分少量
 - 17 7.5YR5/2 灰褐色 褐色鉄分少量
 - 18 7.5YR2/2 黄褐色 褐色鉄分少量
 - 19 7.5YR3/2 黄褐色 褐色鉄分、砂粒少量
 - 20 7.5YR3/2 黄褐色 褐色鉄分、砂粒少量
 - 21-26 7.5YR2/2 明褐色 土(2-4cm)が層状に灰褐色土少量
 - 27 7.5Y7/2 灰褐色 赤褐色鉄分少量
 - 28 7.5Y7/2 灰褐色 赤褐色鉄分、砂粒少量
 - 29 7.5YR3/1 黄褐色 砂多量 黄褐色粘土
- 10-20層は階のいした上と思われ



第2号跡

- 1 7.5YR4/2 灰褐色 灰褐色、土上粘、少量少量
- 2 7.5YR7/4 灰褐色 赤褐色鉄分、砂粒少量
- 3 赤褐色 土質に砂粒、少量少量
- 4 7.5YR4/1 明褐色 褐色鉄分少量
- 5 7.5YR5/1 明褐色 灰褐色、粘土少量、土
- 6 7.5YR5/1 明褐色 灰褐色、褐色鉄分少量
- 7 7.5YR6/3 灰褐色 赤褐色鉄分、砂粒少量

第36図 井戸跡(1)



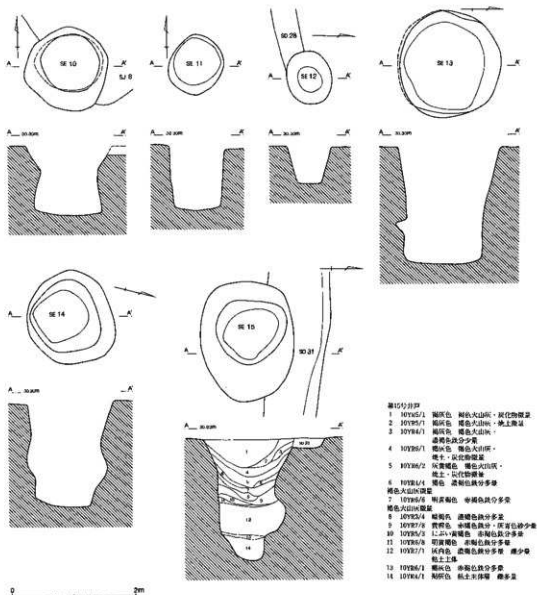
第37図 井戸跡(2)

第20・21号井戸跡 (第39図)

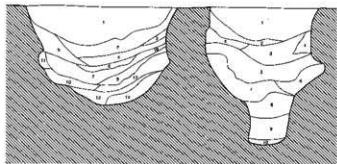
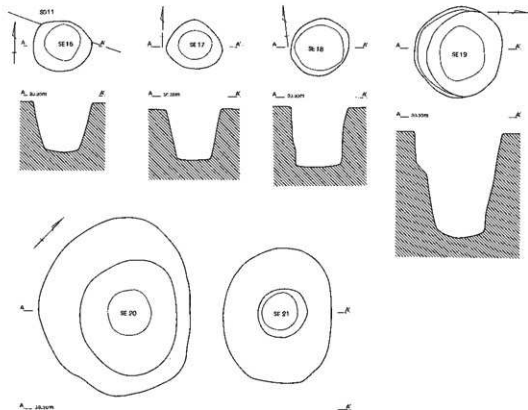
両井戸跡共に、う-3-9グリッドに位置し、隣接して検出された。重機による掘削によって断面観察を行った。

第20号井戸跡は最大径2.85m、深さ1.58mの大型の井戸跡である。壁の一部はオーバーハングしている。覆土には全体的に多量の粘土、粘質土を含み、最上層にはA軽石が混入している。最下層は礫層に達している。出土遺物は、鎌倉期と思われる常滑の片口鉢(第42図-1)が出土している。

第21号井戸跡は最大径2.17m、深さ2.20mの大型の井戸跡である。壁はオーバーハングしている



第38図 井戸跡(3)



・ 層位号表

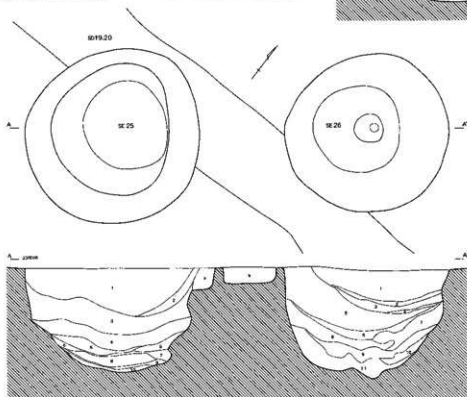
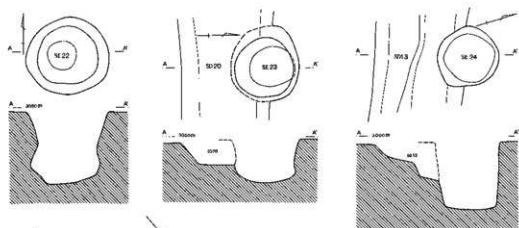
- 1 10YR5/1 褐色土 粘質土
- 2 10YR5/2 灰褐色 砂多量 粘質土
- 3 10YR5/3 灰褐色 砂多量 粘質土
- 4 10YR7/4 灰褐色 砂多量 粘質土
- 5 10YR7/4 灰褐色 砂、粘質土成分多量 粘質土
- 6 10YR5/6 黄褐色 粘土層
- 7 10YR2/8 黄褐色 粘土層
- 8 10YR5/6 黄褐色 粘土層
- 9 10YR6/8 明黄褐色 粘土層 砂多量
- 10 5YR/1 灰色 粘土層 砂多量

・ 層位号表

- 1 10YR7/2 灰褐色 泥質 (A7) 灰褐色 粘質土
- 2 10YR5/1 褐色 泥質 (A7) 灰褐色 粘質土
- 3 10YR7/4 灰褐色 砂多量 粘質土
- 4 10YR6/2 灰褐色 泥質、粘土少量 粘質土
- 5 10YR6/1 褐色 粘土、泥質成分多量 粘質土
- 6 10YR6/2 灰褐色 粘土層 泥質成分多量 粘土少量
- 7 10YR4/1 褐色 粘土層 泥質成分多量
- 8 10YR6/6 黄褐色 砂多量 粘質土
- 9 10YR2/8 黄褐色 粘土層 砂多量 泥質成分多量
- 10 10YR5/6 黄褐色 粘土層 砂多量 泥質成分多量
- 11 10YR7/4 明黄褐色 砂多量 粘質土
- 12 10YR5/6 黄褐色 粘土層 泥質成分多量
- 13 10YR7/1 灰色 泥質成分多量
- 14 10YR6/8 明黄褐色 砂、泥質成分多量 粘質土



第39回 井戸跡(4)



第25号井口

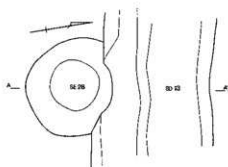
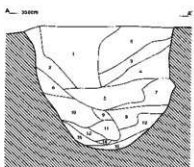
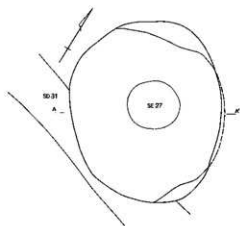
- 1 10YR6/2 1:2.5黄褐色 大量雜多量
- 2 10YR6/4 1:2.5黄褐色 砂質 塵
- 3 10YR5/3 暗褐色 大量雜多量
- 4 10YR5/2 暗褐色 大量雜 赤褐色粘土ソロソ
- 5 10Y1/1 灰色 粘土層 小砂層
- 6 7.5YR6/4 褐色 砂質 塵 (黄分多量性有)
- 7 10YR4/1 暗灰色 粘土層
- 8 10G4/1 暗緑灰色 暗褐色粘土層
- 9 7.5YR5/5 暗褐色 砂質 小礫 (黄分多量性有)
- 10 10G5/3 暗灰色 暗褐色粘土層 A 粘土層
- 4 10YR5/3 1:2.5黄褐色 S 0.10層土
- 6 10YR4/4 1:2.5黄褐色 S 0.10層土

第26号井口

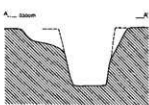
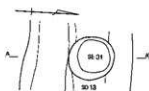
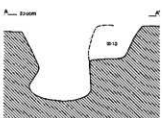
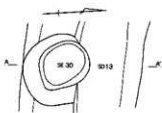
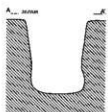
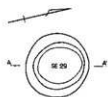
- 1 10YR4/4 褐色 大量雜多量 灰質 A
- 2 10YR6/4 1:2.5黄褐色 灰色粘土 - 泥質 A
- 3 10YR5/4 1:2.5黄褐色 塵 - 灰色粘土 - 灰質 A
- 4 10YR5/4 1:2.5黄褐色 灰色粘土多量 灰質 A
- 5 10YR5/1 暗灰色 大量雜多量 泥質 A
- 6 10YR5/1 暗灰色 粘土層 塵中多量
- 7 7.5YR6/6 褐色 灰色粘土 - 黄色粘土
- 8 10YR4/1 暗灰色 砂 - 塵多量
- 9 10GY4/1 暗緑灰色 暗緑灰色粘土層
- 10 7.5YR6/6 褐色 暗灰色粘土層
- 11 10GY5/1 暗灰色 粘土層

0 2m

第40图 井戸跡(5)



- 第27号井!
- 1 10YK2/2 赤褐色 礫 (1-30cm) 及び砂 (多量) 粘質土
 - 2 10YK4/3 赤褐色 礫 (式別A 7) 粘土粒極少量 粘質土
 - 3 10YK2/3 暗褐色 礫 (1-3cm) 少量 火山灰、粘土粒極少量 粘質土
 - 4 10YK4/4 褐色 礫 (1-5cm) 粘土粒極少量 粘質土
 - 5 10YK2/1 赤褐色 礫 (2cm) 少量、粘土粒極少量 粘質土
 - 6 10YK2/1 白色 粘土粒少量 粘質土
 - 7 10YK6/6 暗褐色 礫、赤褐色粘土少量 粘質土
 - 8 10YK2/3 褐色 粘土粒 少量 赤褐色粘土少量
 - 9 10YK2/1 赤褐色 粘土粒 少量
 - 10 10YK7/1 灰白色 粘土粒 少量
 - 11 SBGA/1 暗褐色 粘土粒 赤褐色粘土少量
 - 12 10YK5/6 赤褐色 砂、赤褐色粘土少量 粘質土
 - 13 10YK2/3 暗褐色 礫 (5cm) 少量
 - 14 SBGA/1 暗褐色 粘土粒 少量
 - 15 10YK4/6 褐色 砂、粘土粒 少量
 - 16 10YK3/4 褐色 砂、粘土粒 少量 粘質土



0 2m

第41回 井戸跡(6)

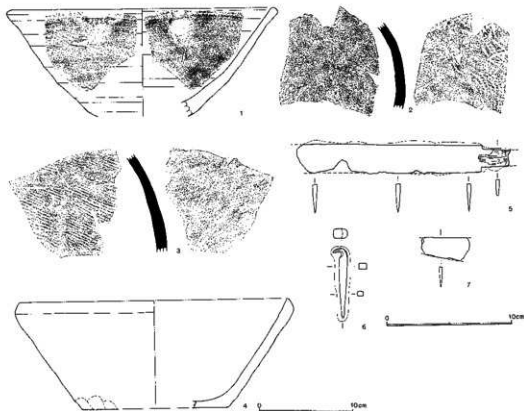
が、底面から1/3程は本来の形態を留めていると思われる。覆土は全体的に礫や砂を多量に含み、下半は粘土層が主体となる。最下層は礫層に達している。出土遺物は須恵器破片（第42図-2）が1片あるが混入の可能性が高い。

第25・26号井戸跡（第40図）

両井戸跡共に、い-3-24グリッドに位置し、隣接して検出された。共に第19・20号溝跡の上に構築されている。重機による掘削によって断面観察を行った。

第25号井戸跡は最大径2.94m、深さ1.66mの大型の井戸跡である。壁は一部オーバーハング気味である。覆土下層は砂層及び粘土層で細かい土層変化が見られ、中上層は礫や粘土ブロックを含む層となり各層が比較的大さい。壁の崩落後に埋め戻された可能性も考えられる。最下層は礫層まで達している。遺物は出土していない。

第26号井戸跡は最大径2.65m、深さ1.74mの大型の井戸跡である。壁の一部は小さく崩落しているが、本来の形態を留めている方であろう。覆土下半は粘土層で占められ、上半は礫、粘土と共に浅間A軽石を含んでいた。最下層は礫層まで達している。遺物の出土は見られなかった。



第42図 井戸跡出土遺物

第27号井戸跡 (第41図)

いー3-19グリッドに位置する。第31号溝跡の上に構築されている。重機による掘削によって断面観察を行った。最大径は2.90m、深さ1.98mの大型の井戸跡である。壁の一部は崩落している。覆土は礫を含む粘土または粘質土で、最上層近くにはA軽石と思われる火山灰が含まれる。埋め戻された可能性が高い。出土遺物は、覆土上層から緑泥片岩の小片が出土している。板碑の可能性も考えられるが、種字等は見られない。

第28号井戸跡 (第41図)

いー3-15グリッドに位置する。第13号溝跡と重複し、本井戸跡が上に構築されている。最大径は1.64m、深さ1.35mの中型の井戸跡である。壁の崩落は見られず、底面は平坦となっている。土層の観察はできなかった。出土遺物は、在地産の片口鉢 (第42図-4) のみで、14~15世紀のものと思われる。

井戸跡出土遺物観察表 (第42図)

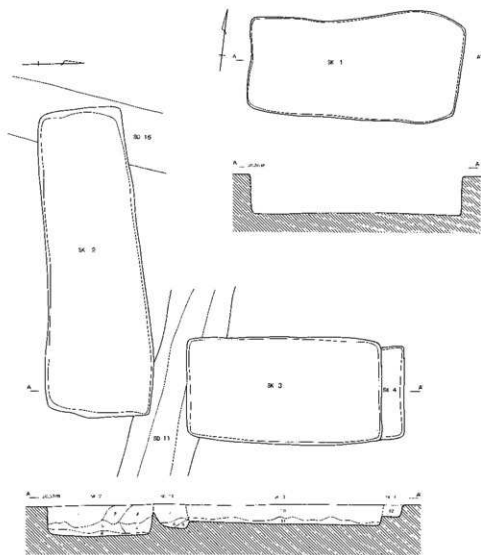
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	地成	色調	残存	出土位置・その他
1	片口鉢	(28.0)	11.4		BW	A	灰白	10%	SE20覆土 常滑 内外面一部釉
2	提瓶				WS	A	灰		SE21覆土
3	大甕				WS	A	灰赤		SE05覆土 須恵器系陶器 産地不明
4	片口鉢	(28.5)	11.5	(15.6)	BSRB'	B	灰	40%	SE28覆土 在地系 内外面剥離著しい
5	刀	SE01覆土							残長17.2cm 重量74.77g 両端欠損 全体に錆化 茎に木質一部残存
6	釘	SE05覆土							残長7.5cm 重量15.56g 先端部欠損 錆による肥大著しい レントゲンによる観察
7	刀子	SE11覆土							残長3.8cm 重量2.38g 左右端欠損 錆は内部まで及ぶが表面形態は明確

(4)土壌 (第35・43~48図)

前遺跡では60基の土壌が検出されている。これらは大きく分けると1. 中世の墓塚と思われるもの、2. 縄文時代の土壌と思われるもの、3. 性格不明のものとなる。

中世の墓塚と思われるものは30基あり、検出された土壌の半数を占める。概ね長方形の平面プランで、規模は長さ1.48~4.91m、幅0.84~2.05m、深さ0.18~0.63mとかなりばらつきが見られるが、長さ2m前後~3m、幅1m前後~1.5m、深さ0.3~0.5mのものが主体となる。分布の状況を見ると、北を第9号溝跡、南を第12号溝跡、東は第10号溝跡で囲まれた地域にのみ検出している。墓塚の主軸方位は東西を軸とするものと、南北を軸とするものに分かれ、前者が後者の上に乗るような形で構築される状況が看取できる。第27・44号土壌は形態と検出地点がややずれるが、墓塚として差し支えないと考える。

縄文時代の土壌と思われるのは第28号土壌1基である。他の遺構の確認面において縄文土器片が散布していたため周辺を約40cm掘り下げたところで検出された。覆土には焼土ブロックが多量に含まれていたが、底面及び壁面の焼けた痕跡は見られなかった。出土遺物はなく、明確な時期は不明であるが、縄文の可能性が高いと思われる。

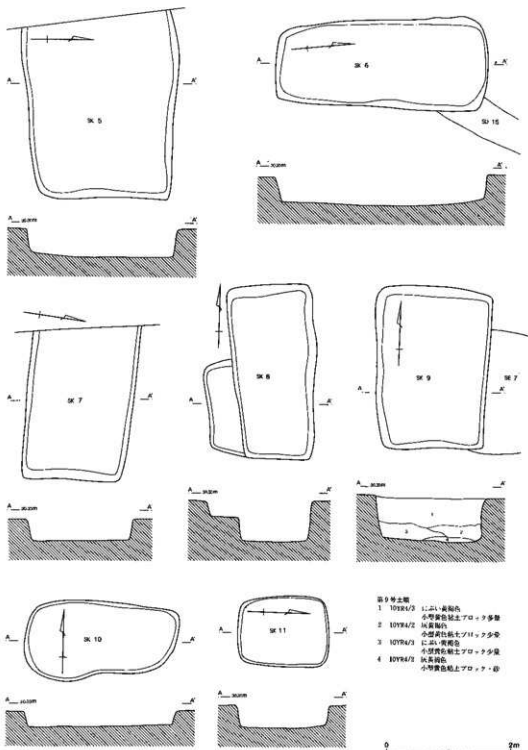


第 3 - 2 - 4 号土坑・第 11 号坑

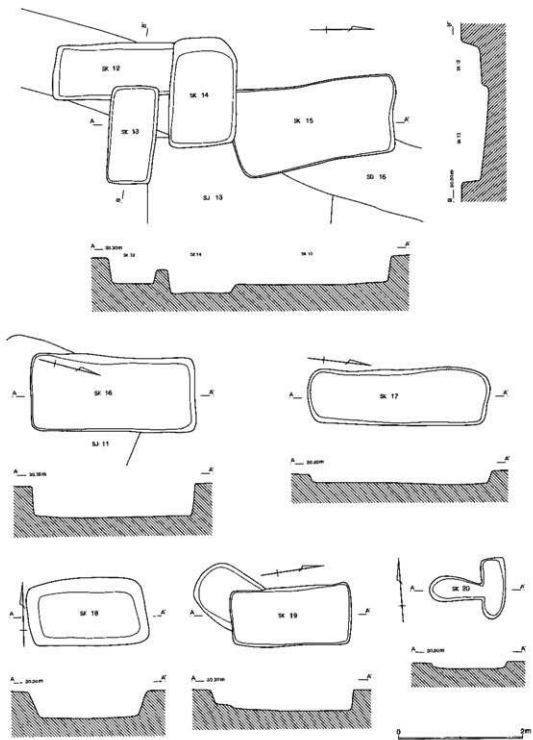
- 1 10YK3/2 暗褐色 小形黄色粒上アロク少量 パリス粒少量
- 2 10YK3/3 暗褐色 小形黄粒上アロク少量 高化粒少量 パリス粒少量
- 3 10YK3/3 暗褐色 大形黄粒上アロク少量 パリス粒少量
- 4 10YK3/4 暗褐色 小形黄色粒上アロク少量 パリス粒少量
- 5 10YK3/4 暗褐色 小形黄色粒上アロク少量 パリス粒少量
- 6 10YK4/4 褐色 粘土質 砂粒多量
- 7 10YK4/4 褐色 鉄分多量
- 8 10YK4/2 濃い黄褐色 鉄分・灰色粒少量
- 9 10YK4/2 濃い黄褐色 黄色粒上アロク少量
- 10 10YK4/4 褐色 小形黄色粒上アロク少量
- 11 10YK3/4 暗褐色 小形黄色粒上アロク少量
- 12 10YK3/4 暗褐色 粘土粒少量

0 2m

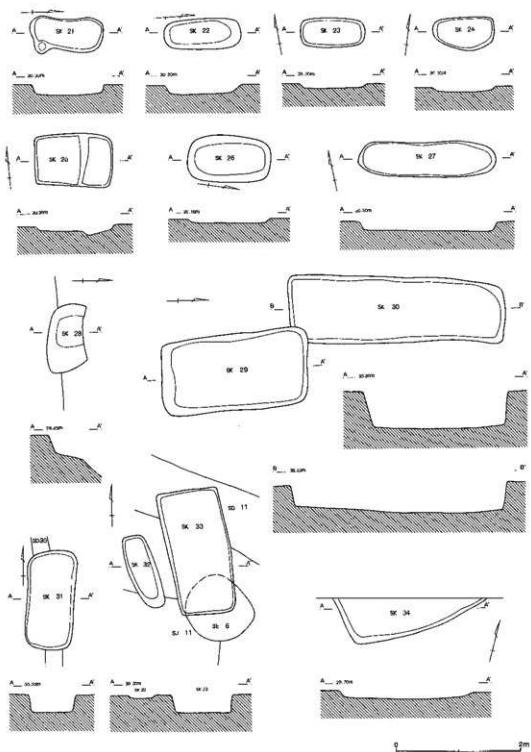
第43図 土坑(1)



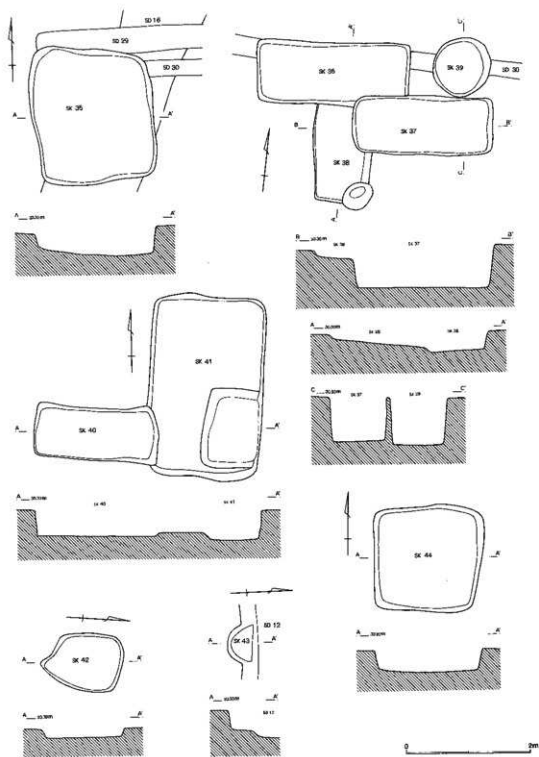
第44図 土坑(2)



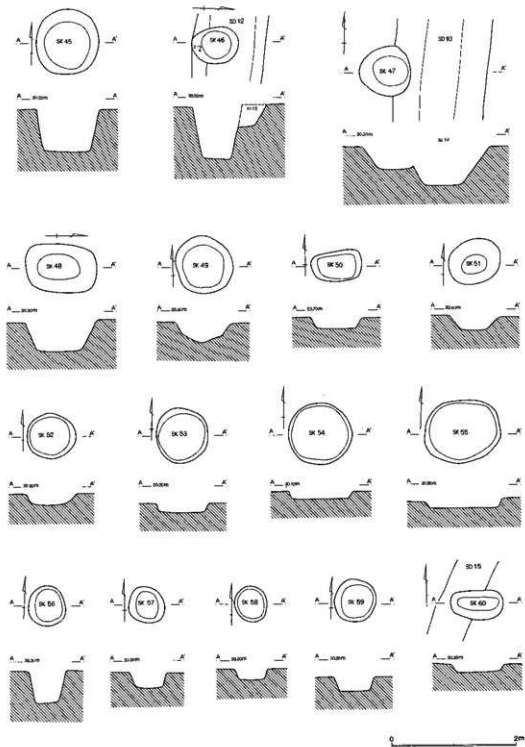
第45図 土坑(3)



第46图 土坑(4)

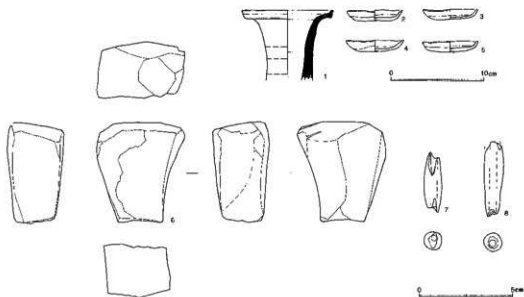


第47圖 土坑(5)



第48图 土坑(6)

性格不明土壌のうち第46号土壌の覆土上層から土師質の手づくね土器（第49図-3-6）が4枚重なった状態で出土している。また第50号土壌は当初住居跡のカマドの残欠と思われたが、周辺の精密によっても確証は得られなかった。遺物は土師器坏片1・堯片1・器種不明5・常滑片1が出土している。



第49図 土壌出土遺物

土壌出土遺物観察表 (第49図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	長頸壺	9.7	7.5	WBS	A	灰白	80%		SK41覆土
2	手づくね	5.8	1.1		RB	B	橙	100%	SK46覆土上層
3	手づくね	5.7	1.1		RB	B	鈍い橙	80%	SK46覆土上層 内外面共に剝離著しい
4	手づくね	6.1	1.2		RB	B	橙	95%	SK46覆土上層
5	手づくね	5.8	1.1		RB	B	浅黄橙	75%	SK46覆土上層
6	砥石	SK05覆土		長さ5.3cm	幅3.5cm	厚さ2.7cm	重量91g		凝灰岩製 下半欠損
7	土鍾	SK35覆土			BR		鈍い橙		残3.2cm 径1.0cm 孔0.3cm 重1.94g
8	土鍾	SK42覆土			BW		鈍い橙		残4.1cm 径1.0cm 孔0.4cm 重3.08g

(5)溝跡 (第50-53図)

溝跡は42条検出されており、大きく1. 古代の溝跡、2. 中世の溝跡、3. 自然流路跡に伴う溝跡、4. 時期不明の溝跡に分けられる。分布は遺跡全体にわたっているが、時期による片寄りがみられる。大まかに言うと、遺跡の北側には時期不明の溝跡、その南に自然流路跡、そして遺跡南半部に古代から中世にかけての溝となる。その内訳は次のようになる。

古代の所産と考えられる溝跡 第9・13・31・39号溝跡 計4条

中世の所産と考えられる溝跡 第10・11・12・14・15・16・19・20・22・27・28・29・30・33



第50图 清跡配置图(1)

・34・35号溝跡 計16条

自然流路跡に伴う溝跡 第17・23・24・25・26・40・41号溝跡 計7条

不明の溝跡 第1～8・18・21・32・36～38・42号溝跡 計15条

古代の所産と考えられる溝跡は、出土遺物の他、重複する遺構との関係から古代のものとして判断している。

中世の溝跡と考えられるものは、調査区の中央よりやや南側に集中する。これらの溝跡は、出土遺物に乏しく時期の決め手を欠くが、溝跡の一部が平安時代の住居跡を切り、中世の墓塚や井戸跡が溝跡の上に構築されていること、また他の溝跡との繋がりから同期のものとしているものも多く、より遡る可能性を持つ溝跡もある。

自然流路跡は第9号溝跡との交点付近の土層観察によると、第9号溝跡掘削時には既に埋まっていた状態であった。そして前記の7条の溝跡は出土遺物が全くなく、自然流路の南側に方向を同じくして走るため、自然流路の流れの一部と判断した。

時期不明とした溝跡は、土師器等が出土していても覆土の状態や溝跡の形態から現代に極めて近い溝跡と考えられるものが大半である。

第9号溝跡

幅2.0～3.6m、深さ約0.85mの大きな溝跡で、土層断面の観察では2回ないしは3回の掘り直しが行われたようである。須恵器、土師器の小片が出土している。また、この溝跡以北には土塚、井戸跡が極端に少ない。

第10号溝跡

調査区の中央を南北に走る。北端は第9号溝跡、南端は第12号溝跡に繋がっており、この溝跡以西に中世墓塚群が展開している。幅1.2～1.9m、深さ0.24～0.65mである。出土遺物は図示したものの以外に、15世紀と思われる在地産の播鉢片がある。

第12号溝跡

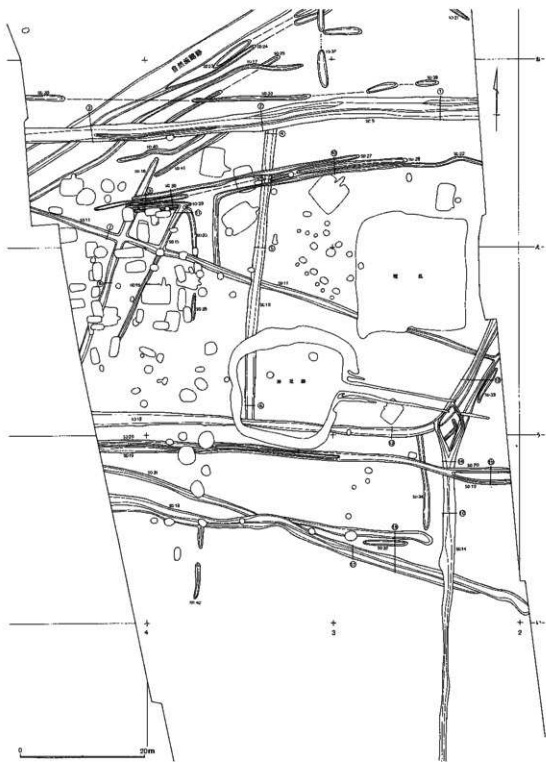
幅1.2～2.3m、深さ0.31～0.42mで東西に走るが調査区東端近くで北東へ屈曲する。中世墓塚群はこの溝以北にある。出土遺物は多孔質安山岩製の五輪塔の水輪部分がある。

第13号溝跡

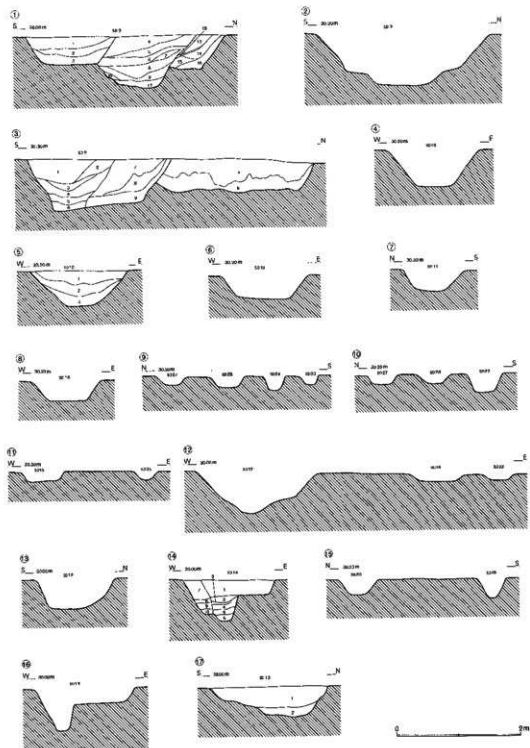
幅1.3～2.7m、深さ0.23～0.55mで調査区の南を東端を南に振りながら走る。他の溝跡に比べると遺物の出土が多めで、特に土師器杯の口縁部の細片が目立つ。

第14号溝跡

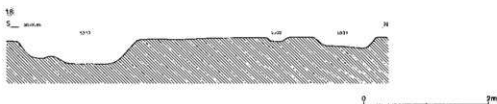
幅0.7～2.60m、深さ0.13～0.51mで、ほぼ南北に走るが、第12号溝跡が屈曲する付近で同じく北東に走り、第12号溝跡と平行する。遺物の出土は見られなかった。



第51図 清跡配署(図2)



第52图 沟迹土层图(1)



- 第9号遺跡
- 1 10YR5/3 紅褐色 褐色土山灰、炭化物少量
 - 2 10YR5/4 1:10-1:40 黄褐色 褐色土山灰、炭化物少量
 - 3 10YR7/4 1:10-1:40 黄褐色 炭化物、褐色土山灰少量
 - 4 10YR8/4 1:10-1:40 黄褐色 赤褐色鉄分少量、炭化物少量
 - 5 10YR5/3 1:10-1:40 黄褐色 小骨、炭褐色鉄分、褐色土山灰少量 砂質土
 - 6 10YR5/3 1:10-1:40 黄褐色 赤褐色鉄分、褐色土山灰少量 砂質土
 - 7 10YR4/2 黒褐色 褐色土山灰、炭化物多量
 - 8 5Y6/1 灰色 鉄屑、炭褐色鉄分少量
 - 9 5Y5/1 灰白色 赤、炭褐色鉄分多量 砂質土 (自然成壤)
 - 10 10R5/1 暗灰色 褐色土山灰少量 赤褐色鉄分多量 砂質土 (自然成壤)

- 第10号遺跡
- 1 10YR5/2 灰赤褐色 土山灰、炭化物、焼土少量 粘質土
 - 2 10YR4/2 灰赤褐色 土山灰、炭化物、炭褐色鉄分少量 粘質土
 - 3 10YR4/1 黒褐色 鉄屑、炭褐色鉄分少量 炭化物少量

- 第11号遺跡
- 1 10YR5/1 暗灰色 褐色土山灰少量 赤褐色鉄分少量
 - 2 10YR7/1 暗灰色 褐色土山灰少量 赤褐色鉄分少量

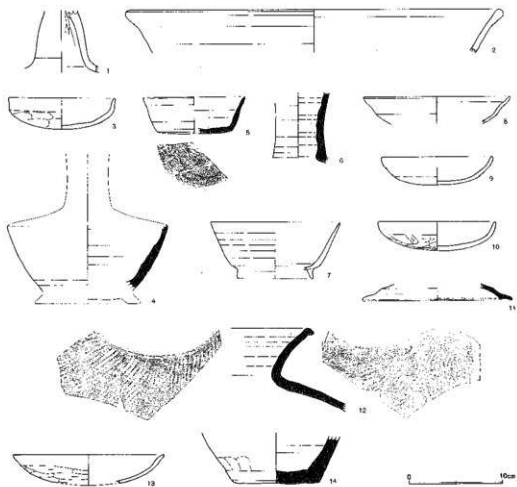
- 第9号遺跡
- 1 10YR5/3 1:10-1:40 黄褐色 褐色土山灰少量
 - 2 10YR5/3 1:10-1:40 黄褐色 褐色土山灰、炭褐色鉄分少量
 - 3 10YR4/3 1:10-1:40 黄褐色 褐色土山灰、炭褐色鉄分多量
 - 4 10YR5/2 1:10-1:40 黄褐色 褐色土山灰、炭褐色鉄分少量 砂質土
 - 5 10YR5/3 1:10-1:40 黄褐色 褐色土山灰少量 赤褐色鉄分少量
 - 6 10YR5/3 1:10-1:40 黄褐色 褐色土山灰少量 赤褐色鉄分少量
 - 7 10YR7/4 1:10-1:40 黄褐色 炭化物、褐色土山灰少量
 - 8 10YR5/3 1:10-1:40 黄褐色 褐色土山灰少量 赤褐色鉄分多量
 - 9 10YR5/1 灰白色 褐色土山灰少量 赤褐色鉄分多量
 - 10 10YR5/1 暗灰色 (10YR7/1) 色の粘土プロット少量
 - 11 10YR5/3 1:10-1:40 黄褐色 炭褐色鉄分少量 赤褐色鉄分少量
 - 12 10YR5/1 暗灰色 褐色土山灰 赤褐色鉄分少量
 - 13 5Y6/1 灰色 鉄屑、炭褐色土山灰 赤褐色鉄分少量
 - 14 10YR5/1 暗灰色 褐色土山灰、赤褐色鉄分少量
 - 15 5Y6/1 灰白色 鉄屑、炭褐色鉄分少量
 - 16 5Y5/1 灰白色 炭褐色鉄分多量 褐色土山灰少量

- 第14号遺跡
- 1 10YR4/1 暗灰色 褐色土山灰 (洗滌品)、炭褐色鉄分少量
 - 2 10YR5/1 暗灰色 3層の砂、褐色鉄分少量
 - 3 10YR5/1 暗灰色 砂層、鉄屑鉄分少量
 - 4 10YR5/1 暗灰色 鉄屑鉄分少量、3層の砂少量
 - 5 10YR5/1 暗灰色 赤褐色鉄分多量
 - 6 10YR5/1 暗灰色 灰褐色プロット少量
 - 7 10YR4/1 暗灰色 1層に3層 土山灰多量
 - 8 10YR5/1 暗灰色 7層と同一土山灰少量
 - 9 10YR4/1 暗灰色 7層と同一土山灰少量
 - 10 10YR5/1 灰赤褐色 炭褐色鉄分少量 赤褐色鉄分少量

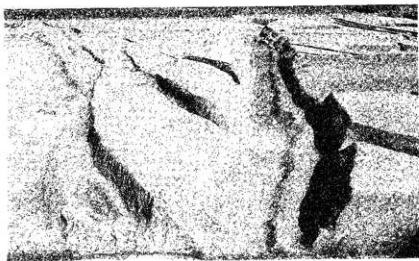
第53図 溝跡土層図(2)

溝跡出土遺物観察表 (第54-55図)

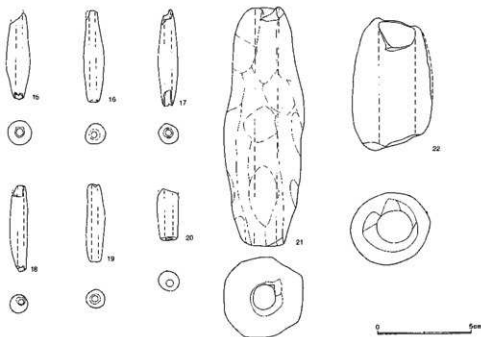
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	地色	色調	残存	出土位置・その他
1	高坏		6.1		WRBS	A	橙	40%	SD02覆土 脚部外面やや磨耗
2	鉢	(39.3)	4.6		WS	A	灰	10%	SD09覆土 常滑 混入か
3	坏	11.3	3.3		B'S	C	鈍い橙	80%	SD03覆土 内外面磨耗著しい
4	长颈壶		7.2		SB	A	灰白	10%	SD09覆土 湖西産か
5	坏	(10.9)	3.9	(7.8)	BB'W	A	灰白	40%	SD09覆土 粘土緻密 群馬産か
6	长颈壶		7.6		BW	A	灰白	80%	SD10覆土 頸部外面一部に自然釉
7	高台坏	(13.8)	6.0	(8.0)	WW'BS	H	橙	20%	SD13覆土 酸化焙焼成 内外面磨耗
8	坏	(15.6)	2.9		BB'WS	B	橙	10%	SD10覆土 内外面磨耗著しい
9	坏	(11.8)	3.0		WW'BB'S	H	橙	30%	SD13とSD14との交点付近
10	坏	12.4	3.2		W'B'S	B	橙	80%	SD13とSD14との交点付近
11	蓋	(15.8)	1.8		WW'BSR	B	淡赤橙	20%	SD13とSD14との交点付近 酸化焙焼成
12	大甕				WW'BS	B	灰		SD13とSD14との交点付近
13	坏	(16.0)	3.0		WW'BB'SR	B	橙	20%	SD13とSD14との交点付近
14	甕		5.6	9.5	WBS	A	灰	80%	SD20覆土 胴形や歪む
15	土鉢		SD20覆土		B'R		橙		残4.6cm 径1.3cm 孔0.4cm 重5.26g
16	土鉢		SD20覆土		B'R		橙		長4.9cm 径1.1cm 孔0.3cm 重4.43g
17	土鉢		SD20覆土		B'R		橙		残5.2cm 径1.1cm 孔0.4cm 重4.20g
18	土鉢		SD20覆土		B'WR		橙		長4.6cm 径0.9cm 孔0.3cm 重3.30g
19	土鉢		SD20覆土		B'WR		橙	100%	長4.1cm 径1.0cm 孔0.3cm 重3.60g
20	土鉢		SD20覆土		B'W		橙		残2.7cm 径1.2cm 孔0.4cm 重3.18g
21	土鉢		SD10覆土		BRW		淡黄	100%	長12.6cm 径4.2cm 孔1.2cm 重204.66g
22	燵形甕		出土溝不明		BB'WR		鈍い橙		長7.0cm 径4.3cm 孔1.9cm 重87.22g



第54回 溝跡出土遺物(1)



第9号溝跡



第55図 溝跡出土遺物(2)

(6) 神社跡 (第56・57図)

うー3ー7グリッドを中心に位置し、周辺の全ての住居跡、溝跡より新しい。調査直前まで稻荷神社の小さな祠があった。遺構は社域を区画する逆台形の溝跡と参道の側溝が検出されている。

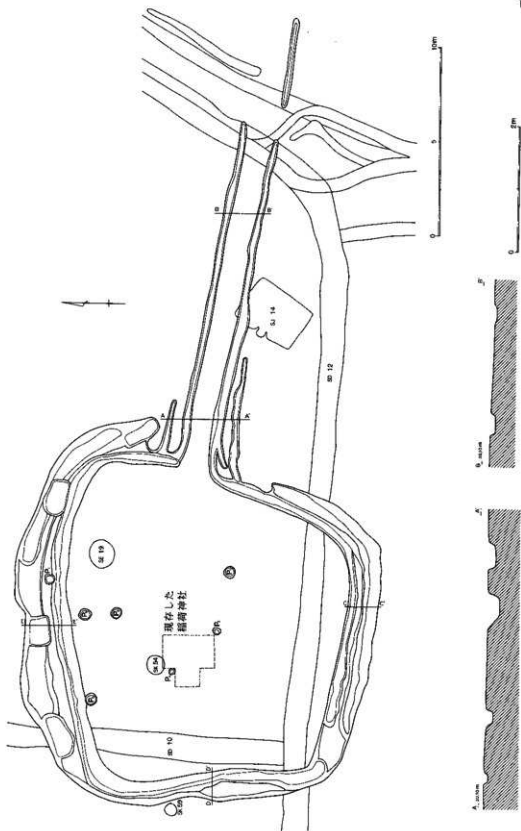
区画溝の規模は東溝13.5m、西溝10.5m、北溝16.0m、南溝11.5mである。幅は3.27~1.11mで、深さ0.25~0.54mとなっている。土層の観察によると区画溝は部分的に掘り返しが行われたようで、その回数は2回から4回程度と思われる。北溝には土塊状の落ち込みが4か所見られる。

参道の側溝は、区画溝の東溝中央より続いて直線的に18.7m延び、やや途切れた後、南側の溝跡だけが検出されている。区画溝からの距離は24.3mとなる。主軸方位(参道方位)はS-79°-Eを指す。幅は0.32~0.55m、深さは0.04~0.22mで、東に行くにしたがって細く、浅くなる傾向にある。区画溝付近では側溝の外側に1条ずつの溝跡が検出されているが、北側の溝跡は約3m、南側の溝跡は約6.5mで消えてしまう。

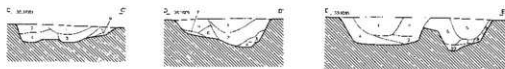
検出された参道側溝は真東より南に振れているが、調査前まで存在していた稻荷神社は真東を向いて建っていた。但し、この祠がいつの時期のものかは不明である。

遺物は、ほとんどが近世以降の陶磁器類や瓦で、特に瓦片は大量に出土している。瓦には丸瓦・平瓦系と棧瓦系が見られる。軒平瓦には「増常」の押印のあるものが2片(第59図-16・17)出土している。また、軒平瓦に似ているが、「谷」の部分がなく偏平な瓦(第59図-20・21)の破片が見られる。

第58図-8は瓦塔屋蓋部の破片である。色調は黄灰色、焼成は生焼けの須恵質、胎土は若干の微



第56図 神社跡



- ▲C-C
- 1 7.5YR7/1 明褐色 瓦面A・粘土成分少量
 - 2 7.5YR7/1 明褐色 瓦面A・粘土成分少量
 - 3 7.5YR6/1 暗褐色 瓦面A・粘土成分少量
 - 4 7.5YR6/1 暗褐色 瓦面A・粘土成分少量
 - 5 7.5YR6/2 暗褐色 瓦面A・粘土成分少量
 - 6 7.5YR6/4 暗褐色 瓦面A・粘土成分少量
- D-D'
- 1 7.5YR7/1 明褐色 瓦面A・粘土成分少量
 - 2 7.5YR7/1 明褐色 瓦面A・粘土成分少量
 - 3 7.5YR6/1 暗褐色 瓦面A・粘土成分少量
 - 4 7.5YR6/1 暗褐色 瓦面A・粘土成分少量
 - 5 7.5YR6/1 暗褐色 瓦面A・粘土成分少量
 - 6 7.5YR7/1 明褐色 瓦面A・粘土成分少量
 - 7 7.5YR6/2 暗褐色 瓦面A・粘土成分少量
- E-E'
- 1 7.5YR7/1 明褐色 瓦面A・粘土成分少量
 - 2 7.5YR5/1 暗褐色 瓦面A・粘土成分少量
 - 3 7.5YR5/2 暗褐色 瓦面A・粘土成分少量
 - 4 7.5YR7/1 明褐色 瓦面A・粘土成分少量
 - 5 7.5YR6/1 暗褐色 瓦面A・粘土成分少量
 - 6 7.5YR7/2 暗褐色 瓦面A・粘土成分少量
 - 7 7.5YR5/1 暗褐色 瓦面A・粘土成分少量
 - 8 7.5YR5/2 暗褐色 瓦面A・粘土成分少量
 - 9 7.5YR3/1 暗褐色 瓦面A・粘土成分少量
 - 10 7.5YR6/2 暗褐色 瓦面A・粘土成分少量

第57図 神社跡土層図

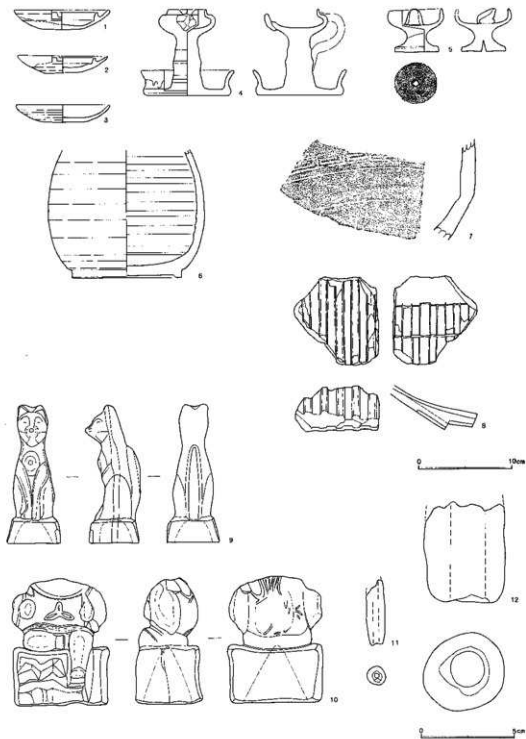
細粒を含む。瓦の方向に対して斜めに割れている部分があることから推して、屋根の隣近くの破片であろう。屋根の表は断面カマボコ状の丸瓦が、竹管状の工具で削りだされている。丸瓦の列は密接するのではなく、約1cmの間隔を明けて配されており、この間が平瓦面に相当する。ただし、丸・平瓦とも継ぎ目の表現はされない。軒装は二軒がヘラ状工具によって切り出される。丸瓦列と垂木は正確に対応する位置に作り出されており、かなり丁寧な造作である。なお軒装は地垂木までの屋根本体の厚さ約0.7～1cmの粘土板に、厚さ1.0～1.5cmほどの別の粘土板を貼り付けて成形している。そのため軒先での厚みに比べて、屋根上方の部分はかなり薄い。表現の方法や形態などから8世紀代のものと考えられる(註)。

9は土人形の狐(お稲荷様)、10は大黒天であろう。12は土鍾と思われるが、極めて大きい。図示できなかったが区画溝南東コーナー付近から鉄銭が12枚出土している。錆が激しくX線を透しても銭貨名は判明しなかった。

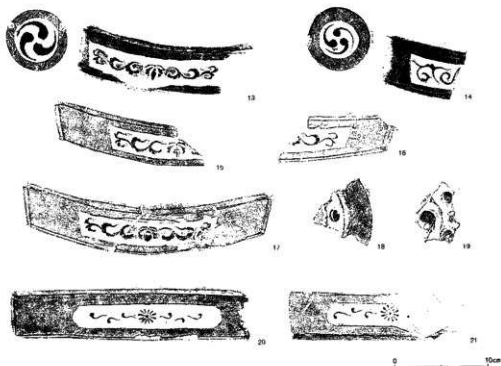
(註) 高崎光司氏より御教示

神社跡出土遺物観覧表(第58図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	地色	色調	残存	出土位置・その他
1	灯明皿	10.1	2.1	4.2	BW	A	灰+赤	80%	外面鉄軸 外面底部重ね焼痕
2	灯明皿	9.4	2.0	3.8	BW	A	灰黄	100%	内面-外面上半鉄軸 外面底部重ね焼痕
3	灯明皿	9.7	1.9	4.8	BW	A	黄い黄	70%	底部の一部を除いて鉄軸
4	受皿	(4.0)	9.2	(8.7)	BW	A	赤褐	60%	受皿外面以外鉄軸 底部未切り離し
5	灯台	5.6	4.6	4.7	W	A	鈍い橙	90%	受け皿部鉄軸 底部未切り離し
6	壺		13.6	11.6	S	A	灰白	60%	内外面鉄軸 18世紀か
7	火鉢か				BRW	A	暗灰黄		
8	瓦塔				WSB	A	淡黄		
9	稲荷				BW'	B	鈍い橙	100%	高7.4cm 型合わせ 台部内割り
10	大黒か				BRW'	B	鈍い橙	100%	残6.7cm 型合わせ 台部内割り
11	土鍾				BWW'		黄い黄		残3.5cm 径1.0cm 孔0.3cm 重3.28g
12	土鍾				BSW'		黄い黄		残5.4cm 径4.3cm 孔1.9cm 重80.14g



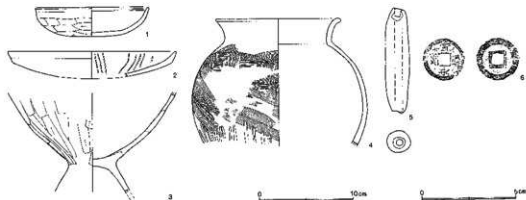
第58図 神社跡出土遺物(1)



第59図 神社跡出土遺物(2)

(7) グリッド及び表採遺物 (第60図)

1・2は表採、3・4は第1調査時に遺跡北東地域から出土したものである。5はえ-3-10グリッド、6はう-3-11グリッドの出土である。6の寛永通寶は出土グリッドから神社跡に帰属する可能性が高い。



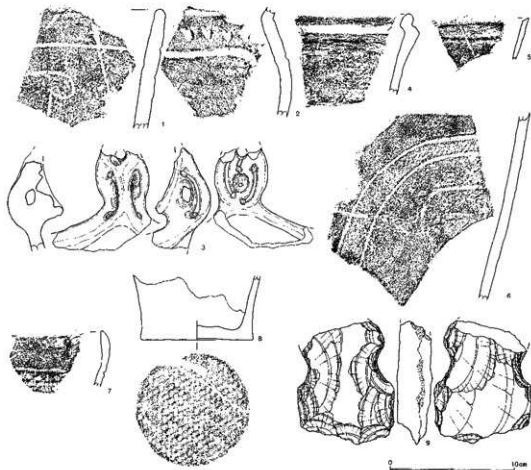
第60図 グリッド出土及び表採遺物

グリッド出土及び表探遺物観察表 (第60図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	(12.1)	3.2		WBH'R	A	淡橙	40%	表探 胎土緻密
2	坏	(18.0)	2.9		WW'BBRS	B	明赤褐	30%	表探 放射状暗文 内外面磨耗
3	台付甕		10.7		RWBBS'S	B	橙	40%	か-4-23G付近 外面被熱
4	甕	(13.0)	13.6		WB'RS	B	黄い黄橙	30%	か-4-23G付近 外面被熱による表面劣化
5	土錘		え-3-16G		BWR		鈍い橙	100%	長5.6cm 径1.3cm 孔0.4cm 重8.49g

(8) 縄文時代の遺物 (第61図)

縄文時代の遺物は土器片が19片、打製石斧が1本出土している。时期的には称名寺式、魁之内Ⅰ～Ⅱ式・加曾利B式等が見られる。1はえ-4-13グリッド周辺、2・9はえ-3-14グリッド、3は第36号土壌覆土、6・8はお-2-18グリッド周辺、7はお-3-7グリッド出土で、4・5は出土地点が不明である。



第61図 縄文土器及び石器

前遺跡井戸跡新旧対照表

新	旧	新	旧	新	旧	新	旧
1	1	9	8	17	7	25	19
2	2	10	13	18	14	26	20
3	3	11	9	19	28	27	21
4	5	12	34	20	16	28	23
5	6	13	27	21	15	29	22
6	10	14	30	22	17	30	33
7	4	15	25	23	18	31	26
8	12	16	11	24	24		

前遺跡土壌新旧対照表

新	旧	新	旧	新	旧	新	旧
1	18	16	17	31	14	46	53
2	13	17	32	32	16	47	46
3	10	18	1	33	15	48	41
4	9	19	27	34	59	49	3
5	2	20	54	35	4	50	57
6	33	21	45	36	5	51	55
7	29	22	60	37	7	52	39
8	19	23	44	38	8	53	49
9	12	24	47	39	6	54	58
10	42	25	51	40	26	55	37
11	20	26	43	41	25	56	22
12	30	27	34	42	36	57	35
13	31	28	56	43	50	58	21
14	40	29	24	44	38	59	48
15	28	30	23	45	52	60	11

前遺跡井戸跡一覧表

No	グリッド	平面形	最大径(m)	深さ(m)	備 考
1	え-4-7	円形	2.99	1.97	土師質土器
2	え-4-7	◇	2.39	1.06	
3	え-4-6	◇	1.19	1.04	S E 2 に隣接
4	う-3-25	◇	1.28	1.03	S D 11、15より新
5	う-3-24	◇	1.82	1.14	S D 11より新 土師質土器2片
6	う-3-24	◇	1.14	0.77	S J 11、S K 33より新
7	う-4-22	◇	(2.30)	1.56	S K 9より古
8	う-3-19	◇	1.13	1.61	
9	う-3-25	◇	1.08	0.93	S D 15より新 土師質土器2片
10	え-3-3	◇	1.35	1.12	S D 8より新
11	え-3-7	◇	0.97	1.01	
12	え-3-7	◇	0.86	0.59	S D 28より新
13	う-3-21	◇	1.70	1.88	
14	い-3-24	◇	1.52	1.69	
15	い-2-15	(楕)円形	1.91	1.95	
16	う-3-23	円形	0.94	0.80	S D 11より新
17	う-3-18	◇	0.90	0.82	
18	う-3-10	◇	0.95	0.96	
19	う-3-11	◇	1.48	1.70	南側中位に段
20	う-3-9	◇	2.85	1.58	
21	う-3-9	◇	2.17	2.20	
22	い-3-25	◇	1.34	1.15	
23	い-3-25	◇	(1.20)	0.70	S D 20より新
24	い-3-11	◇	1.01	1.07	S D 13より新
25	い-3-24	◇	2.94	1.66	
26	い-3-24	◇	2.65	1.74	
27	い-3-19	◇	2.90	1.98	S D 13より新
28	い-3-15	◇	1.64	1.35	S D 13より新
29	い-3-15	◇	1.03	1.18	
30	い-3-14	◇	1.15	1.20	S D 13より新
31	い-3-13	◇	0.75	0.92	S D 13より新

前遺跡土壌一覧表

No	グリッド	長軸方向	平面形	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	備 考
1	う-4-21	N-83°-E	ややゆがんだ長方形	3.40	1.60	0.63	中世嘉城 土師質土器
2	う-4-21	N-89°-E	長方形	4.91	1.52	0.49	中世嘉城 S D 11、16より新
3	え-4-1	N-3°-E	◇	3.11	1.70	0.32	中世嘉城 S D 11より
4	え-4-1	N-3°-E	◇	—	1.46	0.19	中世嘉城 S K 3より古
5	え-4-3	N-0°-E	長方形と思われる	(2.87)	2.05	0.64	中世嘉城 磁石1 青磁片1 灰釉片1 土師質土器
6	う-4-11	N-7°-E	長方形	3.42	1.38	0.49	中世嘉城
7	う-4-17	N-85°-E	長方形と思われる	(2.42)	1.73	0.35	中世嘉城
8	う-4-22	N-3°-W	長方形	2.80	1.38	0.65	中世嘉城 南西部に張り出し
9	う-4-22	N-0°	◇	2.59	1.79	0.72	土師質土器 中世嘉城 S E 7より新 土師質土器・須恵器
10	う-4-22	N-89°-E	不正長方形	2.44	1.17	0.24	中世嘉城
11	う-4-17	N-2°-W	長方形	1.48	1.12	0.37	中世嘉城 土師質土器
12	う-4-12	N-3°-W	◇	(1.91)	0.90	0.32	中世嘉城 S D 16より新 S K 13、14より古 S K 14
13	う-4-12	N-84°-W	◇	1.57	0.77	0.41	中世嘉城 S J 13、S D 16、S K 12より古
14	う-4-17	N-88°-W	◇	1.75	1.06	0.57	中世嘉城 S J 13、S D 16、S K 12、15より新 土師質土器4片

No	グリッド	長軸方向	平面形	長さ(m)	幅(m)	高さ(m)	備 考
15	う-4-17	N-8°-W	◇	2.61	1.28	0.64	中世墓壇 S J 13、S D 16より新 S K 14より古
16	う-3-25	N-25°-W	◇	2.64	1.18	0.52	中世墓壇 S J 11より
17	う-4-12	N-3°-W	◇	2.93	0.89	0.21	中世墓壇
18	え-4-3	N-89°-E	◇	1.90	1.10	0.43	中世墓壇
19	う-4-16	N-10°-E	◇	1.95	0.94	0.34	中世墓壇
20	う-3-10	N-12°-E	長方形か	0.98	0.39	0.11	
21	え-3-2	N-11°-E	楕円形	1.17	0.50	0.17	
22	い-3-10	N-3°-E	長方形	1.23	0.49	0.15	
23	え-3-1	N-80°-W	◇	1.03	0.48	0.08	
24	う-3-9	N-78°-E	不正長方形	0.97	0.53	0.70	
25	い-2-23	N-81°-W	長方形	1.25	0.84	0.17	京鋼1/3に段
26	え-2-8	N-9°-W	(隅丸)長方形	1.34	0.74	0.07	土師質土器3片
27	う-4-27	N-77°-W	長楕円形	2.21	0.55	0.15	中世墓壇か 土師質土器・ 須恵器1片
28	え-3-15		不 明	1.06	(0.56)	0.41	縄文土塚か
29	う-3-19	N-4°-W	長方形	2.35	1.22	0.60	中世墓壇 S K 30より新 土師質土器少量
30	う-3-20	N-3°-E	◇	3.48	1.05	0.49	中世墓壇 S K 29より古 土師質土器少量
31	う-3-24	N-3°-E	(隅丸)長方形	1.60	0.76	0.28	S D 35より新
32	う-3-24	N-4°-W	(長方形)	1.22	0.45	0.05	S J 11より新
33	う-3-24	N-4°-W	長方形	2.02	0.97	0.29	中世墓壇 S J 11、S D 11、S E 6より新
34	か-4-1		長方形か			0.13	
35	え-4-1	N-3°-W	ややゆがんだ長方形	2.15	1.85	0.44	中世墓壇 S D 16、29、30より新 土師質土器少量
36	え-4-1	N-3°-W	長方形	2.42	0.98	0.30	中世墓壇 S D 30、S K 38より新 S K 37より古 土師質土器少量
37	え-3-5	N-82°-W	◇	2.25	0.95	0.66	中世墓壇
38	え-3-5	N-4°-W	◇	(1.54)	0.95	0.18	中世墓壇 S K 36、37より古 土師質土器2片
39			円 形	0.95	0.91	0.76	須恵器小片1 S D 30より新 土師質土器2
40	う-3-20	N-96°-W	長方形	2.01	0.84	0.41	中世墓壇
41	う-3-20	N-4°-E	◇	2.88	1.83	0.49	中世墓壇 土師質土器小片3片
42	う-3-15	N-11°-E	不正方形	1.31	0.93	0.15	須恵長須恵頭部 土鐘1
43	う-3-4		円形か	(0.62)	(0.40)	0.32	S D 12より古
44	う-3-14	N-5°-E	方 形	1.73	1.67	0.36	中世墓壇か
45	い-2-25		円 形	1.09	1.01	0.67	
46	う-2-5		◇	0.75	0.58	0.85	S D 12より新 土師質土器少量
47	う-3-23		◇	(0.82)	0.80	0.62	S D 10より新
48	う-4-7	N-4°-E	楕円形	1.14	0.78	0.48	
49	え-4-7		円 形	0.94	0.88	0.32	
50	お-4-4	N-82°-E	長方形	0.80	0.48	0.18	
51	え-2-7	N-71°-E	円 形	0.81	0.71	0.24	
52	う-4-22		◇	0.77	0.73	0.18	
53	う-4-1		◇	0.89	0.84	0.15	
54	う-3-7		◇	1.02	0.99	0.11	
55	う-4-6	N-85°-E	楕円形	1.24	1.00	0.13	
56	う-4-16		円 形	0.64	0.59	0.25	
57	う-4-11		◇	0.61	0.58	0.18	
58	う-4-21		◇	0.58	0.52	0.18	
59	う-3-8		◇	0.69	0.67	0.23	
60	え-3-5	N-89°-W	楕円形	0.83	0.42	0.13	S D 15より新

IV 居立遺跡の調査

1 遺跡の概要

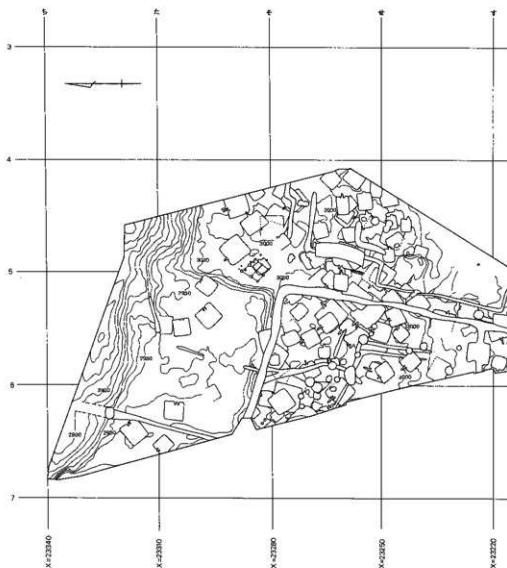
居立遺跡は、妻沼低地内の自然堤防上に立地する。前述の前遺跡が中小の河川による小規模な自然堤防上に立地しているのとは異なり、居立遺跡が乗る自然堤防は後述する埋没河川の流行に起因するものと考えられる。その規模は現在の上増田の集落の範囲と見られる。遺跡は昭和56年から57年に行われた福川の河川改修によって南北に分断されている。遺跡の南側は河川改修前の福川が流れ、その対岸に前遺跡が存在する。北及び東側は、埋没河川によって画されており、北側の対岸には城北遺跡がある。この埋没河川は「ウツギ内・砂田・柳町」（5ページ参照）において「城北川」と仮称されている。城北川は居立遺跡の東側で福川と合流するが、その河道の周辺には古墳時代後期の集落を中心とする居立・城北・柳町の各遺跡が連続している点に注目される。居立遺跡では古墳時代後期の集落が中心ではあるが、10世紀代の羽釜を持つ住居跡まで検出されているのが他の2遺跡と異なる点である。

遺跡の標高は29.0～30.3mで、北側と南側の河川跡付近は低くなっており、調査区の中央部が最も高くなっている。遺構確認面は、深いところでは現地表から1.5m程あり、住居跡のカマドの煙道部が残存するなど、遺構・遺物共に遺存状態の良いものが多く見られた。検出された遺構は住居跡118軒、掘立柱建物跡1棟、井戸跡35基、土壇14基、溝跡16条、周溝状遺構2基である。住居跡は調査区中央付近に検出された住居跡の7割以上が集中し、数軒から十数軒が重複し合い、東西に帯状に広がる様子が窺える。そして、北又は南に向かうに従ってやや散漫になる傾向が見え、河道手前で住居跡は見られなくなる。住居跡からは土師器・須恵器をはじめ大量の遺物が出土している。古墳時代後期の住居跡が中心だが、奈良・平安時代の住居も検出されている。第87号住居跡からは鉄製の銚が出土している。明瞭に銚として判断できるものとしては県内初見ではないだろうか。また、4軒の住居跡からは所謂比企型坏の極小片が数片出土している。

掘立柱建物跡は出土遺物に乏しく、時期等を考える上での判断材料に欠ける。井戸跡の多くは標高の高い一帯に分布し、規模は様々なものが見られる。一部の井戸跡は崩落の危険があるため底面まで検出できなかった。多くの井戸跡で遺物が出土しているが、他の遺構との重複が激しいことを考え合わせると時期的な決め手になる遺物は数少ない。

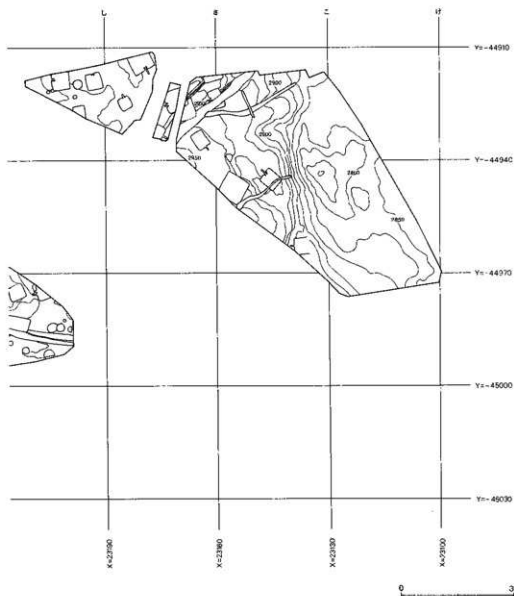
一部の土壇や溝跡からは、少量の中世遺物と共に近世の陶磁器類や焙烙などが大量に出土している。第7号溝跡は、館跡又は集落を区画する溝跡と考えられ、調査区内で直角に曲がり、途中で第9号溝跡と直交する。第9号溝跡は検出された距離は短い、第13号土壇と重複する。第7号溝跡や第13号土壇からは大量の陶磁器類や焙烙類が出土しており、概ね17世紀の後半に納まるものと考えられる。また、第7号溝跡と平行或いは直行方向の数条の溝跡が検出されており、これらの溝跡は第7号溝跡と有機的に機能していたと考えられる。

居立遺跡の西約450mの上増田の集落の西端に増田四郎重富の館跡がある。新編武蔵風土記稿（以下新記と略す）によると重富は15世紀代の人で、この地から比企郡高見村に移り、1487年に没

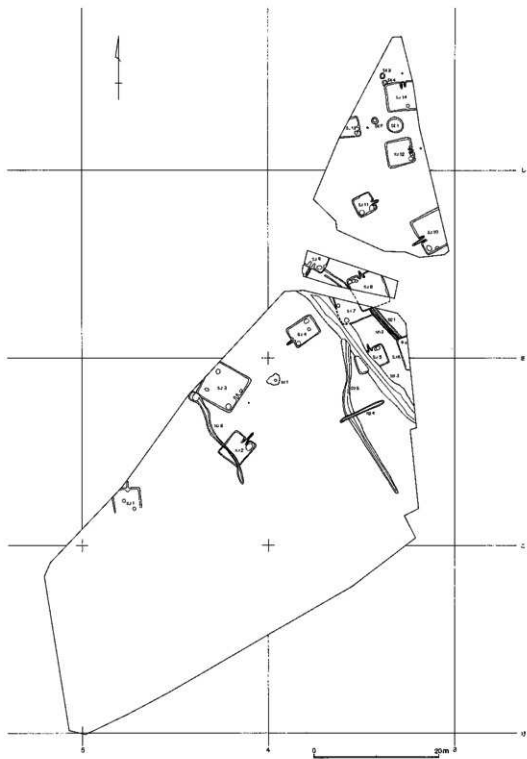


第62図 居立遺跡全体図

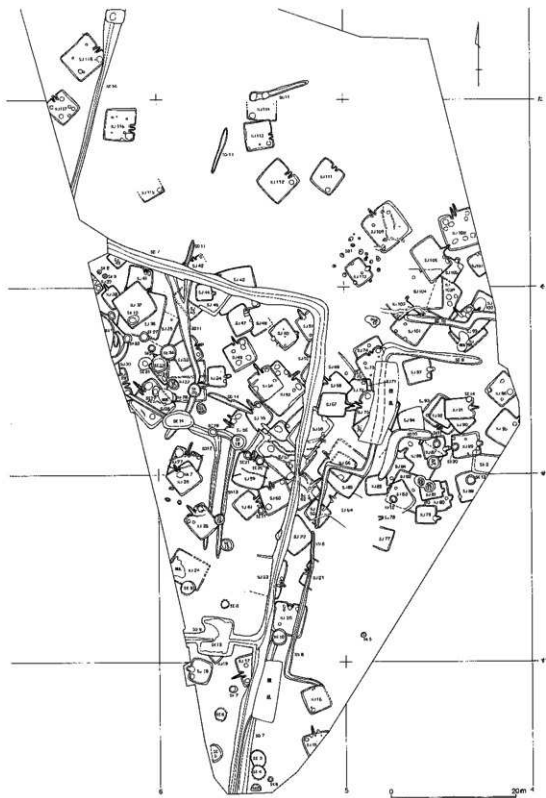
したとされている。現在館跡はほとんどその姿を留めていないが、昭和40年代までは土塁や堀の一部が残存していたということである。幡羅郡上増田村の項では館跡（古城跡となっている）は村の東であると記載されており、現在の上増田の集落とは位置関係が反対である。深谷市教育委員会の調査では、新記が編纂された19世紀前半頃、上増田の集落は現在より西にあり、館跡の西方に広がっていたことが判明している。新記の同じ項には「永樂寺」の名が見える。これによると永樂寺は寛永19年（1642）の起立とされている。現在永樂寺は寺院としての姿は見られないが、墓地として



痕跡を留めており、深谷市教育委員会の調査で五輪塔（空風輪）や板碑が確認されている。その位置は居立遺跡の西北西約150mの所で、第7号溝跡の東西流を西に延長した線上にあたる。新記の記載から永楽寺が建立された時期と居立遺跡から出土した陶磁器類の時期が同じ17世紀となることは興味深い。また、新記によると上増田には小名として「堀内」の名が見える。この「堀」は増田四郎重富館の堀とも考えられるが、発掘調査によって検出された溝跡（第7・9号溝跡等）の可能性もあり、近世の集落を考える上で注目される。

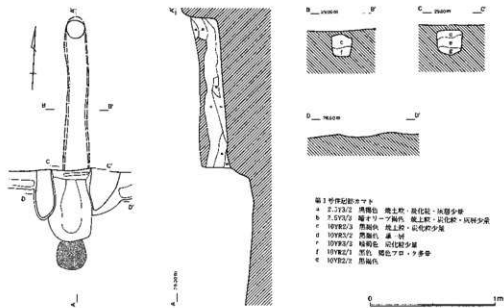
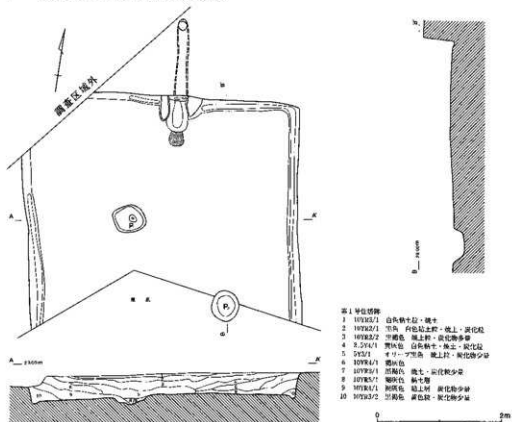


第63図 遺構配図(1)



第64圖 遺構配置圖(2)

2 検出された遺構と遺物



第65図 第1号住居跡

(1) 住居跡

第1号住居跡 (第65図)

こ-4-9グリッドを中心に位置する。北西コーナーは調査区域外にあり、南側は攪乱によって大きく壊される。規模は東西4.42m、南北は東壁で現存3.50mを測り、方形となると思われる。深さは0.32-0.40mである。主軸方位はN-5°-Wを指す。

床面は中央付近がやや高くなっており、壁は垂直に立ち上がる。覆土は細かく10層に分かれ、概ね自然堆積と推定される。

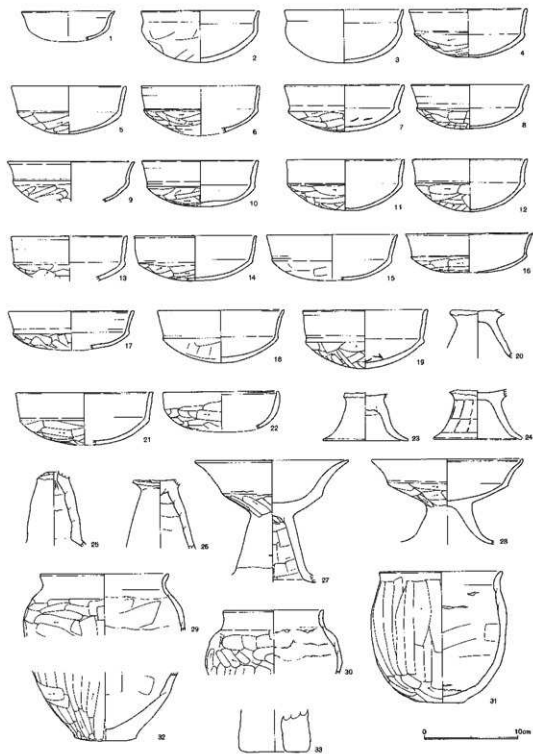
カマドは北壁中央より僅かに東側に設置される。両袖は僅かに痕跡を残す程度にしか残っていなかった。燃焼部の掘り込みはほとんど見られず、この部分の覆土の状態は不明である。煙道は天井部が残存しており、地山を例り抜いて造られている。長さ1.23mで僅かに湾曲し、煙出しは垂直に立ち上がる。

ピットは2本検出されたが何れも柱穴とするには根拠に乏しい。壁溝は北西コーナー付近を除いて全周するようである。幅14-24cm、深さ3-5cmを測る。

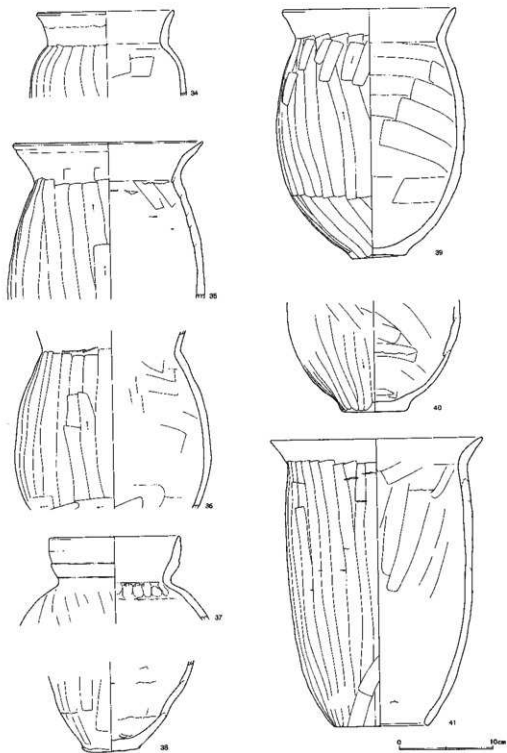
出土遺物は全て覆土からの出土で、土師器の坏・高坏・甕・飯等が認められるが、破片が多く接合率は極めて悪い。

第1号住居跡出土遺物観察表 (第66-68図)

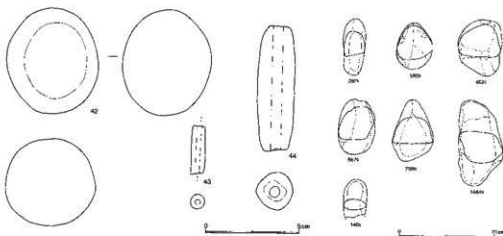
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	施色	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	(10.0)	3.1		WBR	B	橙	10%	覆土 内外面とも磨耗著しい
2	坏	(12.6)	5.5		WBBR	B	橙	30%	覆土 内の色調灰褐
3	坏	(12.7)	5.7		WWBBR	B	橙	40%	覆土
4	坏	12.6	5.1		WWBR	B	鈍い橙	90%	覆土
5	坏	12.2	5.1		WBS	B	橙	40%	覆土
6	坏	(12.6)	5.0		WWBB'	B	橙	40%	覆土
7	坏	12.6	5.0		WWBR	B	橙	100%	覆土
8	坏	12.5	4.7		WWBBR	B	橙	80%	覆土 胎土全体きめ細かくしまっている
9	坏	(13.6)	4.3		WWBBR	B	橙	20%	覆土 内面磨耗著しい
10	坏	12.4	4.9		WWBR	B	橙	95%	覆土
11	坏	(12.6)	5.4		WWR	B	橙	40%	覆土
12	坏	12.3	5.6		WWBBRS	B	橙	100%	覆土 胎土砂多い
13	坏	12.2	4.8		WWB	B	橙	50%	覆土 胎土きめ細かい
14	坏	(12.8)	4.7		WWBB'S	B	灰赤	40%	覆土
15	坏	(14.0)	4.8		WBBRS	B	橙	25%	覆土
16	坏	13.6	4.2		WWBBR	B	橙	20%	覆土
17	坏	(13.4)	4.0		WWB'S	A	黒	20%	覆土 内の色調褐灰
18	坏	13.4	5.6		WWBR	B	橙	40%	覆土 内外面共に磨耗著しい
19	坏	13.2	6.3		WWBBR	B	淡橙	85%	覆土
20	高坏		5.3		WWBBRS	B	橙	90%	覆土 磨耗のため調整不明瞭
21	坏	(14.8)	5.6		WWBBR	B	鈍い橙	20%	覆土 胎土きめ細かい
22	坏	12.3	4.3		WWBR	B	鈍い橙	25%	覆土
23	高坏		5.1	9.1	WWBBR	A	橙	90%	覆土 胎土きめ細かく緻密
24	高坏		5.4	9.2	WWBBRS	B	橙	100%	覆土 胎土きめ細かい
25	高坏		7.9		WWBBRS	B	橙	100%	覆土 胎土全体に粒子細かいが砂多い



第66图 第1号住居跡出土遺物(1)



第67図 第1号住居跡出土遺物(2)



第68図 第1号住居跡出土遺物(3)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
26	高坏		7.2		WW'BB'R	B	淡橙	80%	覆土
27	高坏	16.4	13.0		WW'BB'RS	B	鈍い橙	80%	覆土 胎土きめは細かいが少しザラつく
28	高坏	16.0	9.1		WW'BB'R	B	橙	50%	覆土
29	鉢	(13.6)	6.6		WW'BB'R	B	橙	20%	覆土 胎土きめ細かい
30	鉢	(10.5)	6.8		WW'BB'R	B	橙	20%	覆土
31	甕	12.9	14.1	5.1	SBWR	B	橙	90%	覆土
32	甕		7.3	6.6	BB'RS	B	鈍い橙	80%	覆土 胎土きめ細かいが少しザラつく
33	支脚	覆土			WW'BB'RS	B	位	30%	下径径7.0cm 残高4.5cm
34	甕	14.5	9.1		SBWB'R	B	明赤灰	80%	覆土 胎土に小石を多く含む
35	甕	(19.8)	16.8		SWB'W'	B	橙	80%	覆土
36	甕		22.6		WW'RS	B	明褐灰	30%	覆土 内の色調にぶい橙
37	甕	13.7	9.3		RWW'B'	B	橙	70%	覆土 胎土きめ細かい
38	甕		9.6	6.2	WW'BB'RS	A	灰白	60%	覆土 胎土はきめ細かい 底の色調黒
39	甕	18.3	26.7	5.8	SWW'BB'R	B	橙	80%	覆土 下半被熱
40	甕		11.8	6.8	WW'S	B	橙	60%	覆土 指押圧でなでつけ調整
41	甕	(22.6)	30.5	(10.0)	SRWB'	B	橙	40%	覆土 内の色調灰白
42	磨石か	覆土		長さ5.6cm 幅4.8cm 厚さ4.6cm 重量165g					砂岩製
43	管玉	覆土		全長26.0cm 幅8.0mm 重量2.85g					滑石製 両側穿孔
44	土罐	覆土			SBWB'W'		灰白	100%	長6.7cm 径2.0cm 孔0.6cm 重27.31g

第2号住居跡 (第69・70図)

こー4-11グリッドを中心に位置する。第6号溝跡と重複し、本住居跡の方が古い。形態は南北に僅かに長い長方形で、規模は長軸4.54m、短軸4.02m、深さ0.24~0.38mである。主軸方位はN-42°-Eを指す。

床面はやや起伏があり、壁は垂直に立ち上がる。覆土は8層に分けられ、全体に炭化物を含んでいる。概ね自然堆積と思われる。

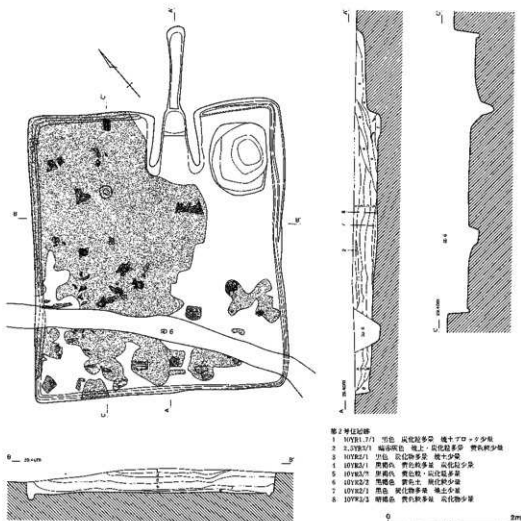
カマドは北東側の壁中央よりやや南寄りに設置される。燃焼部は床面を4cmほど掘り込み、急激に立ち上がって煙道へ続く。煙道は約1.3mと長く延びる。覆土の間には焼土粒子や焼上ブロッ

ク・炭化粒子を多く含む層が見られる。

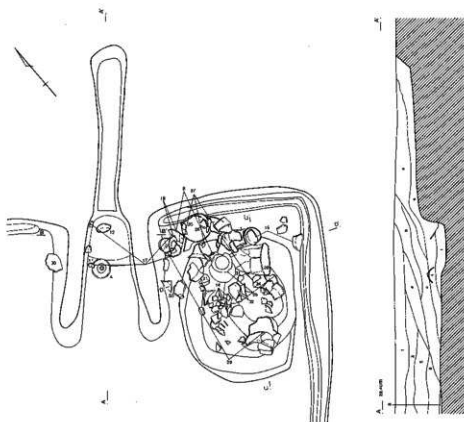
貯蔵穴は東コーナーに位置し、116cm×94cmの楕円形で、深さは82cmを測る。ピットは1本検出されている。柱穴の可能性も考えられるが、他の柱穴が確認できないため明確でない。壁溝はカマド両脇から全周する。幅6～14cm、深さ約9cmで、東コーナー付近では壁よりやや内側を巡っていた。

カマド前面から西半の床面には炭化物と炭化材が広く散布しており、炭化物は床に敷いた敷物の可能性も考えられる。

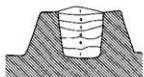
出上遺物は、カマドから貯蔵穴にかけて集中的に検出されている。カマド内は燃焼部からの出土が多く見られ、貯蔵穴内では底面より浮いた状態で出土している。出土土器は全て土師器で、坏・高坏・甕・瓶等が認められる。



第69図 第2号住居跡



B 23.40m



F

第2号住居跡カマド

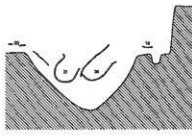
- a 10YR2/1 黒褐色 黄化粧
- b 10YR4/4 黒色 黄化粧多量
- c 10YR2/7 黒褐色 黄化粧・焼土・炭化粒多量
- d 10YR2/7 黒褐色 焼土粒・焼上アロ・ク多量
- e 5Y6/1 黒色 焼土・炭化粒多量
- f 10YR4/3 紅褐色 黄化粧・燻

C 20.10m



C

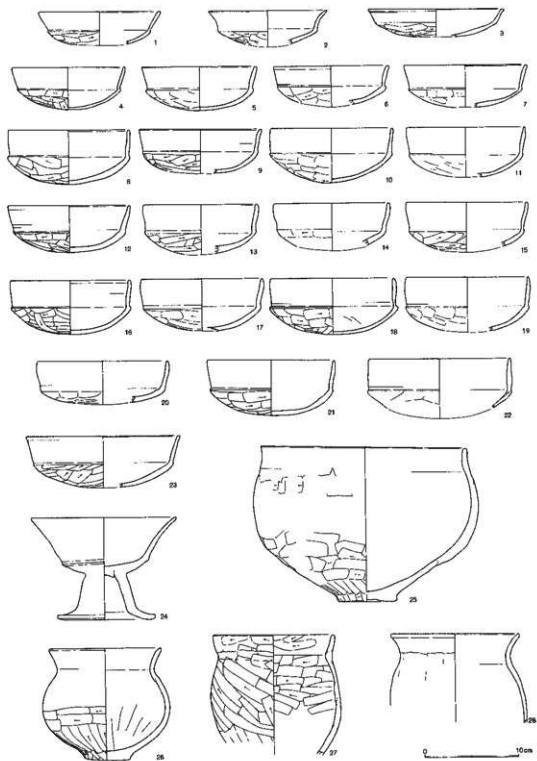
D 23.40m



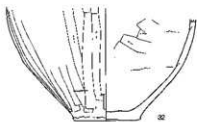
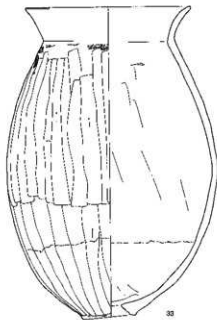
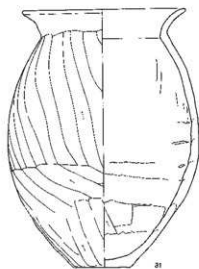
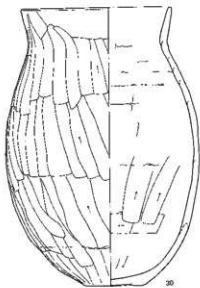
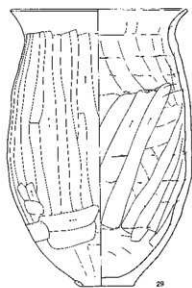
D

0 1m

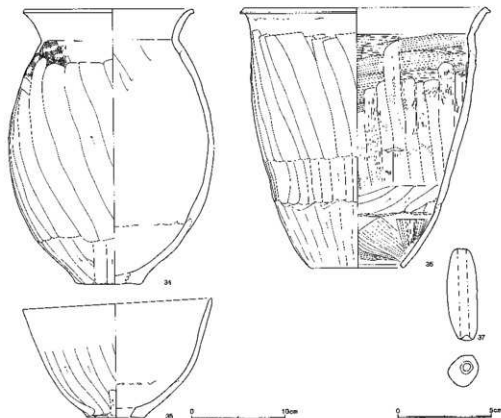
第70図 第2号住居跡カマド・貯蔵穴



第71圖 第2号住居跡出土遺物1)



第72図 第2号住居跡出土遺物(2)



第73図 第2号住居跡出土遺物(3)

第2号住居跡出土遺物観察表 (第71~73図)

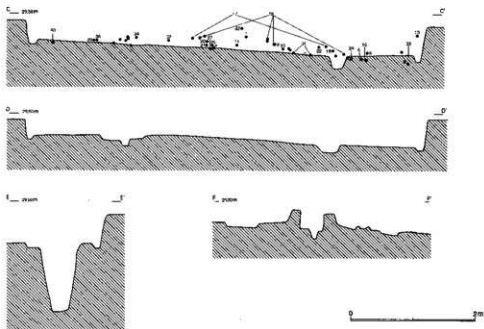
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	(12.8)	3.5		WW'BS	B	鈍い褐	30%	覆土 器面の荒れが著しい為調整不明瞭
2	坏	(12.6)	3.8		WW'BB'S	B	橙	20%	覆土
3	坏	(14.4)	3.0		WW'HS	B	鈍い橙	20%	覆土 内面二次被熱のため剥落著しい
4	坏	12.0	4.5		WW'BB'R	B	橙	50%	覆土
5	坏	(12.1)	4.7		WBB'R	B	淡橙	60%	覆土 器面磨耗著しい
6	坏	(12.3)	4.1		WBB'R	B	鈍い橙	50%	覆土 器面荒れていて調整痕不明瞭
7	坏	(13.0)	4.5		WW'BB'RS	B	淡橙	25%	覆土
8	坏	12.8	5.8		WW'BR	B	橙	70%	No8,23 貯穴周辺 胎土の粒子細かい
9	坏	(13.0)	4.7		WW'BR	B	橙	40%	覆土 胎土大粒
10	坏	13.0	5.8		WW'BB'	B	橙	75%	No7 貯穴周辺 胎土緻密
11	坏	(12.5)	5.3		WW'BB'R	B	橙	20%	No5 カマド(+8.6cm) 器面磨耗
12	坏	13.1	5.0		WW'BR	B	橙	50%	No2 カマド(+4.0cm) 胎土きめ細かい
13	坏	(12.4)	5.0		WW'BB'RS	B	橙	25%	カマド 内面器面荒れる
14	坏	(12.2)	4.6		W'BR'S	B	橙	20%	No46 貯穴 覆土
15	坏	(12.7)	5.0		WW'HR'S	B	橙	25%	覆土 器面磨耗の為調整不明瞭
16	坏	12.7	5.8		WW'BR	B	橙	95%	No27,31 貯穴 胎土の粒子細かい
17	坏	(12.9)	5.6		WW'BB'R	B	橙	40%	No3,5他 貯穴周辺床面カマド
18	坏	(13.2)	6.0		WW'BB'R	B	明赤褐	50%	No8,10 貯穴周辺
19	坏	(13.0)	5.7		WW'BB'R	B	橙	30%	貯穴 覆土 へら削り磨耗の為不明瞭

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
20	坏	(13.8)	4.4		WW'BB'S	B	橙	20%	貯穴 二次被熱 磨耗著しい
21	坏	(13.6)	5.9		WW'BB'RS	B	橙	40%	No21 貯穴
22	坏	(15.0)	5.3		W'B'RS	B	鈍い橙	20%	覆土 器向調整磨耗のため不明瞭
23	坏	(16.4)	5.5		WB	B	鈍い橙	20%	覆土 調整ていねい
24	高坏	15.3	10.9	(10.5)	WW'BB'RS	B	橙	50%	No6 カマド(+4.3cm) 調整磨耗
25	鉢	(21.5)	17.7	6.1	WW'BB'R	B	橙	80%	No8,22他 貯穴周辺 胎土きめ細かい
26	壺	(11.9)	12.0	4.9	WW'RS	H	橙	75%	No15 貯穴周辺
27	小形甕	12.6	12.9		WB'S	C	橙	70%	No11,16他 貯穴周辺床面 覆土
28	小形甕	(13.6)	9.5		WW'BB'KS	B	暗赤灰	40%	覆土 二次被熱 磨耗のため調整痕不明
29	甕	18.5	29.7	5.5	WW'BB'RS	B	橙	90%	No7,39他 貯穴
30	甕	15.6	29.7	6.0	WW'BB'RS	B	橙	80%	No1,17他 覆土(-1.0cm)
31	甕	17.2	27.6	6.0	WW'BB'RS	B	明赤褐	95%	No22,29 貯穴
32	甕		12.2	7.2	WW'BB'RS	B	橙	60%	No44 貯穴 覆土
33	甕	17.7	33.0	5.8	WW'BB'RS	C	鈍い橙	70%	No15,24 貯穴 焼成後底部穿孔転用か
34	甕	17.7	29.5	(7.0)	WW'BB'RS	B	橙	70%	No9,12他 貯穴 胎土ザラつく
35	甕	20.1	12.7	5.9	WW'BB'RS	B	橙	90%	No15 貯穴周辺 覆土 器面の磨耗著しい
36	甕	25.7	27.9	9.9	WW'BB'R	B	鈍い橙	95%	No29 貯穴 カマド 覆土
37	土鍾	覆土			SWW'B		鈍い黄橙	100%	長4.9cm 径1.6cm 孔0.4cm 重12.98g

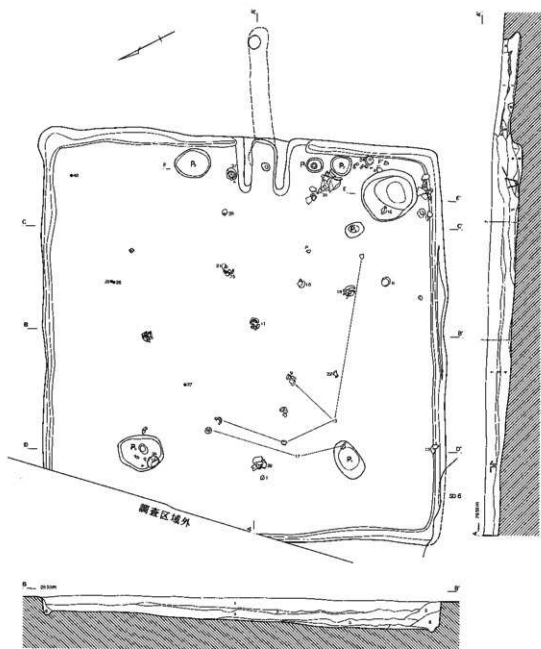
第3号住居跡 (第74~76図)

こ-4-22グリッドを中心に位置する。西のコーナー部で第6号溝跡と重複し、本住居跡の方が古い。形態は北コーナー付近が調査区域外にあるが、6.5m前後の方形になるものと思われ、深さ0.22~0.44mである。主軸方位はS-60°-Eを指す。

床面はやや起伏があり、南側が低くなる傾向が見られる。壁は垂直に立ち上がる。覆土は7層に



第74図 第3号住居跡(1)



- 第3号住居跡
- | | | | |
|---|---------|-----|------------|
| 1 | 10193/3 | 暗褐色 | 灰色土、炭化物片少量 |
| 2 | 10193/2 | 黒褐色 | 炭化物少量 |
| 3 | 10193/2 | 黄褐色 | 灰色土多量、砂質 |
| 4 | 10193/1 | 赤褐色 | 炭化物、炭化物片少量 |
| 5 | 10193/1 | 白色 | 炭化物多量 |
| 6 | 10193/3 | 緑褐色 | 黄色土、炭化物片少量 |
| 7 | 10193/4 | 紫褐色 | 黄色粘土多量 |

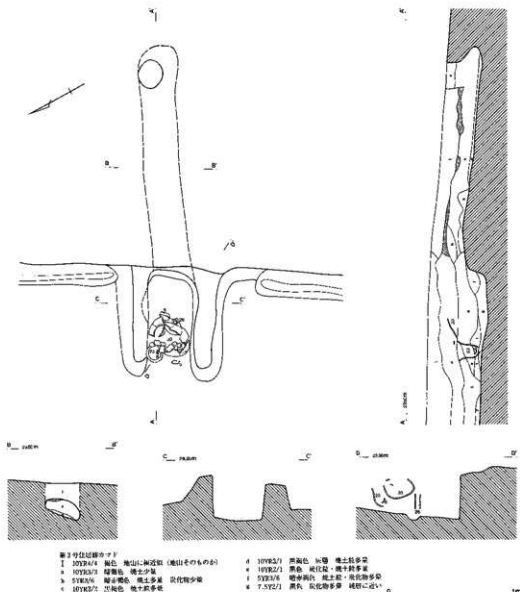
0 2m

第75図 第3号住居跡(2)

分けられ、全体的に炭化物を含む層が多くなっている。

カマドは南東側の壁のほぼ中央に設置される。燃焼部は床面を5cmほど掘り込み、垂直に立上がって煙道へ移行する。煙道部はやや下がりがりながら1.76m進んでオーバーハング気味に煙出しとなる。煙道天井部（I層）は地山に極めて似ており、埋め戻されたものか地山を削り抜いたものか、判断できなかった。

貯蔵穴は南コーナー部に位置し、80cm×92cmの楕円形で、深さは約109cmを測る。覆土には焼土、炭化物を含み、その量は下層ほど多くなる傾向にある。ピットは6本検出された。P3～5は柱穴と考えられるが、東側のものが検出できなかった。P1は台状の中央が窪む形状で、カマドの施設



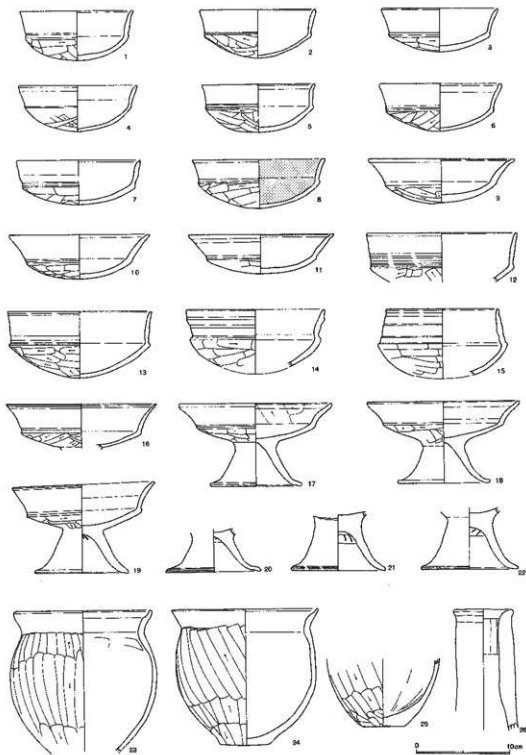
第76図 第3号住居跡カマド

の一部とも考えられる。竪溝はカマドの両側から全周すると思われ、幅12~28cm、深さ1~10cmである。

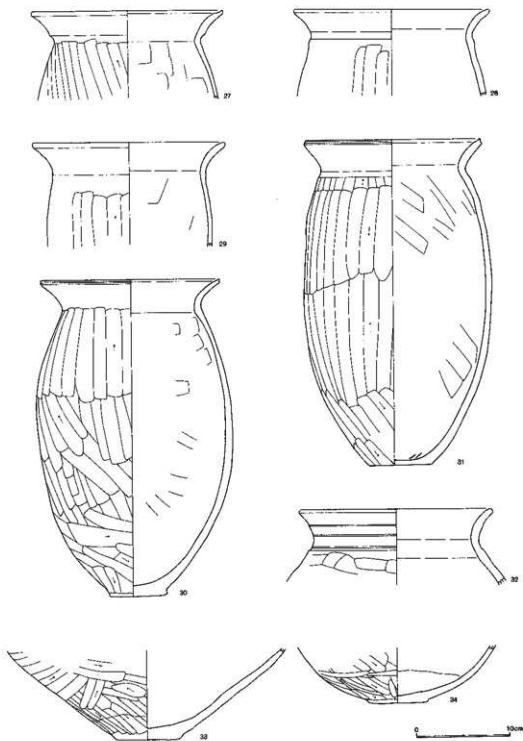
出土遺物は住居跡全域から出土しているが、貯蔵穴周辺に集中する傾向が伺える。土器類は全て土師器で比較的多く検出されているが、接合率があまり良くなく、特に甕では極めて悪い状況と見える。図示しなかったが、小さな貝果穴痕泥岩が1個出土している。

第3号住居跡出土遺物観察表 (第77~79図)

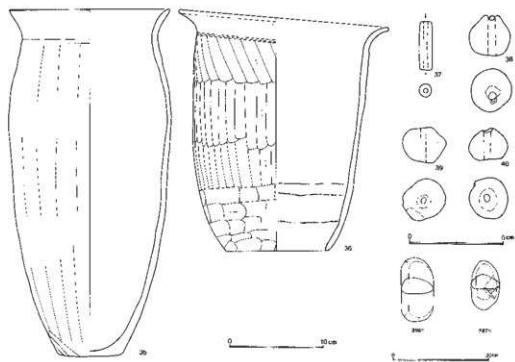
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	12.0	5.2		BW'W	B	浅黄橙	80%	No8 覆土(+2.0cm) 口縁端部欠損著しい
2	坏	12.1	5.2		SR	B	橙	50%	覆土 内面磨耗著しい
3	坏	(12.2)	4.7		RB	C	淡橙	50%	覆土 内面磨耗著しい
4	坏	(12.5)	4.9		SR	C	赤橙	70%	No41 覆土(-0.4cm) 内外面磨耗 剥落
5	坏	11.9	5.9		BS	B	鈍い橙	70%	No47,51 覆土(+1.0cm) カマド
6	坏	12.7	5.1		BWS	A	橙	80%	No31,49他 貯穴周辺床面
7	坏	13.0	4.7		BW	H	浅黄橙	80%	覆土 胎土緻密 内外面共にやや磨耗
8	坏	14.0	5.2		WB	A	明赤褐	100%	No22 覆土(+1.1cm) 一部口縁に漆
9	坏	15.5	4.8		SBW	C	橙	90%	No4 覆土(+5.2cm) 内面やや磨耗
10	坏	14.9	4.7		B'S	B	浅黄橙	70%	No20 覆土(+5.9cm) 内外面共に磨耗
11	坏	15.4	4.2		SR	C	橙	80%	No19 覆土(+2.9cm) 内外面磨耗著しい
12	坏	(15.9)	5.2		B'S	B	鈍い橙	20%	覆土
13	坏	(15.3)	7.1		SB'	B	鈍い橙	60%	No1 覆土(+19.0cm)
14	坏	(14.5)	6.9		B'W	B	橙	20%	覆土
15	碗	(11.8)	7.5		WB'	B	褐灰	20%	覆土
16	高坏	(15.9)	4.9		SB'W	A	橙	40%	No27 貯穴
17	高坏	(16.1)	8.8	9.8	SBW	C	橙	50%	No2,11 覆土床面内面やや磨耗
18	高坏	16.1	8.2	9.9	BW	C	鈍い橙	80%	No21 覆土(+3.2cm)
19	高坏	14.8	9.4	10.0	SB'	C	鈍い橙	70%	No4,6他 覆土床面 内外面共に磨耗
20	高坏		4.5	10.2	SB'	B	橙	70%	No39 覆土(+10.3cm) 外面上半部磨耗著しい
21	高坏		5.9	10.1	B'WR	A	橙	90%	No38 覆土(+4.5cm) 内外面やや磨耗
22	高坏		6.6	10.4	SB	B	橙	80%	No3 覆土(+2.3cm) 胎土緻密
23	甕	14.3	15.1		SB'	B	鈍い橙	80%	No48 カマド(+4.4cm) 外面胴下半被熱
24	甕	15.2	4.5	5.4	SB'	B	鈍い黄橙	100%	No32 貯穴周辺床面 外面胴下半被熱
25	甕		7.2	4.4	WB'	A	黄灰	60%	No37 覆土(+3.5cm) 底部わずかに上げ底
26	支脚	No50 カマド(+4.0cm)			B'W		鈍い橙	95%	上端径6.2cm 残高12.8cm 二次被熱
27	甕	20.2	9.3		SF	B	橙	60%	No40 覆土床面 カマド
28	甕	(20.7)	9.2		SW'	C	鈍い橙	30%	覆土 内外面磨耗著しい
29	甕	(20.3)	11.0		BS	C	鈍い橙	30%	覆土
30	甕	18.9	33.8	6.1	SB'	B	浅黄橙	80%	No49 カマド(+12.4cm)
31	甕	18.5	34.8	6.6	SB'	B	鈍い黄橙	95%	No35,36 ビット2箇辺床面
32	甕	20.3	8.1		B'SW	C	橙	70%	No7 覆土(+17.1cm) 内外面磨耗著しい
33	甕		9.1	6.6	SB	B	鈍い黄橙	80%	No29 貯穴周辺 外面接合痕
34	甕		6.1	6.2	SB'	C	鈍い橙	70%	No13 ビット5
35	甕	(16.9)	36.9	6.8	SBW	A	鈍い黄橙	60%	こ-4-17 覆土 内外面磨耗著しい
36	甕	22.1	25.8	10.8	SW	B	浅黄橙	80%	こ-4-7 覆土 やや歪み
37	管玉	No17	覆土(+2.6cm)		全長26.0mm 幅7.0mm 重さ2.35g 滑石製				
38	土玉	No43	覆土(+4.5cm)		WB		鈍い橙		長2.2cm 径2.2cm 孔0.4cm 重0.37g
39	土玉	No44	覆土(+4.6cm)		WB'		鈍い褐		長1.9cm 径2.3cm 孔0.3cm 重0.29g
40	土玉	No45	覆土床面		WB		橙		長1.6cm 径2.1cm 孔0.4cm 重0.49g



第77图 第3号住居跡出土遺物(1)



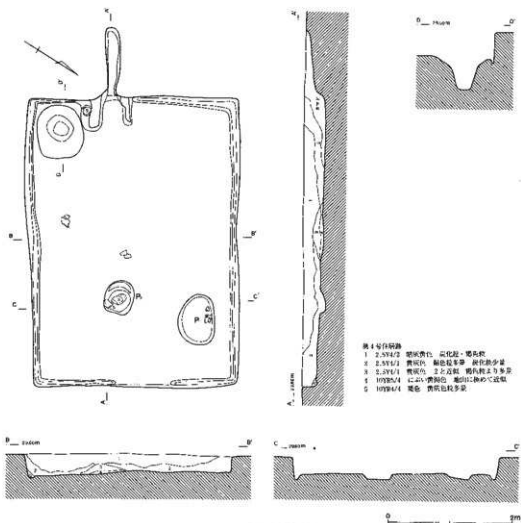
第78圖 第3号住居跡出土遺物(2)



第79図 第3号住居跡出土遺物(3)



第3号住居跡カマド



第80図 第4号住居跡

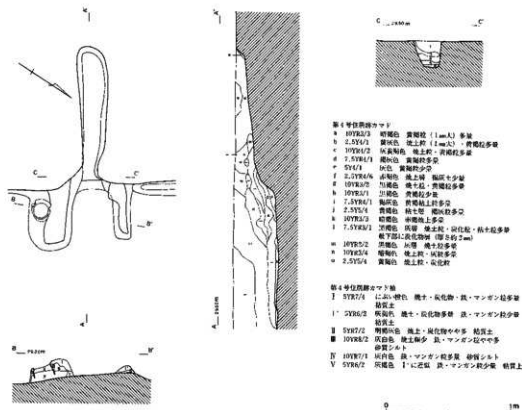
第4号住居跡 (第80・81図)

さー3ー5グリッドを中心に位置する。形態は東西に長い長方形で、規模は長軸4.62m、短軸3.32m、深さ0.26~0.36mである。主軸方位はS-58°-Wを指す。

床面はやや起伏があり、壁は垂直に立ち上がる。覆土は5層に分かれる。3層、4層は、床面中央に堆積し、やや不自然さがある。

カマドは南西側の壁の南寄りに設置される。燃焼部の掘り込みは見られない。最下層(0層)とその上の灰層(1層)との間には炭化物層が薄く(約2mm)堆積していた。袖は、主に粘質土によって構築されている。右袖の遺存は悪いが、左袖は補強材としての土師器瓦が残存していた。

貯蔵穴は南のコーナー部に位置し、74cm×86cmの円形で、深さは約55cmを測る。覆土は灰褐色砂粒を含む粘質土で、最下層は炭化粒子を少量含んでいた。ピットは2本検出されたが共に灰褐色土と黒褐色土によって埋められていた。壁溝は幅6~10cm、深さ2~10cmで、カマドの両側からほぼ



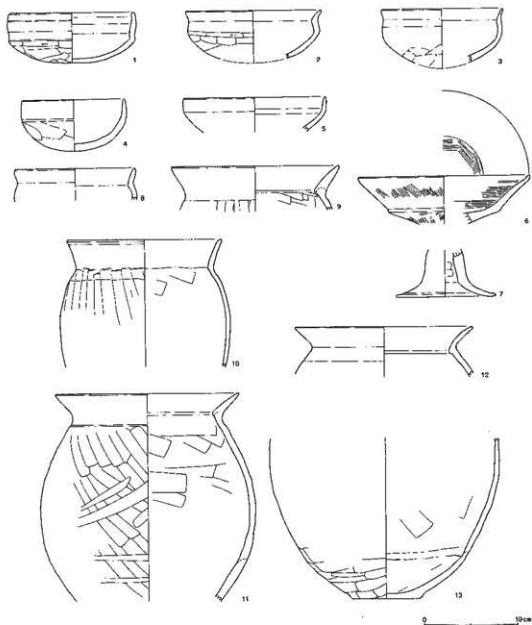
第31図 第4号住居跡カマド

全周するが、北東側の壁の中央で88cm程途切れる。出入口部とも考えられるが、ピットなどの施設は検出されなかった。

出土物は全て土器で、坏・高坏・甕等が認められる。出土量は多量にあるが、接合率は極めて悪い。

第4号住居跡出土物観察表 (第82図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	地色	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	(13.0)	5.4		BRW	A	橙	50%	No5 ピット2
2	碗	(14.4)	5.6		BR	B	明赤褐	40%	覆土 内外面共に磨耗
3	碗	(12.8)	6.4		B'R	B	浅黄橙	30%	覆土 内外面共に磨耗著しい
4	坏	(10.9)	5.5		BRS	B	鈍い橙	50%	覆土 外面磨耗著しい 内面割落著しい
5	坏	(15.1)	3.7		RB	C	鈍い褐	30%	覆土 内外面共に磨耗著しい
6	高坏	(18.2)	5.2		BW'	B	橙	30%	覆土
7	高坏		5.1	(10.7)	BW'W'	C	鈍い橙	20%	覆土 内外面共に磨耗著しい
8	碗	(12.7)	3.4		BRW	B	橙	20%	覆土 内外面共に磨耗
9	甕	(17.8)	4.3		BSR	B	浅黄褐	30%	覆土
10	甕	(16.4)	13.6		SR	C	鈍い褐	70%	No7 カマド左袖 外面特に胴部下平磨耗
11	甕	(19.6)	22.2		BS	B	鈍い黄褐	20%	覆土
12	甕	(18.8)	5.4		WR	B	鈍い橙	20%	覆土
13	甕		12.2	7.2	WB'	C	鈍い褐	40%	覆土 内外面共にやや磨耗



第82図 第4号住居跡出土遺物

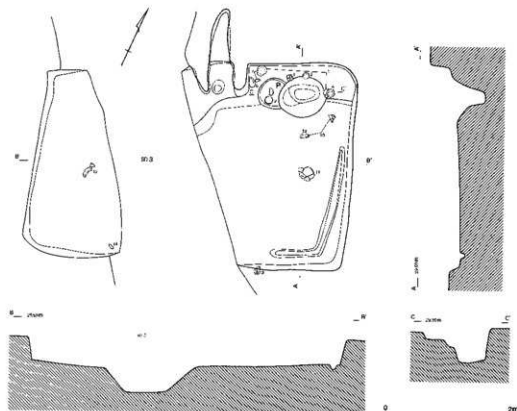
第5号住居跡 (第83・84図)

さ-3-3グリッドを中心に位置する。第3号溝跡によって大きく切断される。形態は東西に長い長方形で、規模は長軸5.10m、短軸3.26m、深さ0.42~0.49mである。主軸方位はN-24°-Wを指す。

床面は中心付近がやや低くなる傾向を示す。壁は僅かに開き気味に立ち上がる。覆土の状態は不明である。

カマドは北壁中心よりやや東寄りに設置される。燃焼部の掘り込みは見られないが、中央付近に浅いピットが検出された。煙道は緩やかに立上がる。

貯蔵穴は北東コーナーに位置し、68cm×76cmの円形で、深さは約55cmを測る。ピットは一部が貯



第83図 第5号住居跡

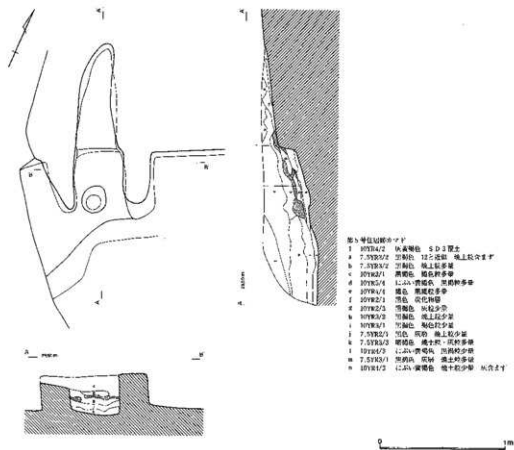
第5号住居跡出土遺物観察表 (第85図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	9.0	3.6		WW'BR	B	鈍い赤褐色	95%	No4 貯穴周辺
2	坏	10.4	3.4		WW'BR	B	橙	100%	No3 貯穴周辺床面 口縁液打つ
3	坏	(13.2)	3.8		WW'B	B	赤黒	40%	No13 覆土(+7.5cm) 胎土きめ細かい
4	坏	12.6	4.0		WW'BB'RS	B	橙	90%	No1 貯穴周辺 胎土ザラつく
5	坏	(13.5)	4.1		WW'BB'RS	B	橙	50%	No2 貯穴周辺床面 No5 ピット1床面
6	坏	(16.2)	5.0		WW'BB'RS	B	鈍い橙	40%	No6 ピット1周辺 胎土きめ細かい
7	坏	(17.8)	5.0		WW'BR	B	淡赤橙	60%	No5,7 ピット1周辺床面
8	坏	(15.0)	3.6		WW'BB'R	B	明褐色	15%	覆土 胎土きめ細かい
9	坏	12.1	4.4		WW'BR	B	赤灰	95%	No9 ピット1 色調外 部橙 内赤黒
10	甕		9.7		WBB'S	B	鈍い赤褐色	15%	No10,11 覆土床面 胎土きめ粗い
11	鉢	23.8	11.3	9.0	WW'BB'R	B	橙	60%	No12 覆土(-2.7cm) 全体作りがシャープ
12	甕	(21.0)	5.5		WBB'SR	B	橙	40%	No14 覆土(+3.3cm)
13	四み石状石製品	No11		覆土(+3.1cm)			長さ13.8cm 幅(8.4)cm 厚さ4.7cm 重量300g 角閃石安山岩製 刀鋒有り		
14	砥石	No15		覆土(+8.5cm)			長さ11.9cm 幅4.4cm 厚さ2.1cm 重量185g 安山岩製		
15	貝塚穴痕泥岩			覆土					

蔵穴と重複するように1本検出された。貯蔵穴の一部の可能性も考えられる。壁溝は南東コーナー付近のみ検出され、幅10-18cm、深さ6-9cmで、壁より内側を巡っている。

カマド前面から貯蔵穴を通り、北東コーナーにかけて高さ4-6cmの段が見られる。住居跡に伴うものかどうかは不明である。

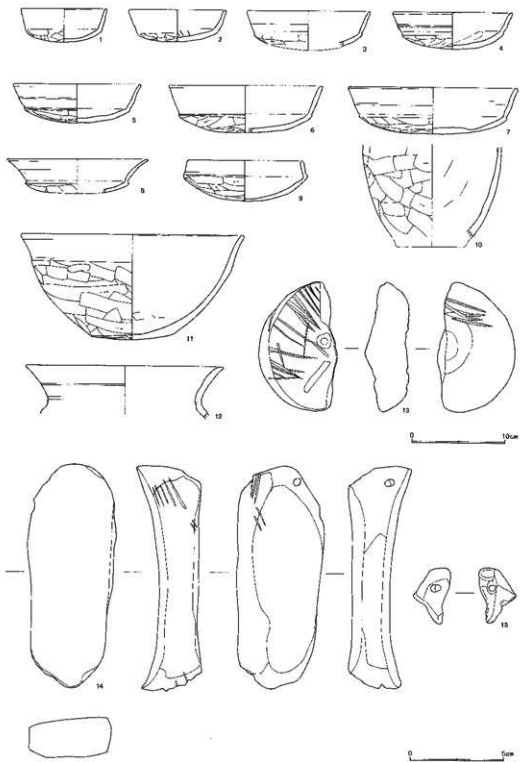
出土遺物は、カマド右袖から貯蔵穴にかけて多く検出されている。13は角閃石安山岩製で表面に数多くの刃跡が見られる。14は安山岩製の砥石で、三面を使用しており、内一面はかなりすり減っている。また両端には刃跡がついている。15は貝塚穴状泥岩で、このほかにも小さなものが2個出土している。



第84図 第5号住居跡カマド

第6号住居跡 (第86図)

さ-3-2グリッドを中心に位置する。第1・2号溝跡と重複し、本住居跡が古い。大半が調査区域外にあるのと排水のための溝に切断されるため、詳細は不明と言わざるを得ない。形態は方形または長方形であろう。規模は、検出された西壁で5.14mを測り、北壁は1.76m確認できたに過ぎない。深さは0.18-0.22mである。主軸方位は西壁を基準とするとN-17°-Wとなる。

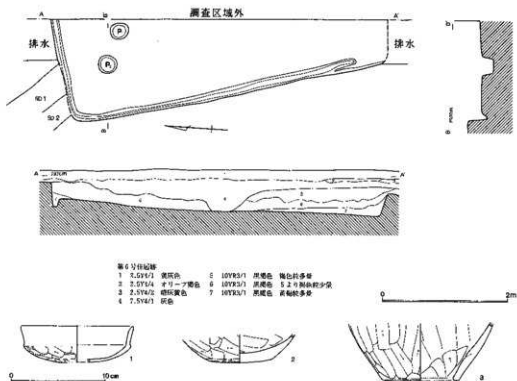


第85图 第5号住居跡出土遺物

床面は中央がやや低くなり、壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は3層に分かれ、概ね自然堆積と思われる。

カマド、貯蔵穴は検出されていない。ピットは2本検出された。共に直径が約30cmで、深さはP1が29cm、P2が16cmとなる。どちらかは柱穴になるとも考えられるが確認はできなかった。壁溝は壁が検出された部分では全周する。幅10~18cm、深さ2~8cmとなっている。

出土遺物は、極めて少量の土師器が見られただけで、図示したもの以外には坏と甕の小片がある。



第86図 第6号住居跡・出土遺物

第6号住居跡出土遺物観察表 (第86図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	(11.8)	3.8		WW'RS	A	褐色	20%	P1 胎土精選されてきめ細かい
2	甕		3.0	6.0	WW'BB'RS	B	浅黄褐色	60%	覆土 胎土細かい粒子
3	甕		6.1	(7.3)	WW'BB'RS	B	鈍い橙	20%	覆土

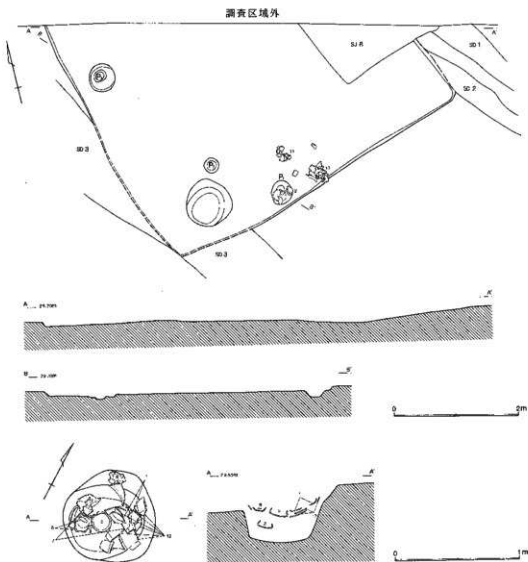
第7号住居跡 (第87図)

さ-3-8グリッドを中心に位置する。第8号住居跡、第2・3号溝跡と重複し、これらの中で本住居跡が一番古い。北半が調査区域外にあるのと南西コーナーを第3号溝跡に切られるため形態は不明だが、一辺が5.2m前後の方形となるものと思われる。深さは0.06~0.08mと極めて浅い。主軸方位は西壁を基準とするとN-15°-Wとなる。

床面はやや起伏があり、壁は開き気味に立ち上がる。覆土は不明である。

カマドは検出されていない。貯蔵穴は南西コーナーに位置し、直径約76cmの円形で、深さは約24cmを測る。西側上半は第3号溝によって壊されている。ピットは3本検出されたが、何れが柱穴になるかは確認できなかった。

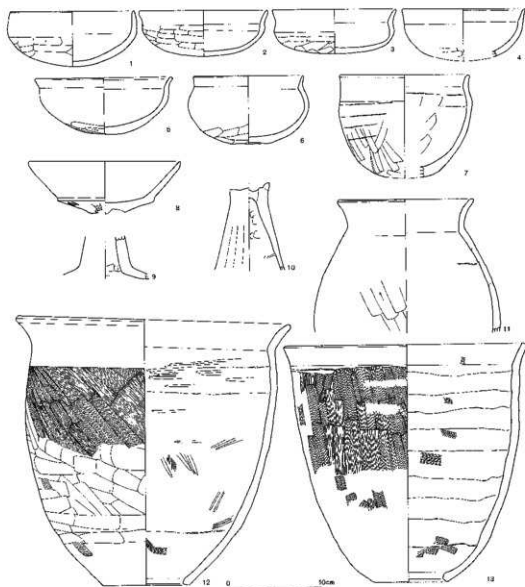
出土遺物は、貯蔵穴とP1周辺に集中する。全体に磨耗が著しいものが目立つ。



第87図 第7号住居跡

第7号住居跡出土遺物観察表 (第88図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	碗	13.2	5.9		RWB'	B	明赤褐色	90%	No15, 23 貯穴 外面やや磨耗
2	坏	(13.6)	4.9		BR	A	明赤褐色	50%	No2 ピット1
3	坏	13.1	4.8		RW	B	橙	80%	No27 貯穴
4	碗	(13.0)	5.6		B'R	B	橙	40%	覆土 内外面磨耗



第88図 第7号住居跡出土遺物

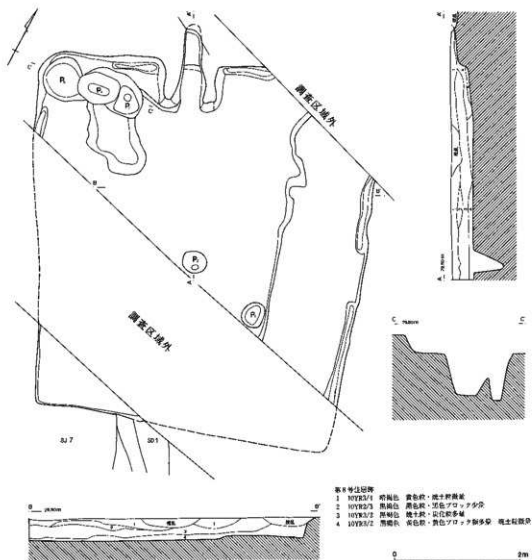
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
5	碗	14.5	6.0	4.1	KW	B	鈍い橙	90%	No14 貯穴
6	碗	(11.6)	7.2	4.0	RB'	C	鈍い橙	50%	No7 貯穴 カマド わずかにやや磨耗
7	碗	13.8	11.0		WRB	B	橙	70%	No10, 21 貯穴 内外面共にやや磨耗
8	高坏	16.2	5.6		KWB	C	鈍い橙	80%	No12, 13 貯穴 カマド 内外面表面剥落
9	高坏		4.6		WR	B	鈍い橙	40%	覆土 胎土は緻密 内外面に磨耗
10	高坏		9.5		WR	B	鈍い黄橙	60%	覆土 内外面共に磨耗著しい
11	甗	(14.3)	14.3		SRW	B	鈍い橙	30%	No4 覆土(+7.6cm) 内面一部接合痕残る
12	飯	28.9	28.3	9.2	WRB	B	橙	70%	No8, 16他 覆土(+20.0cm) 内外面やや磨耗
13	甗	25.2	25.3	7.7	H'WR	B	橙	70%	No6 覆土(+12.0cm) 外面やや磨耗

第8号住居跡 (第89・90図)

さ-3-8グリッドを中心に位置する。第7号住居跡を切り、第1号溝跡によって切られる。中心部が道路部分の調査によって検出されたため、北東コーナーと南西部に調査できない部分が残る。形態は南北に僅かに長い長方形になると思われ、長軸は西壁で5.66m、短軸は北壁で約5.4m前後になると推定される。深さ0.10~0.36mである。主軸方位はN-27°-Wを指す。

床面はほぼ平坦だが、東壁に沿って幅約1.4m、高さ2~8cmの高まりを持つ。壁は垂直に立ち上がる。覆土は4層に分けられ、自然堆積と思われる。

カマドは北壁ほぼ中央に設置される。燃焼部の掘り込みはなく、最下層に灰層が残存し、その上層に天井部が崩落したと思われる土が乗る。煙道部の先端は僅かではあるが掘乱によって壊されて

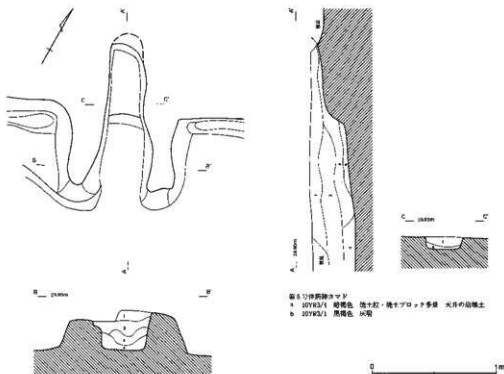


第89図 第8号住居跡

いる。

北西コーナーにピットが3本並んで検出されている。壁際の2本(P4・P5)の何れかが貯蔵穴であろうか。覆土の確認ができなかったため明確でない。この他にピットは2本検出された。P1は直径約40cm、深さ約9cmである。壁溝は南西コーナー以外で検出されているが、貯蔵穴付近と東壁中央で途切れる。幅14~24cm、深さ約5cmを測る。

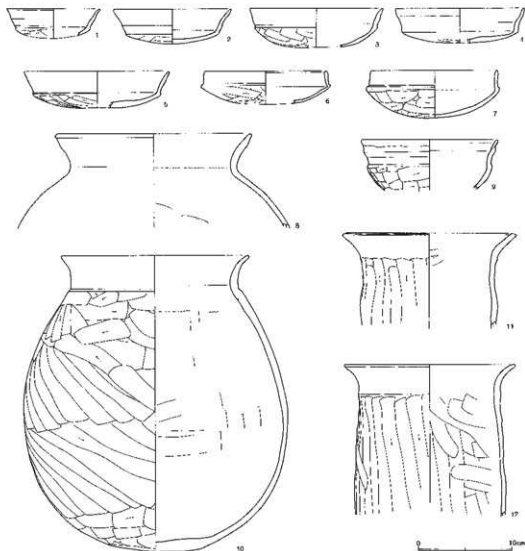
出土遺物は全て覆土からで、土師器の坏・甕・甗等の他、須恵器甕の底部と思われる小片が1片認められる。土師器の破片は多量に見られるが接合率は極めて悪い。



第90図 第8号住居跡カマド

第8号住居跡出土遺物観察表 (第91回)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	施色	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	(10.0)	2.9		WW'BR	B	橙	20%	覆土
2	坏	(12.5)	3.8		WW'BB'RS	B	淡橙	40%	覆土 磨耗著しい
3	坏	(14.2)	4.2		WW'BB'RS	B	褐灰	20%	覆土 内の色調にぶい橙 胎土ザラつく
4	坏	13.7	3.7		WW'BR	B	浅黄橙	30%	覆土
5	坏	(15.4)	3.9		WW'BR	B	鈍い赤	20%	覆土 胎土きめ細かい
6	坏	(13.0)	3.4		WW'BR	B	鈍い橙	20%	覆土 胎土きめ細かい
7	坏	13.4	5.1		WW'BR	B	黄い赤黒	70%	覆土
8	甗	(20.6)	10.2		WBB'S	B	浅黄橙	40%	覆土
9	坏	14.6	5.5		WW'BB'R	B	灰白	50%	覆土
10	甗	19.7	31.5	10.0	WW'BB'S	C	明褐灰	80%	覆土
11	甗	(17.8)	9.7		WW'BB'RS	B	浅黄橙	20%	覆土
12	甗	(18.0)	16.0		WW'BB'RS	B	鈍い橙	40%	覆土



第91図 第8号住居跡出土遺物

第9号住居跡 (第92・93図)

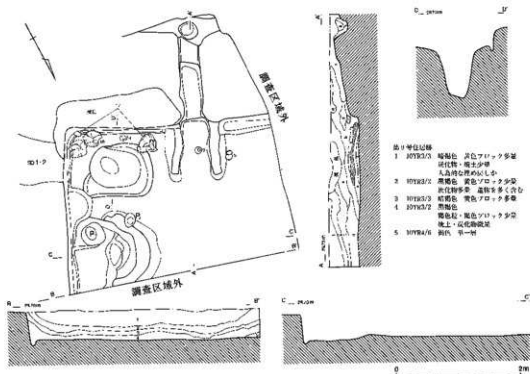
さ-3-14グリッドを中心に位置する。第1・2号溝跡と重複し、本住居跡が旧く、南東コーナーからカマドにかけての上場は浅い攪乱によって壊されている。道路下部分の調査であったため南壁を3.28m、東壁を2.68m検出しただけで、大半は調査区域外にある。一辺が4m程度の方形になるうか。深さは0.44-0.46mで、主軸方位はS-27°-Wを指す。

床面は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。覆土は概ね4層に分けられ、自然堆積と考えられる。

カマドは南壁に設置される。燃焼部の掘り込みは見られず、最下層には灰層が明瞭に残存しており、中央で土製支脚が出土している。煙道は、1.57mと長く、途中で小さな段を持つ。煙出しは煙道より深く掘り下げられピット状になっている。

貯蔵穴はカマド左側の南東コーナーに位置し、82cm×104cmの楕円形で、深さは約92cmを測る。貯蔵穴の北側で床面が低くなり、その周りが周堤状に3-5cm高まる部分がある。このなかにピットが2本検出され、深さはP1が24cm、P2が4cmである。壁溝はカマド両側から全周すると思われる、幅12-28cm、深さは1-11cmとなっている。

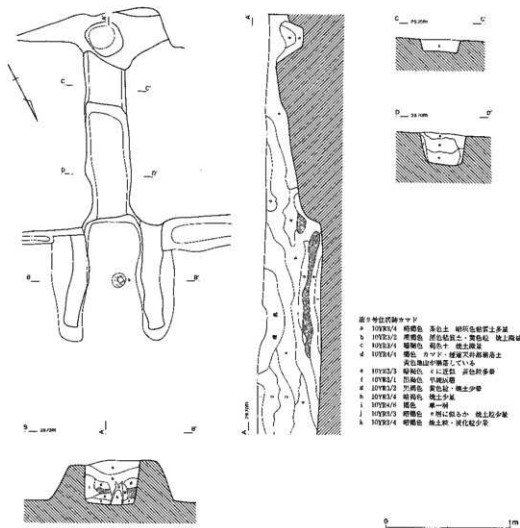
出土遺物は、貯蔵穴周辺に甕と瓶が見られた以外は覆土からの出土である。土師器の坏・甕・椀・瓶、土製支脚等が認められた。破片はやや多く、接合率は良い方で、図示した以外には口縁部片から坏が2個体程度と見られる。12の甕の胴部外面上部1/4と底部付近を除く部分に、砂質で粘性のある土が広く付着している。



第92図 第9号住居跡

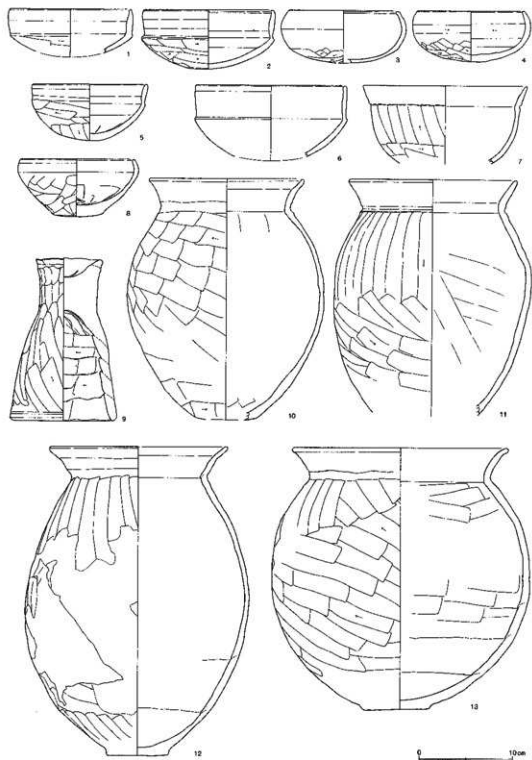
第9号住居跡出土遺物観察表 (第94・95頁)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	施成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	12.8	4.2		WRB'WB	B	橙	60%	覆土 内外面磨耗著しい
2	坏	13.5	6.4		RWW'B	A	鈍い橙	95%	覆土 内外面磨耗著しい
3	坏	11.6	5.6		WSW'B	C	明赤褐	30%	覆土 外面磨耗著しい
4	坏	11.1	5.4		W'WR	A	橙	90%	No4 覆土床面 外面磨耗著しい
5	坏	12.1	6.0		WW'BR	B	橙	80%	No1 覆土床面 内外面磨耗著しい
6	坏	(15.8)	7.6		RW'WB'	B	橙	20%	覆土 内外面磨耗著しい
7	鉢	(17.4)	8.3		B'WW	B	橙	25%	覆土 内外面やや磨耗

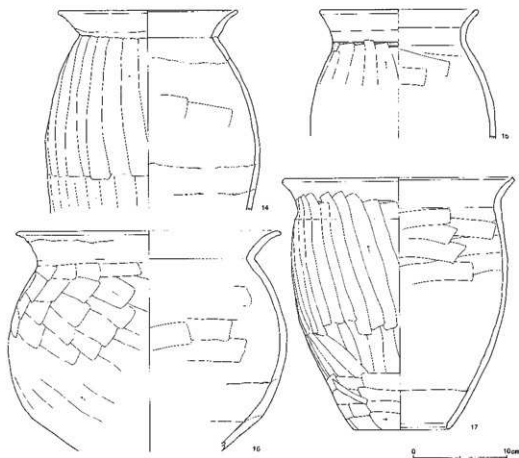


第93図 第9号住居跡カマド

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
8	碗	11.9	6.2		WB'WR	B	橙	90%	覆土 内外面やや磨耗
9	支脚	No2 覆土床面			SWW'RB'		橙	95%	上端径7.1cm 下端径10.6cm 残高17.4cm
10	甕	16.4	25.5	(6.7)	WW'RB'S	B	浅黄橙	90%	No5 覆土(+4.0cm) 覆土 胴部下二次被熱
11	甕	17.8	25.2		WW'RB'S	C	灰白	65%	覆土 内外面やや磨耗
12	甕	18.8	33.0	6.6	WW'RB'	C	鈍い橙	70%	覆土 胴部下半二次被熱
13	甕	22.9	27.9	7.2	WW'B'BS	C	浅黄橙	60%	覆土
14	甕	18.8	21.6		WSRB	C	淡橙	80%	覆土 内面磨耗著しい
15	甕	16.5	12.8		WB'RB	A	鈍い橙	95%	覆土 内外面磨耗著しく調整不明瞭
16	壺	27.7	23.5		WW'RB'S	B	淡橙	80%	覆土 胴部下半二次被熱か
17	甌	24.5	26.9	10.2	SWRB'	B	淡橙	95%	No3,7 覆土床面 覆土 内外面磨耗



第94图 第9号住居跡出土遺物(1)



第95図 第9号住居跡出土遺物(2)

第10号住居跡 (第96・97図)

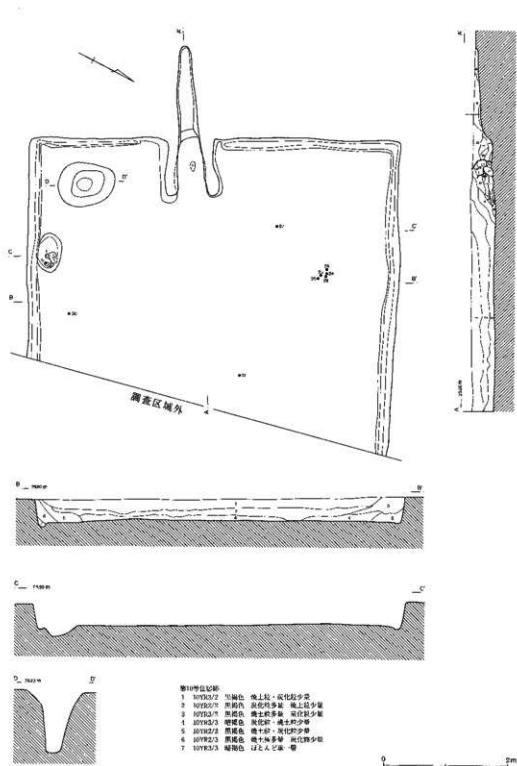
さー3-16グリッドを中心に位置する。東側は調査区域外にある。南西側の壁は5.96mで、北西側壁は4.94m検出されたが、全体では6m前後の方形となると思われる。深さ0.34-0.40mである。主軸方位はS-68°-Wを指す。

床面は中央が僅かに高まり、壁は垂直に立ち上がる。覆土は7層に分けられ、概ね自然堆積と思われる。

カマドは南西側の壁の南寄りに設置され、遺存状態は良好である。燃焼部の掘り込みはなく、川原石を利用した支脚が立てられていた。支脚の上には土師器甕がやや潰れた状態で出土しており、その内部や周辺に灰、鉢が集中している。

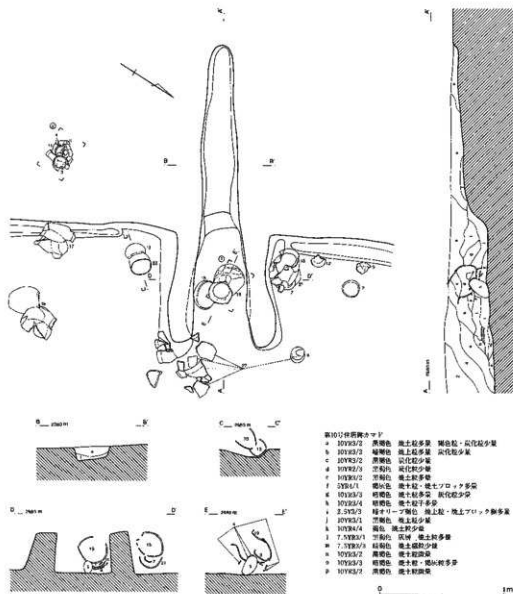
貯蔵穴は南西コーナーに位置し、78cm×92cmの楕円形で、深さは約101cmと深い。ピットは南壁際で1本検出された。64cm×38cm、深さ17cmで土師器坏が出土している。壁溝はカマド両側から全周すると思われ、幅12-26cm、深さ32-45cmである。

出土遺物は、カマド内とその周辺に多く見られ、土師器坏・甕・瓶等が集中して出土している。



第96图 第10号住居跡

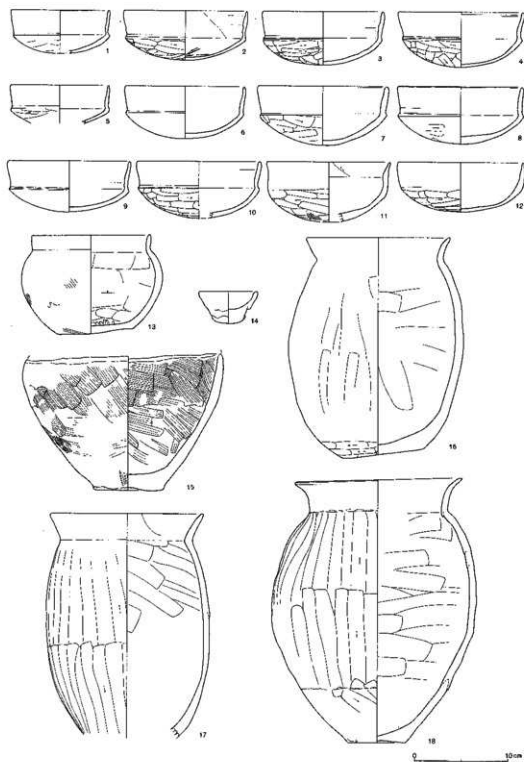
カマド左補脇には鉢と小型の甔が僅かな深みのなかで重なった状態で出土している。また、住居跡の中央付近から半分に割れた滑石製紡錘車が、北西側の壁近くの床面から滑石製臼玉が5個まともって出土している。



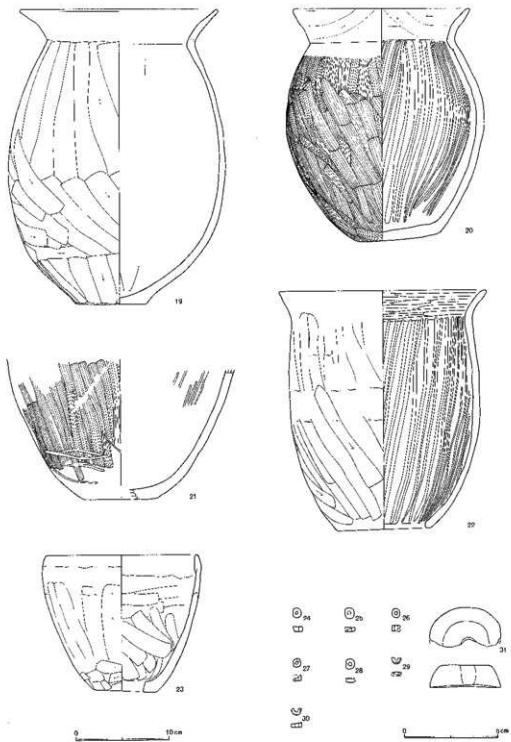
第97図 第10号住居跡カマド

第10号住居跡出土遺物観察表 (第98-99図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	(10.4)	4.1		WRW'B'	B	橙	45%	No27 ビット1 磨耗
2	坏	13.1	5.3		W'B'WRB	B	橙	100%	No5 覆土(+7.5cm) 胎土:きめ細かい
3	坏	12.8	5.7		WW'B'SR	B	橙	75%	No14 カマド(+9.0cm) 胎土:細かい



第98図 第10号住居跡出土遺物(1)



第99圖 第10号住居跡出土遺物(2)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他	
4	坏	13.2	5.9		W'WB'R	B	橙	50%	No15,16 カマド(+2.5cm) 胎土細かい	
5	坏	(10.4)	4.1		WB'W'R	B	橙	20%	No27 ビット1 磨耗	
6	坏	(12.6)	5.5		SWB'R	B	橙	50%	覆土 胎土きめ細かい 磨耗	
7	坏	13.6	6.3		RW'WB'	B	橙	85%	No10 カマド右袖(+14.0cm) 胎土細かい	
8	坏	13.2	6.1		WSW'B	B	橙	80%	No3 覆土(+10.1cm) 磨耗	
9	坏	12.9	5.4		WRB	B	橙	90%	No6 覆土(+7.5cm) 覆土 二次被熱	
10	坏	(13.4)	6.1		WBW'BR	B	黄・赤橙	50%	覆土 磨耗	
11	碗	13.0	6.4		WB'W'R	H	橙	80%	No15 カマド(+8.0cm) 胎土きめ細かい	
12	坏	13.3	5.3		SB'W'WR	H	鈍い橙	60%	No4 覆土(+18.5cm) 胎土ザラつく	
13	鉢	12.6	10.5	8.2	B'BW'WR	B	淡 橙	95%	No7 カマド左袖床面 底部付近は黒	
14	手づくね	(6.1)	4.4	3.4	SWBRF	B	橙	30%	覆土	
15	鉢	10.6	14.6	7.5	SW'WRBB'	B	橙	100%	No13 カマド(+17.1cm) 二次転用	
16	甕	15.2	23.6	8.7	SWB'W'	B	赤 褐	75%	No14,18 カマド(+9.0cm) 覆土 二次被熱	
17	甕	16.0	24.0		SRBB'	B	橙	90%	No2 覆土(+4.1cm) 覆土 胴部二次被熱?	
18	甕	(17.3)	28.4	6.1	SHRW'W'	B	橙	90%	No9 カマド右袖(+21.3cm)	
19	甕	20.9	31.6	7.3	SB'WR	B	浅黄橙	85%	No12 カマド(+15.4cm)	
20	甕	18.5	24.9	8.7	SWW'BR	B	鈍い橙	90%	No17 カマド覆土床面	
21	甕		15.0	8.0	BWSW'B'	H	橙	25%	No11 カマド右袖(+12.0cm)	
22	甕	21.8	25.6	9.8	WSB'W'WR	H	橙	90%	No1,3 覆土床面 覆土	
23	甕	15.9	14.5	6.6	SWB'W'BR	B	橙	100%	No8 カマド左袖(+6.0cm)	
24	白玉	No23	覆土床面		直径5.0cm	厚さ3.0cm	重量0.14g	滑石製	わずかに欠損	
25	白玉	No21	覆土床面		直径6.5cm	厚さ2.0cm	重量0.09g	滑石製	わずかに欠損	
26	白玉	No20	覆土床面		直径5.0cm	厚さ3.0cm	重量0.09g	滑石製	わずかに欠損	
27	白玉	No19	覆土床面		直径4.1cm	厚さ3.0cm	重量0.08g	滑石製	欠損	
28	白玉	No22	覆土床面		直径6.0cm	厚さ2.0cm	重量0.08g	滑石製	一部欠損	
29	白玉	No24	覆土床面		直径5.0cm	厚さ(2.0)cm	重量0.01g	滑石製	半欠損	
30	白玉	No18	覆土(+4.0cm)		直径5.5cm	厚さ2.2cm	重量0.07g	滑石製	半欠損	
31	紡錘車	No25	覆土(+15.6cm)		厚さ1.2cm	大径3.7cm	小径2.5cm	孔径0.7cm	重量11.29g	滑石製

第11号住居跡 (第100・101回)

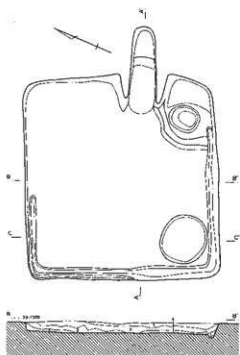
さー3-23グリッドを中心に位置する。形態は、カマドの両側が「ハの字」状になるがほぼ方形で、規模は長軸3.30m、短軸3.10m、深さ0.14-0.18mである。主軸方位はN-68°-Eを指す。

床面は平坦で、壁は開きながら立ち上がる。覆土は5層に分けられ、自然堆積と思われる。

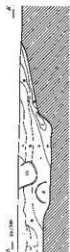
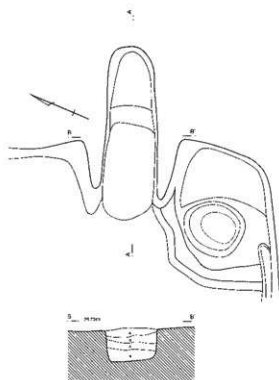
カマドは東壁の南寄りに設置される。燃烧部は床面を5cm程掘り込み、開きながら立ち上がり煙道へ移行する。

貯蔵穴はカマド右側の南東コーナーに位置し、40cm×50cmの円形で、深さは約32cmを測る。カマド右袖から南壁にかけて、貯蔵穴を囲むように高さ3-6cmの周堤状の盛り上がりが見出されている。南西コーナーには直径約80cmのビットが見られるが、深さが8cmと浅く、覆土の観察もできなかったため詳細は不明である。壁溝は貯蔵穴から南壁-西壁-北壁の一部にかけて検出された。幅8-24cm、深さ2-5cmで、北西コーナー付近では壁のやや内側を走っている。

遺物は、カマド及び貯蔵穴周辺に集中し、全て土器器で、坏・鉢・甕等が認められる。18は滑石製の紡錘車で、上面にやや乱れた鋸歯状の線刻が見られる。44は砂岩製の砥石で、半分に折れた状態で出土した。四面が使用され、各面共かなりすり減っている。かなり大型の砥石である。



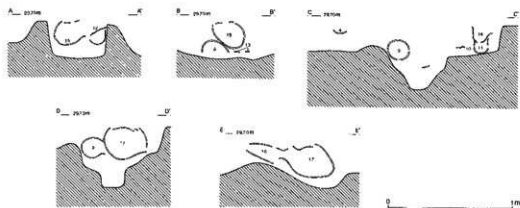
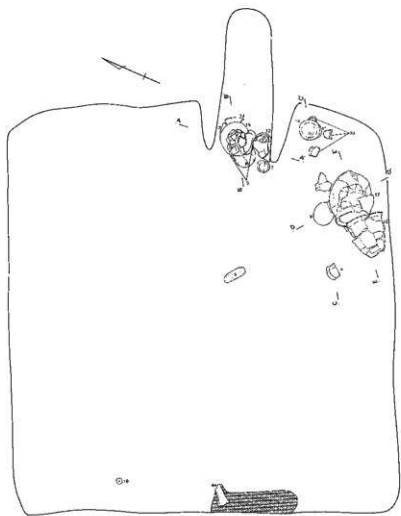
- 第11号住居跡
- 1 10YR1/2 灰褐色 焼土・炭化粒少量
 - 2 10YR2/2 黄褐色 焼土・炭化粒少量
 - 3 10YR3/2 暗褐色 焼土・炭化粒少量 炭化粒多量
 - 4 10YR2/2 灰褐色 焼土・炭化粒少量 炭化粒多量
 - 5 10YR3/2 暗褐色 焼土・炭化粒多量



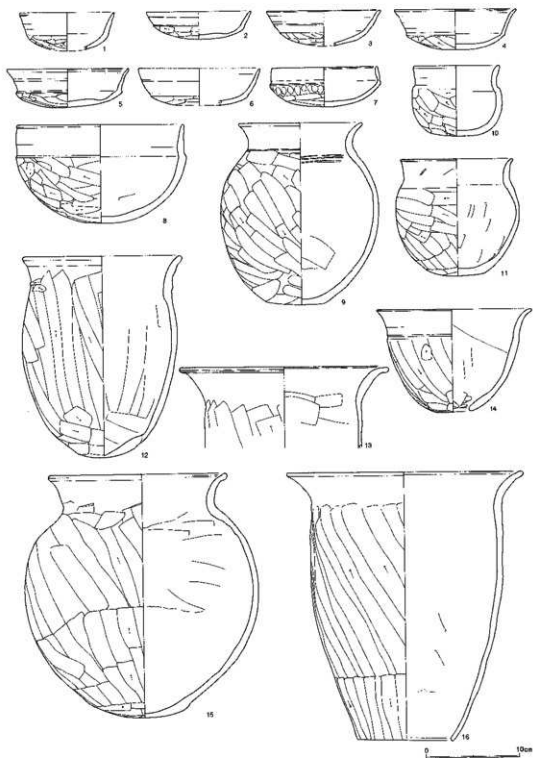
- 第11号住居跡(2)
- a 10YR2/2 正褐色 焼土・炭化粒少量
 - b 10YR2/2 正褐色 焼土・炭化粒多量 炭化粒
 - c 5YR3/4 暗赤褐色 焼土多量 カマド灰片基礎残片等
 - d 10YR2/2 正褐色 焼土・炭化粒多量
 - e 10YR2/7 褐色 炭化粒多量 焼土ノコブ・粘土粒
 - f 10YR3/3 正褐色 炭化粒 骨片等
 - g 10YR2/2 暗褐色 炭化粒・焼土



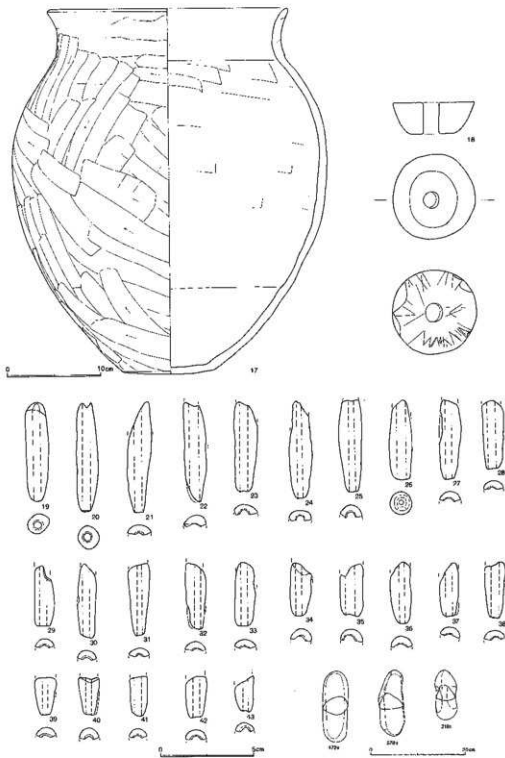
第100図 第11号住居跡(1)



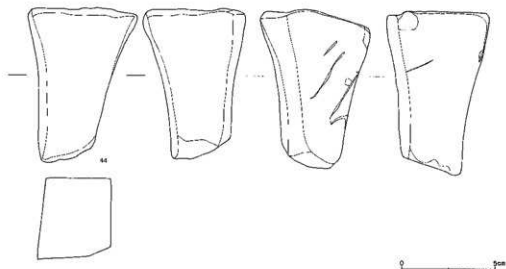
第101図 第11号住居跡②



第102圖 第11号住居跡出土遺物(1)



第103図 第11号住居跡出土遺物(2)



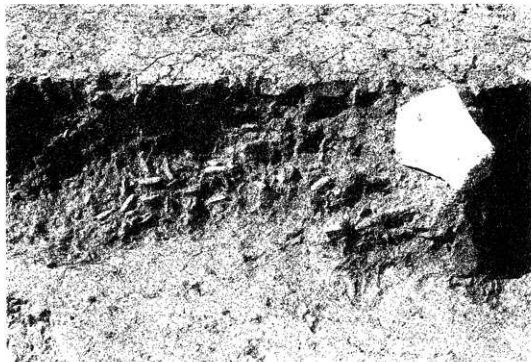
第104図 第11号住居跡出土遺物(3)

第11号住居跡出土遺物観察表 (第102~104図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	(10.0)	4.9		W'B'WR	B	明赤褐	25%	さ-3-23
2	坏	11.1	3.0		SB'WR	B	橙	95%	さ-3-23 胎土砂っぽくザラつき磨耗進む
3	坏	(12.1)	3.7		W'B'WR	B	橙	20%	No19 カマド床面 作りていぬい
4	坏	13.0	4.3		SB'RW	B	淡黄	80%	No3 貯穴周辺 色調ザラつく やや歪む
5	坏	12.8	4.2		SW'B'RW	B	明赤灰	95%	No11,12他 カマド床面 二次焼熱
6	坏	(13.0)	3.9		B'WSR	B	浅黄橙	20%	さ-3-23 磨耗 ヘラケズリ不明瞭
7	坏	11.1	4.2		SRW'WB'	B	淡橙	90%	No17 カマド床面
8	鉢	17.4	10.4		BWB'	A	浅黄橙	95%	No11 カマド(+4.1cm) 胎土きめ細かい
9	小形甕	12.9	19.4	6.2	SWRB'W'	B	浅黄橙	90%	No4,7 貯穴周辺
10	小形甕	8.9	7.5	5.7	SB'WWR	B	淡橙	95%	No6,14他 貯穴周辺
11	小形甕	11.8	12.5	5.2	SW'W'WR	B	橙	100%	No4,8 貯穴周辺床面 一部に黒斑
12	甕	(16.5)	21.5	(4.6)	B'SWR	B	鈍い橙	50%	No9 カマド(+5.5cm) 二次焼熱
13	甕	(21.8)	8.6		SB'W'WRB	B	橙	25%	No19 カマド床面 胎土ザラつく
14	甕	16.3	11.0	3.2	B'SWWR	B	浅黄橙	95%	No7 貯穴周辺 一部黒斑
15	甕	18.8	25.8	(9.9)	SWB'	B	淡赤橙	90%	No10 カマド(+10.5cm) 作り雑
16	甕	25.1	28.6	10.3	SB'WW'	B	黄橙	95%	No1 貯穴床面 作りていぬい
17	甕	25.1	38.8	9.9	BSW'	B	淡橙	90%	No2 貯穴 作りていぬい
18	紡錘準	No18	覆土(+1.4cm)	厚さ1.1cm	大径4.1cm	小径2.0cm	孔径0.8cm	重量51.48g	滑石製
19	土錘	さ-3-23			B'W		浅黄橙		長5.3cm 径1.2cm 孔径0.4cm 重量6.43g
20	土錘	さ-3-23			WB'W'		浅黄橙	100%	長5.8cm 径1.2cm 孔径0.4cm 重量7.46g
21	土錘	覆土			WB'W'		灰白		残5.9cm 径1.2cm 孔径0.3cm 重量3.05g
22	土錘	覆土			BW		鈍い橙		残5.1cm 径1.2cm 孔径0.2cm 重量2.99g
23	土錘	覆土			WW'		浅黄橙		残4.8cm 径1.2cm 孔径0.5cm 重量3.12g
24	土錘	覆土			B'W		淡黄橙		残5.2cm 径1.2cm 孔径0.4cm 重量2.99g
25	土錘	覆土			WB'		灰白		残4.9cm 径1.3cm 孔径0.4cm 重3.39g
26	土錘	覆土			WW		灰白		残4.2cm 径1.2cm 孔径0.3cm 重4.52g
27	土錘	覆土			W'		鈍い黄橙		残4.2cm 径1.0cm 孔径0.4cm 重2.11g

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
28	土鉢	覆土			W		灰白		残3.6cm 径1.1cm 孔0.4cm 重2.33g
29	土鉢	覆土			WW'		鈍い橙		残3.2cm 径1.0cm 孔0.4cm 重1.22g
30	土鉢	覆土			WB'		灰白		残3.8cm 径1.0cm 孔0.4cm 重1.46g
31	土鉢	覆土			WW'		鈍い黄橙		残3.8cm 径1.2cm 孔0.3cm 重1.92g
32	土鉢	覆土			W'B'W		浅黄橙		残3.4cm 径1.0cm 孔0.5cm 重1.62g
33	土鉢	覆土			B'		灰白		残3.3cm 径1.1cm 孔0.5cm 重1.97g
34	土鉢	覆土			B		灰白		残2.8cm 径1.1cm 孔0.3cm 重2.00g
35	土鉢	覆土			W		淡橙		残2.8cm 径1.2cm 孔0.6cm 重2.21g
36	土鉢	覆土			W		灰白		残3.3cm 径1.1cm 孔0.3cm 重1.65g
37	土鉢	覆土			B		浅黄橙		残2.9cm 径1.0cm 孔0.4cm 重1.26g
38	土鉢	覆土			B'		浅黄橙		残3.0cm 径1.1cm 孔0.4cm 重1.39g
39	土鉢	覆土			B'W'		灰白		残2.0cm 径1.1cm 孔0.4cm 重1.07g
40	土鉢	覆土			RW'W		浅黄橙		残2.0cm 径1.2cm 孔0.4cm 重0.91g
41	土鉢	覆土			W		灰白		残2.1cm 径0.9cm 孔0.4cm 重0.74g
42	土鉢	覆土			WW		灰白		残2.1cm 径1.1cm 孔0.4cm 重1.25g
43	土鉢	覆土			B'		浅黄橙		残1.9cm 径1.0cm 孔0.5cm 重0.70g
44	砥石	No16	覆土(+11.4cm)		長さ16.5cm 幅7.9cm 厚さ8.0cm 重量1.420g 砂岩製				

18-19の土鉢は覆土中からの出土だが、西壁の中央付近の床面から砥石44と共に多量の土鉢片がまとまって検出されている（スクリーントーン部分）。土鉢は総数で172片あり、このうち接合したものは僅か8片で、全容が判明するようになったものは見られなかった。このことは床におかれた漁網の網部分が朽ち、土鉢のみが残ったとするにはやや疑問が残る。



第11号住居跡土鉢山土状態

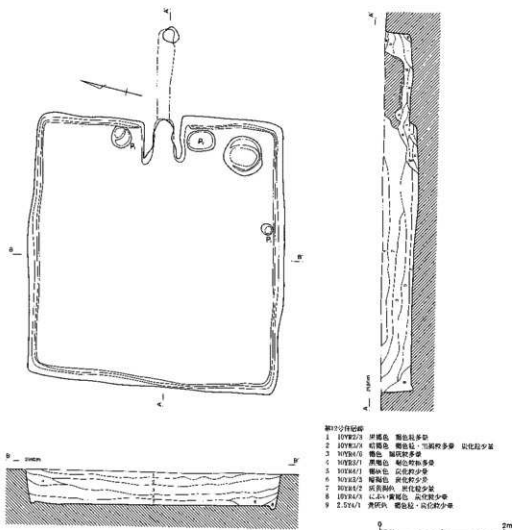
第12号住居跡 (第105-107図)

しー3-2グリッドを中心に位置する。形態は整った方形で、規模は長軸4.36m、短軸4.12m、深さ0.42~0.56mである。主軸方位はN-80°-Eを指す。

床面はほぼ平坦だが、カマド前面が低くなる。壁は垂直に立ち上がる。覆上は全体に炭化物を少量含んでいた。

カマドは東壁中央に設置される。燃焼部の掘り込みは明瞭でないが、最下層には灰が厚く堆積している。燃焼部奥壁はやや開き気味に8cm程立上がり、煙道へ続く。煙道は天井部が残存しており、地山を方形に近い形に削り抜いて造られていた。

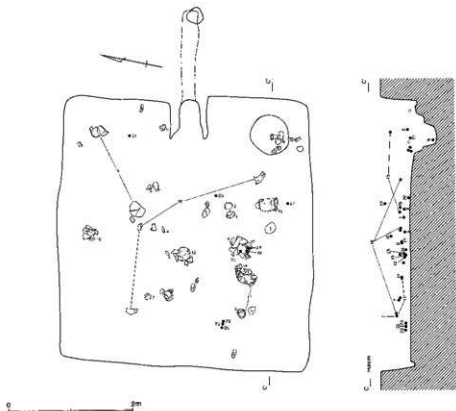
貯蔵穴は南東コーナーに位置し、直径約62cmの円形だが、底部では楕円形となっている。深さは約36cmを測る。ピットは3本検出された。P1・P2はカマドの左右袖の両脇で検出され、カマドと何らかの関係があるものと推察される。深さは12cmと13cmで、P1には段が有る。壁溝はカマド



第105図 第12号住居跡(1)

の両側から全周し、幅8-20cm、深さは2-10cmである。

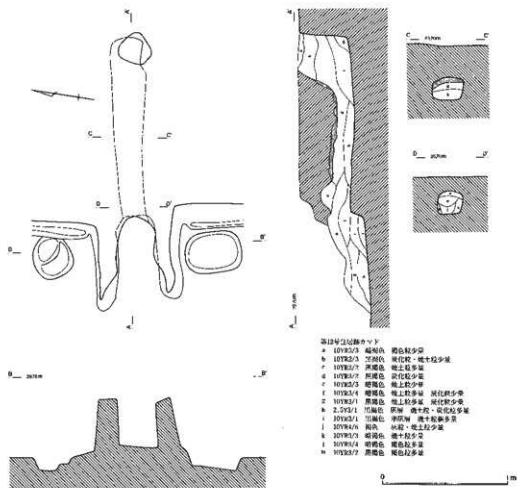
遺物は、全体から出土しているが、床面より浮いた状態のものが目立つ。14の高坏は口縁部故意に打ち欠いている。住居跡全体から1個の上鉢と8個の土玉が出土している。また、所謂編み物は床面に散在した状態で検出された。



第106図 第12号住居跡(2)

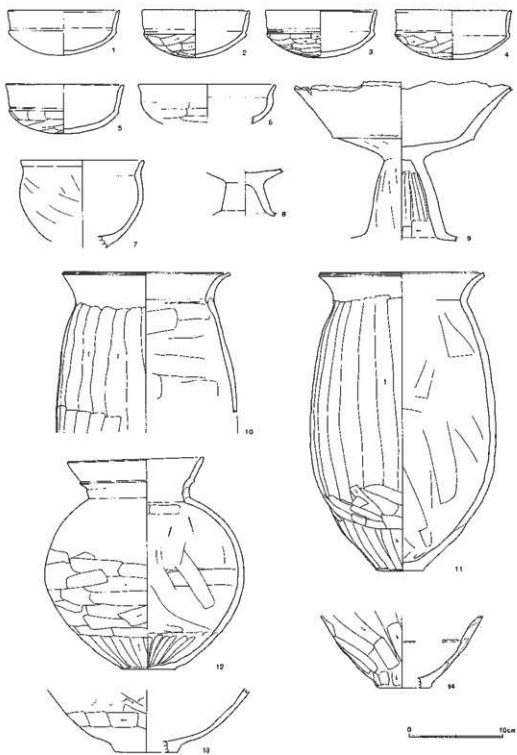
第12号住居跡出土遺物観察表 (第108-110図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	(11.8)	4.8		RWW'	B	淡橙	50%	No8 覆土(+13.5cm) 胎土きめ細かい
2	坏	11.3	5.1		WSW'B	B	鈍い橙	95%	No12 覆土(+22.1cm) 作りはていねい
3	坏	11.7	5.1		WSW'BR	B	鈍い橙	100%	No7 覆土(+12.8cm) 作りはていねい
4	坏	12.5	5.3		WW'R	B	橙	60%	No22 覆土(+11.0cm) 胎土きめ細かい
5	坏	(12.5)	5.3		SRWW'	B	鈍い橙	70%	No31 カマド左袖(+8.1cm)
6	坏	(14.4)	4.3		WW'B'R	B	橙	15%	覆土
7	鉢	(13.0)	9.4		SB'RW'	B	鈍い橙	25%	No17 覆土(+21.2cm) 二次被熱
8	高坏		4.9		W'WRB'	B	橙	40%	No10 覆土(+15.2cm) 胎土きめ細かい
9	高坏		17.0		W'B'SWR	B	橙	90%	No1 貯穴 口縁は意図的に欠く
10	甕	17.5	17.2		SB'W'WR	B	鈍い橙	95%	No27 覆土(+34.9cm) 二次被熱
11	甕	17.5	31.8	5.2	SWR	B	灰白	90%	No11,12 覆土(+10.9cm) 内底層 砂粒大粒
12	壺	14.6	22.5	5.9	WW'BR	A	橙	95%	No12,19 覆土(+12.1cm)
13	壺		6.6	(6.5)	SRWB'W'	B	浅黄橙	20%	覆土 胎土きめ細かい

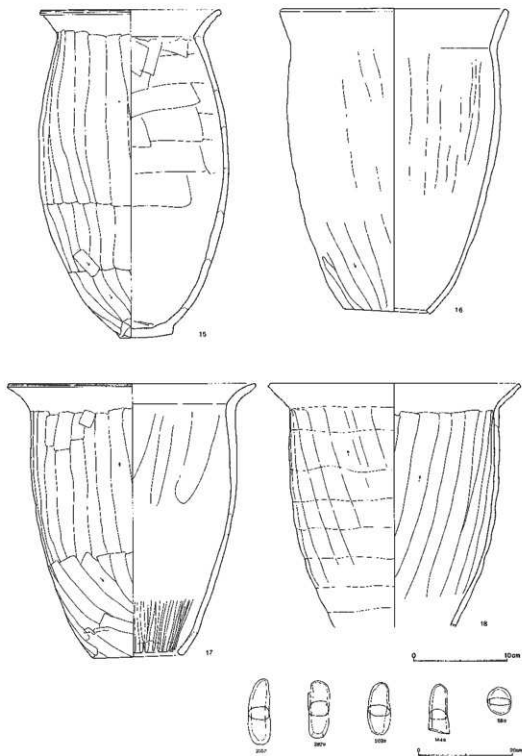


第107図 第12号住居跡カマド

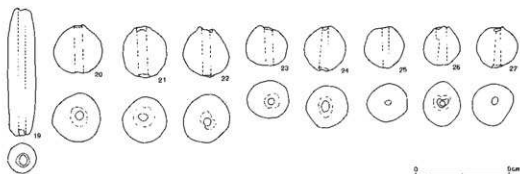
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
14	甕		7.8	(5.4)	SWW'B'R	B	黄い赤褐	20%	No11 覆土(+10.9cm) 内明細灰~暗褐
15	甕	19.0	35.0	5.7	SB'W'R	B	褐 灰	95%	No5 覆土(+15.7cm) 内橙 二次被熱
16	甕	23.9	32.5	9.2	SWB'W'R	B	黄 橙	60%	No26,29 覆土(+21.3cm) SJ14と接合
17	甕	26.3	29.2	9.3	WBR	B	橙	95%	No10 覆土(+15.2cm) SJ14と接合
18	甕	(26.6)	26.0		B'WRS	B	橙	45%	No4,18他 覆土(+18.4cm)
19	土罐	No36	覆土(+9.1cm)		WBSD'		黄い黄橙	100%	長6.7cm 径1.6cm 孔0.6cm 重17.90g
20	土玉	No15	覆土(+6.4cm)		WBW'B'		明赤褐		長2.6cm 径2.6cm 孔0.4cm 重16.03g
21	土玉	No30	覆土(+5.6cm)		WBW'B'		橙		長2.7cm 径2.4cm 孔0.5cm 重13.76g
22	土玉	No14	覆土(+6.9cm)		WBW'		明赤褐		長2.7cm 径2.5cm 孔0.4cm 重14.40g
23	土玉	No13	覆土(+6.5cm)		WB		橙		長2.2cm 径2.3cm 孔0.4cm 重9.14g
24	土玉	No35	覆土(+8.0cm)		WBW'B'		明赤褐		長2.3cm 径2.3cm 孔0.6cm 重10.55g
25	土玉	No34	覆土(+11.0cm)		WBW'		橙		長2.2cm 径2.2cm 孔0.3cm 重9.35g
26	土玉	No9	覆土(+5.9cm)		WBW'B'		橙		長2.1cm 径2.0cm 孔0.3cm 重8.94g
27	土玉	No6	ピット3周辺		WB'		明赤褐		長2.2cm 径2.2cm 孔0.4cm 重10.37g



第108图 第12号住居跡出土遺物(1)



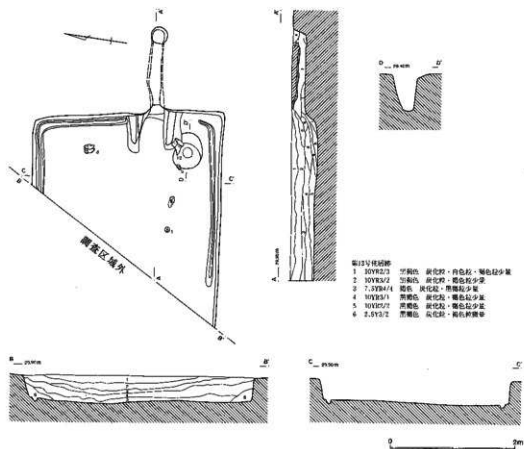
第109图 第12号住居跡出土遺物(2)



第110図 第12号住居跡出土遺物(3)

第13号住居跡 (第111・112図)

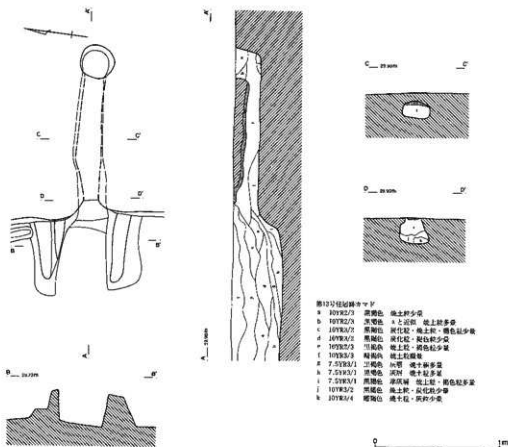
し-3-8グリッドを中心に位置する。西側は調査区域外にある。形態は東西に長い長方形になると思われ、規模は東壁が3.04m、南壁は3.40m検出されている。深さは0.34~0.42mで、主軸方位はN-83°-Eを指す。



第111図 第13号住居跡

床面は起伏があり、壁は垂直に立ち上がる。覆土は炭化粒子・褐色粒子を含む黒褐色土が主体となる。

カマドは東壁の中央よりやや南寄りに設置される。燃烧部の掘り込みは顕著ではないが、最下層には灰層が2層になって厚く堆積していた。煙道天井部が残存しており、地山を削り抜いて構築さ



第112図 第13号住居跡カマド

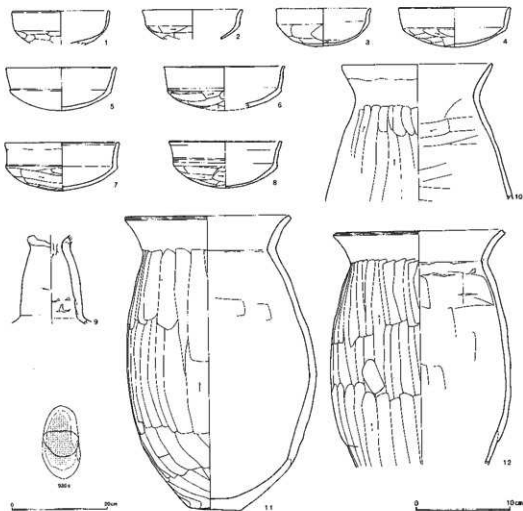
第13号住居跡出土土物観察表 (第113図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	10.1	3.6		RWW'BB'	B	淡橙	95%	No5 覆土(+8.2cm) 底部色調黒
2	坏	(10.6)	3.2		SW'WRBB'	B	鈍い橙	15%	覆土 胎土全体に粒子細かい
3	坏	(10.0)	4.0		WRS	B	淡橙	40%	覆土 色調一部黒
4	坏	(11.7)	4.2		RD'WWSB	B	鈍い橙	40%	覆土
5	坏	(11.6)	4.6		WW'RSB	B	橙	30%	No3 貯穴床面
6	坏	(12.8)	4.4		SW'BRWB	B	橙	20%	覆土 胎土きめ細かい 作りもていねい
7	坏	12.0	5.2		RBWW'S	B	淡赤橙	70%	No2 カマド左袖(+6.6cm)
8	坏	12.0	5.0		WW'RB'B'	B	淡赤橙	85%	No1 覆土(+4.0cm) きめ細かい 体部穿孔
9	高坏		9.5		B'RWBW'	B	橙	20%	覆土 胎土きめ細かい
10	甕	(16.0)	14.5		BRWW'	B	淡赤橙	15%	覆土 胎土ほとんどと砂粒
11	甕	31.8	31.5	5.5	SB'WRW'W'	B	淡赤橙	85%	覆土 SJ12と接合 二次被熱変色
12	甕	17.8	24.9		SRB'W	B	灰白	50%	No2 カマド左袖(+6.6cm) 二次被熱

れ、焼土化していた。

貯蔵穴はカマド右袖に接する形であり、46cm×58cmの楕円形で、深さは約61cmを測る。壁溝はカマド右袖付近と南壁の西端で途切れ、幅が20-22cm、深さは2-6cmである。南壁際では壁の内側を巡っている。

出土遺物は、全て覆土からの出土で、1個だけ出土した編み物石の上面はつるつるしている。



第113回 第13号住居跡出土遺物

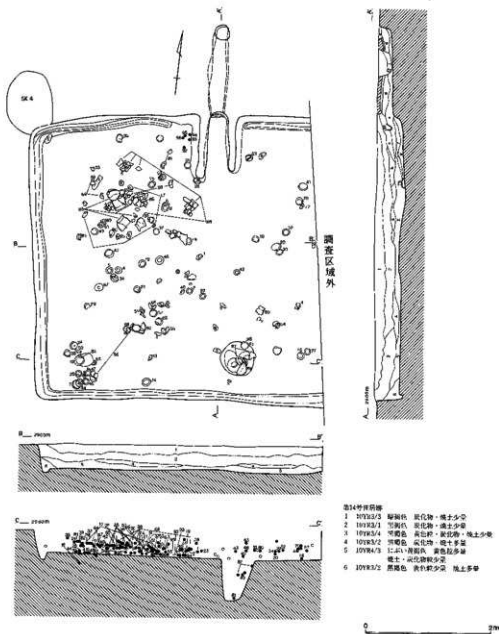
第14号住居跡 (第114・115図)

し-3-7グリッドを中心に位置する。北西コーナーを第4号土壌によって切られ、東側は調査区域外にある。形態は東西に長い長方形と考えられる。規模は西壁が4.25m、南壁は4.59m検出されている。深さは0.36-0.44mで、主軸方位はN-6°-Wを指す。

床面はカマド前面がやや高くなるが、他はほぼ平坦で、壁は垂直に立ち上がる。覆土は6層に分けられ、概ね自然堆積と考えてよいのではないか。

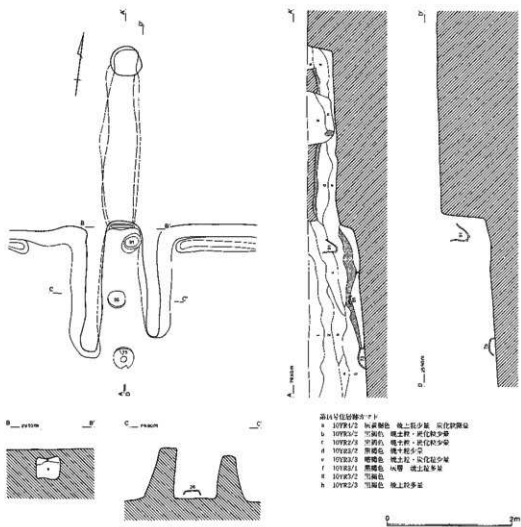
カマドは北壁に設置される。燃焼部の掘り込みは明瞭ではないが、最下層には灰層が厚く堆積し、その上に焼土層が乗る。煙道天井部は一部崩落しているが比較的遺存状態がよく、地山を削り抜いて構築されているのがよくわかる。

貯蔵穴は検出されておらず、調査区域外にある北東コーナー付近と思われる。ピットはカマドの反対側で南壁近くで検出された。直径55cm、深さ約69cmを測る。壁溝はカマド両側から全周すると思われる。幅12-24cm、深さは3-10cmである。



第114図 第14号住居跡

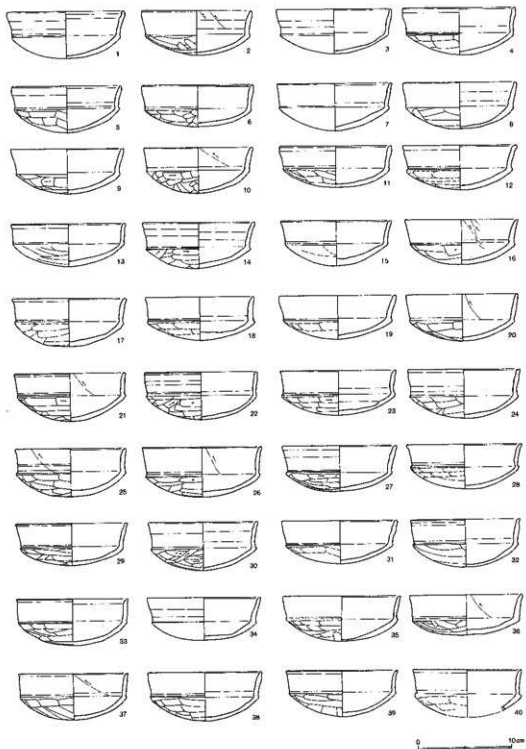
遺物は、全体から大量に出土し、特に土師器壊が多く図示したもの以外にも、口縁部破片を観察すると30個体前後はあるものと思われる。壊のなかには口縁部のヨコナデの抜き上げ痕を残すものが見られる。87は壺の上半部を転用した器台で、89・90は甕または壺の底部を転用した鉢と思われる。編み物石は散在して検出され、かなり大きいものや表面の一部がつるつるになっているものも見られる。



第115図 第14号住居跡カマド

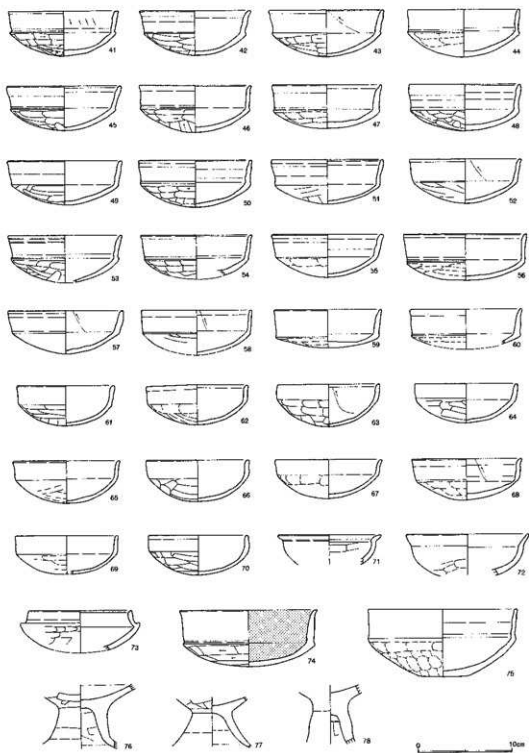
第14号住居跡出土遺物観察表 (第116~119図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	(12.3)	5.1		RHBW	C	鈍い橙	40%	No16 覆土(+4.7cm) 外面磨耗著しい
2	坏	11.7	4.8		RBWS	B	鈍い橙	95%	No20 覆土(+8.0cm) ナア抜き上げ痕2段
3	坏	12.2	4.8		BRBW	B	浅黄橙	100%	No11 覆土(+12.4cm) 内外向磨耗著しい
4	坏	11.9	5.1		RB'BS	C	浅黄橙	80%	No38 覆土(+10.2cm) 一括
5	坏	11.6	5.0		RBWS	B	鈍い橙	90%	No81 覆土(+9.2cm)

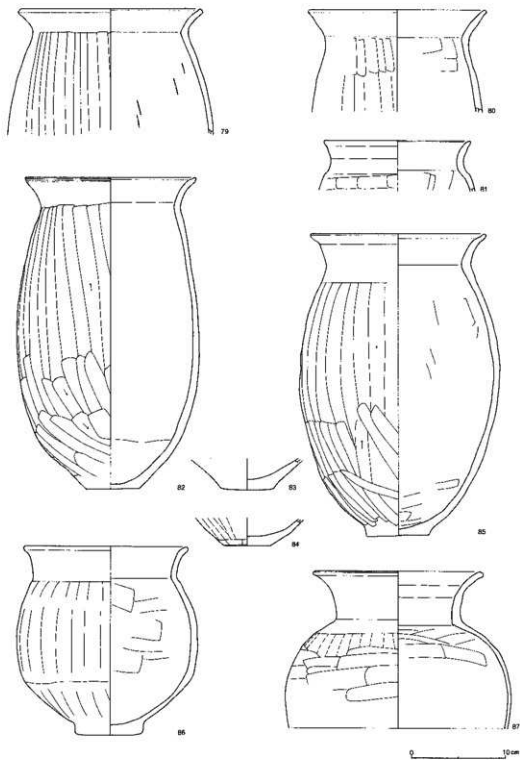


第116图 第14号住居跡出土遺物(1)

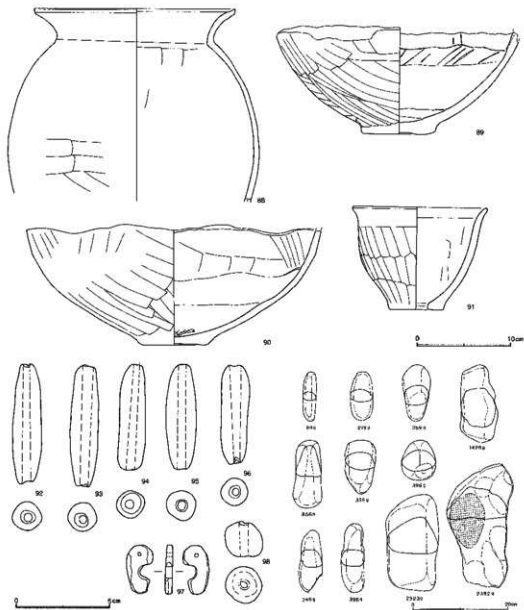
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	施成	色調	残存	出土位置・その他
6	坏	11.8	4.5		BRW'	C	鈍い橙	80%	No10 覆土(+11.3cm)
7	坏	12.2	5.1		RB'BW'	B	鈍い橙	75%	No71 覆土床面 外面磨耗著しい
8	坏	11.7	5.0		RB'W	C	浅黄橙	80%	No113 覆土(+21.8cm) 一拵 内外面磨耗
9	坏	12.0	4.8		BRW	B	浅黄橙	70%	覆土
10	坏	11.2	4.9		RSW	B	鈍い黄橙	95%	No35 覆土(+9.5cm) ナデ抜き上げ明瞭
11	坏	(11.8)	4.4		RWBW'	B	鈍い黄橙	45%	覆土
12	坏	12.1	4.8		RBWS	B	浅黄橙	100%	No83 覆土(+3.8cm)
13	坏	(12.1)	4.6		RB'WBW'	C	鈍い黄橙	50%	No50 覆土(+11.9cm) 内外面やや磨耗
14	坏	12.0	4.9		SWBB'R	A	鈍い橙	100%	No82 覆土(+9.3cm)
15	坏	11.8	4.8		RBWS	A	橙	95%	No9 覆土(+14.3cm) 外面磨耗著しい
16	坏	12.0	4.8		RBWB'	B	浅黄橙	95%	No43 覆土床面 ナデ抜き上げ痕 2段
17	坏	12.1	5.1		RWBW'	B	橙	70%	No87,97他 覆土(+10.8cm)
18	坏	11.5	4.6		W'B'BRW	D	橙	90%	No129 覆土(+14.2cm)
19	坏	12.5	4.7		RBB'WS	A	浅黄橙	100%	No15 覆土(+6.6cm)
20	坏	11.9	5.0		BW'WR	B	橙	100%	No36 覆土(+4.3cm) ナデ抜き上げ痕
21	坏	11.9	5.1		WRB'S	C	鈍い橙	95%	No60 覆土(+9.7cm) ナデ抜き上げ痕
22	坏	11.1	5.1		RWB	A	鈍い黄橙	95%	No118 覆土(+15.2cm)
23	坏	12.4	4.8		RBW'S	C	浅黄橙	100%	No22 覆土(+10.2cm)
24	坏	11.9	5.2		BWRB'	A	橙	100%	No76 覆土(+18.3cm) 外面やや磨耗
25	坏	11.8	5.1		RSB'W	B	橙	95%	No72 覆土床面 外面口縁にナデ抜き上げ
26	坏	12.7	5.3		RWB	A	橙	95%	No131 カマド(+6.0cm)
27	坏	12.1	4.9		RWSBB'	B	橙	100%	No42 覆土(+12.0cm)
28	坏	12.2	4.8		BWB'R	C	浅黄橙	90%	No8 カマド左袖(+11.3cm) 磨耗著しい
29	坏	(11.8)	4.5		B'RBWS	B	浅黄橙	45%	No78 覆土(+15.3cm)
30	坏	11.6	5.2		SBRB'	A	浅黄橙	95%	No37 覆土(+7.7cm)
31	坏	12.2	4.6		RBWB'	C	浅黄橙	95%	No6 カマド左袖(+21.4cm) 磨耗著しい
32	坏	(11.5)	5.1		RHB'W	B	鈍い橙	50%	No88 覆土(+12.8cm)
33	坏	(12.0)	5.0		W'B'RS	A	橙	50%	No104 覆土(+20.4cm) ていねいな作り
34	坏	(12.1)	4.5		RBB'SW	C	浅黄橙	50%	No80 覆土(+9.7cm) 内外面磨耗著しい
35	坏	12.4	4.9		RWBWB'	C	橙	80%	No111 覆土(+8.3cm) 底部極めて薄い
36	坏	11.8	4.3		B'RW	C	橙	80%	No2,3 覆土床面 内面口縁ナデ抜き上げ
37	坏	11.7	5.0		BRW'W	B	鈍い黄橙	90%	No86 覆土(+10.0cm) ナデ抜き上げ痕
38	坏	12.2	5.2		RBWSB'	C	浅黄橙	95%	No77 覆土(+24.3cm) 内外面やや磨耗
39	坏	(11.9)	4.9		WW'BB'S	B	橙	50%	No75 覆土(+20.4cm)
40	坏	11.4	5.1		BW'R	B	浅黄橙	70%	No21 覆土(+8.7cm) 内外面磨耗著しい
41	坏	11.7	4.8		SB'W	B	橙	100%	No27 覆土(+16.0cm) 口縁に粘土継目か
42	坏	11.8	4.8		RB'W	A	灰白	100%	No85 覆土(+8.6cm)
43	坏	12.1	5.0		RWB'	A	浅黄橙	95%	No23 覆土(+7.7cm) 口縁ナデ抜き上げ痕
44	坏	11.9	5.1		RWBW'	C	橙	100%	No70 覆土床面 内外面磨耗著しい
45	坏	12.1	4.8		BRB'W	C	鈍い橙	100%	No46 ビット1周辺
46	坏	11.8	5.0		RSBB'WW'	B	浅黄橙	90%	No69 覆土床面
47	坏	11.5	4.6		RBWW'	B	浅黄橙	90%	No68 覆土(+2.2cm) 外面磨耗著しい
48	坏	11.8	5.0		WBH'RS	B	浅黄橙	95%	No84 覆土(+4.8cm)
49	坏	12.2	4.7		RB'WB	B	浅黄橙	100%	No95 覆土(+14.1cm)
50	坏	12.1	5.0		RBWS	B	浅黄橙	95%	No62 覆土(+4.7cm)
51	坏	(11.7)	4.8		RWB'B'	B	鈍い黄橙	40%	No65 覆土(+5.6cm) 外面磨耗著しい
52	坏	11.8	4.8		B'BRW	B	浅黄橙	95%	No7 覆土(+10.9cm) 口縁ナデ抜き上げ痕
53	坏	12.1	5.1		RWW'BS	B	鈍い黄橙	75%	No4 覆土(+15.3cm) 内外面やや磨耗



第117图 第14号住居跡出土遺物(2)



第118図 第14号住居跡出土遺物(3)



第119図 第14号住居跡出土遺物(4)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
54	坏	11.8	4.7		B'RW'S	C	鈍い橙	70%	No39 覆土(+9.2cm)
55	坏	11.8	4.6		RBW'W'	C	淡橙	90%	No52 覆土(+6.1cm) 内外面磨耗著しい
56	坏	13.0	5.0		BWRW'	C	鈍い橙	80%	No64, 67 覆土床面 一括 外面やや磨耗
57	坏	12.2	4.6		WBB'R	B	鈍い黄橙	100%	No54 覆土(+6.1cm) 内面ナメ抜き上げ痕
58	坏	11.8	4.8		RB'BW'W	C	橙	80%	No64 覆土(+6.5cm) 外面底部剝落
59	坏	11.3	4.1		RBW'WS	C	浅黄橙	85%	No102 覆土(+18.3cm) 内外面磨耗著しい
60	坏	11.7	4.3		BB'W'	B	鈍い黄橙	75%	覆土 胎土緻密 内外面磨耗著しい
61	坏	10.2	4.3		RWB'	A	橙	95%	No98 覆土(+14.3cm)
62	坏	10.7	4.3		WRB'	B	浅黄橙	95%	No66 覆土床面 内外面やや磨耗

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
63	坏	10.7	4.5		RBW'W	C	鈍い橙	80%	No25 覆土(+17.5cm) ナデ抜き上げ痕
64	坏	10.8	4.2		WRB'	B	鈍い橙	70%	No101,105 覆土(+14.7cm)
65	坏	11.2	4.5		BRW'W	C	鈍い橙	60%	No94 覆土(+16.8cm) 内外面磨耗著しい
66	坏	10.7	4.4		RBW	B	鈍い橙	70%	No55 覆土(+7.5cm)
67	坏	11.3	4.1		RB'WB'	B	鈍い橙	100%	No79 覆土(+13.2cm) 外面磨耗著しい
68	坏	11.6	4.4		BRWB'S	C	淡 橙	80%	No53 覆土(+6.1cm) ナデ抜き上げ痕
69	坏	(10.8)	4.6		BB'WR	B	鈍い橙	50%	No99 覆土(+15.6cm) 一括 外面磨耗著しい
70	坏	10.5	4.2		BRW	A	橙	100%	No28 覆土(+14.0cm) 胎土緻密
71	椀	(11.0)	3.2		WW'B'	B	黒 褐	10%	覆土 外面調整不明
72	椀	12.9	4.4		B'WBRW'	B	鈍い橙	15%	覆土 外面磨耗著しい
73	坏	(10.9)	4.5		BWB'SR	B	橙	20%	覆土
74	坏	14.6	6.0		BRW'W	A	橙	90%	No49 覆土(+2.4cm) 内面黒色処理
75	鉢	15.8	7.2	5.4	SWBB'R	C	橙	85%	No130 カマド床面
76	高坏		7.9		SWBRW'	B	橙	75%	覆土 全体に歪み有り 雑な作り
77	高坏		5.5		BB'RW'W'	B	鈍い橙	60%	No29 覆土(+16.1cm) やや磨耗
78	高坏		6.4		WBB'WR	B	橙	70%	覆土 内外面磨耗著しい 雑な作り
79	甕	(19.0)	13.5		SB'WR	B	橙	30%	No5,120 覆土(+14.4cm)
80	甕	(18.5)	11.0		SB'BW	B	鈍い橙	25%	No41 覆土(+11.5cm) 外面やや磨耗
81	甕	(15.4)	5.4		BRW'W	B	明赤褐	20%	No96 覆土(+20.8cm) 胎土緻密
82	甕	18.2	33.3	5.6	SB'WR	C	浅黄橙	95%	No74 覆土(+13.1cm) 口縁磨耗著しい
83	甕		3.4	5.7	SWW'BB'	C	鈍い橙	70%	覆土 内外面磨耗著しい
84	甕		3.0	(4.8)	BB'W'W'	A	橙	50%	覆土 胎土緻密 底部ヘラケズリ
85	甕	18.5	33.4	6.6	SB'WRW'	B	鈍い橙	80%	No90,92他 覆土(+13.3cm)
86	甕	17.4	20.1	7.0	BB'WR	C	浅黄橙	90%	No123 覆土(+14.7cm) 器面かなり荒れる
87	壺	17.6	16.8		BW'RW	B	浅黄橙	75%	No128 ビット1 転用器台
88	鉢	21.5	20.6		BW'SR	C	浅黄橙	70%	No12,89他 覆土(+11.3cm) 磨耗著しい
89	鉢	25.6	11.4	7.7	WB'BW'	C	鈍い黄橙	100%	No127 ビット1 甕底部を利用した転用鉢
90	蓋	(31.5)	12.3	7.4	SRBW'W'	C	鈍い黄橙	75%	No124,126他 ビット1 転用鉢か
91	飯	14.1	11.0	5.6	SB'WRW'	B	浅黄橙	100%	No132 カマド(+17.0cm)
92	土鍾	No34	カマド左袖床面		WSB'		橙	100%	長6.5cm 径1.6cm 孔0.5cm 重15.39g
93	土鍾	No33	カマド左袖床面		SBWB'		灰白	100%	長6.5cm 径1.6cm 孔0.4cm 重14.15g
94	土鍾	No32	カマド左袖床面		B'WB		灰白	100%	長5.6cm 径1.5cm 孔0.5cm 重15.00g
95	土鍾	No31	カマド左袖床面		B'WBS		鈍い黄橙	100%	長5.6cm 径1.6cm 孔0.5cm 重14.57g
96	土鍾	No31	カマド左袖床面		B'SW		浅黄橙	100%	長5.4cm 径1.5cm 孔0.4cm 重12.41g
97	匂缶		覆土		長さ26.0mm 幅14.0mm 厚さ4.0mm				重量2.42g 滑石製
98	土下	No45	ビット1周辺		WBW'		橙		長1.9cm 径2.0cm 孔0.4cm 重6.84g

第15号住居跡 (第120・121図)

し-5-16グリッドを中心に位置する。残存規模は北壁3.38m、西壁2.50m、深さ0.28~0.36mとなる。主軸方位はN-15°-Wを指す。南東部の大半が調査区域外にあり詳細は不明とせざるを得ない。

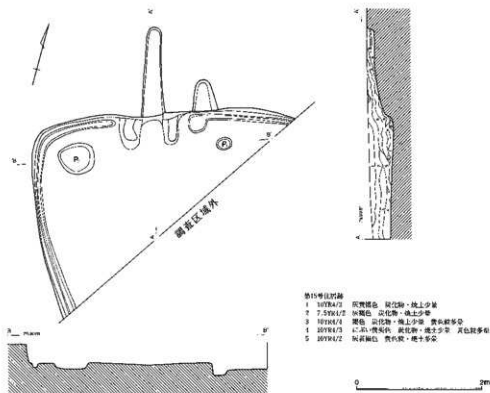
床面はほぼ平坦で、壁は垂直に立ち上がる。覆土は炭化物・焼土粒子を含む黄褐色系の土が主体を占める。

カマドは2基検出され、共に北壁に設置される。カマドAは、北壁のやや西寄りに構築される。

燃焼部の掘り込みは見られず、約1.4mの長い煙道を持つ。袖は褐色の粘質土によって構築されているが、残りは悉く10~15cmの高まりを残す程度である。カマドBは、カマドAの東側に煙道のみ検出された。壁際には壁溝と共に直径約30cmのピットが検出されたが、これがカマドBに伴うものかどうかは確認できなかった。カマドBが先行して造られたと思われる。

ピットは2本検出された。P2は貯蔵穴の可能性もあるが、深さが約11cmと浅すぎるように思える。壁溝はカマドAの両側から全周するようで、幅12~26cm、深さ3~7cmとなっている。

遺物は全て覆土からの出土である。小片が多量に見られるが、接合率が極めて悪く図示できたの

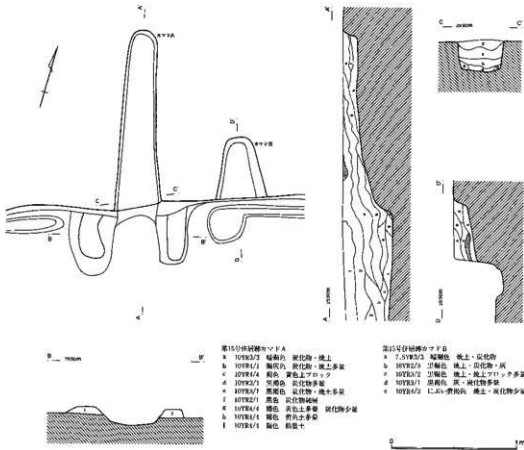


第120図 第15号住居跡

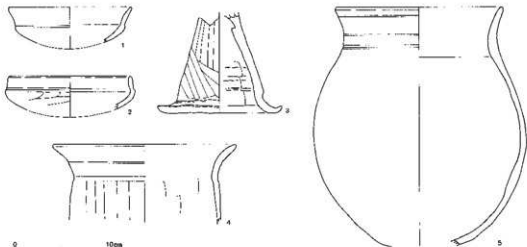
第15号住居跡出土遺物観察表 (第122・123頁)

番号	器種	口径	器高	底径	胎	上	地	色	調	残存	出土位置・その他
1	坏	(12.9)	3.8		RBW'W	B		浅黄橙	20%	覆土	内外面磨耗著しい
2	坏	(12.9)	3.6		WB'RB	B		橙	20%	覆土	内外面やや磨耗
3	高坏		10.8	13.4	B8'RW	B		鈍い橙	85%	覆土	内面接合痕明瞭
4	甕	19.5	8.4		SBWR	B		鈍い橙	60%	覆土	内外面やや磨耗
5	甕	17.8	25.6		SWW'	C		橙	60%	覆土	内外面磨耗著しい
6	甕				WB'W'	C		灰		覆土	
7	甕				WW'	A		灰白		覆土	
8	甕				WB'W'	C		灰黄		覆土	
9	甕				WW'	B		褐灰		覆土	

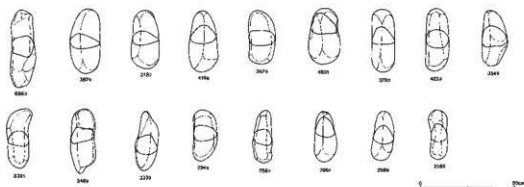
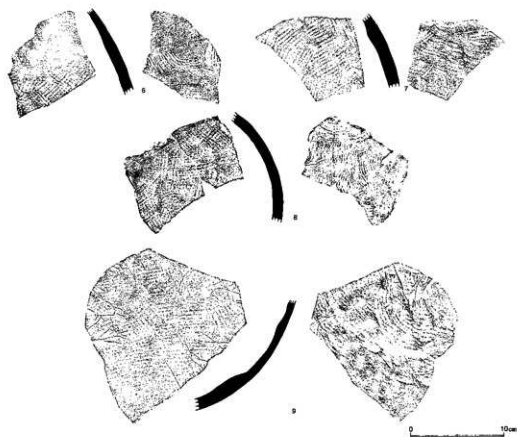
は僅かである。出土土器は大半が土師器で、坏・甕が認められる。3は高坏の脚部と思われる。須志器は葉刺部片が6片見られた。所謂編み物石は17個出土している。



第121図 第15号住居跡カマド



第122図 第15号住居跡出土遺物(1)

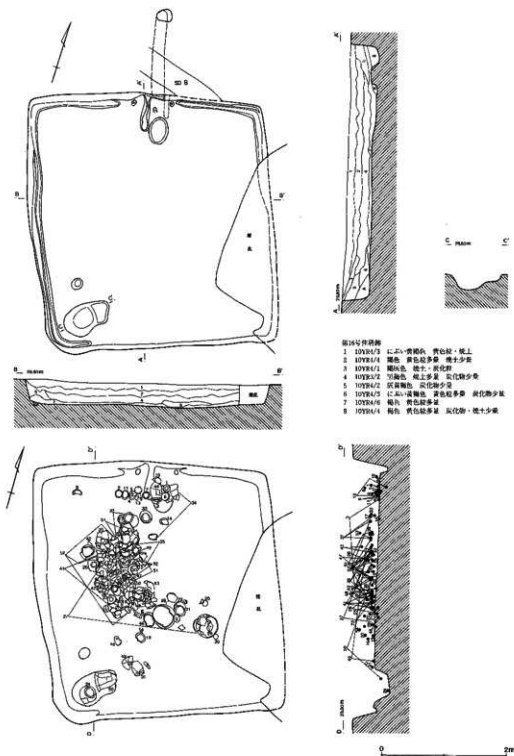


第123図 第15号住居跡出土遺物(2)

第16号住居跡 (第124・125図)

しー5-21グリッドを中心に位置する。第8号溝跡と重複し、木住居跡が古い。東壁の一部は擾乱によって大きく壊されている。形態は概ね方形で、規模は長軸4.10m、短軸3.84m、深さ0.34～0.41mである。主軸方位はN-19°-Wを指す。

床面は平坦で、カマド周辺が僅かに低くなっている。壁はやや聞き気味に立ち上がる。覆土は8層に分かれ、炭化粒子・焼土・黄褐色粒子を含む土で構成されている。

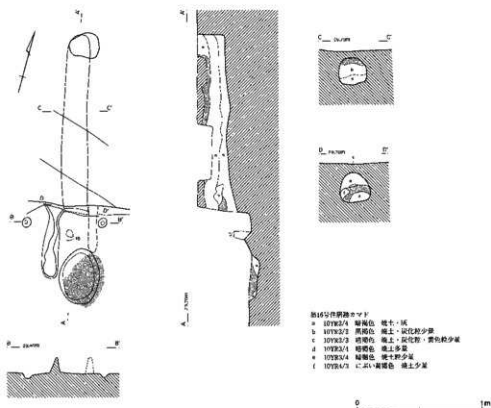


第124図 第16号住居跡

カマドは北壁のほぼ中央に設置される。燃焼部は44×33cm、深さ7cmの楕円形に掘られ、焼土が少量に充塞しており、その奥には土製の支脚が直立していた。右側の軸は検出できなかった。煙道天井部は第8号溝跡に壊されている部分以外は残存し、地山を削り抜いて構築されているのが判る。袖の左右両側に小ピットが各1本検出され、カマドとの関連が想定できる。

貯蔵穴は南西コーナーに位置し、79cm×42cmの不正楕円形で、東側に段を持ち、最深部は25cmを測る。ピットは貯蔵穴の北側に1本検出されたが、住居跡に伴うものかは確認できなかった。壁溝は南壁以外で検出され、幅16～24cm、深さ2～10cmである。

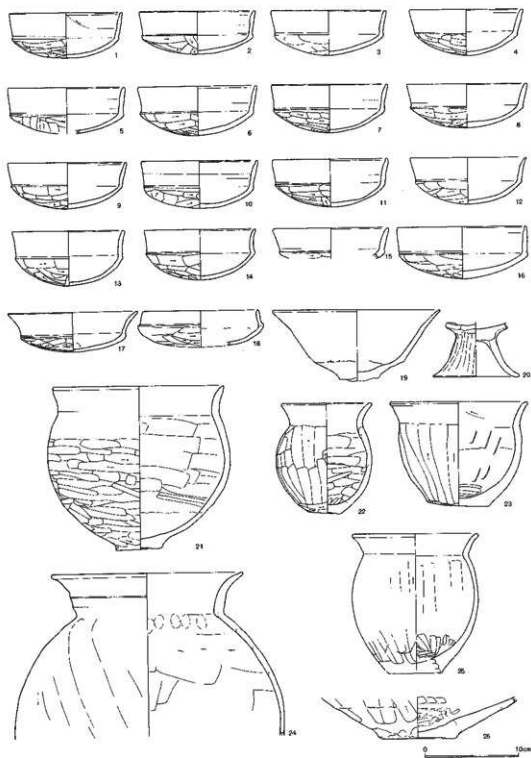
遺物は、住居跡中央よりやや西で、大量の土器が集中して出土している。



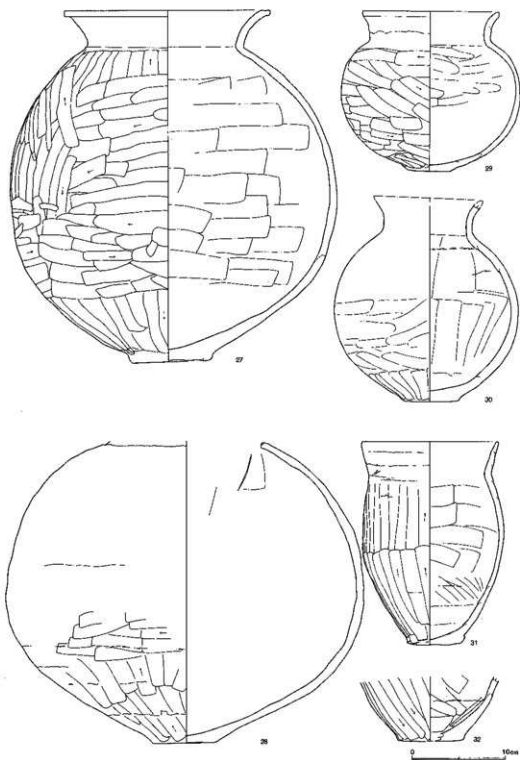
第125図 第16号住居跡カマド

第16号住居跡出土土物観察表 (第126～131頁)

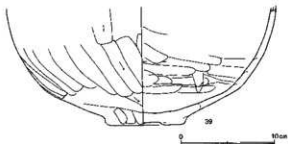
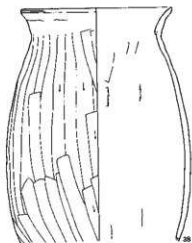
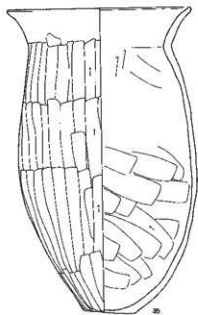
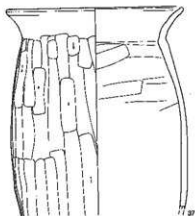
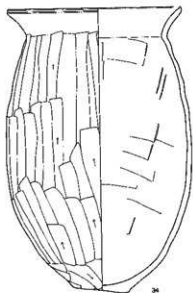
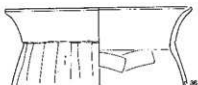
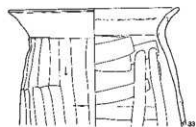
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	11.9	4.8		SW'WR	B	鈍い赤褐色	100%	No12 カマド(+19.0cm) 胎土粒子細かい
2	坏	12.2	4.6		SW'WR	B	橙	95%	No2 覆土床面
3	坏	12.4	4.8		SW'WBR	B	淡橙	80%	No9,23 覆土(+8.1cm)
4	坏	12.0	4.9		WW'BR	B	橙	100%	No5 覆土(+4.6cm)
5	坏	12.4	4.9		WW'BR	B	黒褐色	60%	No4 覆土(+4.0cm) 覆土
6	坏	12.6	5.3		WW'BSR	B	橙	100%	No13 カマド(+22.7cm)
7	坏	12.4	5.2		WR'WS	B	橙	100%	No8 カマド左軸(+11.7cm)



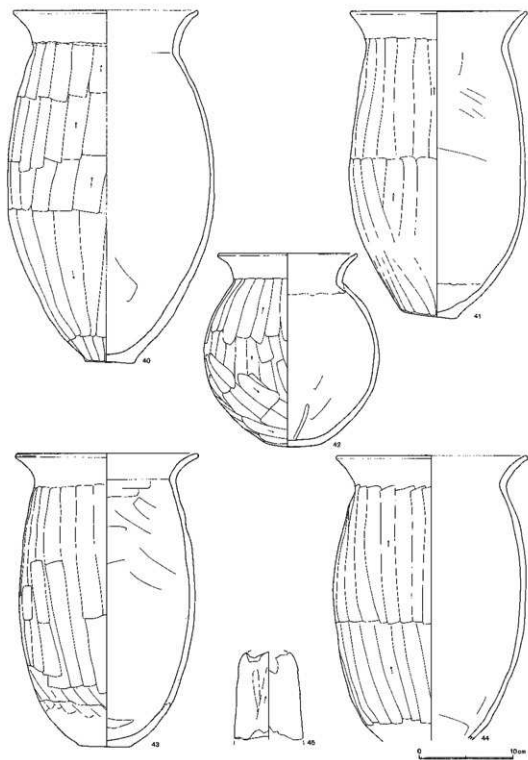
第126圖 第16号住居跡出土遺物(1)



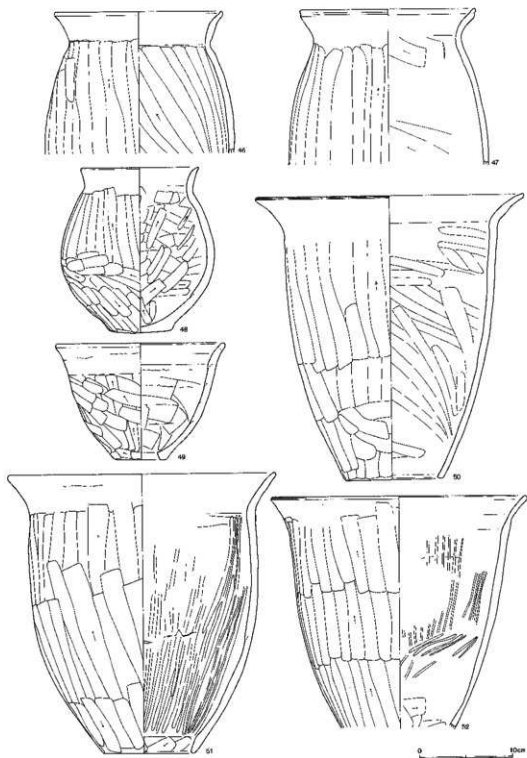
第127图 第16号住居跡出土遺物(2)



第128図 第16号住居跡出土遺物(3)

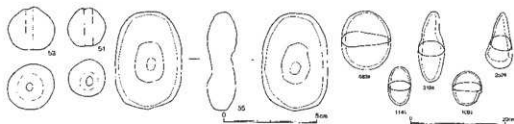


第129圖 第16号住居跡出土遺物(4)



第130図 第16号住居跡山土遺物(5)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
8	坏	12.9	4.7		SWB'W'R	B	橙	80%	No1,23 覆土(+8.1cm) 覆土
9	坏	12.6	4.9		SW'W'RB	B	橙	85%	No5,6 覆土床面
10	坏	12.4	5.0		W'BS'WR	B	黒褐	80%	No11 カマド(+11.0cm) 二次被熱
11	坏	12.2	5.1		SW'W'RB	B	橙	95%	No3 覆土(+2.3cm)
12	坏	12.4	5.0		SW'W'R	B	橙	90%	No72 覆土(+7.5cm) 覆土 二次被熱
13	坏	12.0	5.8		SW'W'RB	B	橙	90%	No5,7 覆土床面
14	坏	11.9	5.4		WRH'W'S	B	橙	50%	No15 覆土床面 胎土ザラつく
15	坏	(12.3)	3.3		SBW	B	鈍い橙	20%	No64 覆土(+6.8cm)
16	坏	13.7	5.6		SW'BR	B	鈍い橙	60%	No30 覆土(+10.6cm)
17	坏	13.7	4.2		W'WRBB'	B	橙	60%	No19 覆土(+14.5cm) 胎土ザラつく
18	坏	(12.2)	3.7		SW'W'B	B	鈍い橙	10%	カマド
19	高坏	17.7	7.7		SBRW'B	B	鈍い橙	90%	No31 覆土(+4.5cm) 覆土 色調内橙
20	高坏		5.8	(9.3)	SBB'WR	B	橙	75%	No28 覆土(+15.3cm) 覆土 接合部で割離
21	鉢	18.2	17.6	5.0	WW'BB'R	B	浅黄橙	95%	No45 覆土(+3.4cm) ケズリていない
22	甕	9.5	12.7	3.4	WBW'BR	B	鈍い橙	95%	No45 覆土(+3.4cm) 覆土
23	甕	14.5	11.2	6.8	SB'BR	B	橙	95%	No48 覆土床面
24	甕	20.5	17.6		RSWB	A	橙	80%	No76 ビット1床面
25	甕	13.2	14.9	(5.7)	SWRHH'	B	橙	90%	No26 覆土(+4.6cm)
26	壺		4.4	8.0	BB'RW	B	灰白	85%	No43 覆土(+12.2cm)
27	壺	21.8	37.7	8.0	SWBB'R	B	灰白	70%	No46,74 覆土床面
28	壺		32.1	7.0	SWB'W'BR	B	灰白	95%	No24,47 覆土(+3.6cm)
29	壺	14.5	17.1	4.7	SBW'W'	B	橙	90%	No56 覆土(+4.3cm)
30	壺	(11.5)	22.0	6.2	SW'W'BR	B	明褐色	60%	No21 覆土(+5.4cm) 磨耗著しい
31	甕	14.4	21.8	6.0	RB'W	B	灰白	95%	No33 覆土(+4.5cm) 胎土に小石を含む
32	甕		6.9	7.0	SWB'W'RB	B	灰褐	70%	No74 覆土(+8.5cm)
33	甕	17.9	12.7		SWBB'	B	灰褐	70%	No16 覆土(+13.1cm) 覆土
34	甕	18.5	30.5	5.9	SRB'W'	B	浅黄橙	90%	No14,17 覆土(+2.3cm)
35	甕	(19.4)	32.2	5.7	SBW'B	B	淡橙	60%	No58,62他 覆土(+5.3cm)
36	甕	(20.0)	8.4		SBB'WR	B	鈍い橙	30%	No68,73 覆土(+6.6cm)
37	甕	18.8	22.1		SB'WHH	B	明赤褐	85%	No18,55他 覆土(+8.5cm) 覆土
38	甕	16.1	25.1		SBB'RW	B	橙	40%	No73 覆土(+7.9cm)
39	壺		12.6	8.5	SW'BR	B	鈍い橙	70%	No52 覆土(+12.2cm) 外面磨耗
40	甕	(18.6)	38.2	5.0	SWB'	B	灰赤	40%	No51,68他 覆土(+6.6cm)
41	甕	18.8	32.8	6.2	SB'WR	B	淡橙	80%	No49,66他 覆土(+4.4cm) 二次被熱
42	甕	(14.8)	21.7	5.7	SB'WR	B	橙	75%	No44,74 覆土(+8.5cm) 丸底?
43	甕	19.3	31.3	5.7	SBB'RB	B	橙	90%	No22 覆土床面 色調一部黒
44	甕	(20.6)	30.5		SB'WW'RB	B	浅黄橙	60%	No10 カマド(+7.0cm) 二次被熱
45	支脚	覆土			W'B	B	鈍い橙		残高9.3cm 胎土きめ細かくもろい
46	甕	17.8	15.1		SRBWW'	B	浅黄橙	60%	No38 覆土(-2.5cm)
47	甕	18.5	16.4		SWB'	B	灰白	60%	No51,65他 覆土(+7.9cm)
48	甕	12.4	17.6	6.9	SWBB'R	B	鈍い橙	95%	No22,23他 覆土床面 覆土 色調一部黒
49	甕	17.9	12.5	5.4	RSWW'RB	B	橙	90%	No34,61 覆土(+4.1cm) 覆土 色調一部黒
50	甕	28.7	30.3	10.1	SWW'BR	B	橙	100%	No73,75 覆土(+7.9cm)
51	甕	28.3	29.8	9.5	SBWW'RB	B	鈍い橙	90%	No54,59他 覆土(+7.9cm) 覆土
52	甕	27.1	24.8		SWB'W'BR	B	橙	85%	No50,53他 覆土(+2.7cm)
53	土土	No20	覆土(+30.5cm)		WBW'B'		橙		長2.3cm 径2.5cm 孔0.4cm 重14.07g
54	土土	No29	覆土(+26.5cm)		WBW'B'		鈍い橙		長2.1cm 径2.0cm 孔0.5cm 重7.83g
55	円形石状石製品	No42	覆土(+25.9cm)						長さ10.4cm 幅7.0cm 厚さ3.2cm 重量335g 角閃石安山岩製



第131図 第16号住居跡出土遺物(6)

第17号住居跡 (第132・133図)

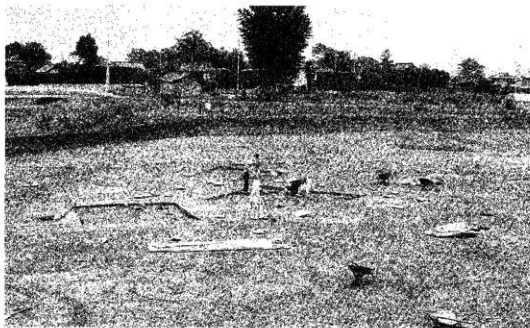
しー5-23グリッドを中心に位置する。東半を第7号溝跡によって大きく壊されている。規模は西壁が4.80mで、北壁は2.90m検出されている。深さは0.36~0.54mで、主軸方位はS-74°-Wを指す。

床面はほぼ平坦で、壁は垂直に立ち上がる。覆上の観察はできなかった。

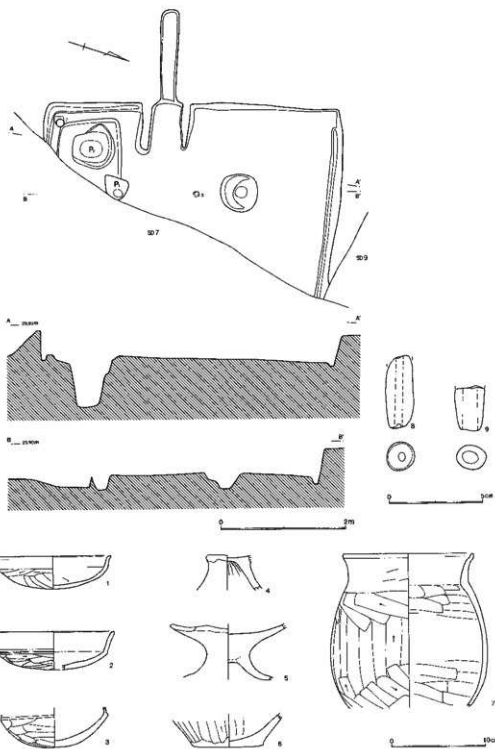
カマドは西壁中央よりやや南寄りに設置される。燃燒部の掘り込みはなく、垂直に立上って煙道となる。燃燒部の下層には灰層が堆積し、その上層には僅かではあるが焼土層がある。

貯蔵穴は南西コーナーに位置する。94cm四方の方形の浅い落ち込みの中に60cm×70cmで楕円形の貯蔵穴がある。深さは約77cmと深い。ピットは2本検出され、柱穴と思われる。壁溝は西壁のカマド右側以外で検出され、幅14~24cm、深さ5~10cmである。

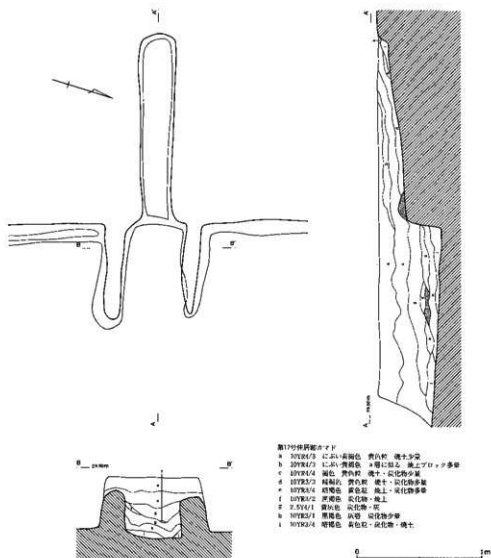
出土遺物は少なく、全て土師器の小片である。図示したもの以外には坏・高坏・甕片が少量見られる。



発掘作業風景



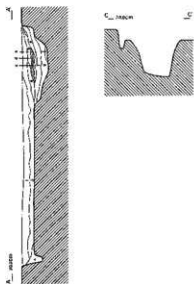
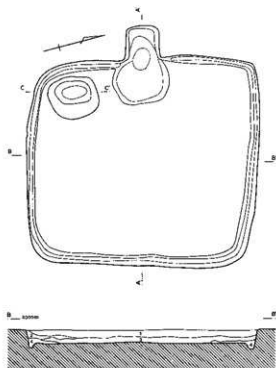
第132图 第17号住居跡・出土遺物



第133図 第17号住居跡カマド

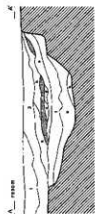
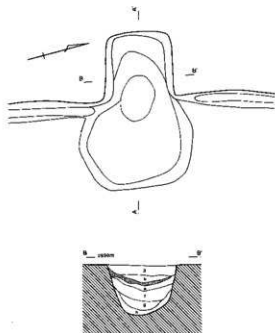
第17号住居跡出土遺物観察表 (第132図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	(12.6)	3.5		WB'BR	B	黒	25%	貯穴 色調外一部灰白 内暗赤褐色は橙
2	坏	(13.1)	4.1		B'BW'WR	B	淡橙	55%	カマド 一括 胎土きめ細かい
3	坏		4.3		RWW'	B	浅黄橙	80%	No2 覆上(+3.0cm) 胎土きめ細かい
4	高坏		3.8		SBW'W'BR	B	橙	95%	一括 胎土きめ細かい
5	高坏		6.0		SW'B'WR	B	橙	80%	覆土
6	甕		3.6	7.3	SWB'W'BR	B	鈍い橙	50%	一括 色調一部黒褐
7	甕	14.0	16.5		SB'RW	B	浅黄橙	60%	No1 覆上(-3.0cm) 整形がいていい
8	土鉢	一括			SWBW'		橙		残3.9cm 径1.5cm 孔0.4cm 重9.29g
9	土鉢	覆上			WSBW'		明赤褐		残2.4cm 径2.6cm 孔0.9cm 重4.71g



- 第18号住居跡
- 1 10YK3/1 暗褐色 黄包粒・灰化物・焼土少量
 - 2 10YK3/2 暗褐色 黄包粒少量 灰化物・焼土少域
 - 3 10YK3/3 暗褐色 黄包粒少量 灰化物・焼土少域
 - 4 10YK3/2 暗褐色 黄包粒・灰化物・焼土少量

0 2m



- 第18号住居跡のオマケ
- a 10YK2/3 暗褐色 黄包粒少量 焼土・灰化物
 - b 10YK2/2 灰黄褐色 焼土・灰化物・灰
 - c 10YK4/2 灰黄褐色 焼土・灰化物・焼土・プロシク灰
 - d 10YK4/2 灰黄褐色 灰化物・焼土少域
 - e 2.5Y3/1 暗褐色 灰化物・灰少量
 - f 10YK2/3 暗褐色 黄包粒・灰化物少量
 - g 10YK2/4 暗褐色 黄包粒・灰化物少量
 - h 10YK2/4 オリーブ褐色 黄包粒少量

0 1m

第134図 第18号住居跡

第18号住居跡 (第134図)

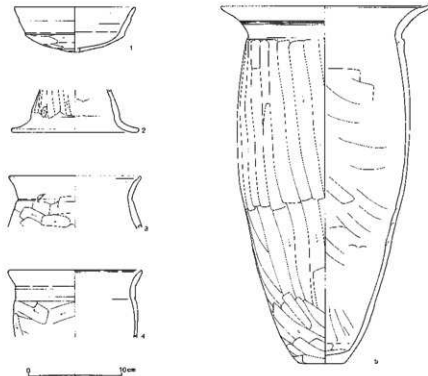
しー5-24グリッドを中心に位置する。形態は方形で、規模は長軸3.72m、短軸3.40m、深さ0.18~0.22mである。主軸方位はN-74°-Wを指す。

床面はほぼ平坦で、壁は僅かに開き気味に立ち上がる。覆土は4層に分けられ、概ね自然堆積と思われる。

カマドは西壁中央に設置される。燃焼部の掘り込みは22cmと深く、覆土中層には焼土層が明瞭に残る。袖は検出されなかった。

貯蔵穴は南西コーナーに位置し、69cm×80cmの楕円形で、深さは約60cmを測る。壁溝はカマド両側から全周し、幅12~24cm、深さ6~15cmである。

遺物は覆土からの出土で、余て土師器である。破片はやや多めに見られるが、接合率が極めて悪く、図示できるものは少ない。



第135図 第18号住居跡出土遺物

第18号住居跡出土遺物観察表 (第135図)

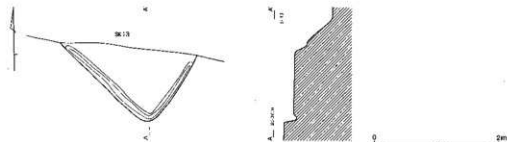
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	地色	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	(13.0)	4.8		W'B'W	B	黒褐	25%	覆土
2	高坏		4.6	13.7	B'W'W	A	黒褐	50%	カマド 内面黄灰色
3	甕	(14.0)	5.4		B'W'WR	B	浅黄橙	20%	覆土 胎土きめ細かい
4	鉢	(14.2)	7.2		W'SBR	B	鈍い橙	25%	覆土 胎土きめ細かい
5	甕	22.0	38.2	5.0	SBB'W	B	灰白	60%	覆土

第19号住居跡 (第136図)

す-5-4グリッドを中心に位置し、大半を第13号土壌によって埋されている。南コーナーを検出したのみで、残存規模は南西壁が1.76m、南東壁1.26mで、深さは0.16mである。主軸方位は南西壁を基準にするとN-46°-Wとなる。

床面は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。覆土は不明である。壁溝は検出された部分ではほぼ全周するが、途切れる可能性が高いと思われる。

遺物は全く出土しなかった。



第136図 第19号住居跡

第20号住居跡 (第137・138図)

す-5-7グリッドを中心に位置する。第8号溝跡、第10号井戸跡と重複し、本住居跡が一番古い。第8号溝跡は浅いため住居跡の床面は残っていた。形態は方形で、規模は長軸5.16m、短軸5.14m、深さ0.10~0.18mである。主軸方位はN-12°-Eを指す。

床面は中央付近が僅かに低くなり、壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土の観察はできなかった。

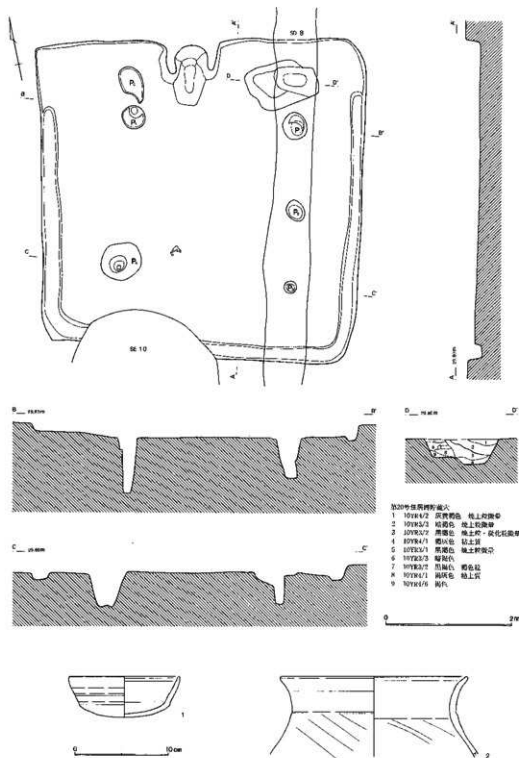
カマドは北壁中央よりやや西に設置される。燃焼部は床面を20cm程掘り下げ、皿状となっており、壁外には出ないようである。覆土中層には焼土ブロック・焼土粒子を多く含むが、他ではあまり見られない。

貯蔵穴はカマド右側に位置し、70cm×120cmの楕円形で、深さは約48cmを測る。断面観察から掘り直しがされており、東側の小さいものが新しい。2層と3層の間には炭化物が薄く堆積していた。ピットは6本検出された。P1・P3~5が柱穴と考えられる。P2は深さが10cmと浅いが、P1とP3の線上に位置する。P6は深さ7cmで、形態もやや歪んでおり住居跡に伴うかどうか疑問が残る。壁溝は北壁以外で検出され、幅が20~32cmと広く、深さ5~13cmとなっている。

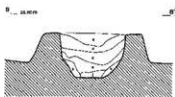
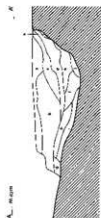
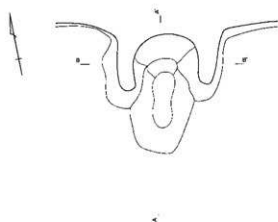
出土遺物は少なく、余て小片である。図示したもの以外には土師器壊と甕が見られるが、3cm以下の細片となっている。器種不明の須恵器小片が1片出土している。

第20号住居跡出土遺物観察表 (第137図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成色	測	残存	出土位置・その他
1	坏	(11.8)	4.3		WBB'WR	B	淡橙	50%	覆土内外面磨耗著しい
2	甕	(19.8)	8.6		B'WR	C	灰褐	25%	覆土内外面やや磨耗



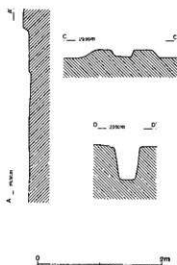
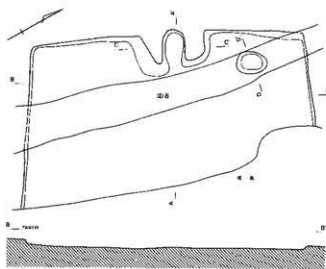
第137图 第20号住居跡・出土遺物



- 第20号住居跡カマド
- a 10YR3/2 黒褐色 焼土跡、炭化粒少量
 - b 10YR3/3 暗褐色 焼土跡、炭化粒、褐色粒少量
 - c 10YR3/4 暗褐色 焼土跡、炭土フリツク、褐色粒多量
 - d 10YR3/1 黒褐色 炭屑、炭土粒多量
 - e 10YR3/2 黒褐色 焼土層状、焼土粒、褐色粒多量
 - f 10YR3/3 暗褐色 焼土粒、褐色粒多量
 - g 10YR3/2 暗褐色 褐色粒多量
 - h 10YR3/3 暗褐色 褐色粒多量、焼土粒少量
 - i 10YR3/4 暗褐色 焼土粒和炭屑
 - j 10YR4/4 褐色 焼土粒多量
 - k 10YR4/4 褐色 焼土粒和炭屑

0 1m

第138図 第20号住居跡カマド



第139図 第21号住居跡・出土遺物

第21号住居跡 (第139図)

すー5-12グリッドを中心に位置する。第8号溝跡に切られ、東半は攪乱によって大きく壊されている。形態は方形になると思われる。規模は西壁が4.35m、南壁は2.62m検出されている。深さは0.04~0.10mである。主軸方位はN-60°-Wを指す。

床面は平坦で、壁は開き気味に立ち上がる。覆土の観察はできなかった。

カマドは西壁中央に設置される。遺存状態は悪く、燃焼部の掘り込みも見られない。

貯蔵穴はカマド右側に位置し、38cm×50cmの楕円形で、深さは約52cmを測る。

出土遺物は極めて少なく、図示した以外には土師器片が数片あるのみである。

第21号住居跡出土遺物観察表 (第139図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成色調	残存	出土位置・その他
1	甕		3.0		WWS	A 灰	15%	覆土
2	坏	(12.5)	3.0		B'W'W	B 橙	10%	覆土 内外面磨耗著しい
3	坏	(13.0)	3.7		WB'WR	B 鈍い黄橙	15%	覆土 内外面磨耗著しい

第22号住居跡 (第140図)

すー5-17グリッドを中心に位置する。北西部を第7号溝跡に大きく抉られ、南東コーナーは第8号溝跡に切られる。形態は方形で、規模は長軸4.80m、短軸4.62m、深さ0.20~0.30mである。主軸方位はN-37°-Wを指す。

床面は平坦で、壁は開きながら立ち上がる。カマドは検出されなかった。第7号溝跡に壊された北壁、或いは西壁にあったと推察される。ピットは1本検出された。壁溝は南西コーナーでのみ検出され、幅32~36cm、深さ4~8cmを測る。

出土遺物はP1周辺で多く出土している。何れも小片で接合率が悪く、図示できるのは3点に留まった。これ以外には土師器環・甕の小片が少量と、器種不明の須恵器が2片ある。

第22号住居跡出土遺物観察表 (第140図)

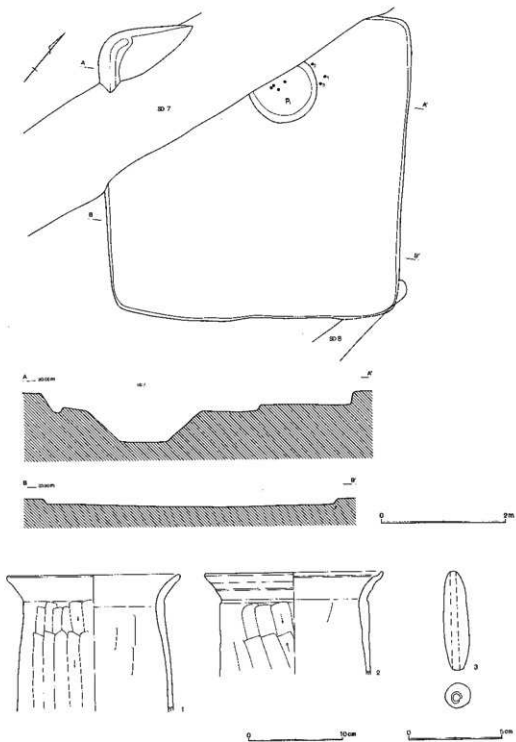
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成色調	残存	出土位置・その他
1	甕	(18.3)	14.6		SBRW	B 浅黄橙	30%	No3,4 ピット1周辺床面
2	甕	(19.0)	10.9		SW'BR	B 鈍い黄橙	20%	No3 ピット1周辺床面
3	土鏝	No5			ピット1周辺床面	WWS		長5.3cm 径1.4cm 孔0.4cm 重8.95g

第23号住居跡 (第141・142図)

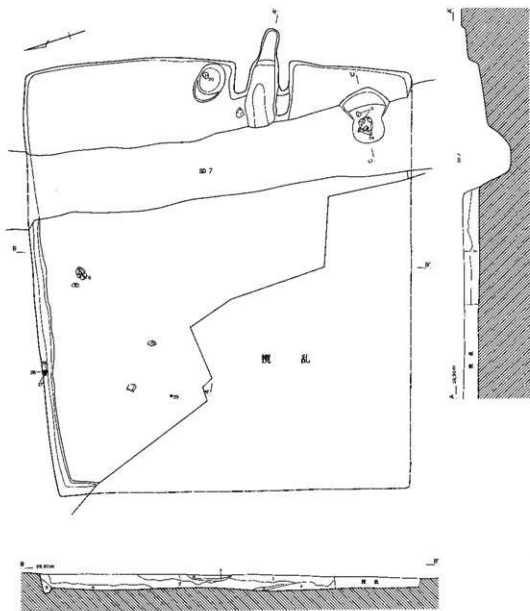
すー5-13グリッドを中心に位置する。第7号溝跡によって南北に大きく切られ、南西部は攪乱で壊されている。形態は東西にやや長い長方形で、規模は残存している北壁で6.74m、東壁で6.18m、深さ0.18~0.24mである。主軸方位はS-77°-Eを指す。

床面はやや起伏があり、壁は垂直に立ち上がる。覆土は7層に分けられるが、やや不自然な堆積状態を示している。第6・7層は住居跡とは関係ないと判断した。

カマドは東壁中央よりやや南寄りに設置される。前面を第7号溝に抉られるが、ほぼ全容は掴



第140図 第22号住居跡・出土遺物



第23号住居跡

- | | | | |
|---|---------|-----|-----------------------------|
| 1 | 10YR3/7 | 暗褐色 | 炭化灰・褐色粘壤土 |
| 2 | 10YR2/1 | 暗褐色 | 炭化灰・褐色粘土 |
| 3 | 10YR3/3 | 暗褐色 | 炭化灰多量 粘土粘少量 |
| 4 | 10YR4/4 | 褐色 | 暗褐色多量 |
| 5 | 10YR3/1 | 暗褐色 | 白色灰(灰土)多量 |
| 6 | 10YR3/1 | 暗褐色 | 褐色粘多量 灰土多量(灰土) |
| 7 | 2.5Y4/1 | 黄褐色 | 褐色粘多量 粘土質 S 2.5 2.5 4.0 5.0 |



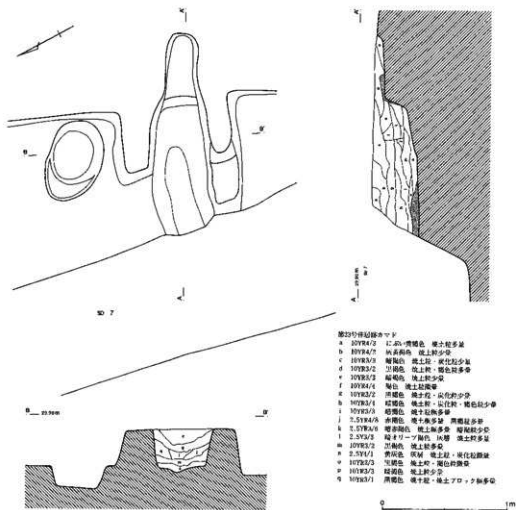
0 2m

第141图 第23号住居跡

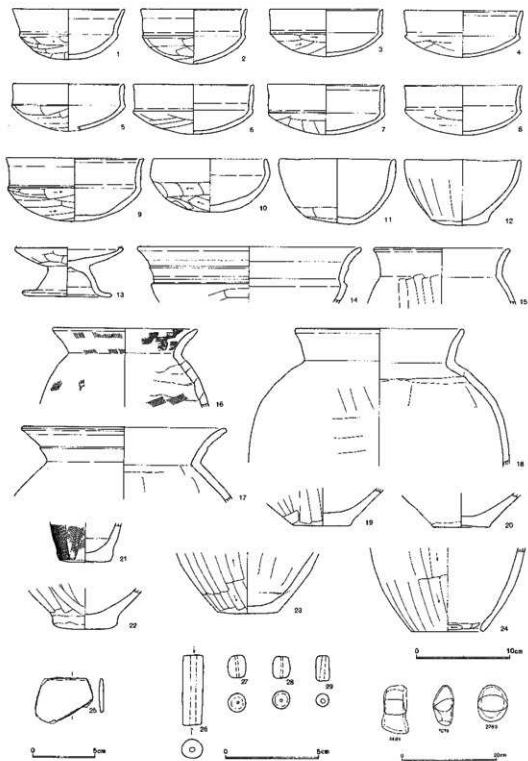
る。燃焼部の掘り込みは明瞭ではないが、覆土全体に焼土粒子を含み、最下層に焼土層、灰層が残存する。

貯蔵穴は南東コーナーに位置し、上部を第7号溝で削られている。直径1m弱の円形になると思われ、深さは約84cmを測る。ピットはカマド左に1本検出された。52cm×68cmの楕円形で、西側に段を持つ。カマドに付随する施設とも考えられる。壁溝は北壁の一部から北西コーナーのみ検出され、幅18~26cm、深さ3~8cmである。

出土遺物は多く見られるが接合率は極めて悪い。出土土器は全て土師器で、坏・高坏・鉢・甕・甔等が認められる。25は板状の鉄製品だが、何であるかは判明しなかった。北壁の西寄りで滑石製の管玉と土製の玉2個がまとめて出土している(26~28)。またそこから2mほど南で滑石製のやや小さめの管玉が出土している(29)。26の管玉は非常に丁寧な作りで両側から穿孔されている。29のものは26より小さく、下面側はやや雑な仕上げとなっている。



第142図 第23号住居跡カマド



第143图 第23号住居跡出土遺物

第23号住居跡出土遺物観察表 (第143図)

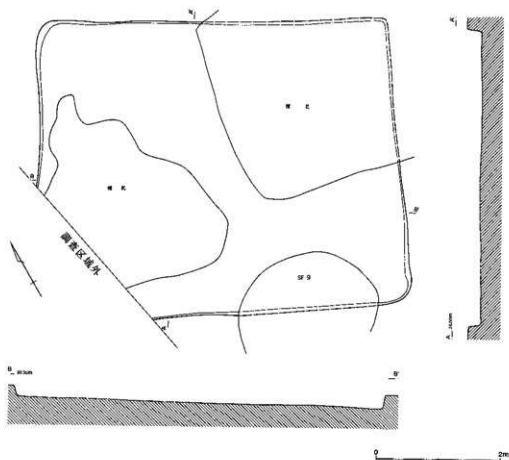
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	(11.9)	5.4		B'RB'W'W'	B	橙	40%	覆土 内面やや磨耗
2	坏	(11.3)	5.4		B'RB'W'W'	B	橙	60%	No9,10 貯穴 覆土 外面やや磨耗
3	坏	(12.0)	5.1		B'W'W'B'	A	鈍い橙	50%	覆土
4	坏	12.6	5.0		BB'W'W'W'	C	浅黄橙	85%	覆土 内外面磨耗著しい
5	坏	(11.7)	5.0		B'W'BR	B	橙	50%	覆土 貼土緻密
6	坏	12.8	5.3		B'RW'W'	C	橙	80%	No8 覆土(-2.9cm) 内外面やや磨耗
7	坏	(12.3)	5.3		W'BR	B	橙	70%	覆土 内外面磨耗著しい
8	坏	12.3	5.3		BW'W'R	B	浅黄橙	75%	覆土 内外面磨耗著しい
9	坏	14.6	6.7		B'W'W'BR	C	鈍い橙	50%	覆土 P1 内外面やや磨耗
10	坏	12.0	5.7		SWB'W'R	B	鈍い橙	70%	覆土
11	柄	12.1	7.0	4.7	SWW'B	C	鈍い橙	75%	覆土 全体にびむ 内外面磨耗著しい
12	柄	12.0	7.1	6.0	SWW'B	C	浅黄橙	80%	覆土 外面磨耗著しい SJ24と接合
13	高坏		5.4	9.5	WW'BR	B	橙	70%	覆土 全体にややびむ
14	鉢	(23.7)	6.0		W'W'B'	B	褐 灰	15%	覆土
15	甕	(14.3)	5.9		W'BS	C	鈍い黄橙	40%	覆土 内外面やや磨耗
16	甕	(15.3)	8.4		WW'BS	B	鈍い橙	15%	覆土 口縁部と外面ハケ目は消えている
17	壺	(21.2)	7.7		SB'W'R	A	橙	15%	覆土 外面磨耗著しい
18	壺	(18.0)	9.7		B'W'	B	橙	50%	覆土 内外面磨耗著しい
19	甕		4.1	6.3	SB'W'	B	橙	80%	覆土 内面一部剥落
20	甕		3.7	(6.0)	SB'W'	C	橙	75%	No13 ビット1 内外面磨耗著しい
21	甕		4.2	(5.5)	WBR	B	橙	60%	覆土
22	甕		4.4	(6.9)	SW'B'W'	B	明赤褐	60%	覆土 内外面やや磨耗
23	甕		6.6	(6.6)	SW'BB'	B	鈍い橙	60%	覆土
24	甕		8.9	7.1	SW'W'	A	鈍い橙	50%	No11,12 貯穴 覆土
25	磁珠		重量12.88g						覆土
26	管玉	No6	覆土(+24.9cm)		全長37.0mm 軸11.0mm 重量9.06g				滑石製 両側穿孔 作りていない
27	土玉	No4	覆土(+25.4cm)		WBW'		明赤褐		長1.2cm 径1.0cm 孔0.1cm 重1.41g
28	土玉	No5	覆土(+26.3cm)		WBW'		明赤褐		長1.2cm 径1.0cm 孔0.1cm 重1.32g
29	管玉	No2	覆土床面		全長13.5mm 幅7.0mm 重量1.30g				滑石製 上端穿孔の横に穿孔しかけた跡有り

第24号住居跡 (第144図)

すー5-15グリッドを中心に位置する。第9号井戸跡に切られ、東コーナーと西側床面を攪乱に壊されている。西コーナーは調査区域外にある。形態は長方形で、規模は長軸5.86m、短軸4.70m、深さ0.16-0.22mである。主軸方位は長軸を基準とするとN-60°-Wを指す。

床面はほぼ平坦で、壁は垂直に立ち上がる。覆土の観察はできなかった。

カマドは検出されなかった。攪乱に壊された部分に構築されていたのであろうか、それとも遺物が全く出土せず、カマド以外で住居に付随する施設も検出されないので通常の住居跡ではない可能性も考えられる。



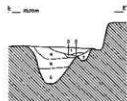
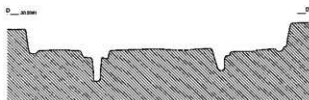
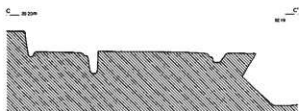
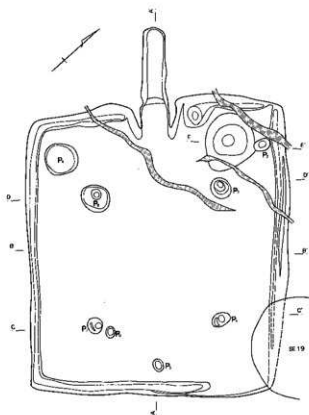
第144図 第24号住居跡

第25号住居跡 (第145～147回)

すー5-19グリッドを中心に位置する。第19号井戸跡と重複し、本住居跡が古い。形態は南北に長い長方形で、規模は長軸4.80m、短軸4.28m、深さ0.34～0.40mである。主軸方位はN-50°-Wを指す。

床面はやや起伏があり、壁は垂直に立ち上がる。覆上は7層に分かれ、概ね自然堆積と思われる。カマド前面から北東コーナーにかけて、3条の噴砂によって切られるが、大きなずれは生じていない。カマドは北西側の壁の中央に設置される。燃焼部は緩やかに10cm下がり、下層に灰層が残存する。燃焼部奥壁は急激に立ち上がり、煙道へ続く。貯蔵穴は北側コーナー部に位置し、80cm×94cmの円形で、深さは約60cmを測る。ピットは9本検出され、P3・P4・P7・P8が柱穴と考えられる。P1はカマドに付随するものか。壁溝は東コーナー部付近以外で検出され、幅14～24cm、深さ1～10cmである。

遺物は住居跡全面で出土しているが、特に北半で多く見られる。貝塚穴灰泥岩が大小6個出土している。



第25号住居跡

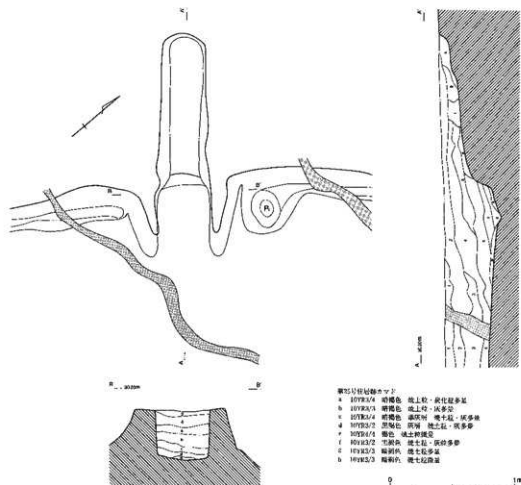
- 1 10YR3/2 黑褐色 炭化灰少量
- 2 10YR3/3 暗褐色 炭化灰・焼土
- 3 10YR2/3 暗褐色 炭化灰・焼土・黄色粒
- 4 10YR2/4 暗褐色 黄色粒多量 炭化物少量
- 5 10YR4/3 紅褐色-暗褐色 黄色粒多量
- 6 10YR3/4 暗褐色 炭化灰多量
- 7 10YR4/4 暗褐色 黄色粒・砂粒

第25号住居跡貯蔵穴

- 1 10YR3/2 黑褐色 焼土粒子・炭化灰少量
- 2 10YR4/3 紅褐色
- 3 5.5Y4/2 暗灰色 炭化灰多量
- 4 10YR3/2 暗褐色 焼土粒多量
- 5 10YR3/2 暗褐色 焼土粒・炭化灰多量
- 6 10YR3/2 暗褐色 炭化灰・焼土粒多量 砂質
- 7 10YR3/2 暗褐色 炭化灰少量

0 2m

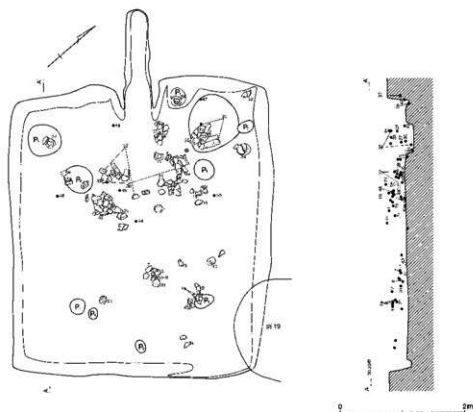
第145图 第25号住居跡(1)



第146図 第25号住居跡カマド

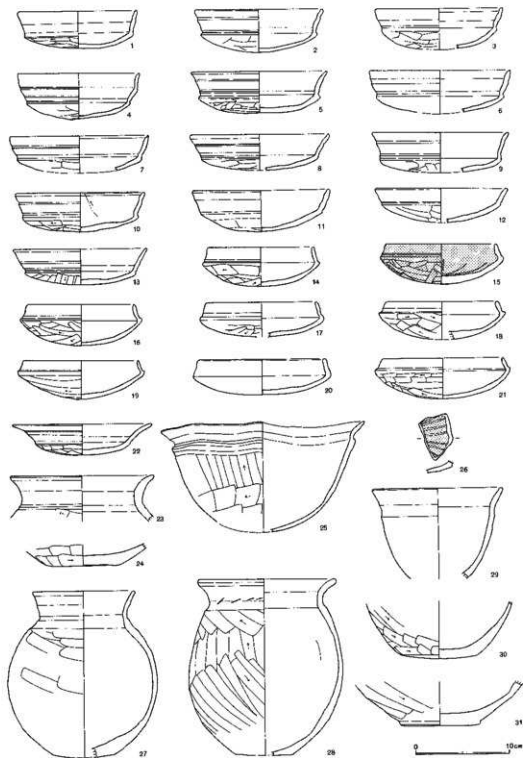
第25号住居跡出土遺物観察表 (第148~151図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	12.5	4.0		B'BR'W'	A	浅黄橙	95%	No24 覆土(+29.6cm) 内面底部黑色処理
2	坏	(13.5)	4.6		BB'R'W'	B	橙	50%	覆土 内外面磨耗著しい
3	坏	(13.4)	4.3		BW'W'	C	鈍い黄橙	25%	覆土
4	坏	12.9	4.9		B'BW'W'R	B	鈍い黄橙	60%	No57 ピット4周辺 覆土 磨耗著しい
5	坏	(14.4)	4.4		B'W'W'	B	橙	30%	No18 覆土(+8.8cm) 内面やや磨耗
6	坏	(14.8)	4.5		SB'W'WR	B	黄 橙	20%	No35 覆土(+15.9cm) 内外面磨耗著しい
7	坏	(14.7)	3.8		B'W'BW	B	鈍い橙	15%	No49 覆土(+10.0cm)
8	坏	(14.7)	3.8		B'WSR	B	鈍い橙	20%	No50 覆土(+13.7cm) 内外面磨耗著しい
9	坏	(14.4)	4.2		H'WBWR	B	淡 橙	20%	No58 ピット4周辺 内外面磨耗著しい
10	坏	13.5	4.2		B'BW'W'	C	鈍い褐	80%	覆土 内面部分剥落著しい
11	坏	14.4	4.5		B'WB'WSR	B	鈍い橙	75%	No20 覆土床面 内外面磨耗著しい
12	坏	(13.8)	3.7		B'W'SWR	B	橙	25%	覆土 内外面磨耗著しい
13	坏	14.0	3.7		B'BW	B	橙	70%	覆土
14	坏	(11.2)	4.2		W'B'WR	B	鈍い黄橙	50%	覆土
15	坏	11.6	4.3		B'WW'	A	橙	85%	No4 貯穴 放射状噴文 内外面黑色処理

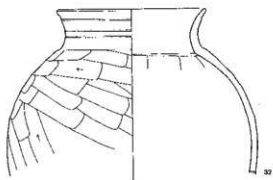


第147図 第25号住居跡(2)

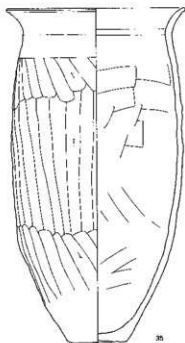
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	復成	色調	残存	出土位置・その他
16	坏	(11.3)	4.4		W'B'WB	B	鈍い紺	55%	No57, 59他 ビット4周辺
17	坏	(11.7)	3.7		B'W'WR	B	橙	20%	覆土 内外面磨耗著しい
18	坏	(11.7)	4.1		B'W'BW	A	橙	20%	No14 覆土(+22.6cm)
19	坏	(12.2)	4.2		W'B'WS	B	橙	55%	No13 覆土(+21.5cm) 一括
20	坏	(13.4)	3.8		B'S'WR	C	鈍い橙	25%	覆土 内外面磨耗著しい
21	坏	12.7	4.4		B'B'WRW'	A	浅黄橙	75%	No54 ビット9周辺
22	坏	14.7	3.3		BW'WRB'	B	橙	95%	No26, 32 覆土(+9.9cm) 磨耗著しく歪む
23	壺	(15.2)	5.0		B'WSR	B	浅黄橙	20%	覆土 内外面やや磨耗
24	壺		2.3	7.9	SW'BR	B	鈍い黄橙	70%	No23 覆土(+33.9cm)
25	鉢	21.8	12.7		BW'B'S	C	赤 橙	70%	No43 覆土(+20.5cm) 磨耗著しく歪む
26	坏				B'WW'	B	橙		一括 胎文 内面黒色処理
27	甕	10.8	17.7	(6.4)	W'B'W	C	橙	55%	No34 ビット8 内外面磨耗著しい
28	甕	14.5	18.7	(6.1)	SB'BW'W	B	浅黄橙	80%	No3 ビット1 口縁やや楕円 内面磨耗
29	甕	(13.7)	9.7		B'S'WW'	C	赤 橙	20%	覆土 内外面磨耗著しい
30	甕		6.1	8.1	SB'W'BW	B	橙	50%	No5 貯穴 内面磨耗
31	甕		4.7	(8.6)	SR'W'	B	灰 白	30%	No52 覆土(+14.3cm)
32	甕	(15.7)	17.9		SB'WW'	B	浅黄橙	50%	No1 覆土(+6.5cm)
33	甕	17.4	25.3		SB'RW'	H	鈍い橙	80%	No31 覆土(+11.0cm) 内外面磨耗著しい
34	甕	17.9	23.7		SB'BRW	B	浅黄橙	85%	No9 貯穴周辺 覆土 下半欠損



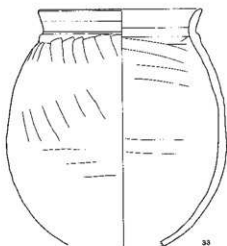
第148图 第25号住居跡出土遺物(1)



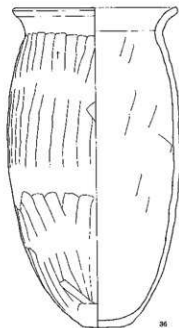
32



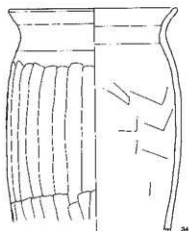
35



33



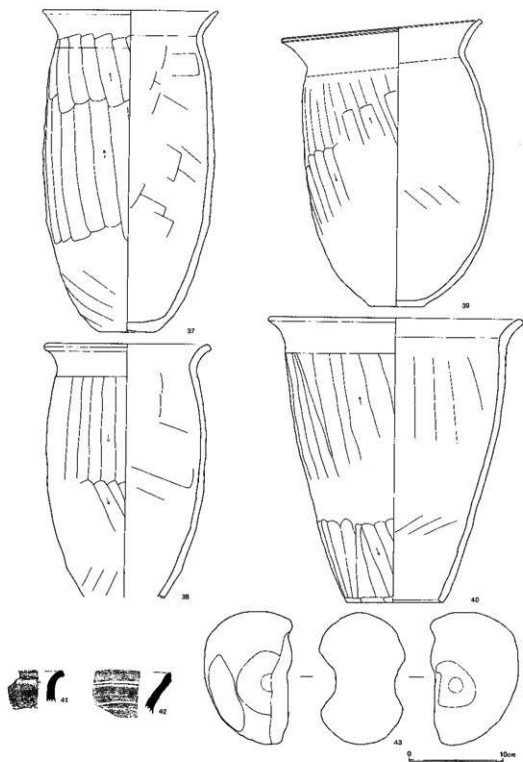
36



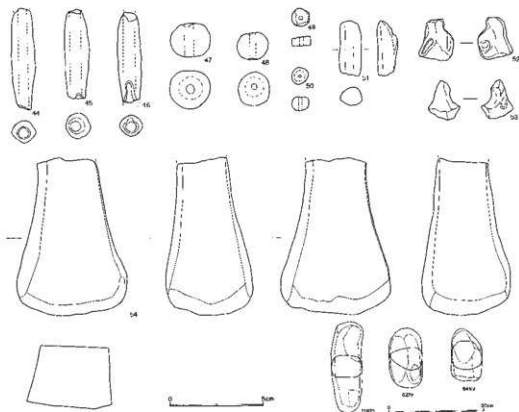
34



第149図 第25号住居跡出土遺物(2)



第150圖 第25号住居跡出土遺物(3)



第151図 第25号住居跡出土遺物(4)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	施文	色調	残存	出土位置・その他
35	甕	19.0	35.8	6.1	SB'W'W	H	橙	90%	No4,8 貯穴 口縁部~胴部楕円形
36	甕	17.3	34.2	5.3	SB'W'W	B	浅黄橙	85%	No7 貯穴 外面やや磨耗
37	甕	(18.6)	34.4	6.0	SB'W'W'R	B	鈍い橙	50%	No19 覆上(+13.1cm)
38	甕	(17.2)	27.1		SB'W'W	B	浅黄橙	40%	No16,31 覆土(+11.0cm) 内外面やや磨耗
39	甕	(21.0)	30.7	5.8	SW'W'	B	黄い黄橙	40%	覆土 内面磨耗著しい 歪み大きい
40	瓶	27.0	30.4	10.2	SWBB'W'	B	浅黄橙	90%	No42 覆上(+2.1cm) 内外面やや磨耗
41	甕				W	A	灰		覆土 一部自然輪
42	甕				W	B	灰		覆土
43	円形石状石製品	No61	覆上(+5.0cm)		長さ14.1cm	幅9.5cm	厚さ9.3cm	重量515g	角閃石安山岩製
44	土錘	No45	覆土(+31.5cm)	B'W'S		鈍い橙		残5.5cm	径1.3cm 孔0.6cm 重6.28g
45	土錘		覆土	SB'W'		鈍い橙	100%	長4.8cm	径1.3cm 孔0.6cm 重7.09g
46	土錘	No27	覆土(+24.7cm)	BB'W'		鈍い橙		残4.9cm	径1.2cm 孔0.6cm 重5.45g
47	土玉	No2	貯穴床面	WBW'B'		橙		長1.8cm	径2.2cm 孔0.5cm 重7.86g
48	土玉	No37	覆土(+10.4cm)	WBW'		橙		長1.4cm	径1.7cm 孔0.3cm 重4.22g
49	門玉	No33	覆上床面	直径9.5mm	厚さ5.0mm	重量1.04g			滑石製 わずかに欠損有り
50	上玉	No10	覆土(+12.4cm)	WBW'		橙		長0.8cm	径0.9cm 孔0.2cm 重0.57g
51	棒状土製品		覆土	WBW'		黄い黄橙		長さ3.0cm	幅1.2cm 重量3.50g
52	貝塚穴痕泥岩		覆土						
53	貝塚穴痕泥岩		覆土						
54	砥石	No36	覆土(+30.3cm)	長さ8.4cm	幅4.5cm	厚さ3.8cm	重量266g		安山岩製

第26号住居跡 (第152・153図)

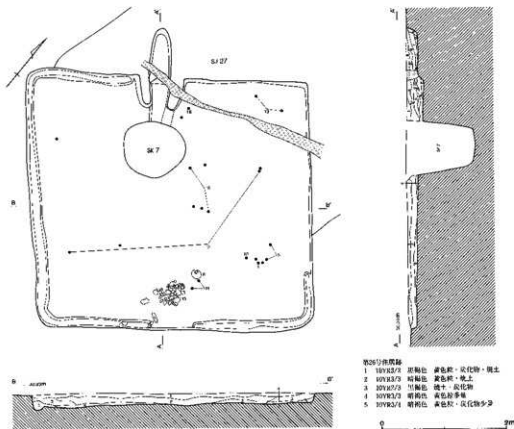
すー5ー25グリッドを中心に位置する。第27号住居跡を切り、第7号土壌に切られている。形態は東西に僅かに長い長方形で、規模は長軸4.54m、短軸4.06m、深さ0.18-0.22mである。主軸方位はN-38°-Wを指す。

床面は緩やかな起伏が目立ち、壁は垂直に立ち上がる。覆上は黒褐色と暗褐色の5層に分けられ、自然堆積であろう。カマドから東壁にかけて大きな噴砂に切られているが、目立った歪みは生じていない。

カマドは北西側の壁中央に設置される。前面を第7号土壌によって壊され、中心を噴砂が走る。燃焼部の掘り込みはないようで、奥壁は10cmほど立上がり煙道へ続く。

貯蔵穴、ピットは検出されていない。壁溝は幅14-22cm、深さ3-9cmとなっており、南壁の中央で途切れる。出入口に關係するのであろうか。

遺物は、住居跡全面から多量の土師器と少量の須恵器が出土しているが、接合率があまり良くなく、特に土師器莖は悪い。土師器坏のなかには放射状暗文の見られるものがある。南東側の壁の壁溝が切れる部分で、3個の編み物石が出土している。



第152図 第26号住居跡

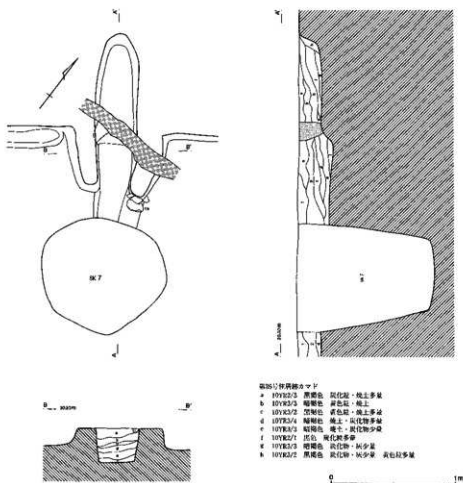
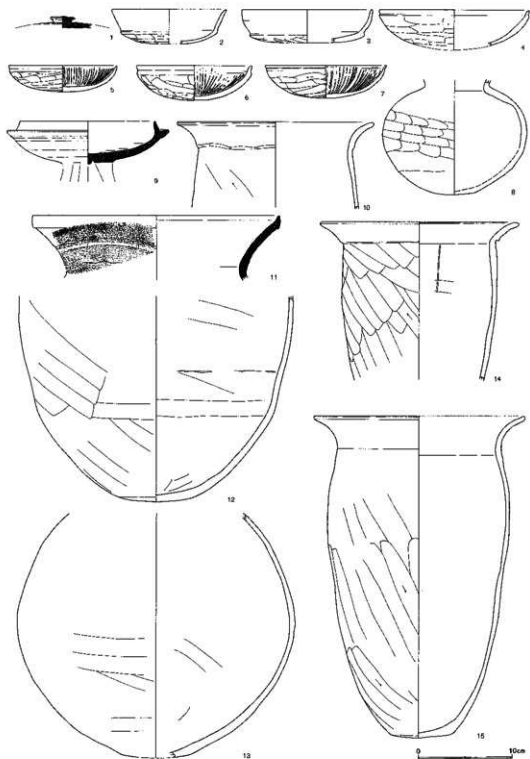


図25(1) 杯状跡のカマド
 a 10YR2/3 黄褐色 灰化層・焼土多量
 b 10YR3/2 暗褐色 赤色灰・焼土
 c 10YK3/2 空褐色 赤色灰・焼土多量
 d 10YR3/4 暗褐色 焼土・灰化物多量
 e 10YR3/3 暗褐色 焼土・灰化物少量
 f 10YK2/1 灰色 灰化層多量
 g 10YR3/2 暗褐色 灰化物・灰少量
 h 10YK3/2 黄褐色 灰化物・灰少量 赤色灰多量

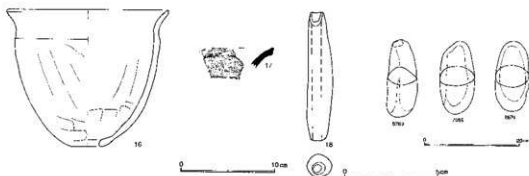
第153図 第26号住居跡カマド

第26号住居跡出土遺物観察表 (第154・155図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	構成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏壺		1.3		W'WR	B	灰白	60%	No11 覆土(+3.5cm) 内面にぶい殻
2	坏	(12.2)	3.7		F'W'WR	B	灰褐	15%	覆土 色調内灰白 二次被熱?
3	坏	(13.7)	3.5		B'W'WBR	B	赤褐	20%	覆土 色調一部黒
4	坏	(15.9)	3.8		SB'WRB'	B	橙	20%	覆土 胎土ザラつく 内外面共磨耗著しい
5	坏	(11.5)	2.8		BB'W'W'R	B	橙	50%	No9,25 覆土床面 放射状暗文
6	坏	(12.2)	3.7		W'B'WR	B	鈍い橙	40%	覆土 色調内黒 放射状暗文
7	坏	(10.8)	3.5		W'B'WR	B	橙	30%	覆土 内面ナデの後に放射状暗文
8	埴?		12.3	4.4	W'W'BR	A	橙	96%	No26 覆土床面 胎土緻密 外面やや磨耗
9	高坏	13.7	4.5		WBWR	B	灰黄	75%	No4,19 覆土(+6.4cm) 三方透かし脚
10	壺	(20.5)	9.3		SB'RWW'	B	橙	30%	No6,14 覆土床面 磨耗著しい
11	甕	(26.3)	6.9		WB'R	A	暗紫灰	15%	覆土 内面暗灰
12	甕		21.9	8.0	F'S'WW'	B	黄い黄赤	50%	No13 覆土床面 丸底気味
13	甕		25.0	(7.8)	WBSW'B'	B	灰黄橙	40%	No1,2 覆土床面 外面磨耗著しい
14	甕	(20.7)	16.9		F'W'WB	B	鈍い橙	40%	No27,28 覆土(+3.2cm)
15	甕	(22.2)	34.2	6.6	B'BW'WS	B	鈍い橙	70%	No20 覆土床面 覆土 内外面磨耗



第154圖 第26号住居跡出土遺物(1)



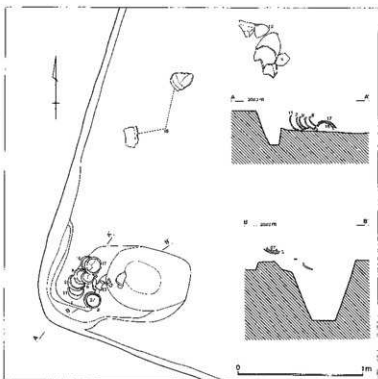
第155図 第26号住居跡出土遺物(2)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
16	甑	17.0	14.6	3.1	SDB'WR	B	鈍い橙	80%	カマドNo2 カマド右端(+5.5cm) No7 覆土
17	甕				WB'	B	灰		覆土 木野か
18	土練	覆土			BB'WW'		鈍い橙	100%	長7.0cm 径1.4cm 孔0.5cm 重11.21g

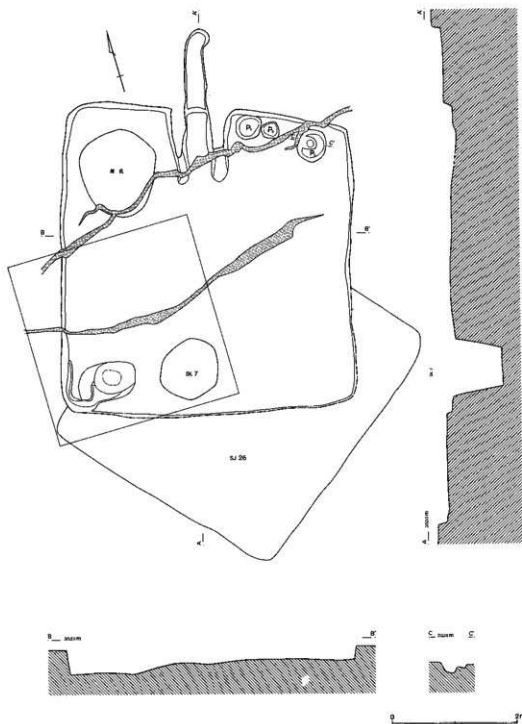
第27号住居跡 (第156-158図)

セー5-5グリッドを中心に位置する。第26号住居跡、第7号土塋と重複し、本住居跡が一番古い。北西コーナー付近は土塋状の擾乱によって壊される。形態は方形に近く、規模は長軸4.96m、短軸4.70m、深さ0.16~0.38mである。主軸方位はN-16°-Eを指す。

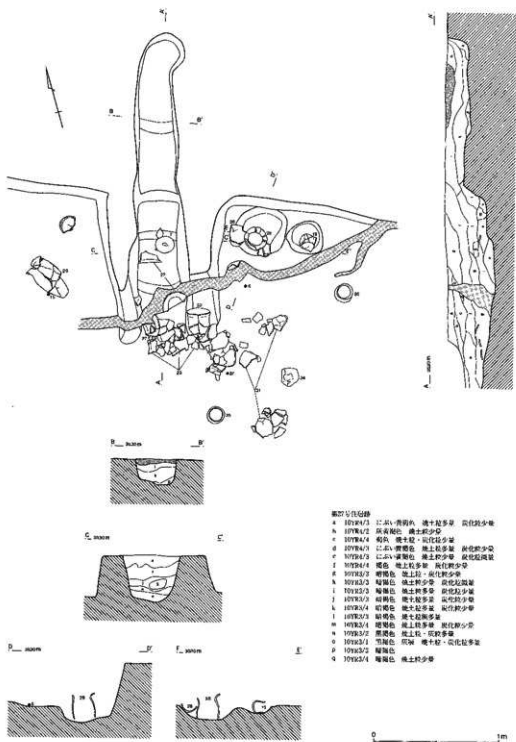
床面は起伏が激しく、壁は垂直に立ち上がる。住居跡内を2条の噴砂が横断している。平面的なずれは目立たないが、床面の起伏はこの噴砂に由来するものなのか。カマドは北壁ほぼ中央に設置



第156図 第27号住居跡(1)



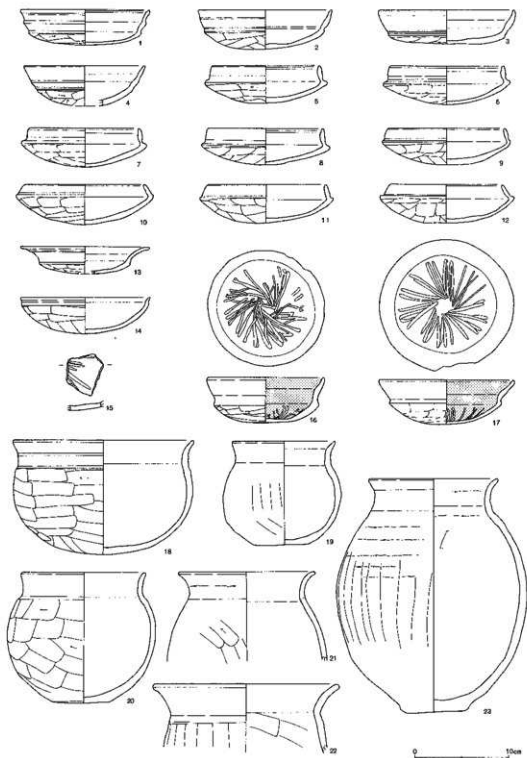
第157図 第27号住居跡(2)



第27号住居跡

- a 10YR4/3 灰赤い滑り内 焼土粒多量 炭化粒少量
- b 10YR4/2 灰黄褐色 焼土粒少量
- c 10YR4/4 暗赤 焼土粒、炭化粒少量
- d 10YR4/3 灰赤い滑り内 焼土粒多量 炭化粒少量
- e 10YR4/3 灰赤い滑り内 焼土粒少量 炭化粒少量
- f 10YR4/4 暗赤 焼土粒多量 炭化粒少量
- g 10YR4/3 暗褐色 炭上粒、炭化粒少量
- h 10YR3/3 暗褐色 焼土粒少量 炭化粒少量
- i 10YR3/3 暗褐色 焼土粒多量 炭化粒少量
- j 10YR3/3 暗褐色 焼土粒多量 炭化粒少量
- k 10YR4/4 暗褐色 焼土粒多量 炭化粒少量
- l 10YR3/3 暗褐色 焼土粒多量
- m 10YR3/4 暗褐色 炭上粒多量 炭化粒少量
- n 10YR3/2 暗褐色 炭上粒、炭粒多量
- o 10YR3/1 暗褐色 炭屑 焼土粒、炭化粒多量
- p 10YR3/3 暗褐色
- q 10YR3/4 暗褐色 焼土粒少量

第158図 第27号住居跡カマド



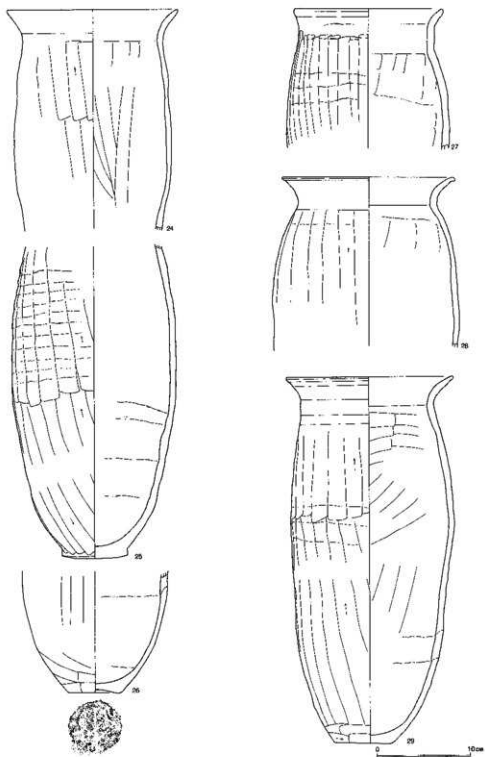
第159圖 第27号住居跡出土遺物(1)

され、左右袖の先端付近を噴砂で壊されている。燃焼部は10cmほど掘り下げられ、最下層には灰層が残る。貯蔵穴は南西コーナーに位置し、54cm×68cmの楕円形で、深さは約50cmを測る。コーナー側で噴流と繋がっている。ピットはカマド右側で3本検出され、一列に並んでいるようにも見える。噴流は南西コーナーでのみ検出され、貯蔵穴と繋がっている。幅14～21cm、深さ7～12cmである。

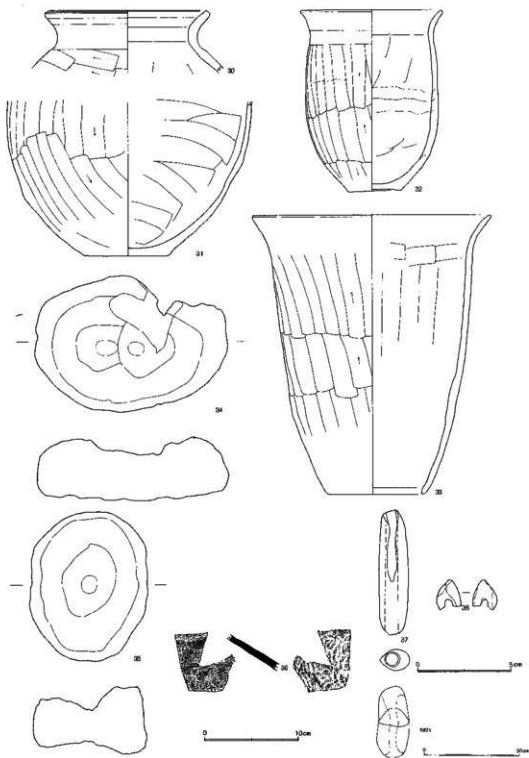
出土遺物は、カマド周辺と貯蔵穴に集中する。カマド周辺では、焚口付近に土師器片がまとまって出土している。貯蔵穴では、土師器片が重なった状態で検出されている。貝塚穴泥岩が2個出土している。

第27号住居跡出土遺物観察表 (第150～161図)

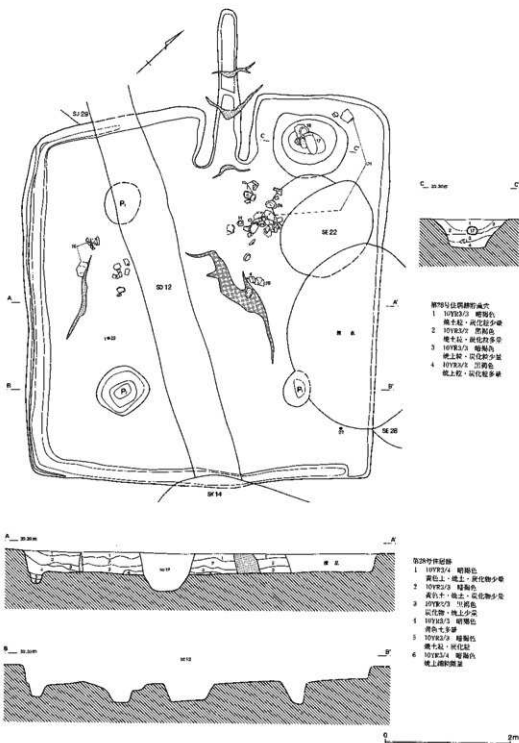
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成・色調	残存	出土位置・その他
1	坏	(13.6)	3.8		WB'RB	B 淡黄	30%	覆土
2	坏	(14.1)	4.2		WBRB'	B 淡黄橙	100%	No46 ピット4周辺床面
3	坏	14.4	3.6		WBB'R針	B 鈍い橙	100%	No36 ピット4周辺 覆土
4	坏	(12.8)	3.4		WBB'RW'	B 鈍い橙	25%	覆土
5	坏	11.3	4.0		WBB'R	A 鈍い橙	100%	No44 ピット4周辺
6	坏	12.0	4.1		WBRB	B 橙	100%	No34 覆土床面 内外面磨耗著しい
7	坏	11.5	4.2		WBRW'片	B 鈍い褐	100%	No18 カマド(+8.1cm) 内外面磨耗著しい
8	坏	12.2	4.0		WW'B'RS	B 鈍い橙	100%	No42 ピット4周辺 覆土 内外面磨耗著しい
9	坏	12.3	3.9		WBB'R	B 橙	95%	No45 ピット4周辺床面
10	坏	(12.7)	4.3		WBB'RB	B 灰白	65%	No37 ピット4周辺 覆土
11	坏	12.5	4.1		WBB'R針	A 褐	100%	No47 ピット4周辺床面 覆土
12	坏	12.0	4.1		WBRB	B 褐灰	60%	No25 覆土(+19.8cm) ノッキング明瞭
13	坏	(13.7)	2.9		WW'BB'R	B 橙	20%	覆土 内外面磨耗著しい
14	坏	(13.7)	3.9		WW'BB'R	B 淡黄橙	50%	覆土 内外面磨耗著しい
15	坏				WBR	B 黄い黄青		No22 カマド左袖(+24.6cm) 放射状暗文
16	坏	12.4	4.8		WBB'RB	A 鈍い橙	95%	No43 内面黒色処理 放射状暗文
17	坏	14.4	4.8		WW'RB	B 鈍い橙	95%	No41 内面黒色処理 放射状暗文
18	井	19.2	12.2		WBR'片'W'	B 橙	55%	No28,29 覆土(+9.5cm)
19	壺	10.9	11.1	6.0	H'SW	B 淡黄	95%	No32 覆土床面 内外面磨耗・刺落著しい
20	壺	13.0	14.0	6.0	SB'WR	B 鈍い黄青	100%	No1 ピット1周辺床面
21	甕	(14.3)	9.5		BB'SW'	C 黄い黄青	50%	覆土 内外面磨耗著しい
22	甕	19.4	7.3		BB'S	B 橙	80%	No15,17 カマド(-1.5cm)
23	甕	(13.7)	24.8	7.0	WBB'RB	B 橙	70%	No12,13他 カマド右袖床面 接合痕
24	甕	(18.3)	23.5		SB'W	B 灰白	30%	No26 覆土床面 SJ261片と接合
25	甕		33.3	6.9	WBB'RB	B 灰白	70%	覆土 胴部上半部接合痕明瞭
26	甕		13.0	5.7	SB'WW'	B 黄い黄青	60%	No30 覆土(+4.0cm) 土着底 木蓋痕
27	甕	15.6	15.1		WBB'RS	B 淡黄橙	95%	No13,35 カマド床面 覆土 蓋み有り
28	甕	18.2	18.5		WBB'RB	B 灰白	90%	No31 覆土床面 内外面磨耗著しい
29	甕	17.4	39.0	6.1	WB'BRB	B 橙	90%	No22 カマド左袖(+24.6cm) 覆土
30	甕	(16.7)	6.7		SB'WW'WR	B 淡黄橙	60%	覆土 SJ26と接合
31	甕		16.6	9.2	WBR'片	B 淡水橙	90%	No3,5他 カマド右袖付近床面 覆土
32	甕	15.0	19.2	5.7	WB'RB	B 明褐灰	100%	No48 カマド右袖(+16.5cm) 覆土
33	瓶	(25.4)	29.8	9.7	WBB'RB	C 灰白	70%	No1,8他 カマド右袖床面 内外面磨耗
34	凹み石状石製品	No2		覆土(-3.6cm)		長さ20.4cm 幅14.5cm 厚さ6.2cm 重量1,040g 角閃石安山岩製		
35	凹み石状石製品	No23		覆土床面		長さ15.4cm 幅12.7cm 厚さ7.1cm 重量795g 角閃石安山岩製		
36	甕				WW'	R 灰		覆土 表 櫛歯き波状文 裏 青海波文
37	土鏡	No10	カマド右袖付近床面		WW'B'	明赤褐		長さ6.7cm 径1.6cm 孔0.7cm 重10.17g
38	貝塚穴泥岩	覆土						



第160図 第27号住居跡出土遺物(2)



第161图 第27号住居跡出土遺物(3)



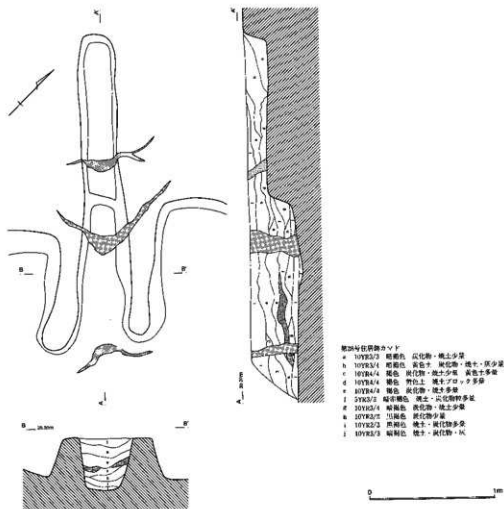
第162園 第28号住居跡

第28号住居跡 (第162・163図)

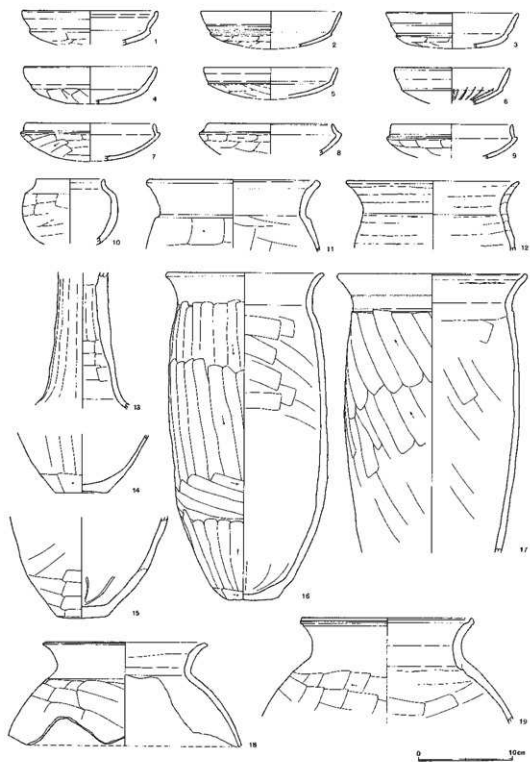
セー6-6グリッドを中心に位置する。第29号住居跡を切り、第12号清跡、第22号井戸跡、第14号土壌に切られる。北東側の壁の一部は攪乱によって大きく削られる。形態は方形に近く、規模は長軸6.15m、短軸5.82m、深さ0.24~0.32mである。主軸方位はN-43°-Wを指す。

床面はほぼ平坦だが、南半は起伏が目立つ。壁は垂直に立ち上がる。覆土は6層に分けられ、暗褐色土が主体となる。概ね自然堆積であろう。カマド周辺と住居跡中央部に合わせて5条の噴砂が走るが、大きな影響は見られない。

カマドは北西側の壁中央より北側に設置される。焚口、燃焼部付近と煙道部を噴砂で切られるが、土層の乱れは少ない。燃焼部の掘り込みは極僅かで、中層に焼土層が残る。燃焼部奥壁は急激に立ち上がり、煙道へ移行する。



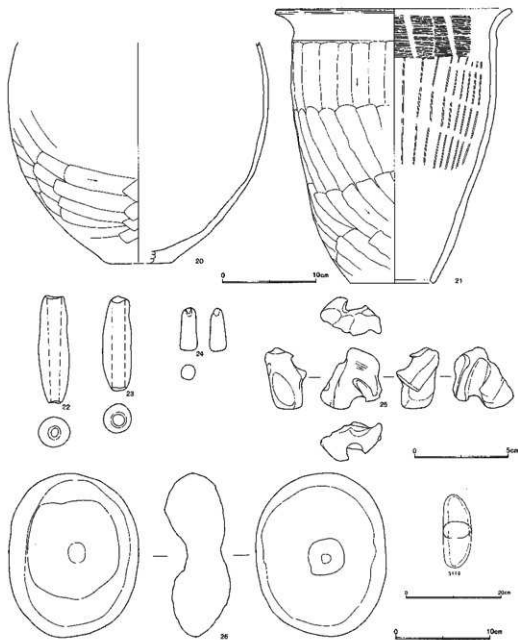
第163図 第28号住居跡カマド



第164図 第28号住居跡出土遺物(1)

貯蔵穴はカマド右に位置し、102cm×120cmの楕円形で、深さは約71cmを測る。ピットは3本検出され、何れも柱穴と考えられる。第22号井戸跡で壊された部分にもあったとすると4本柱穴になる。壁沸は一部で検出され、幅20~28cm、深さ6~18cmである。

出土遺物は北半で多く検出され、貯蔵穴内では甕¹と器台に転用されたと思われる口縁内部に磨滅痕を持つ壺上半²が出土している。貝果穴痕泥岩が4個出土している。



第165図 第28号住居跡出土遺物②

第28号住居跡出土遺物観察表 (第164・165図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	(14.4)	3.7		W'W'WS	B	鈍い橙	20%	覆土 内外面磨耗著しい
2	坏	(14.9)	3.8		W'W'BS	B	鈍い橙	40%	覆土 内外面磨耗著しい
3	坏	(14.0)	3.7		W'W'W	B	橙	20%	覆土
4	坏	(14.0)	4.0		B'W'WR	A	橙	30%	No9 覆土(+9.2cm) やや磨耗 歪み有り
5	坏	(14.2)	3.3		B'W'WR	B	鈍い褐	20%	覆土 ノッキング痕有り
6	坏	(12.2)	3.9		W'W'B'	A	橙	20%	覆土 放射状暗文 胎土緻密
7	坏	(13.7)	4.0		W'W'R	B	鈍い黄橙	40%	覆土 内面と口縁部磨耗
8	坏	(13.2)	3.3		W'W'WS	B	褐 灰	20%	貯穴
9	坏	(12.7)	3.7		B'W'WS	B	灰 褐	20%	覆土 内外面やや磨耗
10	小形壺	7.2	7.0		BSWR	B	鈍い黄橙	30%	覆土 内外面磨耗著しく調整不明瞭
11	甕	(18.0)	7.4		SBRW	B	灰 白	40%	SJ28内土塊
12	甕	(18.2)	7.4		WBB'片	B	浅黄橙	45%	SJ28内土塊 内外面磨耗著しい
13	支脚	覆土			WBB'R片	B	鈍い橙	60%	残高14.6cm
14	甕		6.3	5.6	SB'W	B	鈍い黄橙	70%	No13 覆土(+8.1cm)
15	甕		10.9	5.4	SBB'W	B	鈍い黄橙	80%	No25.26 覆土床面 胎土は緻密である
16	甕	16.8	34.9	5.4	W'W'片BB'	B	浅黄橙	95%	No30 貯穴 覆土
17	甕	20.0	29.7		WBB'	B	浅黄橙	50%	No5,7 覆土床面
18	甕	17.1	11.2		WRBB'片	B	浅黄橙	70%	No31 貯穴 覆土 転用器台
19	甕	(18.0)	11.3		W'W'DB'	B	橙	40%	覆土 内面粘土接合痕
20	甕		23.6	(6.3)	WBB'R	B	浅黄橙	40%	No10 覆土(+2.4cm) 内外面磨耗著しい
21	甕	24.8	29.4	9.0	W'片B'BR	B	淡 橙	90%	No15,16他 覆土(+3.1cm) 磨耗不明瞭
22	土錘	No1	覆土(+16.1cm)		B'S		浅黄橙	100%	長さ5.8cm 径1.7cm 孔0.8cm 重14.03g
23	土錘	No2	覆土(+22.4cm)		SB'W'		鈍い黄橙	100%	長さ5.2cm 径1.6cm 孔0.7cm 重10.30g
24	棒状土製品	覆土			WBW'B'		橙		長さ2.3cm 幅0.8cm 重量1.97g
25	貝塚穴痕泥岩	覆土							
26	円形石状石製品	No23	SJ28内土塊周辺				長さ17.4cm 幅13.9cm 厚さ7.1cm 重量965g 角閃石安山岩製		

第29号住居跡 (第166図)

セー6-11グリッドを中心に位置する。第28・30号住居跡、第12号溝跡と重複し、本住居跡が最も古いと思われる。住居跡の大半が調査区域外にあり、不明な点が多い。形態は方形または長方形と思われる。検出された東壁は5.10mである。深さは0.29~0.52mで貯蔵穴より南側が深くなっている。主軸方位はN-77°-Eを指す。

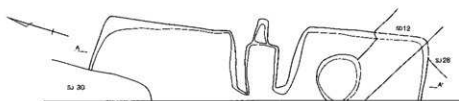
床面はほぼ平坦で、壁は垂直に立ち上がる。カマドは東壁中央に設置される。燃燒部の掘り込みはなく、覆土には焼土ブロックを多く含んでいる。

貯蔵穴はカマド右側に位置し、一部を第12号溝跡に壊される。直径80cm弱の円形になろう。深さは30cmを測る。

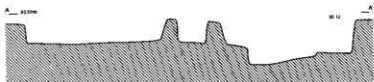
出土遺物は少なく、図示した以外には土師器坏と甕の小片、支脚と思われる細片がある。

第29号住居跡出土遺物観察表 (第166図)

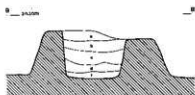
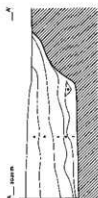
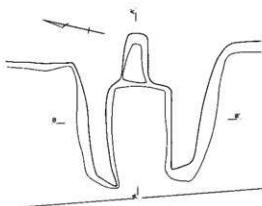
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	(10.9)	4.1		B'W'RW'	B	橙	25%	カマド右袖 内外面やや磨耗
2	坏	12.2	5.3		SW'WB	C	浅黄橙	75%	カマド右袖 覆土 歪み有り
3	甕	12.4	6.9	6.9	SWB'W'	B	橙	80%	カマド 歪み有り
4	小形壺	10.3	16.4	5.8	WW'BS'R	A	橙	100%	カマド 焼成極めて良好



調査区域外

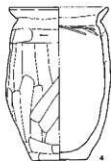


0 2m



- 第29号住居跡のナマ
- a 2.5YR/3 オリーブ褐色 焼土フロック少量 黄褐色フロック
 - b 2.5YR/4 オリーブ褐色 焼土粒少量
 - c 2.5YR/7 暗褐色 焼土フロック少量
 - d 10YR/5 濃い灰褐色 焼土フロック多量
 - e 10YR/7 灰褐色 焼土フロック・灰多量
 - f 10YR/1 黒褐色 焼土フロック・灰多量

0 1m



0 10cm

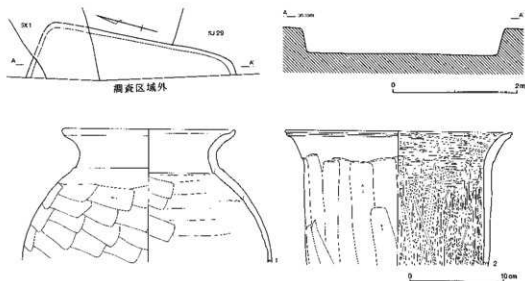
第166図 第29号住居跡・出土遺物

第30号住居跡 (第167図)

セー6-11グリッドを中心に位置する。第29号住居跡を切り、第1号周溝状遺構に切られる。大半が調査区域外にあるため、形態は不明とせざるを得ない。規模は検出された東壁で3.10m程か。深さは0.38-0.44mである。主軸方位は東壁を基準とすると $N-4^{\circ}-W$ となる。

床面は平坦で、壁は開き気味に立ち上がる。

出土遺物は極めて少なく、図示した以外の土器は、土師器坏の口縁細片が2片と甕胴部の小片が数片だけである。



第167図 第30号住居跡・出土遺物

第30号住居跡出土遺物観察表 (第167図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	壺	18.1	14.2		WW'SB'R	B	橙	80%	覆土
2	甕	(24.0)	14.2		W'WBB'S	A	橙	40%	覆土 胎土砂粒を少量含む 全体的に緻密

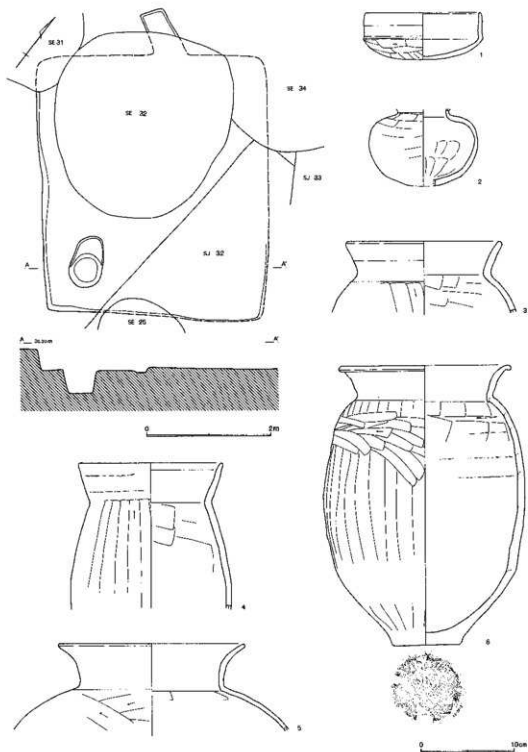
第31号住居跡 (第168図)

セー6-11グリッドを中心に位置する。第32号住居跡、第25・31・32・34号井戸跡と重複し、本住居跡が最も古い。南西側の壁以外は重複する他の遺構に壊されており、形態、規模は不明な点が多い。長軸4.20m、短軸3.70m程度の長方形になろうか。深さは0.30-0.34mとなっている。主軸方位は西壁を基準とすると $N-40^{\circ}-W$ となる。

床面は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。覆土は観察できなかった。

カマドは北西側の壁に設置される。煙道の先端を検出しただけだが、住居跡の主軸に対してやや西に振るような形態を取る。貯蔵穴は南西コーナーに位置し、52cm×84cmの楕円形で北側に段を持つ。深さは44cmを測る。

出土遺物は少なく、図示した以外には土師器坏・高坏・甕等の破片が少量あるのみである。



第168图 第31号住居跡・出土遺物

第31号住居跡出土土物観察表 (第168図)

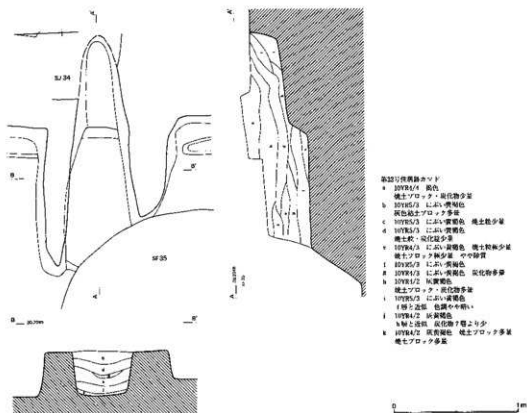
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位 遺・その他
1	坏	(12.3)	5.0		RW'RW	B	浅黄橙	60%	カマド 内面底部磨耗著しい
2	小形甕		6.1		SWB'W'	B	橙	15%	覆土
3	甕	(16.0)	7.7		WSB'W'R	B	淡橙	30%	カマド 口縁部内外面磨耗著しい
4	甕	(15.3)	15.6		SWW'B'R	C	鈍い橙	40%	覆土 内外面やや磨耗
5	甕	(19.7)	10.4		W'WB'BR	C	橙	40%	覆土 内外面磨耗著しく調整不明瞭
6	甕	18.1	29.9	7.1	E'W'WRB	A	鈍い橙	75%	覆土 底部木炭痕有り ヘラケズリ

第32号住居跡 (第169・170図)

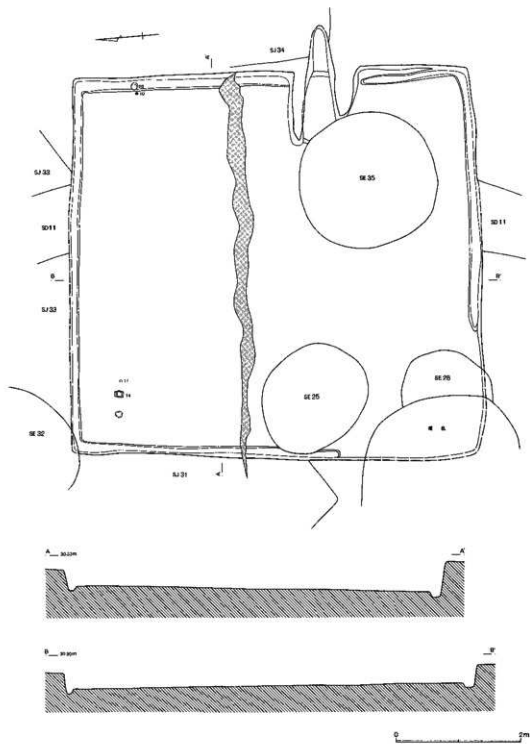
セー5-15グリッドを中心に位置する。第31住居跡を切り、第33・34号住居跡、第25・28・32・35号井戸跡に切られ、南西コーナーは掘乱で壊されている。形態は方形に近く、規模は長軸6.62m、短軸6.00m、深さ0.26~0.44mである。主軸方位はS-87°-Eを指す。

床面はほぼ平坦で、壁は垂直に立ち上がる。覆土の観察はできなかった。住居跡のほぼ中心を東西に噴砂が貫くが、目立った歪みは生じていない。

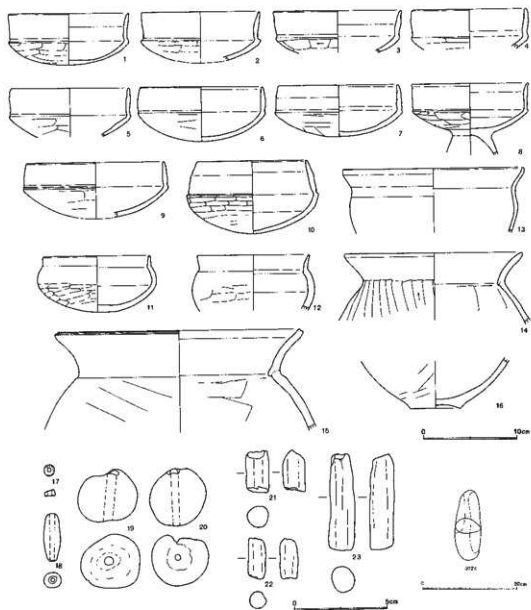
カマドは東壁中央より南側に設置される。右袖と燃焼部の一部を第35号井戸跡に削られている。燃焼部の掘り込みはみられず、奥壁は開き気味に立ち上がり煙道へ続く。覆土は焼土・炭化粒子を



第169図 第32号住居跡カマド



第170图 第32号住居跡



第171図 第32号住居跡出土遺物

含む黄褐色系の土が主体を成す。

貯蔵穴、ピットは検出されていない。壁溝は南西コーナー以外で検出され、幅13~24cm、深さ3~10cmを測る。

出土遺物は全て土師器で、量的にはあまり多くない。図示した以外には坏・高坏・甕の細片が見られる程度である。北西コーナー近くで滑石製の白玉が1個出土している。21~23は棒状の土製品である。

第32号住居跡出土遺物観察表 (第171図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	12.6	5.5		RW'WB	B	鈍い橙	95%	覆土 内外面磨耗著しい
2	坏	(12.5)	5.2		W'RW'B'	B	鈍い橙	30%	覆土 内外面磨耗著しい 胎土緻密
3	坏	(13.4)	4.5		B'W'WR	B	橙	30%	覆土
4	坏	(11.9)	4.3		RW	B	橙	20%	覆土 内外面やや磨耗 胎土緻密
5	坏	(12.4)	5.2		WW'RB'	B	橙	40%	覆土 胎土緻密 内外面やや磨耗
6	坏	(13.0)	5.9		WW'RB'	B	橙	40%	覆土 外面磨耗著しい 胎土緻密
7	坏	(12.8)	5.5		W'WRBB'	B	橙	50%	覆土 内外面割落 磨耗著しい 胎土緻密
8	高坏	12.3	5.6		W'WRB'	A	橙	90%	覆土 ていねいな作り
9	坏	(14.4)	5.9		WW'BR	B	橙	40%	覆土 内外面磨耗著しく調整不明瞭
10	坏	11.5	7.8		W'WR	A	橙	100%	No5 覆土床面 胎土緻密 外面底部磨耗
11	碗	11.2	6.0		WRW	B	橙	90%	覆土 胎土緻密 磨耗 割落が目立つ
12	盃	(11.8)	5.9		WBW'R	B	橙	40%	覆土 外面磨耗著しく内面は一部割落
13	鉢か	(19.3)	6.9		WB'W'	C	橙	25%	覆土 内外面磨耗著しく調整不明瞭
14	甕	19.0	7.2		B'W'WR	B	浅黄橙	70%	No2 覆土(+3.8cm) 内外面やや磨耗
15	甕	(25.8)	10.4		SWB'WR	B	浅黄橙	30%	覆土 外面磨耗著しい
16	甕		5.1	5.4	W'WBR	A	鈍い黄橙	70%	覆土 胎土緻密 磨耗著しく調整不明瞭
17	白瓦	No3	覆土(+3.5cm)		直径6.0cm	厚さ3.0cm	重量0.18g		滑石製 はほぼ完形
18	土鍾	覆土			B'WW'		鈍い橙	100%	長2.6cm 径0.9cm 孔0.3cm 重1.75g
19	土玉	覆土			WBW'		橙		長2.8cm 径3.2cm 孔0.5cm 重24.20g
20	土玉	No4	覆土(+4.7cm)		WBW'B'		橙		長3.1cm 径3.1cm 孔0.3cm 重23.31g
21	棒状土製品	覆土			WBW'B'		浅黄橙		長さ2.3cm 幅1.2cm 重量3.35g
22	棒状土製品	覆土			WBW'		橙		長さ2.2cm 幅0.9cm 重量1.94g
23	棒状土製品	覆土			WBW'B'		橙		長さ5.2cm 幅1.3cm 重量12.38g

第33号住居跡 (第172・173図)

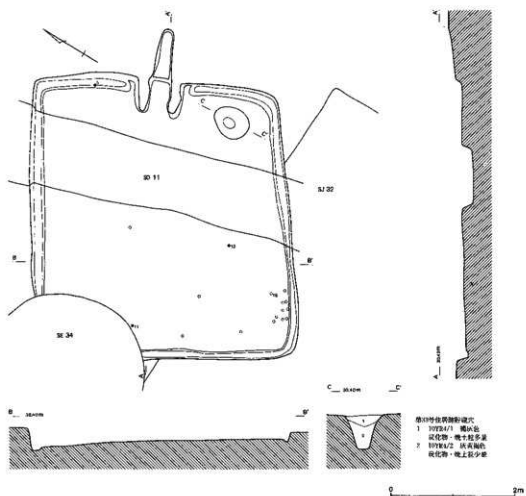
セー5-20グリッドを中心に位置する。第32号住居跡を切り、第11号溝跡、第34号井戸跡に切られる。形態はやや歪んだ方形で、規模は長軸4.36m、短軸4.24m、深さ0.18~0.28mである。主軸方位はN-55°-Eを指す。

床面はやや起伏があり、南側が高く傾向が見られる。壁は垂直に立ち上がる。覆土の観察はできなかった。

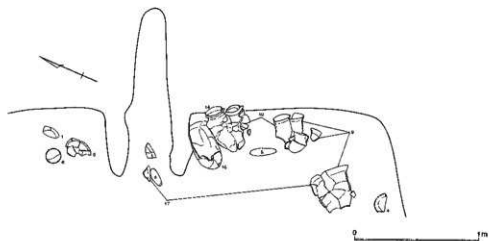
カマドは東壁中央に設置される。燃焼部の掘り込みは見られず、底面は平坦である。奥壁はやや開き気味に立ち上がり、緩やかな煙道へ続く。覆土下層は、焼土、炭化物を含む黒褐色土が残存している。

貯蔵穴は南東コーナーに位置し、49cm×60cmの円形で、深さは約55cmを測る。壁溝はカマド両側から全周するようで、幅12~24cm、深さ4~10cmである。

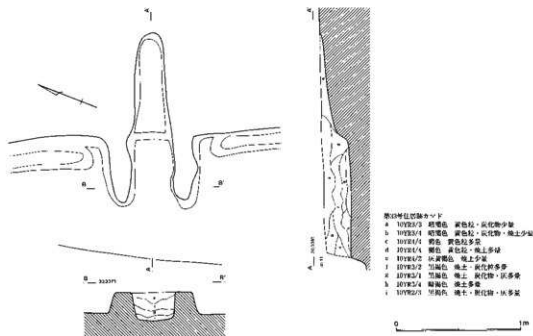
出土遺物は全て土師器で、やや多めに見られ、接合率は良い方である。坏・鉢・甕・盃・甌等が認められる。カマド周辺から貯蔵穴にかけて多く見られ、カマドの右側では袖や壁に立て掛けるような形で土師器甕が3個体出土している。また、南西コーナー近くでは編み物石が10個と角閃石安山岩製の円形石状石製品がまとまって出土している。この編み物石のなかには表面がつるつるになっているものも多く見られる。



第33号住居跡断面式
 1 30YB4/1 礫状土
 灰化層・焼土粒多量
 2 30YB4/2 灰黄緑色の
 灰化層・焼土粒少量



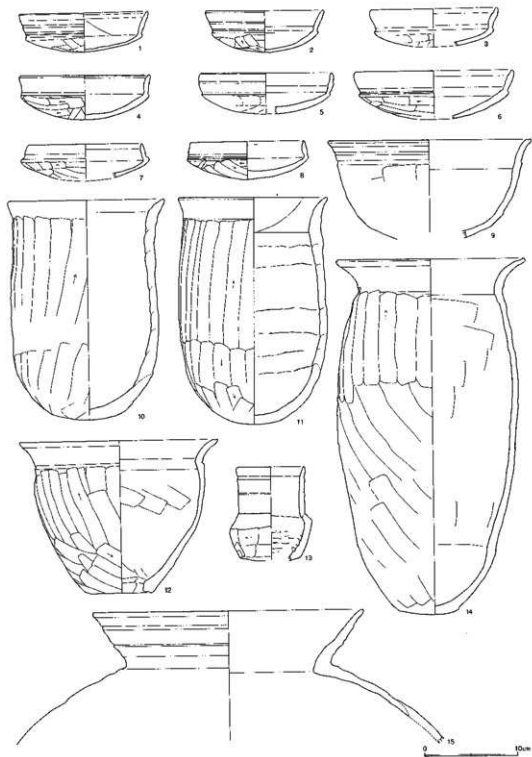
第172図 第33号住居跡



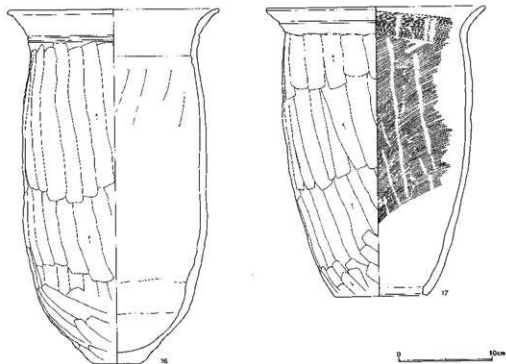
第173図 第33号住居跡カマド

第33号住居跡出土遺物観察表 (第174-176回)

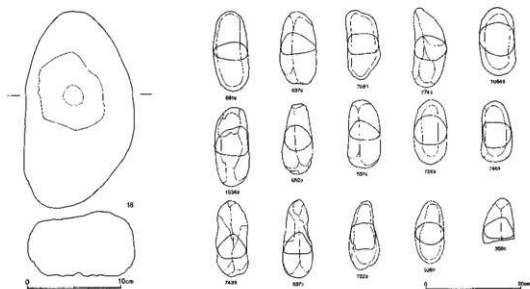
番号	器種	口径	器高	底径	胎上	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	(13.7)	4.2		B'W'W'R	B	浅黄橙	40%	No2 カマド左袖(+6.0cm) 外面不明瞭
2	坏	12.6	4.5		W'W'B'R	B	黄い黄橙	50%	貯穴 内外面やや磨耗
3	坏	(13.4)	3.9		B'W'W'R	B	橙	70%	覆土 内外面磨耗著しい
4	坏	13.8	4.8		B'W'W'R	A	橙	50%	No13 覆土(+8.2cm)
5	坏	(14.0)	4.3		W'W'B'R	B	橙	40%	No33 覆土床面 磨耗著しい
6	坏	(16.7)	5.1		W'W'B'R	A	黄 灰	50%	No3 カマド左袖床面 内外面やや磨耗
7	坏	(12.1)	3.6		B'W'R	C	橙	30%	覆土 内外面やや磨耗
8	坏	12.0	4.0		W'W'B'R	B	褐 灰	90%	No1 カマド左袖(+1.8cm)
9	鉢	(21.7)	10.6		SW'B	B	浅黄橙	20%	No11,12 貯穴床面 覆土 磨耗著しい
10	甕	16.5	23.4		WBB'R	B	橙	90%	No8,11 カマド右袖床面 貯穴 やや磨耗
11	甕	15.9	24.0		WBB'R片	A	橙	95%	No14 SE付近(-3.0cm) 覆土 丸底
12	甕	21.1	16.2	7.0	WBB'R	B	鈍い橙	100%	貯穴No1 カマド左袖床面
13	小形甕	(7.2)	10.0	6.5	B'W'W'RB	A	黄い黄橙	70%	No17 覆土床面 内外面やや磨耗
14	甕	20.0	37.9	6.4	SW'W'R	B	浅黄橙	90%	No8 カマド右袖床面 覆土 磨耗著しい
15	甕	(28.9)	14.4		WR'W'B	B	黄い黄橙	25%	覆土 SJ32と接合 内外面磨耗著しい
16	甕	22.9	37.9	5.0	WBB'R	B	鈍い橙	65%	No7 カマド右袖(+3.5cm) 覆土
17	甕	23.5	30.9	9.9	WBB'R	B	橙	100%	No4,12 カマド床面 覆土 内面不明瞭
18	凹み石状石製品	No22		覆土床面			長さ20.9cm 幅11.9cm 厚さ7.0cm 重量1.235g 角閃石安山岩製		



第174図 第33号住居跡出土遺物(1)



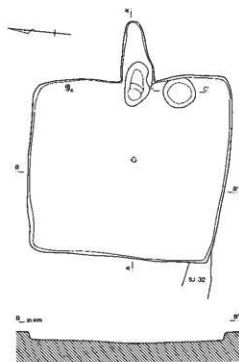
第175図 第33号住居跡出土遺物(2)



第176図 第33号住居跡出土遺物(3)

第34号住居跡 (第177図)

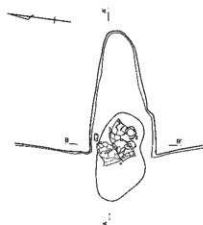
せー5-14グリッドを中心に位置する。第32号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。形態はやや歪んだ方形で、規模は長軸3.20m、短軸3.00m、深さ0.12-0.18mである。主軸方位はN-88°-Eを指す。



第34号住居跡

- 1 10YR6/2 灰青褐色 焼土ブロック少量
- 2 10YR6/2 灰青褐色 灰化物少量
- 3 10YR6/3 にぶい黄褐色 灰化物少量
- 4 10YR6/4 褐色 灰化物微量

0 2m



第34号住居跡カド

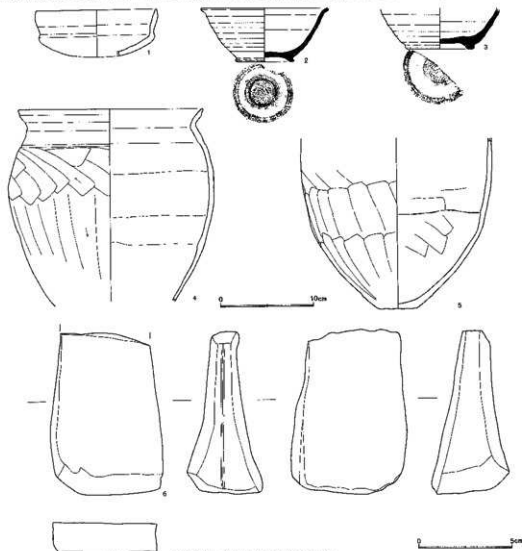
- a 10YR6/1 褐色 灰化物微量
- b 10YR6/4 にぶい黄褐色 黄色粘土ブロック
- c 10YR6/3 にぶい黄褐色 黄色粘土ブロック少量
- d 10YR6/3 暗褐色 灰化物多量
- e 10YR6/3 暗褐色 灰化物・黄色粘土ブロック
- f 10YR6/3 にぶい黄褐色 黄色粘土粒・焼土粒
- g 10YR6/3 にぶい黄褐色 焼土粒を含まず
- h 10YR6/4 にぶい黄褐色 黄色粘土粒多量

0 1m

第177図 第34号住居跡

床面はほぼ平坦で、壁は垂直に立ち上がる。覆土は4層に分けられ、概ね自然堆積と考えて良いだろう。カマドは東壁ほぼ中央に設けられる。燃焼部は床面を10cmほど掘り込み、奥壁は緩やかに立ち上がり煙道へ移行する。袖は検出されなかった。貯蔵穴はカマド右に位置し、直径約50cmの円形で深さは約14cmを測る。

出土遺物は少量だが、カマド内で須恵器高台坏と土師器甕2個体が出土している。



第178図 第34号住居跡出土遺物

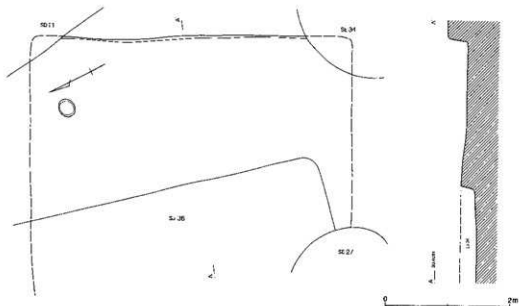
第34号住居跡出土遺物観察表 (第178図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	(12.8)	4.9		WSW'BB'	A	浅黄橙	20%	覆土 内外面磨耗著しい
2	高台坏	(13.3)	5.7	6.3	WSRW'B'	B	鈍い位	50%	No3 カマド(+7.5cm) 酸化垢焼成
3	高台坏		4.5	(7.3)	WW'SB'	B	灰	40%	覆土
4	甕	19.7	20.5		WBBR	B	橙	70%	No2 カマド(+18.0cm) 内外面磨耗著しい
5	甕		18.2	4.0	WBBR	C	浅黄橙	60%	No4 カマド(+2.4cm)
6	砥石	No7	覆土床面		長さ8.7cm 幅5.6cm 厚さ2.0cm 重量202g 砂岩製				

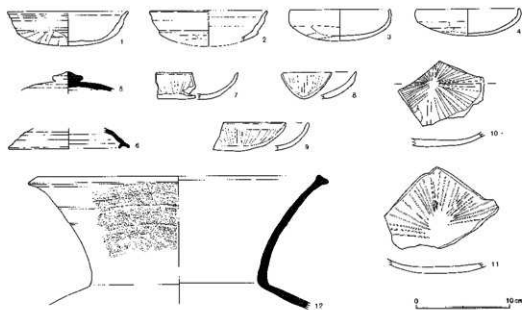
第35号住居跡 (第179図)

せー5-20グリッドを中心に位置する。第36号住居跡を切り、第27・34号井戸跡、第11号溝跡に切られる。東壁を3.89m検出ただけで形態、規模は不明とせざるを得ない。深さは0.22-0.32mで壁際がやや低くなっている。主軸方位は残存している東壁を基準とするとN-26°-Eとなる。

床面はやや起伏があるようで、壁は垂直に立ち上がる。覆土は不明である。ピットが1本検出され、直径約29cm、深さ19cmを測るが、住居跡に伴うかどうか疑問である。



第179図 第35号住居跡



第180図 第35号住居跡出土遺物

出土遺物は、全て覆土からの出土で、図示した以外に放射状暗文片が6片ある。

第35号住居跡出土遺物観察表 (第180図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	(12.9)	3.7		B'W'	B	橙	30%	覆土 内外面やや磨耗
2	坏	(12.5)	3.4		B'W'	C	浅黄橙	25%	覆土 内外面磨耗著しい
3	坏	(10.8)	3.3		B'WB	B	橙	70%	覆土 内外面やや磨耗
4	坏	10.9	2.9		SB'W'	B	橙	90%	覆土 内外面磨耗著しい
5	蓋		2.3		WBW'	A	灰黄	30%	覆土 胎土緻密 産地不明
6	蓋	(12.9)	2.2		WB	A	灰白	20%	覆土 胎土緻密 産地不明
7	坏				B'WR	H	褐		覆土 放射状暗文 磨耗著しい
8	坏				W'B'	B	橙		覆土 放射状暗文 磨耗著しい
9	坏				WB'WB	H	明褐		覆土 放射状暗文 磨耗著しい
10	坏				WB'WR	B	橙		覆土 放射状暗文
11	坏				B'W'	B	橙		覆土 放射状暗文 磨耗著しい
12	人瓦	(30.0)	13.7		WSB	A	灰	20%	覆土

第36号住居跡 (第181図)

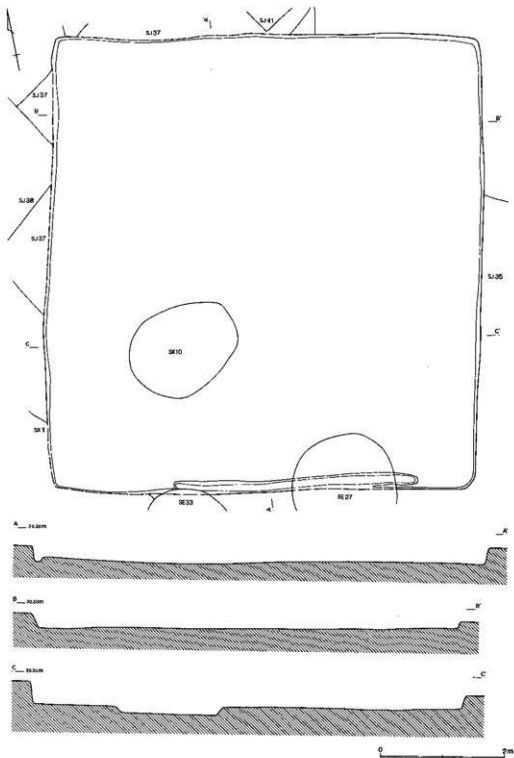
セー6-21グリッドを中心に位置する。他の遺構との重複が激しく、第41号住居跡を切り、第35・37・38号住居跡、第27・33号井戸跡、第10号土塼、1号周溝状遺構に切られる。形態は南北にやや長い長方形で、規模は長軸7.26m、短軸6.92m、深さ0.10~0.35mである。主軸方位はN-14°-Eを指す。

床面は緩やかな起伏があり、壁は垂直に立ち上がる。カマドは検出されていない。重複する他の遺構によって壊されたとも考えられるが、床面や壁に痕跡が見られない点から、本来構築されていた可能性が高い。壁溝は南壁の中央付近でのみ検出され、幅18~21cm、深さ6~8cmを測る。

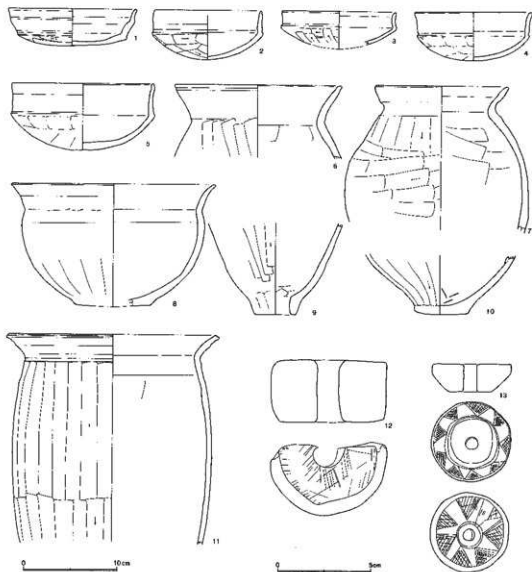
遺物は覆土からの出土で、出土土器全ては土師器である。破片の量はやや多めで、坏・鉢・甕・甔等が認められ、接合率はあまり良くない。滑石製紡錘車が2個出土しており、12は半分に割れた状態で、13は完形品である。13の上下両面に細かい線刻が施されている。

第36号住居跡出土遺物観察表 (第182図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	13.6	3.9		B'WWR	B	褐灰	80%	覆土
2	坏	11.4	5.3		W'WRB'	C	橙	90%	覆土 内外面特に口縁部磨耗著しい
3	坏	(12.0)	3.5		B'WWR	B	鈍い橙	25%	覆土
4	坏	(12.5)	5.2		B'WR	B	橙	60%	覆土 内外面磨耗著しい
5	坏	(15.1)	7.1		RWB'W'	B	橙	75%	覆土 内外面磨耗著しい
6	甕	(17.8)	7.8		B'RW'	B	浅黄橙	30%	覆土 内外面やや磨耗
7	甕	13.9	15.6		WSB'R	B	灰褐	55%	覆土 全体にややいびつ
8	鉢	(21.4)	13.1	(7.9)	W'WBR	B	橙	40%	覆土 S35と接合 内外面磨耗著しい
9	甔		9.8	(3.4)	WBB'S	B	鈍い赤褐	30%	覆土 胎土緻密
10	甕		6.4	5.7	SWW'	B	鈍い橙	50%	覆土 砂粒を少量含むが胎土緻密
11	甕	(22.3)	22.2		SWW'B'R	C	鈍い橙	40%	覆土
12	紡錘車		覆土		厚さ3.0cm 大径5.8cm 小径5.7cm 孔径1.7cm 重量126.45g				滑石製
13	紡錘車		覆土		厚さ1.5cm 大径4.0cm 小径2.0cm 孔径0.7cm 重量41.94g				滑石製



第181图 第36号住居跡



第182図 第36号住居跡出土遺物

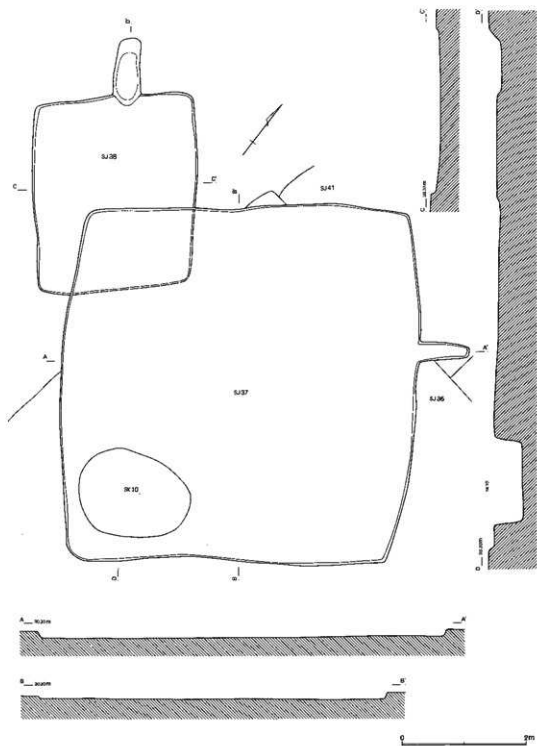
第37号住居跡 (第183図)

せー6-21グリッドを中心に位置する。第36・38・41号住居跡を切り、第10号土層に切られる。形態は方形で、規模は長軸5.78m、短軸5.64m、深さ0.04-0.12mである。主軸方位はN-56°-Eを指す。

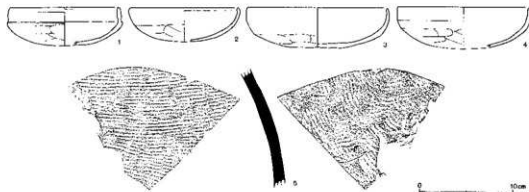
床面はほぼ平坦で、壁は開き気味に立ち上がる。深度が浅いため覆土の状態は不明である。

カマドは北東側の壁中央より北側に設置される。燃焼部の掘り込みはなく、袖も検出されなかった。煙道の掘り込みも浅い。貯蔵穴、ピット、壁溝は検出されなかった。

出土遺物は、少量で全て覆土からの出土である。



第183圖 第37・38号住居跡



第184図 第37号住居跡出土遺物

第37号住居跡出土遺物観察表 (第184図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	(11.5)	4.0		W ⁺ B ⁺ WR	B	浅黄橙	40%	覆土 内外面磨耗著しい
2	坏	(11.4)	3.6		W ⁺ WB ⁺	B	鈍い橙	25%	覆土 内外面やや磨耗
3	坏	(14.9)	4.3		B ⁺ WW ⁺	B	橙	50%	カマド 内外面磨耗著しい
4	坏	(14.1)	4.3		WW ⁺ B ⁺ B	B	鈍い橙	25%	覆土 内外面やや磨耗
5	甕				WW ⁺ B	A	灰		覆土 SJ38と接合

第38号住居跡 (第183図)

セー6-22グリッドを中心に位置する。第37号住居跡と重複し、本住居跡が古い。形態はやや南北に長い長方形で、規模は長軸3.02m、短軸2.62m、深さ0.06-0.12mである。主軸方位はN-35°-Wを指す。

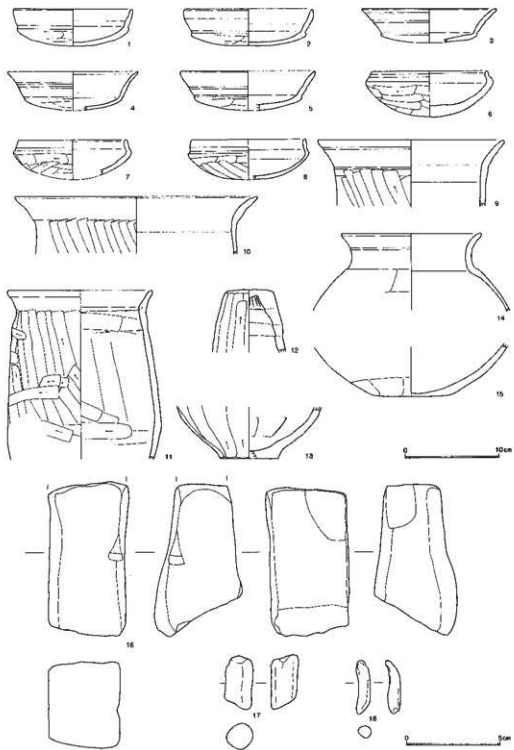
床面は中央付近がやや低くなる傾向が見られ、重複する第37号住居跡の床面より5cmほど高い。壁は開き気味に立ち上がる。覆土は深度が浅いため不明である。

カマドは北西側の壁中央よりやや北寄りに設置される。燃焼部は壁外にあり、床面を7cmほど掘り込んでいる。竈は検出されておらず、覆土の観察もできなかった。貯蔵穴、ピット、壁溝は検出されていない。

出土遺物は、全て覆土からの出土である。図示できなかったが貝塚穴板泥岩が2個出土している。

第38号住居跡出土遺物観察表 (第183図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	(12.6)	3.9		W ⁺ RB ⁺ W	B	鈍い橙	60%	覆土 内外面磨耗著しい
2	坏	(13.6)	3.9		WB ⁺ W ⁺ R	B	橙	30%	覆土 内外面磨耗著しい
3	坏	14.4	3.6		WSRB ⁺	B	橙	40%	覆土 内外面磨耗著しい
4	坏	(13.9)	4.1		W ⁺ WB ⁺ SB ⁺	C	鈍い橙	30%	覆土 SJ37と接合 内外面磨耗著しい
5	坏	(14.3)	4.2		B ⁺ WW ⁺ R	B	橙	25%	覆土
6	坏	(12.2)	4.9		WB ⁺ W ⁺ R	C	鈍い橙	45%	覆土 内外面やや磨耗
7	坏	11.4	3.8		WW ⁺ B ⁺	B	橙	80%	覆土 内外面やや磨耗
8	坏	(12.1)	4.3		WB ⁺ W ⁺ R	B	橙	40%	覆土 内外面やや磨耗
9	甕か	(19.8)	7.2		B ⁺ W ⁺ RW	B	鈍い黄橙	30%	覆土

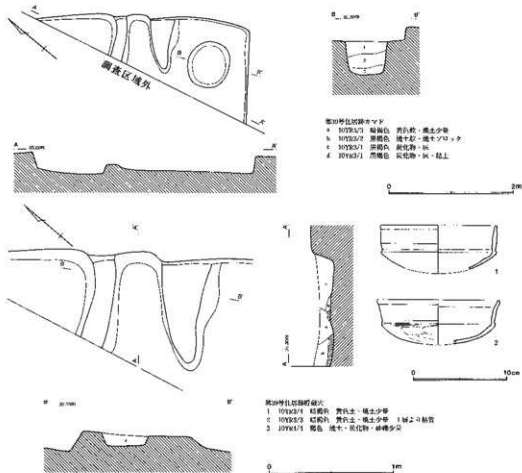


第185岡 第38号住居跡出土遺物

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
10	甕	(26.0)	6.1		B'W'WR	B	浅黄橙	20%	覆土 内外面やや磨耗
11	甕	15.2	18.0		WB'RS	A	橙	65%	覆土
12	支脚か	覆土			B'W'W		鈍い橙	40%	上口径(5.1)cm 残高6.7cm
13	甕		5.5	(6.2)	RW	B	浅黄橙	50%	覆土 S126と接合 内外面やや磨耗
14	甕	(15.0)	8.2		B'W'WSR	A	橙	30%	覆土 内外面磨耗著しい
15	壺		5.3	(8.0)	B'W'W'	C	橙	40%	覆土 内外面磨耗著しい 内面色調浅黄橙
16	砥石		覆土		長さ8.2cm 幅4.1cm 厚さ3.5cm				重量143g 安山岩製
17	棒状土製品		覆土		WBW'B'		鈍い青黄		長さ2.9cm 幅1.5cm 重量5.08g
18	棒状土製品		覆土		WBW'B'		淡橙		長さ2.9cm 幅0.7cm 重量1.36g

第39号住居跡 (第186図)

そー6-2グリッドを中心に位置する。カマドと貯蔵穴周辺を検出しただけで、大半は調査区域外にある。検出された北東側の壁は3.45m、南東側は1.51mで、深さは0.20-0.30mである。仮にカマドを壁の中央に設置されたとすると北東壁は3.8m前後になろう。主軸方位はN-48°-Eを指す。



第186図 第39号住居跡・出土遺物

床面はほぼ平坦だが、カマド左側が低く、右側が高い。壁は垂直に立ち上がる。覆土の観察はできなかつた。カマドは北東側の壁に設置され、左袖は調査区域外に延びる。燃焼部はやや凹凸が見られ、煙道は壁内に留まる。貯蔵穴はカマド右に位置し、直径約74cmの円形で、深さは約50cmを測る。覆土は3層に分けられ、全体に焼土を含む。

出土遺物は少なく、図示した以外には、土師器坏・甕の小片が少量あるだけである。

第39号住居跡出土遺物観察表 (第186図)

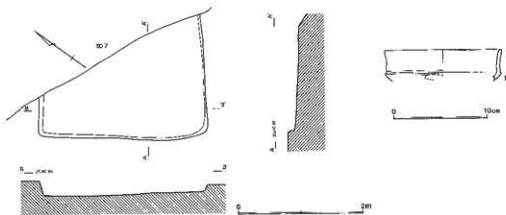
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	12.4	4.6		RWW'B'	C	鈍い橙	60%	覆土 内外面磨耗著しい
2	坏	(13.0)	4.7		RWW'	A	橙	30%	覆土 内外面磨耗著しい

第40号住居跡 (第187図)

そー6-2グリッドを中心に位置する。第7号溝跡によって東半を大きく削られる。規模は西壁が2.70mで、南壁は1.86m残存するにすぎない。方形となるものと思われる。深さは0.12~0.22mである。主軸方位は南壁を基準とするとN-50°-Eとなる。

床面はやや起伏があり、壁は開き気味に立ち上がる。覆土の観察はできなかつた。カマドは検出されなかつた。第7号溝跡によって壊された壁に構築されていたものと思われる。貯蔵穴、ピット、壁溝も検出されていない。

出土遺物は極めて少なく、図示した土師器坏は底部を欠損し、残りも僅か10%の残存である。推定口径は12.6cm、にぶい橙色をし、内外面ともに磨耗が著しい。これ以外には、土師器鉢と思われる口縁部の小片が1片と器種不明の細片が5片あるのみである。

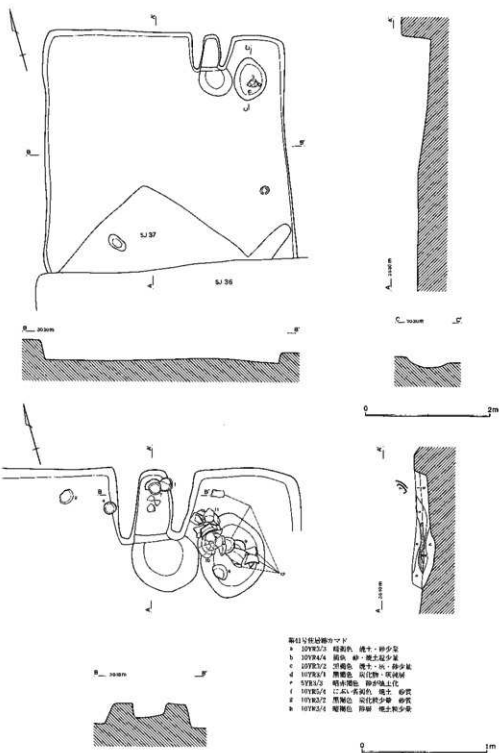


第187図 第40号住居跡・出土遺物

第41号住居跡 (第188図)

そー6-1グリッドを中心に位置する。第36、37住居跡と重複し、本住居跡が最も古い。形態は方形になると思われる。規模は南壁が検出されていないため不正確だが、長軸は3.85m前後と思われ、短軸は3.78m、深さ0.12~0.35mである。主軸方位はN-14°-Eを指す。

床面には緩やかな起伏があり、壁は垂直に立ち上がる。覆土に観察はできなかつた。

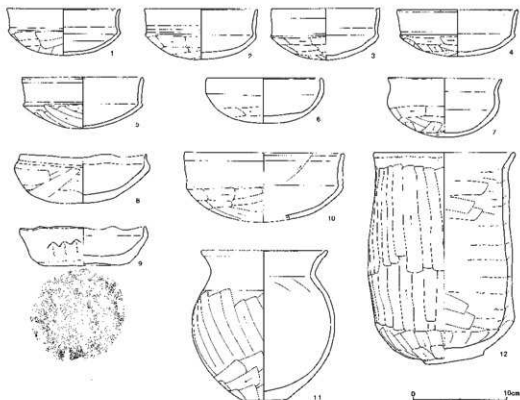


第188图 第41号住居跡

カマドは北壁の東寄りに設置される。燃焼部は袖の手前で、床面を7cmほど掘り込む。覆土は砂の混入が目立ち、中層には焼土層が残存する。煙道は壁外では検出されていない。

貯蔵穴はカマド右側に位置し、52cm×68cmの楕円形で、深さは約17cmを測る。ピットは第37号住居跡と重複する部分で1本検出された。覆土の観察から本住居跡に伴うものと判断した。

出土遺物は全て土師器で、カマドから貯蔵穴にかけて多く見られる。9は雑な作りで底部には木葉痕を残し、体部にも葉の先端部分の葉脈と思われる痕跡が残る。



第189図 第41号住居跡出土遺物

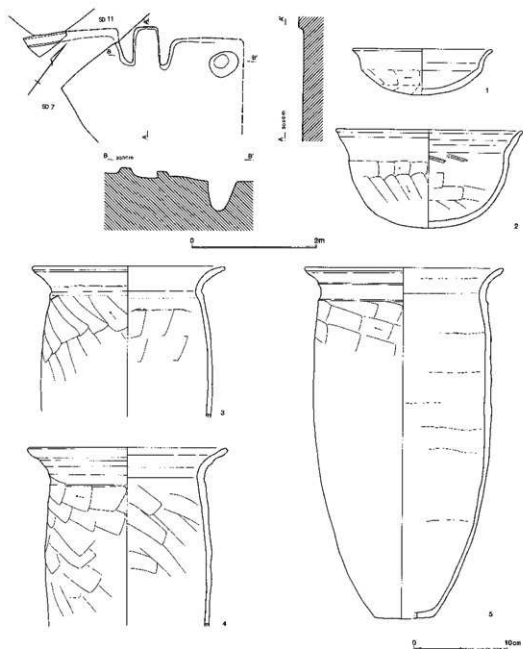
第41号住居跡出土遺物観察表 (第189図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	12.1	5.0		RW'B'W	B	橙	95%	No2 カマド(+17.9cm) 内面磨耗著しい
2	坏	12.0	5.4		WSD'W'	B	橙	80%	No7 覆土(+5.5cm) 内外面磨耗著しい
3	坏	11.6	5.5		W'RB'W	A	橙	90%	P4 ていねいな作り
4	坏	12.7	5.0		RW'B'W	A	橙	100%	No8 カマド左袖(+6.1cm) 磨耗著しい
5	坏	(12.9)	5.5		RW'W	B	橙	75%	No17 貯穴 内外面やや磨耗
6	坏	12.3	4.8		SW'RB'	B	鈍い黄	70%	No16 貯穴 内外面磨耗著しい
7	椀	12.1	6.3		WW'B'	A	橙	95%	No1 カマド(+16.1cm) 磨耗が著しい
8	坏	13.3	5.2		SHWR	B	鈍い黄橙	80%	カマド 内外面磨耗著しい
9	坏	13.4	4.2		SW'B'	B	鈍い黄橙	100%	No13 貯穴 底部~体部木葉痕
10	坏	(17.0)	7.2		RB'W'W	H	橙	90%	No11 貯穴 磨耗 剥落有り
11	甕	13.2	26.0	4.8	WW'BR	B	橙	90%	No10 貯穴 覆土
12	甕	15.1	22.5	6.3	SWW'BR	B	浅黄橙	80%	No9,12他 貯穴 全体的に歪む

第42号住居跡 (第190図)

そー5-4グリッドを中心に位置する。第7・11号溝跡に切られる。カマド周辺と貯蔵穴を検出したのみで、形態、規模は不明とせざるを得ない。深さは0-0.17mである。主軸方位はN-36°-Wを指す。

床面は平坦で、東及び南に向かうに従って徐々に浅くなり、立上がりは見られなくなる。残存し



第190図 第42号住居跡・出土遺物

ている壁は垂直に立ち上がる。深度が浅いため覆土の状態は不明である。

カマドは北壁に設置される。燃焼部の掘り込みはなく、軸は高さ10cm程度の残存に過ぎない。貯蔵穴はカマド右側に位置し、37cm×46cmの円形で、深さは49cmを測る。この付近がコーナーになろうか。壁溝はごく一部が検出されただけで、幅約16cm、深さ3cmである。

出土遺物は少なく、全て覆土からの出土で、図示した以外には土師器坏と差の小片が僅かに残るだけである。

第42号住居跡出土遺物観察表 (第190図)

番号	器種	Li 径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	碗	(14.8)	4.9		BB'RW'	C	灰白	50%	覆土 内面色調黒褐 内外面磨耗著しい
2	鉢	(19.6)	10.5		SB'WW'	C	灰黄褐	25%	覆土 内面色調褐灰 外面下半磨耗著しい
3	差	20.3	26.1		WBB'	B	桜	55%	覆土
4	飯	21.4	19.0		WBB'R	B	淡桜	45%	覆土
5	差	20.8	37.5	6.4	WBB'R	B	浅黄桜	70%	覆土 二次焼熱 砂質粘土付着

第43号住居跡 (第191・192図)

せー5-23グリッドを中心に位置する。周囲を第46・47・48号住居跡に切られ、中央を第7号溝跡に大きく扶られる。形態は方形で、規模は長軸6.80m、短軸6.62m、深さ0.28~0.40mである。主軸方位はN-14°-Wを指す。

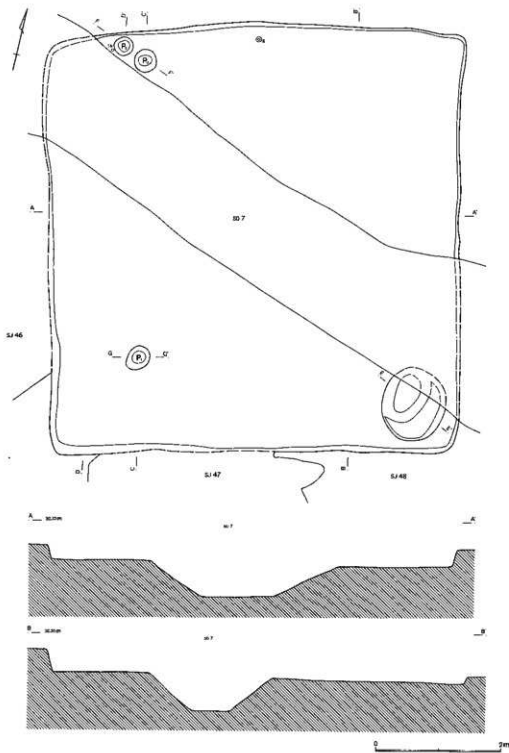
床面は平坦で、壁はやや閉き気味に立ち上がる。覆土の観察はできなかった。

カマドは検出されなかった。第7号溝跡で壊された部分にあったのか、それとも本来構築されていなかったのか判断できなかった。貯蔵穴は南東コーナーに位置し、北側を第7号溝跡に壊される。直径110cm前後の円形となると思われる。南側に段を持ち、最深部は54cmを測る。ピットは3本検出されたが、P1・P2は住居跡に伴うかどうか疑問が残る。

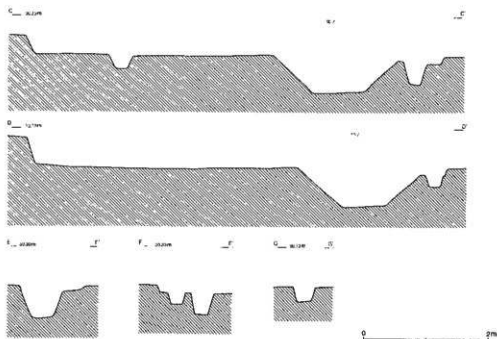
出土遺物は、多量で全て覆土からの出土である。出土土器は周辺からの混入も多いと思われ、接



発掘作業風景



第191图 第43号住居跡(1)

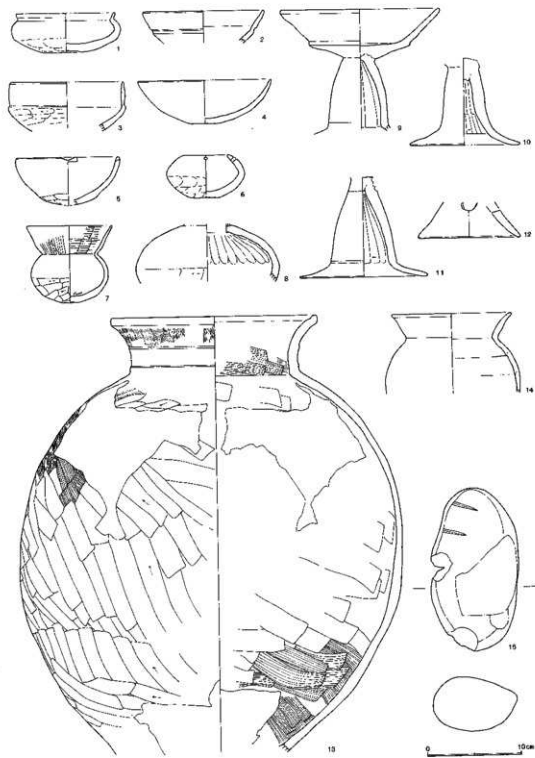


第192岡 第43号住居跡(2)

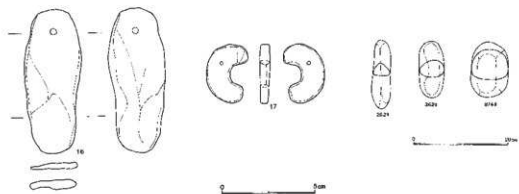
第43号住居跡出土遺物観察表 (第193-194岡)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	椀	(10.6)	4.2		WW'BB'R	A	明赤褐	95%	覆土 胎土緻密 内外面やや磨耗
2	坏	(12.7)	3.5		WW'BB'	B	橙	25%	覆土 胎土緻密 内外面磨耗著しい
3	坏	(11.9)	5.2		RBWW'	A	橙	20%	覆土 胎土緻密 内外面磨耗著しい
4	坏	14.2	4.6		RWW'B'	C	橙	60%	覆土 内外面磨耗著しい
5	坏	(10.3)	5.1		B'WW'R	B	鈍い黄橙	30%	覆土 口縁に片口状切り込み
6	ニ+フ	4.6	4.5	3.0	WW'BB'R	B	明赤褐	100%	No1 覆土(+9.0cm) 2孔一対
7	埴	(9.0)	8.2	(2.1)	B'WW'	B	鈍い黄橙	60%	覆土
8	壺		6.2		B'BW'	B	橙	70%	覆土 胎土緻密 内外面やや磨耗
9	高坏	16.7	13.0		BB'WW'	A	橙	80%	覆土
10	高坏		9.3	11.4	WW'B'	A	明赤褐	60%	覆土
11	高坏		10.7	(13.5)	WW'RB'	A	橙	70%	覆土
12	高坏?		3.8	(10.9)	B'W'WR	B	鈍い橙	25%	覆土 1孔残存 全体での孔の数は不明
13	大形壺	(20.5)	46.5		WBRS	B	浅黄橙	55%	覆土
14	甕	(12.5)	8.6		WW'BB'	H	橙	40%	覆土 胎土緻密
15	砥石?		覆土		長さ17.1cm 幅9.4cm 厚さ5.8cm	重量610g	角閃石安山岩	刃跡有り	
16	剣形品	No2	覆土(+4.0cm)		長さ77.0cm 幅30.0mm 厚さ5.0mm	重量22.46g	砂岩製	完形	
17	勾玉		覆土		直径22.4mm 厚さ5.0mm	重量5.76g	滑石製	ほぼ完形	

合率はあまり良くない。坏・高坏・埴・甕・壺等が認められる。12は透かし孔が1個見られ、高坏の脚部と考えた。16は砂岩製で剣形の模造品であろうか。完形品だが全体的に風化が見られる。17は滑石製の勾玉である。



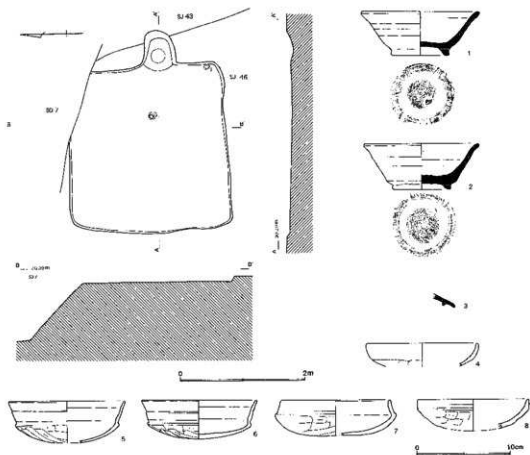
第193图 第43号住居跡出土物(1)



第194図 第43号住居跡出土遺物(2)

第44号住居跡 (第195図)

せー5-24グリッドを中心に位置する。第43・45・46号住居跡の上に構築され、北東コーナーを第7号溝跡に削られる。形態は方形で、規模は長軸2.64m、短軸2.60m、深さ0.05~0.11mである。



第195図 第44号住居跡・出土遺物

主軸方位はN-90°-Eを指す。

床面はほぼ平坦で、壁は開き気味に立ち上がる。深度が浅いため覆上の観察はできなかった。

カマドは東壁中央より僅かに南側に設置される。燃焼部は壁外にあり、床面を5cmほど掘り込み緩やかに立ち上がる。覆土の観察はできなかった。貯蔵穴、ピット、壁溝は検出されていない。

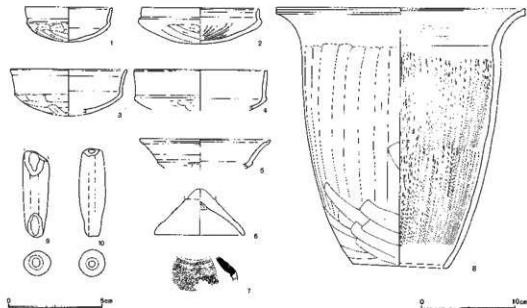
遺物はやや多めに出土しているが、周辺からの流れ込みが多いと思われる。2点の須恵器高台坏(1・2)は床面付近からの出土で、住居跡に伴うものと考えられる。図示した以外には土師器坏・甕の小片や器種不明の須恵器が2片認められる。

第44号住居跡出土遺物観察表 (第195図)

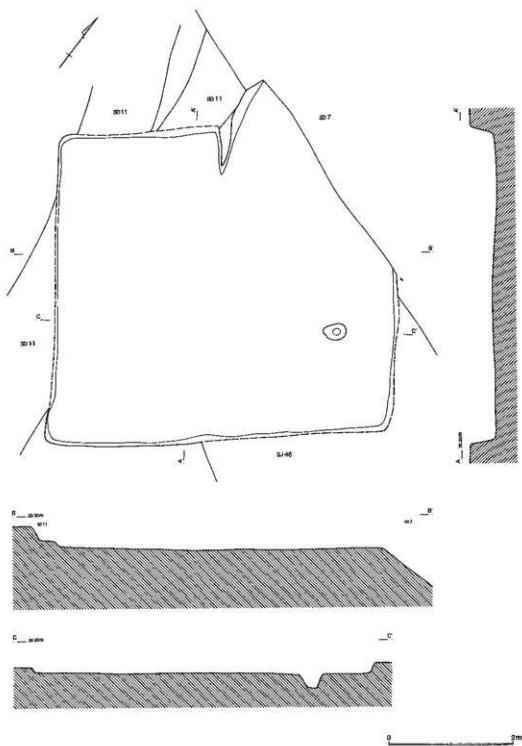
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	高台坏	(12.2)	4.9	5.9	BH'WW'	C	鈍い橙	70%	No.2 覆土(+5.0cm) 酸化焰焼成
2	高台坏	(12.5)	4.7	5.6	BWW'	C	鈍い黄橙	60%	No.1 覆土(+3.8cm) 覆土 酸化焰焼成
3	甕				WS	A	暗青灰		覆土 小片
4	坏	(11.8)	2.5		W'B'W	B	橙	15%	覆土 内外面磨耗著しい
5	坏	(12.3)	4.4		B'W'W	B	浅黄橙	20%	覆土 内外面磨耗著しい
6	坏	12.2	4.2		W'B'WR	A	鈍い橙	95%	覆土 内面磨耗著しい
7	坏	11.6	3.8		RWB'W'	B	橙	20%	覆土 内外面磨耗著しい
8	坏	(11.8)	3.1		WW'B'	B	鈍い橙	25%	覆土 内外面磨耗著しい

第45号住居跡 (第197図)

セー5-24グリッドを中心に位置する。第44・46号住居跡、第7・11号溝跡と重複する。第44号住居跡は上に乗る、第46号住居跡との関係は明確ではないが木住居跡が古いと思われる。北東側を第7号溝跡に挟まれ、北西側は第11号溝跡に切られるが床面までは達していない。形態は東西に僅かに長い長方形と思われ、残存規模は長軸5.56m、短軸4.98m、深さ0.18~0.41mである。主軸方位はN-37°-Wを指す。



第196図 第45号住居跡出土遺物



第197图 第45号住居跡

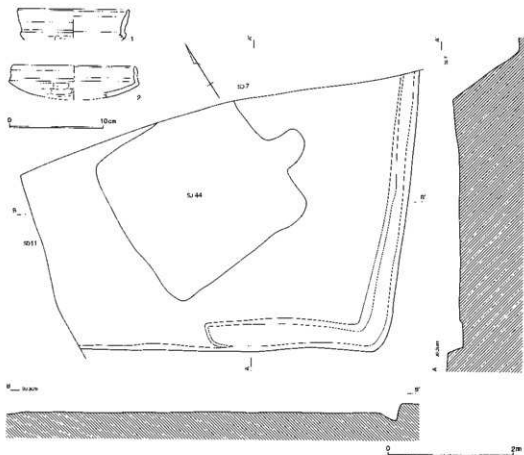
床面は緩やかな起伏を持ち、壁は開きながら立ち上がる。覆土の状況は不明である。

カマドは確認されていないが、北壁にカマドの袖状の高まりが一か所検出されている。この付近から床面が北方向に大きく広がる傾向が見られる。ピットは1本検出されたが、住居跡に伴うかは確認できなかった。

遺物は全て覆土からの出土で、やや多めに見られるが、接合率はあまり良くない。

第45号住居跡出土遺物観察表 (第196回)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	(9.2)	3.7		WB'WS	H	灰 褐	35%	覆土
2	坏	(12.6)	3.8		B'W'WHS	B	橙	25%	覆土 放射状暗文
3	坏	(12.4)	4.8		WW'BSB'	B	橙	30%	覆土 内外面やや磨耗
4	坏	(14.2)	4.3		B'WW'	H	橙	15%	覆土 胎土緻密 内外面やや磨耗
5	坏	(13.9)	3.1		BB'WW	A	橙	20%	覆土 内外面磨耗著しい
6	高坏?		4.9	(9.5)	RW'WE	B	黄い黄橙	40%	覆土 外面赤彩か
7	匙				W	A	灰		覆土 産地不明 (群馬か)
8	瓶	26.6	27.5	10.2	WBBR	B	浅黄橙	75%	覆土 内外面やや磨耗 外面ヘラケズリ
9	土鉢	覆土			SB'W		黄い黄橙		残4.6cm 径1.5cm 孔0.4cm 重7.35g
10	土鉢	覆土			WW'		褐 灰		全4.7cm 径1.4cm 孔0.4cm 重8.11g



第198回 第45号住居跡・出土遺物

第46号住居跡 (第198図)

せー5-24グリッドを中心に位置する。第43・45住居跡を切り、第44号住居跡に切られるが床面までは達していない。北半は第7号溝跡に、西半は第11号溝跡に壊される。形態は方形或いは長方形であろう。残存規模は南壁が4.88m、東壁が4.34mで、深さは0.16-0.20mである。主軸方位は東壁を基準とするとN-41°-Eとなる。

床面は緩やかな起伏があり、壁は聞き気味に立ち上がる。覆土の観察はできなかった。

カマドは検出されていない。溝跡に壊された北又は西壁に構築されていたと推察される。壁溝は東壁から南壁にかけて検出され、幅が30-52cmと広い。深さは6-14cmで東壁際が深くなる傾向にある。

遺物は土師器・甕の小片がやや多めに出土したが、接合率が極めて悪く、図示できたものは2個体に留まった。

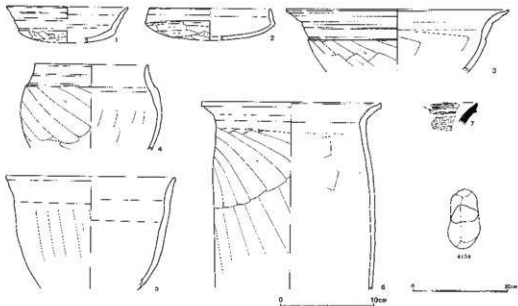
第46号住居跡出土遺物観察表 (第198図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	(11.7)	3.3		WB'RW'	B	橙	20%	覆土・内外面磨耗著しい
2	坏	(13.0)	3.4		WB'RW'	A	鈍い橙	20%	覆土

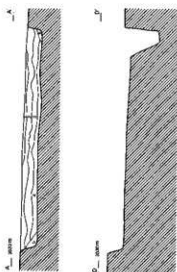
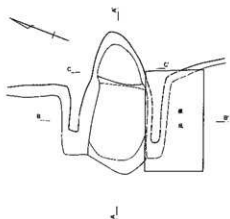
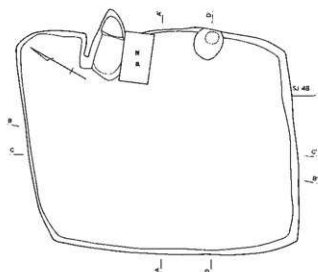
第47号住居跡 (第200図)

せー5-23グリッドを中心に位置し、第43・48号住居跡と重複している。第43号住居跡より新しいと思われるが、第48号住居跡との関係は明確でない。形態は南北にやや長い長方形で、規模は長軸4.32m、短軸3.60m、深さ0.14-0.38mである。主軸方位はN-54°-Eを指す。

床面は起伏があり、北側が浅く、南側が深くなる。壁は聞きながら立ち上がる。覆土は5層に分けられるが、中層には焼土ブロック・炭化物を含み人為的な埋め戻しの可能性も考えられる。



第199図 第47号住居跡出土遺物



第47号住居跡

- 1 10YR5/4 におい黄褐色 / 灰土
- 2 10YR5/4 におい黄褐色 / 灰土・焼土ブロック・灰化物少量
- 3 10YR5/3 におい黄褐色 / 灰土・焼土ブロック・灰化物少量
- 4 10YR5/3 におい黄褐色 / 灰土・灰化物少量
- 5 10YR5/2 灰黄褐色 / 灰土結晶多量
- 6 10YR6/4 におい黄褐色 / 灰土

0 2m



第47号住居跡ナマド

- a 10YR4/2 赤黄褐色 / 黄褐色・灰化物少量
- b 10YR4/3 におい黄褐色 / 焼土ブロック・黄褐色少量
- c 10YR3/3 暗褐色 / 黄褐色・焼土ブロック
- d 10YR4/3 におい黄褐色 / 黄褐色多量
- e 10YR4/2 灰黄褐色
- f 10YR4/2 赤黄褐色 / 焼土ブロック・灰土結晶多量
- g 10YR4/2 赤黄褐色 / 灰土結晶多量
- h 10YR4/2 赤黄褐色 / 灰土結晶多量

0 1m

第200図 第47号住居跡

カマドは東壁中央より北側壁に設置される。右袖は攪乱によって完全に壊されている。燃焼部は床面を5cmほど掘り込み、奥壁は急激に立ち上がり煙道へ繋がる。ピットはカマド右側の壁際で1本検出された。直径約48cmの円形で、深さ48cmとしっかりとしているが、住居跡に伴うものかは確認できなかった。

出土遺物は大半が土師器で、破片はやや多めだが接合率が悪く図示できたものは少ない。坏・甕・鉢・甌等が認められる。

第47号住居跡出土遺物観察表 (第199図)

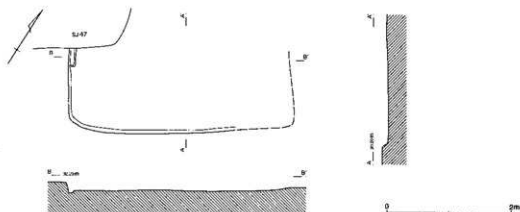
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成色調	残存	出土位置・その他
1	坏	(12.8)	3.9		W'B'WB	A 橙	20%	覆土
2	坏	(12.3)	3.3		BB'WW'	C 橙	30%	覆土 内外面やや磨耗
3	鉢	(23.9)	6.7		BB'WSWR	A 橙	20%	覆土 内面磨耗著しい
4	甕	(12.0)	9.0		WW'B'R	A 橙	25%	覆土
5	甌か	17.9	12.1		WRB'W'	B 橙	70%	覆土 全体に雑な作り 内外面磨耗著しい
6	甕	19.1	20.0		WBR	A 黄い黄橙	70%	覆土
7	甕				SWB	A 灰		覆土 内面色調灰白

第48号住居跡 (第201図)

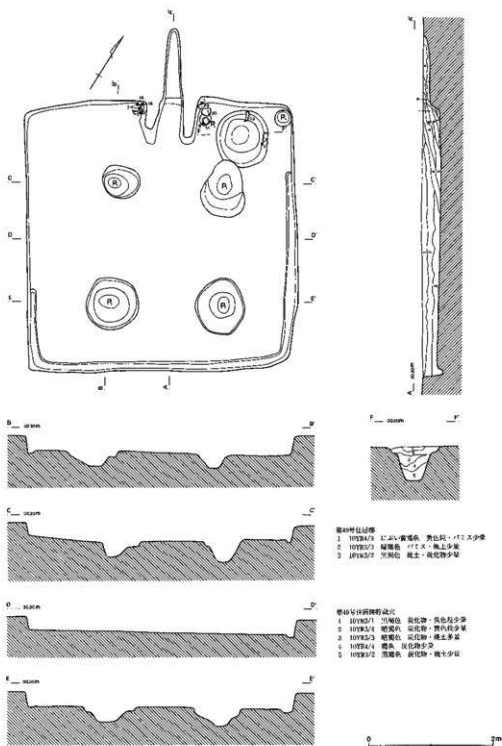
せー5-23グリッドを中心に位置する。第47号住居跡と重複しているが、本住居跡が浅いため切り合い関係は明確でない。北側及び東側は深度がなくなり、壁は検出できなかった。従って形態、規模は不明とせざるを得ない。残存規模は南壁2.68m、西壁1.20mで、深さは0~0.14mとなる。主軸方位は西壁を基準とするとN-33'-Wとなる。

床面はほぼ平坦で、壁は開き気味に立ち上がるようである。壁溝は西壁の一部で検出され、幅12cm、深さ約4cmを測る。

出土遺物は極めて少なく、土師器坏・甕の小片と器種不明の須恵器細片があるのみで図示できるものはなかった。土師器坏片には放射状暗文が見られるものが1片ある。



第201図 第48号住居跡



第202图 第19号住居跡

第49号住居跡 (第202・203図)

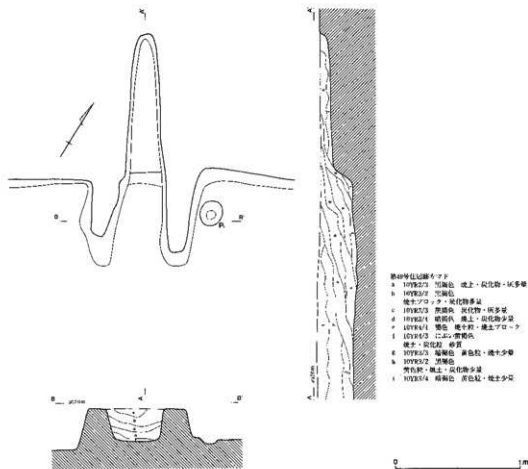
セー5-18グリッドを中心に位置する。形態は方形で、規模は長軸4.38m、短軸4.24m、深さ0.20-0.28mである。主軸方位はN-30°-Wを指す。

床面はほぼ平坦で、壁は垂直に立ち上がる。

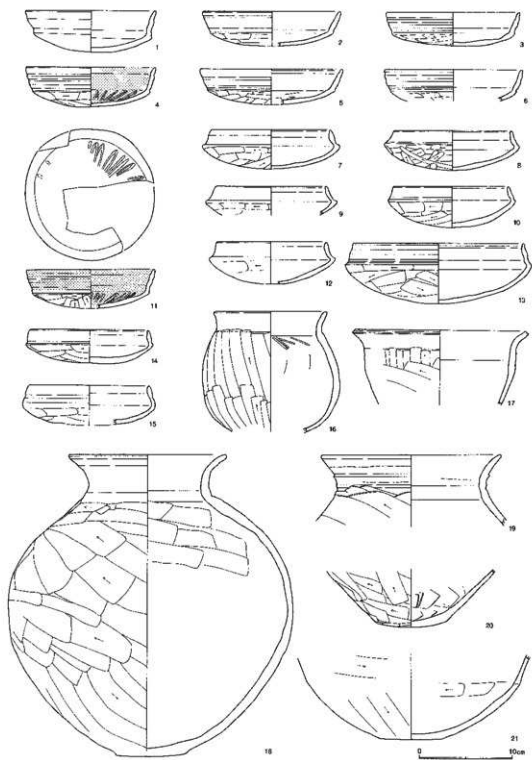
カマドは北壁ほぼ中央に設置される。燃焼部の握り込みは見られず、奥壁は急激に立上がり煙道へ続く。断面観察からは、カマド構築土がかなり早い段階で流れ出したことが伺えるが、明瞭な焼土層・灰層は残っていなかった。

貯蔵穴はカマド右側に位置し、直径約82cmの円形で、深さは約55cmを測る。上半部にテラス状の段を持つ。覆土は6層に分けられるが、全体に炭化物を含んでいる。ピットは6本検出された。P1~P4は柱穴であろう。P5はカマド右袖脇にあり、直径約20cm、深さ9cmの小ピットである。カマドに付随するものと考えられる。壁溝は西壁の南端から東壁にかけて検出され、幅14~20cm、深さ2~8cmである。

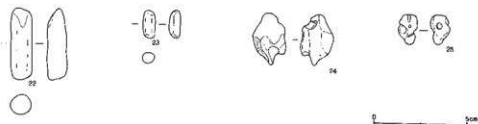
出土遺物は、カマドの両袖の外側付け根部分に多く見られる。出土土器は全て土師器で、放射状暗文に黒色処理がされた坏が見られる。貝塚穴痕泥岩が7個出土している。



第203図 第49号住居跡カマド



第204图 第49号住居跡出土遺物(1)



第205図 第49号住居跡出土遺物(2)

第49号住居跡出土遺物観察表 (第204・205図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	13.7	4.4		WW'BB'SR	B	橙	80%	No5 カマド左袖(+10.8cm) 貯穴 塗み大
2	坏	(14.6)	3.7		B'WB'W'R	B	鈍い橙	30%	貯穴No3 貯穴 覆土 内外面磨耗著しい
3	坏	14.1	3.6		SB'R	B	橙	75%	No1 カマド右袖(+7.9cm) No6 カマド左袖
4	坏	13.8	4.2		BB'WW'R	B	橙	60%	覆土 内面黒色処理 放射状暗文
5	坏	(14.9)	3.8		BB'WW'	B	褐	30%	覆土 内外面やや磨耗
6	坏	(14.5)	3.4		B'WW'	B	橙	25%	覆土
7	坏	(12.7)	4.2		B'W'WR	B	鈍い黄橙	50%	No4,5 カマド左袖(+10.8cm)
8	坏	12.3	4.2		B'W'WRB	A	橙	100%	No3 ビット5
9	坏	(11.7)	3.1		BB'	B	鈍い橙	70%	ビット1 覆土 内外面磨耗著しい
10	坏	12.2	4.3		B'RW'W	B	鈍い橙	80%	覆土 内外面やや磨耗
11	坏	13.5	4.1		B'WW'	B	鈍い橙	60%	ビット1 覆土 放射状暗文 黒色処理
12	坏	11.5	4.5		WSW'B	B	鈍い橙	70%	覆土 内外面磨耗著しく調整不明瞭
13	坏	(18.1)	6.5		B'W'WR	B	鈍い橙	35%	覆土
14	坏	12.4	3.6		BB'WW'R	B	橙	75%	ビット3,5 内面磨耗著しい
15	坏	(12.7)	4.1		B'BRW'R	B	橙	40%	覆土 内外面やや磨耗
16	甕	(11.9)	13.0		BB'WW'R	B	橙	80%	ビット4 カマド左袖(+17.5cm)
17	鉢	18.1	8.0		WBBR	B	明赤褐	20%	覆土 内外面やや磨耗
18	壺	16.6	32.2	7.5	WBBR	B	橙	70%	No4 カマド左袖(+17.5cm) ビット4
19	壺	(19.0)	7.7		B'W'WBR	A	鈍い黄橙	60%	貯穴No1 貯穴 覆土
20	甕		6.3	7.3	B'W'WR	A	橙	60%	No2 カマド右袖(+8.6cm)
21	壺		9.1	6.6	SB'RW'	B	鈍い橙	60%	覆土 内面胎土黒褐 内外面磨耗著しい
22	棒状土製品		覆土		WBW'B'		鈍い黄橙		長さ3.9cm 幅1.1cm 重量4.58g
23	棒状土製品		覆土		WBW'B'		鈍い黄橙		長さ1.5cm 幅0.7cm 重量0.47g
24	貝果穴痕泥岩		覆土						
25	貝果穴痕泥岩		覆土						

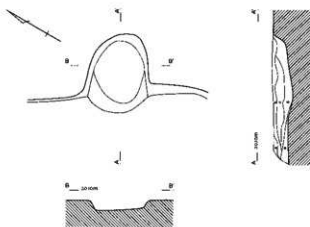
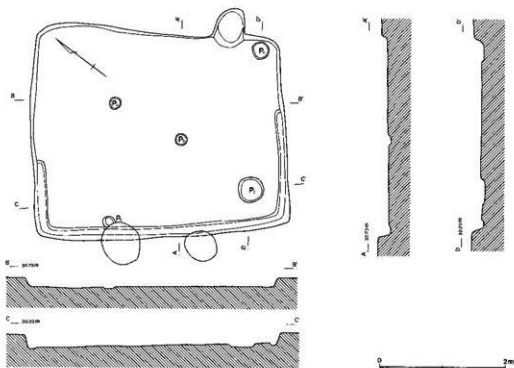
第50号住居跡 (第206図)

せー5-17グリッドを中心に位置する。西壁を2本の小ビットに切られる。形態は長方形で、規模は長軸4.14m、短軸3.50m、深さ0.10~0.24mである。主軸方位はN-52°-Eを指す。

床面は概ね平坦で、壁はやや開き気味に立ち上がる。覆土の観察はできなかった。

カマドは北東側の壁の南寄りに設置され、遺存状態は良くない。燃焼部は壁外に位置し、床面からの掘り込みは5cmに満たない。袖は検出されなかった。

ビットは5本検出された。P1はカマドの右側に位置し、貯蔵穴とも考えられるが、直径約29cm、深さ7cmと規模が小さく疑問が残る。P2は南コーナーにあり、貯蔵穴の可能性もあるが、P1と同様に規模において疑問が残る。P3~P5は住居跡に伴うか確認できなかった。壁溝は幅15~



350分伊呂波のマツ

- a 10YR5/3 紅褐色 炭化物、パリス、骨角粉少量
- b 10YR2/3 暗褐色 炭化物、焼土多量
- c 10YR2/3 暗褐色 炭化物、焼土少量
- d 10YR2/4 暗褐色 炭化物、焼土、パリス少量
- e 10YR3/2 紅褐色 炭化物、焼土少量



第206図 第50号住居跡・出土遺物

22cm、深さ3-5cmである。

出土遺物は極めて少なく、土師器杯・高坏・甕等が認められるが、図示できたのは2点に留まった。

第50号住居跡出土遺物観察表 (第206図)

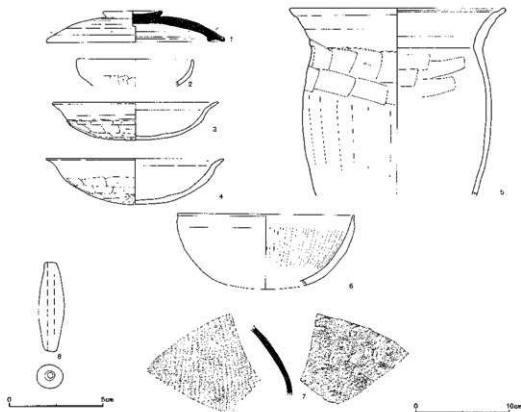
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	高坏		7.7		B'WWR	A	橙	80%	覆上 内外面磨耗著しい
2	甕	(19.4)	8.1		B'BRW	B	浅黄橙	25%	覆上 内外面磨耗著しい

第51号住居跡 (第208図)

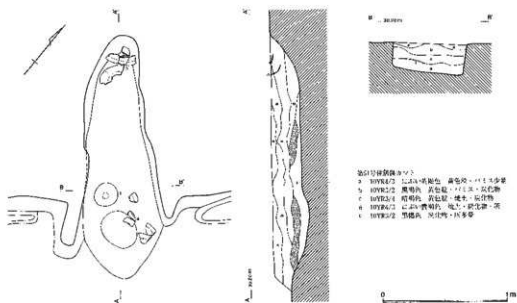
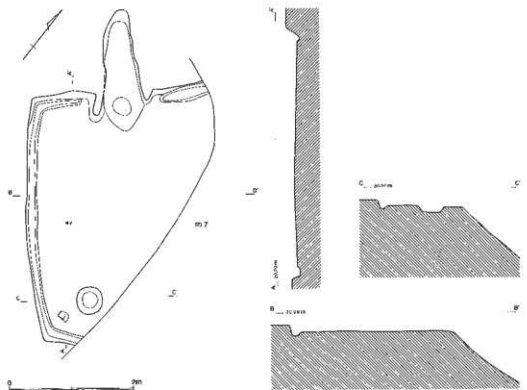
せー5-22グリッドを中心に位置する。南コーナーで第52号住居跡を切り、東半を第7号溝跡に壊される。規模は南西側の壁が3.88m、北西の壁は2.74m残存するのみで、深さは0.06-0.16mとなっている。仮にカマドが北西の壁の中央又はやや西寄りに構築されているとすると、3.0m前後と想定される。この場合、形態は長方形になる。主軸方位はN-40°-Wを指す。

床面はほぼ平坦で、壁は開きながら立ち上がる。覆上の観察はできなかった。

カマドは北西側の壁に設置される。燃焼部の掘り込みは10cm程度で、最下層には炭化物、灰を多量に含む黒褐色土が厚く堆積し、その上層に焼土が堆積する。煙道は平坦で、緩やかに立ち上がる。



第207図 第51号住居跡出土遺物



- 剖面号与层位关系图：
- a 10YR6/2 土质灰黄色 黄褐色，+1.1米少量
 - b 10YR2/2 黄褐色 灰白色，+1.5米，灰白色
 - c 10YR4/2 暗褐色 灰白色，+2.0米，灰白色
 - d 10YR4/2 土质黄褐色，+2.5米，灰白色，灰
 - e 10YR2/2 黄褐色，灰白色，+3.0米

第208图 第51号住居跡

ピットは南コーナーで1本検出された。直径約46cm、深さ12cmで貯蔵穴の可能性も考えられる。壁溝はカマド側から全周するようで、幅14~20cm、深さ4~10cmを測る。

出土遺物はあまり多くなく、大半が土師器で、須臾器は図示したものを含めて3片である。カマド燃焼部と煙道先端に集中する。

第51号住居跡出土遺物観察表(第207図)

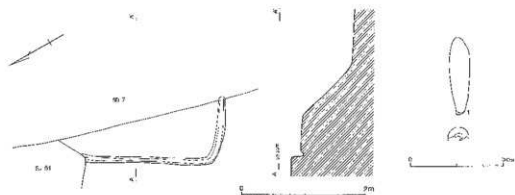
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	蓋	18.6	3.3		WBW'	A	灰褐色	95%	No2 カマド(+6.5cm) 群馬前か
2	坏	(12.2)	2.9		B'WW'B	A	鈍い灰	15%	カマド 内外面磨耗著しい
3	皿	17.6	4.1		W'HH'W	B	鈍い灰	65%	No1 覆土(+6.2cm) 内面磨耗著しい
4	皿	18.8	4.9		WB'W'ER	P	鈍い灰	95%	No3 カマド(15.1cm) 内外面磨耗著しい
5	壳	22.8	19.9		WBB'E	B	鈍い灰	50%	No1 カマド(+4.8cm) 内外面やや磨耗
6	碗	(18.7)	7.5		HH'W'W'S	H	鈍い黄灰	15%	覆土 内外面磨耗著しい 放射状暗文
7	甕				WDS	A	灰		覆土
8	上鉢	カマド			WW'B'S		鈍い黄灰	100%	長4.8cm 径1.4cm 孔0.3cm 重6.96g

第52号住居跡(第209図)

せー5-16グリッドを中心に位置する。大半を第51号住居跡、第7号溝跡によって壊されている。西壁が2.10m、南壁が1.10m検出されたにすぎず、形態、規模は不明とせざるを得ない。深さは0.14~0.24mである。

床面は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。覆土も観察はできなかった。壁溝は検出された壁においては全周する。幅9~15cm、深さ2~5cmを測る。

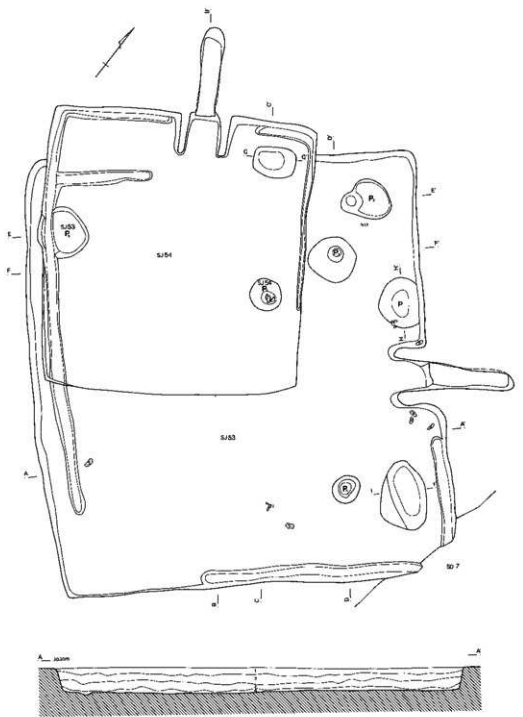
出土遺物は極めて少なく、1の土師以外は全て土師器の細片で、坏・壳が認められるが図示できるものはない。上鉢は上端及び裏側を欠損し、孔は下端部にもみ残存している。残長4.1cm、胎土には砂粒が目立つ。



第209図 第52号住居跡・出土遺物

第53号住居跡(第210・211図)

せー5-12グリッドを中心に位置する。第54号住居跡と重複し、東コーナー部を第7号溝跡に挟まれる。第54号住居跡との関係は断面では確認できなかったが、壁や壁溝の状態からは本住居跡が



第210图 第53·54号住居跡

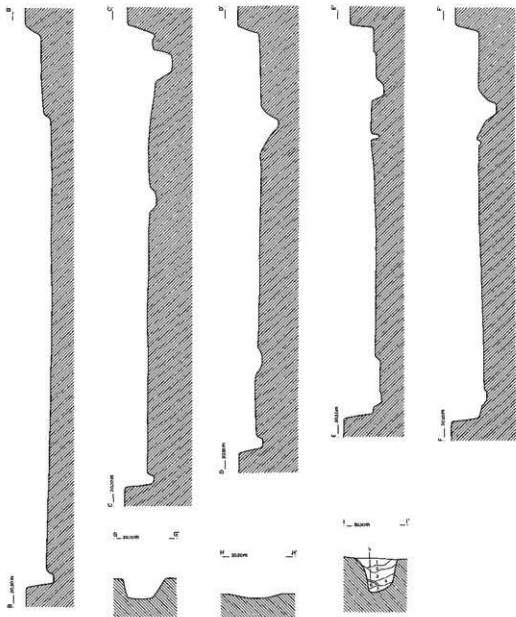


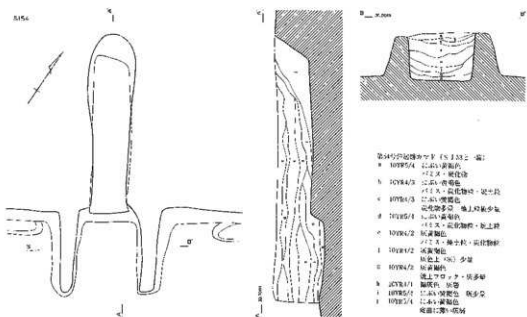
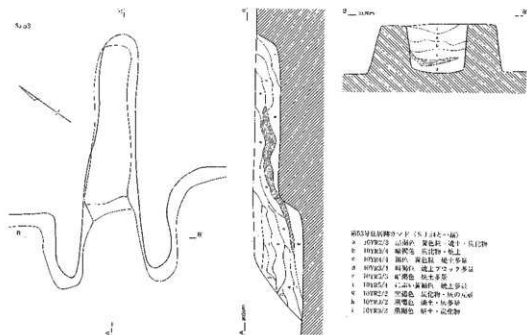
表33 居住層跡

- 1 10YR2/3 赭褐色 黃色粒・塊土
- 2 10Y3/2 褐色 黃色粒・塊土・炭化物
- 3 10YR3/3 赭褐色 炭化物・塊土少量
- 4 10YR4/3 灰褐色 黃色粒多量 塊土・炭化物少量

表34 居住層跡底式

- 1 10YR2/2 赭褐色 炭化物・塊土
- 2 10YR3/3 赭褐色 炭化物・塊土
- 3 10YR3/4 赭褐色 炭化物・黃色粒少量
- 4 10YR2/2 泥褐色 炭化物少量
- 5 10YR2/3 泥褐色 炭化物少量
- 6 10YR3/2 灰褐色 炭化物
- 7 10YR4/4 褐色 黃色粒・炭化物少量

0 2m

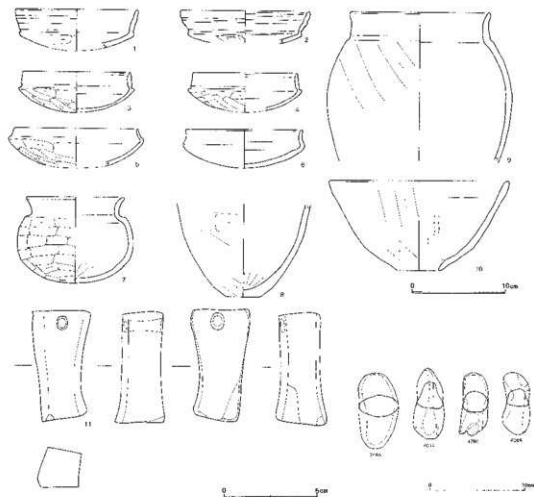


第211図 第53・54号住居跡カマド

旧いと思われる。形態は長方形に近く、規模は長軸6.86m、短軸6.50m、深さ0.26~0.50mである。主軸方位はN-50°-Eを指す。

床面はほぼ平坦で、壁は垂直に立ち上がる。覆土は4層に分けられ、全体に焼土を含んでいる。人為的に埋められた可能性も考えられる。カマドは北東側の壁ほぼ中央に設置される。燃焼部の掘り込みは見られず、底面は平坦である。覆土最下層には炭化物と灰の互層が厚く堆積し、その上に焼土が残存する。奥壁は急激に立ち上がり、煙道は1.24mと長く延びる。貯蔵穴はカマド右側に位置し、72cm×112cmの楕円形で、深さは約55cmを測る。覆土全体に炭化物を含み、埋められた可能性が高い。ピットは5本検出された。P3~P5は柱穴であろう。P1はカマド左に位置するが、極めて浅い。壁溝は東コーナーと西コーナー付近で検出され、幅20~28cm、深さ3~12cmである。南西側の壁付近では第54号住居跡の壁溝と重なり、壁の内側を巡っている。

出土遺物は覆土からの出土で、出土土器は全て土師器である。11は安山岩製の礫石で、上端部に孔が穿たれている。6面全てを使用したようで、各面共にすり減っている。また、編み物石が4個



第212図 第53号住居跡出土遺物

出土しているが表面がつるつるしたものが3個見られる。図示できなかったが只渠穴泥岩が4個出土している。

第53号住居跡出土遺物観察表 (第212図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	(12.9)	4.1		B'WW'BR	B	明赤褐	30%	No.8 覆上床面 内外面磨耗著しい
2	坏	(13.9)	3.4		WRW'B	H	橙	15%	覆土
3	坏	(11.4)	4.3		WB'W'R	C	橙	50%	覆土
4	坏	(11.0)	4.0		B'W'W'R	C	橙	40%	覆土
5	坏	(13.1)	4.7		B'RW	A	橙	20%	覆土 やや歪み有り
6	坏	(12.4)	4.1		B'W'W'	H	橙	60%	覆土 内外面磨耗著しい
7	壺	(10.2)	9.2		RWB'	B	橙	70%	覆土
8	甕		9.9	3.6	SBRW'	B	鈍い橙	40%	覆土 内外面磨耗著しい
9	甕	(14.7)	15.9		B'SW'WR	B	橙	20%	覆土 内外面磨耗著しい
10	甕	(18.8)	9.6	4.2	SRB'W'	B	橙	55%	覆土 内外面磨耗著しい
11	砥石	No.1	ピット2周辺	長さ6.0cm	幅2.3cm	厚さ2.1cm	重量58g		安山岩製

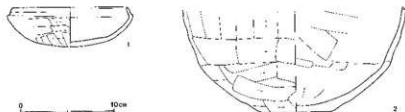
第54号住居跡 (第210・211図)

セー5-13グリッドを中心に位置する。第53号住居跡と重複し、本住居跡が新しいと思われる。南壁は第53号住居跡の床面と同レベルとなり、立ち上がりは見られない。形態は方形で、規模は長軸4.40m、短軸4.26m、深さ0.50-0.56mである。主軸方位はN-32°-Wを指す。

床面はほぼ平坦で、第53号住居跡の床面との高低差はほとんど見られない。壁は垂直に立ち上がる。覆土の観察は出来なかった。

カマドは北壁中央より東側に設置される。燃焼部の掘り込みは見られず、最下層には灰層が残存する。奥壁は12cmほど立ち上がり、煙道へ移行する。煙道最深部(j層)の底部には極薄く灰層が残る。貯蔵穴は北西コーナーに位置し、48cm×70cmの楕円形で、深さは約38cmを測る。ピットは東壁近くで1本検出された。壁溝は南壁以外で検出され、幅8-26cm、深さ2-4cmである。西壁際では第53号住居跡の壁溝と重複する。

出土遺物は全て土師器で、破片はやや多めに出土している。坏・高坏・甕等が認められるが、接合率が悪く、図示できたものは2個に留まった。



第213図 第54号住居跡出土遺物

第54号住居跡出土遺物観察表 (第213図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	(12.2)	4.3		B'W'R	A	橙	25%	覆上 内面やや磨耗
2	甕		11.1	(7.3)	SBWB'W'R	B	美しい黄	50%	カマド 外面ヘラケズリかなり粗い

第55号住居跡 (第214・215図)

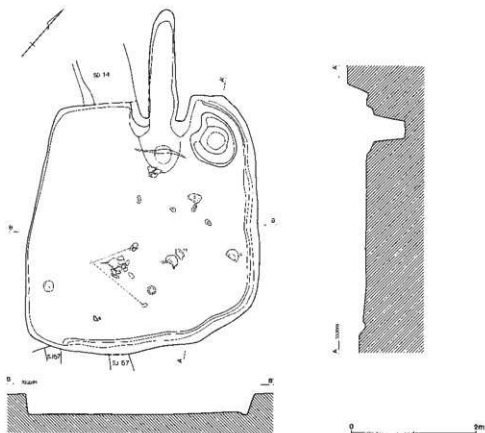
セー5-8グリッドを中心に位置する。第56号住居跡を切り、第57号住居跡、第14号溝跡に切られる。形態は不整形な長方形で、規模は長軸4.00m、短軸3.68m、深さ0.26-0.30mである。主軸方位はN-40°-Wを指す。

床面はほぼ平坦で、壁は開きながら立ち上がる。覆土の観察はできなかった。

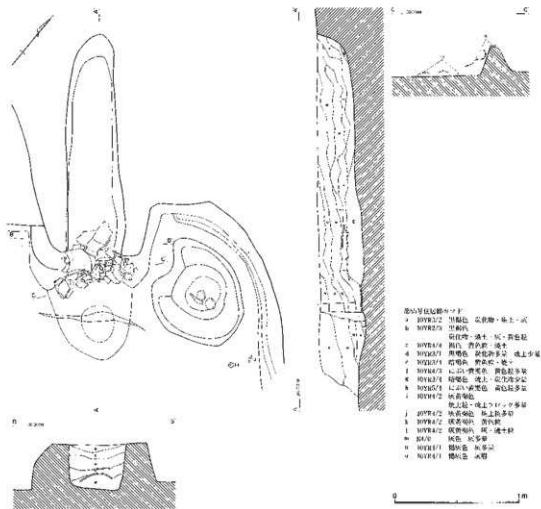
カマドは北壁中央よりやや東寄りに設置される。燃焼部最下層には灰層が薄く堆積し、煙道へは段差がなく移行する。全体には僅かな凹凸が見られる。

貯蔵穴は北東コーナーに位置し、72cm×92cmの不整形形で、深さは約62cmを測る。壁溝は東壁から南壁にかけて検出され、幅16-24cm、深さ1-4cmである。

遺物は住居跡全体から検出され、出土器は全て土師器である。坏・皿・甕・甑等が認められる。カマド焚口付近では甕が2個体(9・12)まとめて出土している。貯蔵穴の東側の床面から土鍾03と滑石製紡錘車04が出土し、床面中央付近にやや散在して編み物石が見られる。第217図の最後に示した石は偏平で、編み物石ではないと思われる。



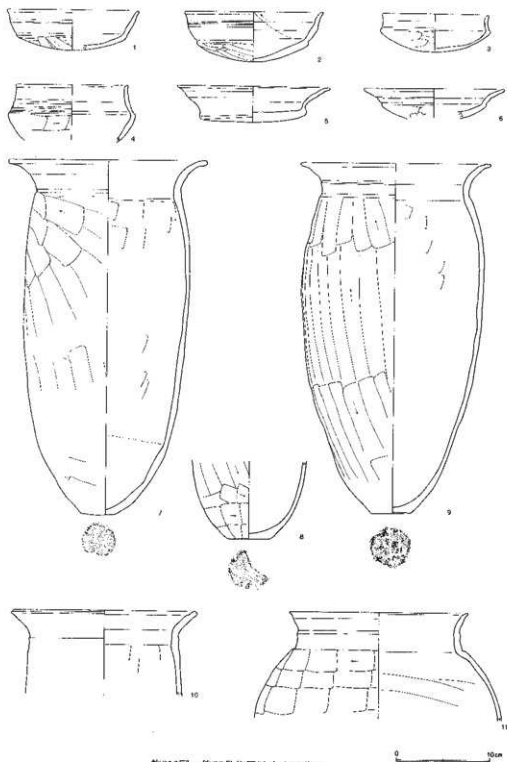
第214図 第55号住居跡



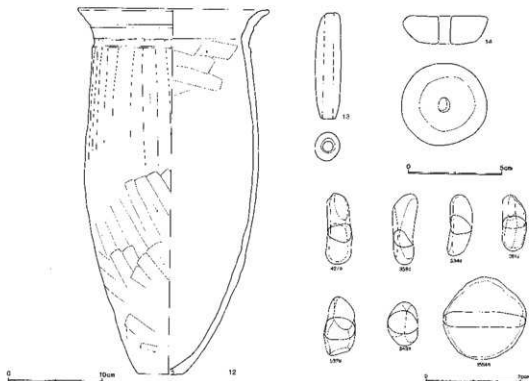
第215図 第55号住居跡カマド

第55号住居跡出土遺物観察表 (第216・217図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成色調	残存	出土位置・その他
1	坏	(13.9)	4.3		BW'B	B 灰白	60%	貯穴 覆土 内外面磨耗著しい
2	坏	14.5	5.4		BW'H'W'R	A 橙	100%	No18 覆土(+3.0cm) 外面磨耗著しい
3	坏	(11.2)	4.0		WW'B'H	B 鈍い橙	30%	貯穴 内外面磨耗著しい
4	坏	(11.8)	6.0		WH'H'W'	A 鈍い橙	25%	覆土 内外面やや磨耗
5	皿	16.3	3.8		B'W'W'S	A 鈍い橙	75%	No19 覆土(+9.1cm) 内外面やや磨耗
6	坏	(15.0)	3.3		BW'B'	A 橙	20%	No27 覆土床面 内外面やや磨耗
7	瓮	20.9	37.9	3.5	WW'BR'R	B 鈍い橙	75%	No22,24他 覆土床面 底部木炭痕
8	瓮		8.4	(4.0)	SB'W'W	B 鈍い橙	50%	覆土 底部木炭痕 内面やや磨耗
9	瓮	19.5	37.3	4.2	SWBRB'	B 橙	80%	No2,3他 カマド床面 カマド 底部木炭痕
10	瓮	(19.5)	9.0		BB'W'W'R	B 鈍い橙	40%	No20 覆土(-6.0cm) 内外面磨耗著しい
11	壺	(19.1)	11.4		BW'H'R	B 鈍い橙	35%	No20 覆土(-6.0cm) 口縁面磨欠損著しい
12	瓮	20.4	39.0	4.7	WH'H'R	B 鈍い橙	80%	No6 カマド床面 カマド 内外面やや磨耗
13	上鉢	No9	覆土(+2.1cm)		WW'BS	鈍い橙	100%	長6.8cm 径1.4cm 孔0.6cm 重11.14g
14	紡錘車	No8	覆土床面					厚さ1.5cm 大径4.3cm 小径3.0cm 孔径0.7cm 重量49.17g 滑石製



第216图 第55号住居跡出土遺物(1)



第217図 第55号住居跡出土遺物(2)

第56号住居跡 (第218・219図)

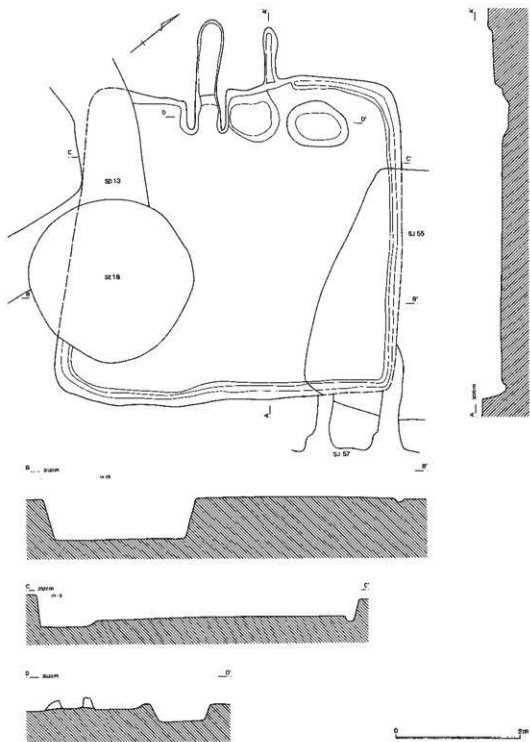
せー5-8グリッドを中心に位置する。第55・57号住居跡、第13号溝跡、第18号井戸跡と重複し、本住居跡が最も古い。形態は方形に近く、規模は長軸5.50m、短軸5.12m、深さ0.20-0.28mである。主軸方位はN-51°-Wを指す。

床面は平坦で、重複する第55号住居跡の床面とほとんど同じ高さになる。壁は開き気味に立ち上がる。覆土の観察は出来なかった。

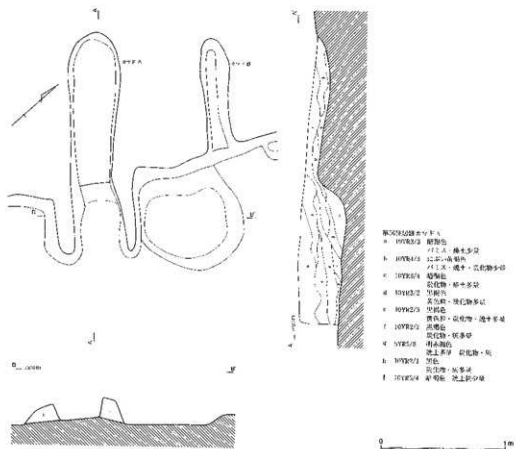
カマドは北西側の壁に2基構築されている。カマドAは、北西の壁中央寄りやや南に設置される。燃烧部の掘り込みは明瞭でなく、奥壁は急激に立ち上がって煙道へ続く。奥壁付近には炭化物、灰を多量に含む黒色土が厚く堆積している。袖は粘性のある暗褐色土で構築され、右袖に接するように浅い落ち込みが見られる。カマドBは、カマドAの北側に位置する。燃烧部、袖は見られず、煙道部のみ残存している。BからAに付け替えられたと考えられる。

貯蔵穴は北側コーナー近くに位置し、75cm×98cmの楕円形で、深さは33cmを測る。壁溝は南西側の壁以外で検出され、幅22-32cm、深さ5-11cmである。

遺物は全て覆土からの出土で、破片は多量にあるが重複する他の遺構からの混入も考えられる。接合率が極めて悪く、図示できたものはあまり多くない。出土土器の大半が土師器であり、須恵器は甕の胴部小片が1片出土しているにすぎない。土師器には坏・高坏・甕等が認められる。11は角



第218図 第56号住居跡

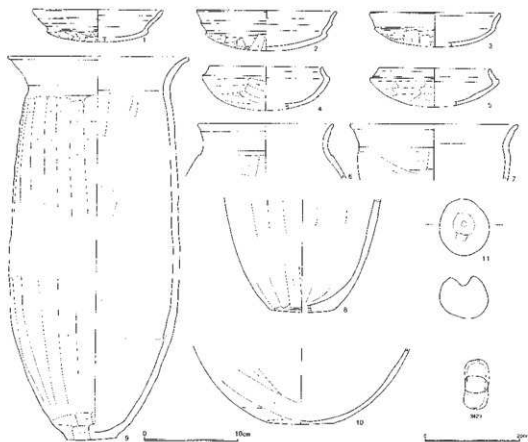


第219図 第56号住居跡カマダ

第56号住居跡出土土物調査表 (第220図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	構成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	(13.8)	3.4		BB'WW'	B	橙	50%	覆土 内外面やや磨耗
2	坏	(14.9)	4.3		B'W'SRW	C	橙	45%	覆土
3	坏	(13.8)	3.6		B'WW'	B	褐	25%	覆土
4	坏	(12.0)	4.7		WB'W'S	B	橙	25%	覆土 内外面やや磨耗
5	坏	(12.0)	3.9		WW'BR	B	鈍い黄	20%	覆土 内外面やや磨耗
6	甕	(14.4)	5.7		B'WW'R	B	鈍い黄	20%	貯穴No1 内外面やや磨耗
7	鉢か	(17.8)	6.1		BB'WW'	C	橙	30%	覆土 内外面磨耗著しい
8	甕		12.1	(6.9)	SB'WW'R	B	橙	50%	カマダ
9	甕	19.1	40.8	5.2	SWBB'	C	灰白	50%	カマダ 内外面やや磨耗
10	甕		8.2	(7.2)	SB'W'R	B	明褐色	30%	覆土 内外面やや磨耗
11	凹み石状石製品				覆土				長さ6.1cm 幅5.3cm 厚さ4.4cm 重量61g 角閃石安山岩製

閃石安山岩製の凹み石状の石製品で、用途は不明である。図示できなかったが小さな目黒穴痕泥岩が1個出ている。



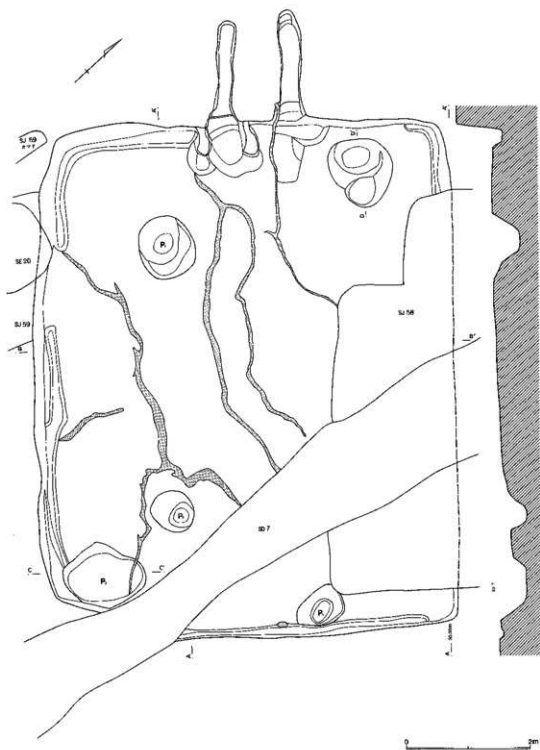
第220回 第56号住居跡出土遺物

第57号住居跡 (第221~223回)

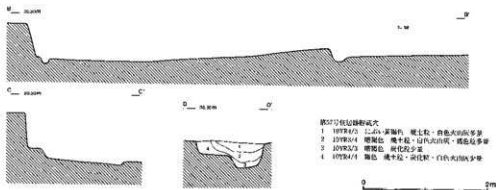
セー5-2グリッドを中心に位置する。周辺の遺構との重複が激しく、第55・56・59住居跡を切り、第58号住居跡、第7号溝跡、第20号井戸跡に切られる。形態は長方形で、規模は長軸8.08m、短軸6.28m、深さ0.41~0.60mである。主軸方位はN-60°-Wを指す。

床面は起伏があり、東側が高くなる傾向にある。壁は開き気味に立ち上がる。床面には5条の噴砂が走るが口立ったぬみは生じていない。カマドは北西側の壁中央に2基検出された。カマドAは南側に位置する。燃焼部は床面を15cm程掘り込み、床面と同レベルに灰層が残存する。両袖は暗褐色の粘質土で構築されている。カマドBはAの北側に位置し、煙道のみ残存している。煙道は階段状に立ち上がり、明瞭な幾十層が残る。BからAに付け替えられたと考えられる。貯蔵穴はカマドBの右側に位置し、100cm×110cmの歪んだ円形で、深さは約60cmを測り、右側に段を持つ。ピットは4本検出された。P1・P2は柱穴と考えられる。壁溝はほぼ全周すると思われるが、南西側の壁で約1.2m途切れる部分が見られる。幅は20~42cm、深さ4~29cmである。

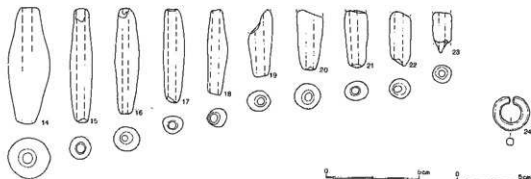
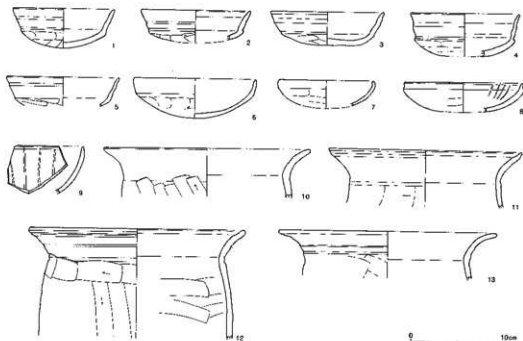
遺物は全て覆土からの出土である。21は金銅製の耳環だが、金はほとんど剥落している。図示できなかったが、貝塚穴真泥岩が6個出土している。



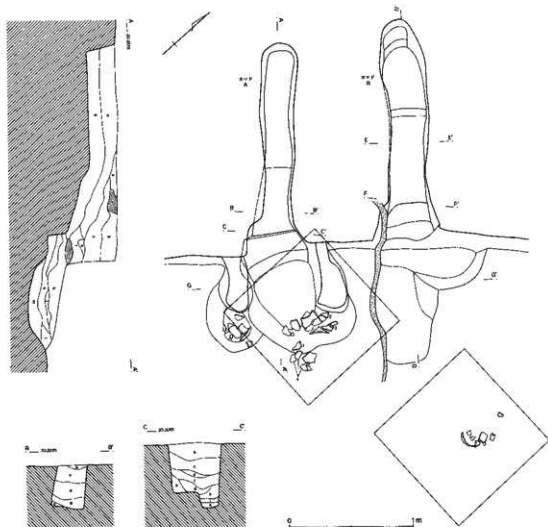
第221图 第57号住居跡(1)



- 第57号住居跡の概況
- 1 1978年4月 土砂・灰層内、灰土粒、白色灰の跡多量
 - 2 1978年4月 埋戻土、灰土粒、白色灰の跡、褐色灰多量
 - 3 1978年5月 埋戻土、灰土粒、白色灰の跡
 - 4 1978年4月 埋戻土、灰土粒、白色灰の跡少量



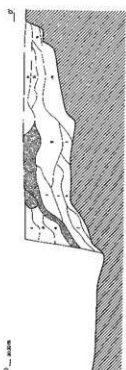
第222图 第57号住居跡(2)・出土遺物



第223図 第57号住居跡カマド

第57号住居跡出土遺物観察表 (第222図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	10.6	4.2		B'W'WR	B	橙	70%	カマドB 内外面やや磨耗
2	坏	11.5	3.4		B'W'W	B	鈍い桃	50%	覆土
3	坏	12.0	3.6		B'W'WR	B	浅黄橙	75%	カマドB 内外面やや磨耗
4	坏	(11.5)	4.5		B'W'WR	B	橙	50%	覆土 内外面磨耗著しい
5	坏	(11.8)	3.1		B'RW'W	B	鈍い黄赤	30%	貯穴 内外面磨耗著しい
6	坏	(12.9)	4.2		SB'W'W	B	橙	55%	覆土 内外面磨耗著しい
7	坏	(9.9)	2.7		B'W'W	B	浅黄橙	25%	覆土 内外面磨耗著しい
8	坏	(12.5)	3.1		B'W'W	B	浅黄橙	20%	覆土 内面放射状暗文わずかに残る
9	碗				B'W'SW	A	橙		覆土 粗い放射状暗文
10	甕	(21.7)	5.3		B'BW'WR	B	鈍い黄赤	15%	カマドA 内外面やや磨耗
11	甕	(20.4)	6.0		B'W'WR	B	浅黄橙	25%	カマドA No19 カマド床面 磨耗著しい
12	甕	22.7	11.7		WW'BB'	B	淡 橙	50%	カマドB 内外面磨耗著しい



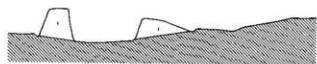
第17号住居跡の剖面

- a 7.5VR4/6 暗褐色 焼土層・灰化粒多量
- b 10YR2/3 黒褐色 焼土層・灰化粒多量
- c 10YR2/3 暗褐色 焼土層・灰化粒多量
- d 10YR2/3 暗褐色 焼土層・灰化粒多量
- e 10YR2/2 灰褐色 焼土層・灰化粒多量
- f 10YR2/1 暗褐色 焼土層・灰化粒多量
- g 10YR2/3 暗褐色 焼土層・灰化粒多量
- h 10YR2/1 暗褐色 焼土層・灰化粒多量
- i 10YR2/1 暗褐色 焼土層・灰化粒多量
- j 10YR2/4 暗褐色 焼土層・灰化粒多量
- k 10YR2/4 暗褐色 焼土層・灰化粒多量
- l 10YR2/4 暗褐色 焼土層・灰化粒多量
- m 10YR2/4 暗褐色 焼土層・灰化粒多量
- n 10YR2/4 暗褐色 焼土層・灰化粒多量

第18号住居跡の剖面

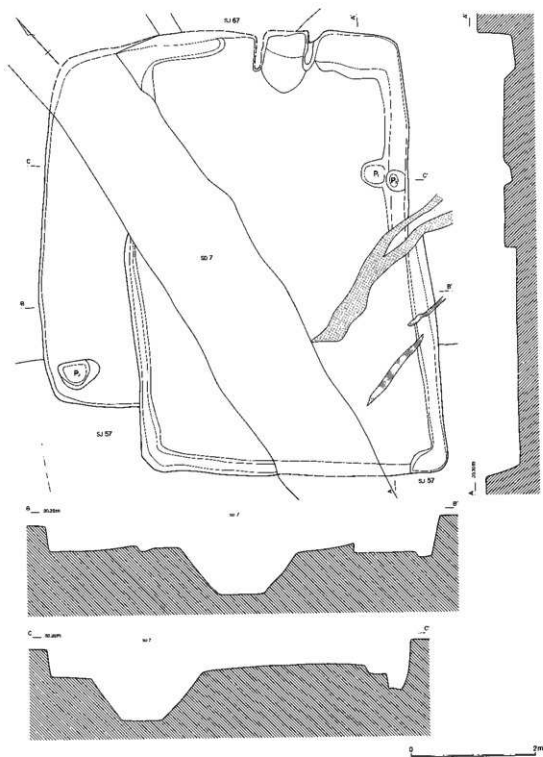
- a 10YR3/4 暗褐色 焼土層・灰化粒多量
- b 10YR3/4 暗褐色 焼土層・灰化粒多量
- c 10YR2/3 暗褐色 焼土層・灰化粒多量
- d 10YR2/3 暗褐色 焼土層・灰化粒多量
- e 10YR2/3 暗褐色 焼土層・灰化粒多量
- f 10YR2/3 暗褐色 焼土層・灰化粒多量
- g 10YR2/3 暗褐色 焼土層・灰化粒多量
- h 10YR2/3 暗褐色 焼土層・灰化粒多量
- i 10YR2/3 暗褐色 焼土層・灰化粒多量
- j 10YR2/3 暗褐色 焼土層・灰化粒多量
- k 10YR2/3 暗褐色 焼土層・灰化粒多量
- l 10YR2/3 暗褐色 焼土層・灰化粒多量
- m 10YR2/3 暗褐色 焼土層・灰化粒多量
- n 10YR2/3 暗褐色 焼土層・灰化粒多量

0 50.00m



0 1m

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
13	甕	(22.9)	5.2		SB'WW'	A	橙	20%	カマドA No5 カマド(+9.7cm)
14	土鉢	覆土			RBWW'		橙	100%	長6.2cm 径2.3cm 孔0.6cm 重量26.11g
15	土鉢	覆土			BB'		灰青褐色		長6.1cm 径1.2cm 孔0.5cm 重6.57g
16	土鉢	覆土			B'W'WB		赤灰	100%	長5.6cm 径1.4cm 孔0.3cm 重7.28g
17	土鉢	P2覆土			SBW'B'W		橙	100%	長5.0cm 径1.1cm 孔0.4cm 重4.49g
18	土鉢	P2覆土			BB'WW'		橙	100%	長4.6cm 径1.1cm 孔0.4cm 重4.16g
19	土鉢	覆土			B'W'W		明赤褐色		残3.7cm 径1.3cm 孔0.4cm 重4.08g
20	土鉢	覆土			BWW'		褐灰		残3.2cm 径1.4cm 孔0.4cm 重5.19g
21	土鉢	覆土			SW'		橙		残3.0cm 径1.3cm 孔0.4cm 重3.70g
22	土鉢	覆土			SW'B'		明赤褐色		残2.9cm 径1.2cm 孔0.5cm 重3.41g
23	土鉢	覆土			SWB'		浅黄橙		残2.2cm 径1.1cm 孔0.4cm 重1.64g
24	耳環	覆土		重量15.04g	金銅製	金刺落	中実		



第224图 第58号住居跡

第58号住居跡 (第224・225図)

せー5-6グリッドを中心に位置する。第57号住居跡を切り、第67号住居跡、第7号溝跡に切られる。形態は長方形で、規模は長軸7.04m、短軸4.95m、深さ0.30-0.46mである。主軸方位はN-41°-Eを指す。

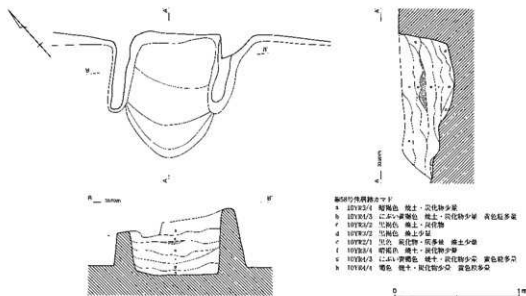
床面はほぼ平坦で、壁は垂直に立ち上がる。覆土の観察は出来なかった。南壁付近を3条の噴砂が東西に走り、最も大きな噴砂は最大幅が約38cmある。この噴砂によって、壁には約22cmのずれが、床面には最大20cmの段差が生じている。

カマドは北東側の壁のほぼ中央に設置される。燃焼部は床面を15cm程掘り込み、覆土中層には焼土層が残存する。明瞭な灰層、火床面は確認できなかった。

北西側の壁の一部が幅約1.45m、長さ約5.50mにわたって張り出している。別住居跡の可能性も考えられるが、床面の高さは同一で、断面で確認できなかったため一応同じ住居跡として扱った。

壁溝は幅18-74cm、深さ2-18cmで、カマド右側が極端に広く、深くなっている。P2は壁溝内に検出されている。

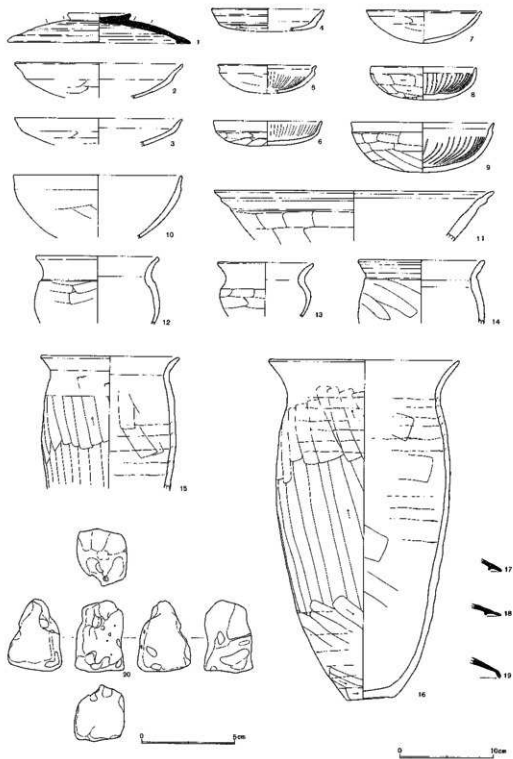
遺物は覆土からの出土で、破片は多量に見られるが接合率はよくない。やや大きめの土鍾が19個と土玉1個が出土している。貝果穴痕泥岩が2個見られた。



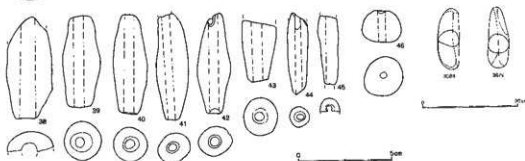
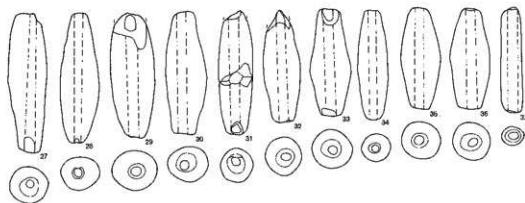
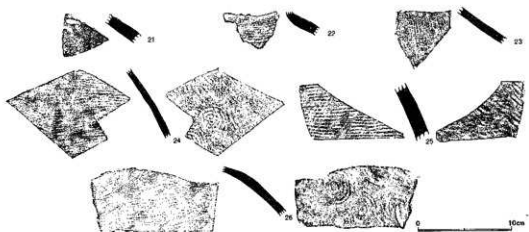
第225図 第58号住居跡カマド

第58号住居跡出土遺物観察表 (第226・227図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	蓋	(19.4)	3.2		WB	B	灰白	40%	カマド S57と接合 外面自然釉 群馬産
2	皿	(17.9)	3.8		B'W'WR	B	鈍い橙	15%	覆土 内外面磨耗著しい
3	皿	(17.9)	2.9		B'W'RW	B	浅黄橙	30%	覆土 内外面磨耗著しい
4	坏	(12.0)	2.3		W'B'W	B	橙	25%	覆土 内外面磨耗著しい
5	坏	(10.6)	3.0		B'W'WR	B	橙	20%	カマド 内外面磨耗著しい 放射状暗文
6	坏	11.5	2.3		BB'W	B	橙	80%	覆土 放射状暗文だが磨耗著しい



第226图 第58号住居跡出土遺物(1)



第227図 第58号住居跡出土遺物(2)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
7	坏	(12.3)	3.5		BWB'W'	C	橙	25%	覆土 内外面磨耗著しい
8	坏	(11.2)	3.6		B'W'W'	B	明赤褐	55%	覆土 SJ57と接合 胎土緻密 放射状暗文
9	坏	15.3	5.3		WB'W'R	B	橙	60%	カマド 放射状暗文
10	鉢	(18.0)	6.7		WB'W'R	B	橙	20%	覆土 内外面磨耗著しい
11	鉢	(30.0)	5.3		WW'BR	B	橙	15%	覆土
12	小形甕	(13.0)	7.2		B'W'RW'	A	橙	20%	覆土 内外面やや磨耗
13	小形甕	(10.0)	5.8		B'WRW'	B	橙	25%	覆土 内外面やや磨耗
14	小形甕	(13.2)	6.8		B'W'W'	B	鈍い橙	20%	覆土 内外面やや磨耗

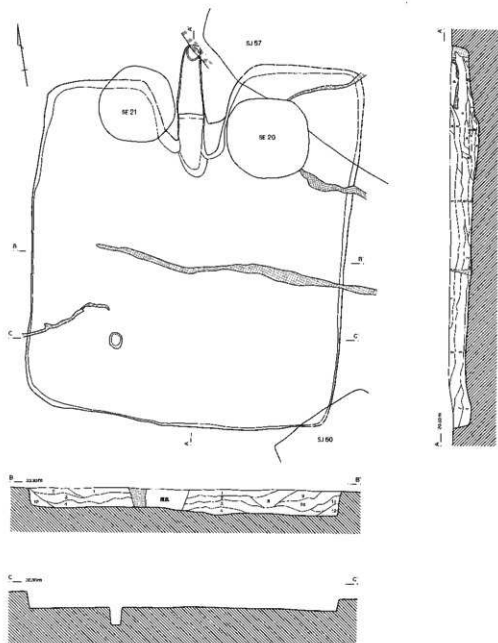
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成、色調	残存	出土位置・その他
15	甕	(14.7)	14.3		WBB'	B 明褐色	40%	覆土 胴部内面接合痕明瞭
16	甕	(20.4)	36.2	5.0	WBBR	B 橙	75%	覆土 底部小虫痕
17	甕				WW'	B 灰		覆土 未野産か 極小片
18	甕				WW'	B 灰		覆土 未野産か 極小片
19	甕				WB'W'	B 灰白		覆土 極小片
20	貝塚穴痕泥岩							覆土
21	甕				WW'	B 灰		覆土
22	甕				B'WW'	A 灰		覆土
23	甕				B'W	A 灰		覆土
24	甕				WS	B 灰 褐		覆土 裏面色調赤灰
25	甕				WW'	A 灰白		覆土
26	甕				W'WB	C 灰		覆土 一部酸化焙となっている
27	土鍾	覆土			WRSD'	鈍い赤青	100%	長7.5cm 径2.1cm 孔0.5cm 重31.14g
28	土鍾	覆土			RWS	灰 褐	100%	長6.9cm 径2.1cm 孔0.5cm 重24.74g
29	土鍾	覆土			WS	鈍い褐	100%	長6.6cm 径2.4cm 孔0.6cm 重30.70g
30	土鍾	覆土			SRBWB'	橙	100%	長6.6cm 径2.2cm 孔0.5cm 重25.66g
31	土鍾	覆土			SWB'	褐 灰		長6.6cm 径1.7cm 孔0.5cm 重19.06g
32	土鍾	覆土			SWW'	橙		長6.0cm 径2.0cm 孔0.6cm 重20.36g
33	土鍾	覆土			WRHS	橙	100%	長5.8cm 径2.2cm 孔0.6cm 重21.62g
34	土鍾	覆土			SRW'WB	鈍い橙	100%	長5.9cm 径1.6cm 孔0.4cm 重14.55g
35	土鍾	覆土			HWR	鈍い青紫	100%	長5.4cm 径2.1cm 孔0.6cm 重20.02g
36	土鍾	覆土			BRWW'	橙	100%	長5.4cm 径2.0cm 孔0.5cm 重20.64g
37	土鍾	覆土			SH'	鈍い橙	100%	長5.6cm 径1.2cm 孔0.6cm 重6.18g
38	土鍾	覆土			WS	橙		長5.5cm 径2.5cm 孔0.8cm 重15.47g
39	土鍾	覆土			SRW'	橙	100%	長4.9cm 径2.0cm 孔0.6cm 重19.34g
40	土鍾	覆土			SRBB'W	鈍い橙	100%	長5.3cm 径1.8cm 孔0.6cm 重16.60g
41	土鍾	覆土			WB'	黒 褐	100%	長5.7cm 径1.8cm 孔0.5cm 重14.08g
42	土鍾	覆土			WS	明黄褐	100%	長5.4cm 径1.9cm 孔0.5cm 重11.92g
43	土鍾	覆土			BB'WR	明赤褐		長3.3cm 径1.9cm 孔0.5cm 重10.03g
44	土鍾	カマド			W'WB'	灰 褐		長4.4cm 径1.1cm 孔0.4cm 重4.85g
45	土鍾	覆土			B'S	鈍い橙		長3.7cm 径1.0cm 孔0.3cm 重2.18g
46	土瓦	No4	覆土(+8.1cm)		WBW'B'			長1.7cm 径2.1cm 孔0.4cm 重6.72g

第59号住居跡 (第228・229図)

セー5-3グリッドを中心に位置する。第57・60号住居跡、第20・21号井戸跡と重複し本住居跡が最も古い。形態は方形に近く、規模は長軸5.28m、短軸5.02m、深さ0.20~0.40mである。主軸方位はN-12°-Eを指す。

床面はかなりの起伏があり、壁は垂直に立ち上がる。4条の噴砂が東西に走るが、目立った歪みは生じていない。

カマドは北壁中央に設置される。左袖を第21号井戸跡に、煙道の先端を噴砂によって壊されている。カマド右側は第20号井戸跡及び第57号住居跡に挟まれる。燃焼部は床面を12cm程掘り込み、奥壁は緩やかに立ち上がり煙道へ続く。煙道は天井部の焼土が残存していた。焼土の上層の土(P層)は地山ではなく、明らかに埋められた土であった。



第59号住居跡

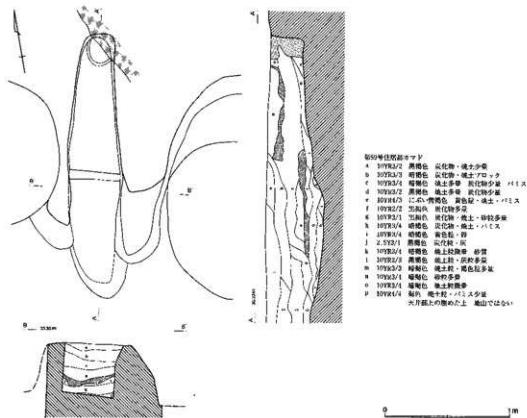
- | | |
|---------------------------|-------------------------------|
| 1 10YR2/1 黒褐色 珪石・灰化跡少量 | 7 10YR3/3 暗褐色 炭化跡・珪石跡少量 |
| 2 10YR2/1 暗褐色 焼土・珪石・炭化跡少量 | 8 10YR3/1 暗褐色 炭化跡・珪石跡少量 焼土跡少量 |
| 3 10YR2/2 暗褐色 焼土粒・炭化跡少量 | 9 10YR4/1 褐色 炭化跡・珪石跡少量 焼土跡少量 |
| 4 10YR3/3 暗褐色 焼土粒・炭化跡少量 | 10 10YR4/6 褐色 珪石 |
| 5 10YR2/3 暗褐色 焼土・珪石・炭化物 | 11 10YR2/2 暗褐色 珪石粒・珪石跡少量 |
| 6 10YR3/1 暗褐色 焼土・珪石・炭化物 | 12 10YR3/4 暗褐色 焼土粒・炭化跡少量 |

第228図 第59号住居跡

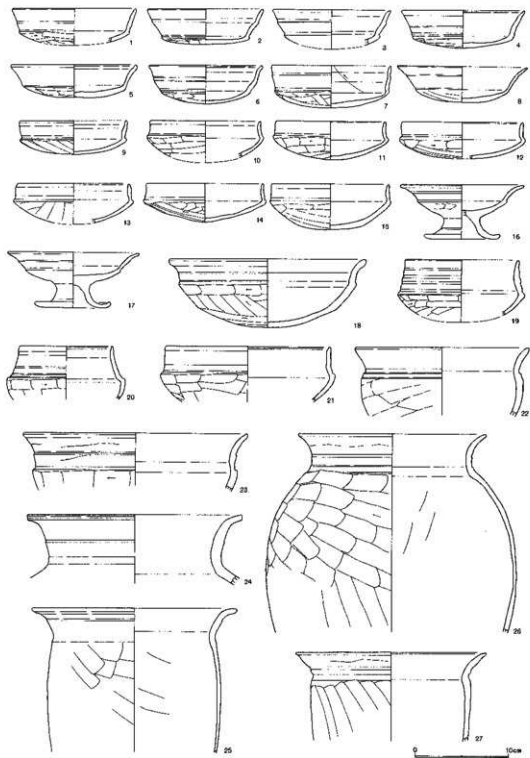
貯蔵穴は検出されておらず、第20号井戸跡に壊された部分にあったものと推察される。ピットは1本検出された。位置的に柱穴の可能性も考えられるが、他には見られないため疑問が残る。壁溝は検出されていない。

出土遺物は、全て覆土中からの出土である。破片は極めて多量に見られるが、接合率が非常に悪い。出土土器は土師器がほとんどで、須恵器は図示した34の口縁部だけである。土師器には坏・高坏・鉢・甕・壺等が見られる。

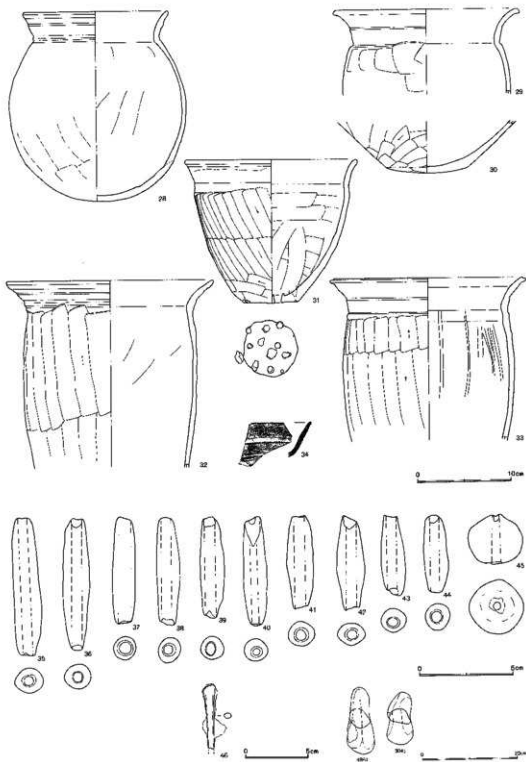
31の甕は底部の穿孔が雑で、一部は胴部の最下端に穿孔している。穿孔方法は細い棒状のものを内面から差し込み、棒を動かして穴を広げ不整形な形にしており、大きめのものは数回棒を差し込んだ痕跡が認められる。孔の内側には、穴を広げる際に出来たと思われる粘土の盛り上がりが見られ、未調整のまま残されている。また、孔の一つは外側まで達せず、途中で穿孔を取りやめたと思われるものがある。この孔の周囲にも粘土の盛り上がりが見られ、外面のほぼ対応するところには深さ2mm程度で、楊子の先でついたような小さな穴が見られる。34は無蓋高坏の破片で、比較的大きなものになると思われる。35-44は土錘、45は上玉である。46は棒状の鉄製品で錆が激しく、断面は楕円形をしており、X線を通して見ても何であるかは判明しなかった。図示できなかったが貝塚穴泥岩が1個出土している。



第229図 第59号住居跡カマド



第230図 第59号住居跡出土遺物(1)



第231图 第59号位后跡出土遺物(2)

第59号住居跡出土遺物観察表 (第230-231回)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	(13.0)	3.7		WBB'	B	灰 褐	30%	覆土
2	坏	(12.2)	3.7		WW'BB'	H	橙	30%	覆土
3	坏	(12.4)	3.7		WBB'	B	橙	40%	覆土 内外面磨耗著しい
4	坏	(13.0)	4.0		WW'BB'R	C	鈍い褐	25%	覆土
5	坏	13.2	3.5		WBB'R	B	橙	85%	覆土 抜き上げ痕有り
6	坏	(11.8)	4.1		WBB'R	B	黄い赤褐	50%	覆土 抜き上げ痕有り
7	坏	12.7	4.5		WBR	H	灰 褐	90%	覆土 抜き上げ痕有り
8	坏	(13.7)	3.8		WW'BB'R	B	橙	50%	覆土 内外面磨耗著しい
9	坏	(11.3)	3.6		WBB'R	C	浅黄橙	35%	覆土 全体に空み有り 内外面やや磨耗
10	坏	(11.6)	3.9		WB'BR	B	灰 白	15%	覆土 内外面やや磨耗
11	坏	11.5	4.1		W'WBB'R	A	灰 白	100%	覆土
12	坏	(12.8)	3.9		WBB'R	H	褐 灰	40%	覆土
13	坏	(11.8)	4.2		WBB'	B	鈍い褐	35%	覆土
14	坏	(12.4)	4.1		WBB'R	A	灰 白	40%	覆土
15	坏	(12.5)	4.8		WBB'R	B	浅黄橙	40%	覆土 内外面磨耗著しい
16	高坏	(12.8)	5.8	(8.1)	WRW'H	B	鈍い橙	50%	覆土 内外面磨耗著しい
17	高坏	(14.0)	5.9	8.1	WW'BB'R	B	明赤褐	70%	覆土 内外面磨耗著しい
18	鉢	(21.0)	7.3		WB'RB	B	浅黄橙	25%	覆土
19	坏	12.0	5.9		WBB'R	A	褐 灰	20%	覆土 横ナアの抜き上げ痕有り
20	坏	(9.7)	5.7		WB'BR	B	明褐灰	50%	覆土
21	坏	(17.4)	5.9		WBB'R	H	鈍い橙	40%	覆土
22	鉢	(18.4)	7.3		WB'B	H	鈍い橙	30%	覆土 内外面磨耗著しい
23	鉢	(23.7)	5.6		WBB'R	A	灰 褐	40%	覆土
24	壺	(22.6)	7.5		WBB'RW	B	鈍い橙	20%	覆土 内外面やや磨耗
25	壺	(21.9)	15.5		WBB'R	B	鈍い橙	40%	覆土 内外面やや磨耗
26	壺	(19.9)	21.2		WBB'R	B	明褐灰	50%	覆土
27	壺	(20.2)	9.5		WW'片BB'R	B	鈍い橙	20%	覆土
28	壺	14.4	20.2		WRHB'	B	浅黄橙	65%	覆土 内外面磨耗著しい
29	壺	19.3	9.2		WBB'R	B	鈍い橙	70%	覆土 内外面磨耗著しい
30	壺		5.5	8.8	WBH'R片	B	鈍い橙	80%	覆土 胎土粗 金色粒子・小石も有り
31	甗	18.3	15.4	5.7	WW'片RB	B	灰黄褐	85%	覆土
32	甗	(22.1)	15.0		WBB'R	C	鈍い橙	60%	覆土 内外面やや磨耗
33	甗	20.0	17.5		WW'B'BR	B	明褐灰	45%	覆土
34	高坏				WBR	A	黄い黄橙		覆土 胎土密 無蓋高坏と思われる
35	土鍾	覆土			WW'S		黄い黄橙		長7.4cm 径1.6cm 孔0.5cm 重13.81g
36	土鉢	覆土			W'S		黄い黄橙	100%	長7.1cm 径1.5cm 孔0.6cm 重10.36g
37	土鉢	覆土			BB'S		浅黄橙	100%	長5.8cm 径1.2cm 孔0.7cm 重7.68g
38	土鉢	覆土			SB'		褐		長5.8cm 径1.3cm 孔0.5cm 重7.76g
39	土鉢	覆土			SWW'BB'		橙		長5.4cm 径1.2cm 孔0.7cm 重7.16g
40	土鉢	覆土			BB'WS		鈍い褐		長5.8cm 径1.3cm 孔0.4cm 重7.79g
41	土鉢	覆土			SB'B		浅黄橙		長5.0cm 径1.5cm 孔0.6cm 重7.68g
42	土鍾	覆土			SBB'WW'		橙		長5.1cm 径1.5cm 孔0.6cm 重6.94g
43	土鍾	覆土			WW'BS		鈍い黄橙		長4.3cm 径1.4cm 孔0.5cm 重5.36g
44	土鍾	覆土			SBWB'W'		明赤褐	100%	長4.2cm 径1.3cm 孔0.6cm 重6.37g
45	土王	覆土			WBW'B'		橙		長2.7cm 径3.0cm 孔0.4cm 重20.11g
46	丸棒状鉄製品	覆土		残長5.2cm 重量8.27g					

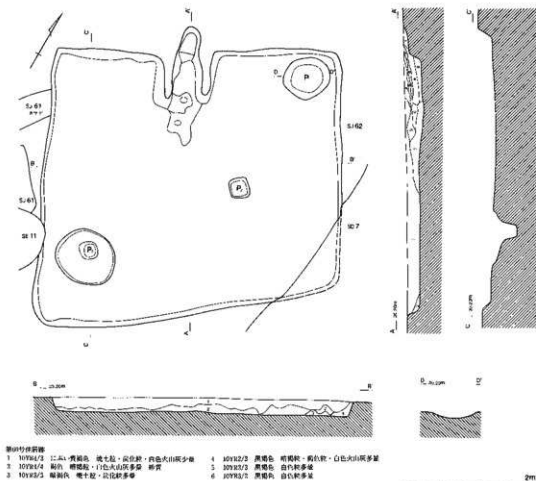
第60号住居跡 (第232・233図)

すー5-22グリッドを中心に位置する。第59・61・62号住居跡を切り、第7号溝跡、第11号井戸跡に切られる。形態はやや歪んだ長方形で、規模は長軸4.75m、短軸4.44m、深さ0.22~0.24mである。主軸方位はN-34°-Eを指す。

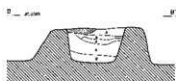
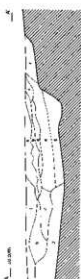
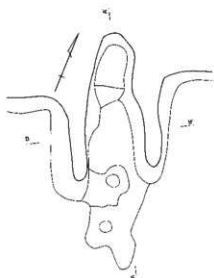
床面は緩やかな起伏があり、壁は開きながら立ち上がる。覆土は基本2層で、白色火山灰を含む層が目立つ。

カマドは北壁中央に設置される。燃焼部の掘り込みは浅く、奥壁手前でやや深くなって立ち上がる。覆土の観察では上層に焼土ブロック、焼土粒子を多く含む層が見られる。ピットは3本検出された。P1は北東コーナーに位置し、直径70cm前後で貯蔵穴の可能性もあるが深さが10cm未満と浅い。P3は直径約92cm、深さ約40cmでテラス状の段を持つ。貯蔵穴とも考えられる。

出土遺物は多いが、重複する遺構からの混入も多いと思われる。また、接合率が悪く図示できたものは少ない。



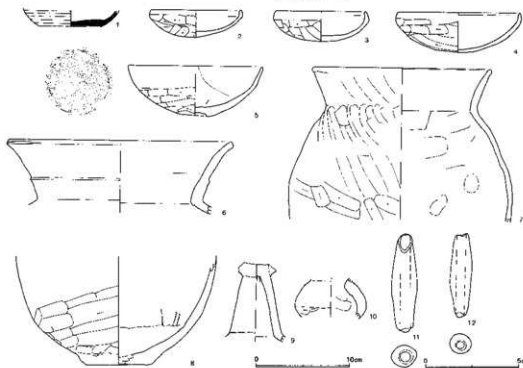
第232図 第60号住居跡



- 第60号住居跡カマド
- a 30YR3/3 暗褐色 硝子灰少量
 - b 10YR3/2 黒褐色 硝子灰・焼土・フロ・ク多量
 - c 10YR2/3 黒褐色 硝子灰・焼土・フロ・ク多量
 - d 10YR5/1 褐色 焼土・硝子灰
 - e 10YR3/1 暗褐色 黒褐色多量
 - f 10YR2/1 暗褐色 褐色・硝子灰多量
 - g 10YR3/3 暗褐色 焼土・硝子灰多量

0 1m

第233図 第60号住居跡カマド



第234図 第60号住居跡出土遺物

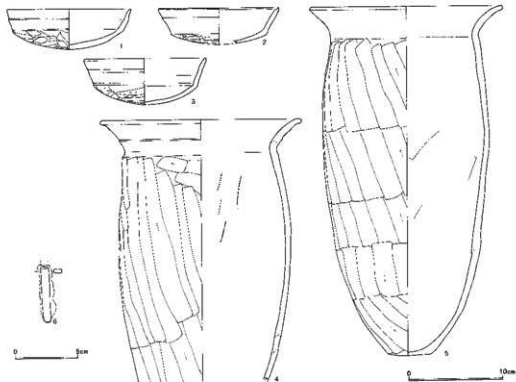
第60号住居跡出土遺物観察表 (第234図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	構成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏		2.9	6.2	WB	B	褐灰	95%	覆土
2	坏	9.5	2.9		SB'WW'	B	鈍い橙	100%	覆土 色調一部黒
3	坏	9.5	3.2		WB'W'	B	灰 褐	70%	覆土
4	坏	13.0	3.2		B'WB	B	橙	75%	覆土 色調一部外面黒
5	坏	14.3	5.4	2.8	W'W'BR	B	橙	90%	覆土
6	甕	(23.5)	7.8		SB'WW'BR	A	橙	15%	覆土 色調一部褐灰 軟質で磨耗
7	甕	(19.0)	16.2		SW'R	B	橙	20%	覆土
8	甕		11.6	6.8	SB'WW'BR	B	鈍い橙	30%	覆土
9	高坏		8.4		B'W'WR	B	橙	95%	覆土 色調一部黒
10	壺		4.3		WW'R	B	橙	35%	覆土
11	土錘	覆土			WBB'		灰 褐	100%	長5.3cm 径1.4cm 孔0.6cm 重7.44g
12	土錘	覆土			WW'B		橙	100%	長4.5cm 径1.2cm 孔0.5cm 重4.20g

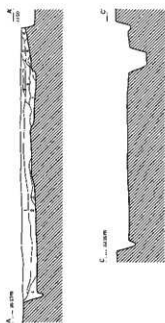
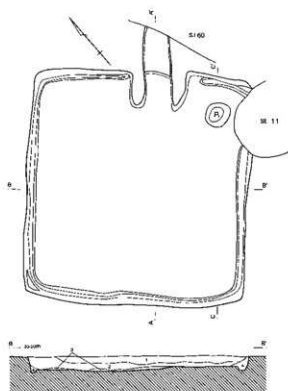
第61号住居跡 (第236図)

すー5ー23グリッドを中心に位置する。第60号住居跡、第11号井戸跡と重複し、本住居跡が古い。形態は方形で、規模は長軸3.76m、短軸3.56m、深さ0.16~0.26mである。主軸方位はN-40°-Eを指す。

床面は起伏があり、東側及びカマド手前が高くなる。壁は開き気味に立ち上がる。覆土は白色火山灰を含む層が主体を成す。



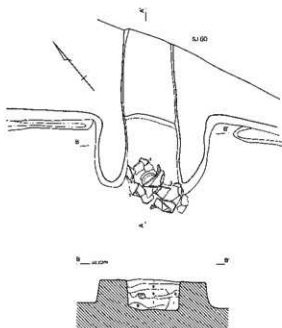
第235図 第61号住居跡出土遺物



第61号住居跡

- 1 10YR3/3 暗褐色 内色土/灰多量
- 2 10YR2/1 白色 内色土/灰多量
- 3 10YR4/4 褐色 内色土/灰多量
- 4 10YR3/4 暗褐色 灰化土、内色土少量

0 2m



第61号住居跡カマ

- a 10YR3/2 暗褐色 焼土・灰多量 灰化土少量
- b 10YR3/3 暗褐色 焼土・灰多量
- c 10YR3/2 暗褐色 焼土・灰多量
- d 10YR3/3 暗褐色 焼土・灰多量
- e 10YR3/3 暗褐色 焼土・灰多量
- f 10YR3/1 白色 灰化土 焼土・灰多量
- g 10YR2/1 白色 灰化土 焼土・灰多量
- h 10YR3/1 暗褐色 焼土・灰多量
- i 10YR3/2 暗褐色 焼土・灰多量

0 2m

第236图 第61号住居跡

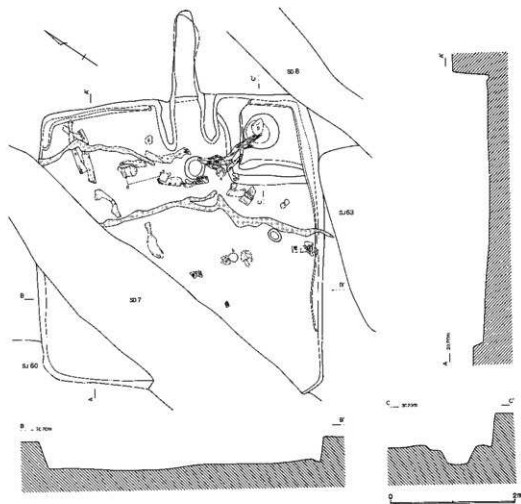
カマドは北東側の壁のほぼ中央に設置され、煙道先端を第60号住居跡に壊される。燃焼部には焼土粒子を多量に含む黒褐色の単灰層（1層）が10cm程堆積し、その奥に灰層（8層）が残っていた。

ピットは東側コーナーで1本検出された。直径約40cmとやや小さめではあるが貯蔵穴の可能性もある。壁溝はカマド両側から全周し、幅12~24cm、深さ2~12cmである。

遺物は、カマド焚口付近で土師器坏と壺2個体がまとまって出土している。

第61号住居跡出土遺物観察表（第235図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	13.2	4.3		SB*WWR	B	橙	50%	覆土
2	坏	(12.8)	3.8		W*BWR	B	灰赤	20%	覆土 色調内暗赤灰
3	坏	12.9	4.9		SW*B*WBR	B	橙	95%	No2 カマド床面 カマド 覆土
4	壺	21.1	27.7		SB*WBR	B	橙	80%	No1,3 カマド(-4.5cm) カマド 覆土
5	壺	20.1	37.5	4.5	SWBBR	B	明褐	95%	No2,3 カマド床面 カマド
6	角棒状鉄製品		覆土					残長4.6cm 重量6.49g	ことによると刀子の茎か?



第237図 第62号住居跡

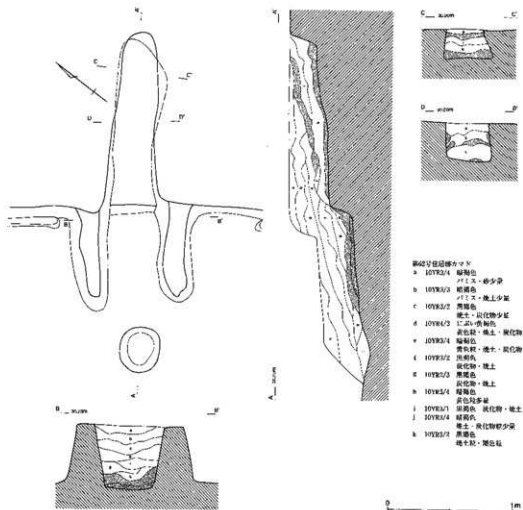
第62号住居跡 (第237・238図)

すー5-21グリッドを中心に位置する。第60・63号住居跡、第7・8号溝跡と重複し、本住居跡が一番古い。形態は方形に近く、規模は長軸4.62m、短軸4.50m、深さ0.42~0.54mである。主軸方位はN-52°-Eを指す。

床面は緩やかな起伏があり、壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土の状態は不明である。2条の噴砂が横断するが、著しい歪みは生じていない。

カマドは北東側の壁の中央より僅かに南側に設置される。燃焼部の掘り込みは見られず、最下層には炭化物層が、その上に焼土層が残存する。燃焼部手前に直径約36cm、深さ7cmのピットが検出され、炭化物・焼土を含む黒褐色土で充填されていた。煙道には最下層と中層に焼土層が明瞭であった。

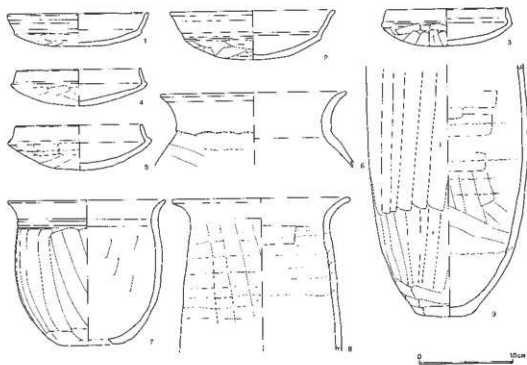
貯蔵穴は東コーナーに位置し、直径約56cmの円形で、深さは約30cmを測る。西側は高さ2~5cmの上巻状の高まりが方形に開んでいた。壁溝は南東側の壁と北東側で検出され、幅16~32cm、深さ



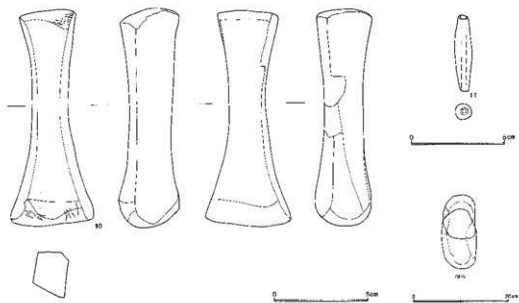
第238図 第62号住居跡カマド

3～6 cmである。カマド付近を中心に炭化材が検出され、焼失住居の可能性が考えられる。

出土土器は全て土師器で、杯・甕・甑等が認められる。10は安山岩製の砥石で、四面が使用され、各面共にかなりすり減っている。図示できなかったが貝塚穴痕泥岩が1個出土している。



第239図 第62号住居跡出土遺物(1)



第240図 第62号住居跡出土遺物(2)

第62号住居跡出土遺物観察表 (第239・240頁)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	(14.9)	3.5		B'W'SR	B	鈍い黄褐色	50%	覆土 内外面磨耗著しい
2	坏	17.4	5.2		SB'W'WR	C	橙	95%	No.9 覆土(+9.1cm)
3	坏	12.8	4.0		WW'RSB'	B	橙	95%	覆土
4	坏	13.2	3.9		WW'SRB'	A	橙	100%	No.6 覆土床面 内外面磨耗著しい
5	坏	13.4	4.8		SWRB'W'	A	浅黄橙	100%	No.10 覆土(+9.0cm) 内外面磨耗著しい
6	甕	(19.5)	7.6		SW'W'	B	浅黄橙	30%	覆土 内外面磨耗著しい
7	甕	16.8	15.5	4.7	WBB'R	B	浅黄橙	90%	覆土 内外面やや磨耗 外から穿孔
8	甕	(18.7)	15.6		WBB'R	C	浅黄橙	65%	No.1,4 覆土(+8.8cm) 接合痕明瞭
9	甕		27.0	6.0	WBB'R	B	鈍い橙	80%	No.7 貯穴 覆土 やや磨耗 接合痕明瞭
10	砥石		覆土						長さ11.5cm 幅1.9cm 厚さ2.3cm 重量132g 安山岩製
11	土錘	覆土			SB'		鈍い黄褐色	100%	長さ4.1cm 径6.9cm 孔0.3cm 重2.70g

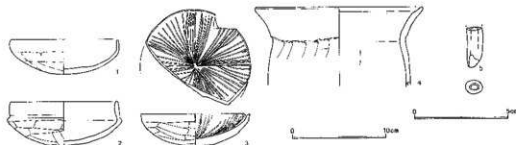
第63号住居跡 (第242頁)

すー5-21グリッドを中心に位置する。第62・64号住居跡を切り、第8号溝跡に切られる。形態は長方形で、規模は長軸3.64m、短軸3.04m、深さ0.18~0.20mである。主軸方位はN-40°-Eを指す。

床面はほぼ平坦で、壁は開き気味に立ち上がる。住居跡内を東西に最大幅43cmの大きな噴砂が縦断するが、目立った歪みは生じていない。

カマドは北東側の壁中央に設置される。依存状態は悪く、左袖を第8号溝跡に、煙道付近を掘削によって壊されている。燃焼部の掘り込みは見られず、奥壁近くに深さ約8cmの小ピットが検出された。覆土中への焼土・炭化物・灰の混入は少ない。壁溝は西側コーナー付近で検出され、幅10~16cm、深さ2~4cmで、壁のやや内側を巡る傾向にある。

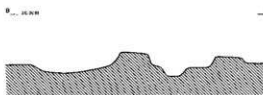
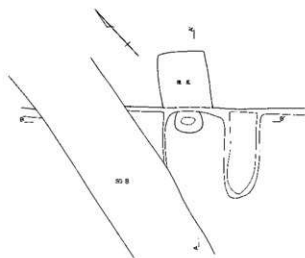
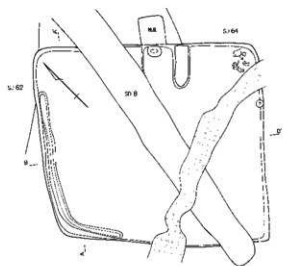
出土遺物は多くなく、東側のコーナーに固まっていた。



第241図 第63号住居跡出土遺物

第63号住居跡出土遺物観察表 (第241頁)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	11.4	3.7		B'SWW'	B	鈍い橙	90%	No.4 覆土(-5.3cm) 内外面磨耗著しい
2	坏	11.4	4.7		B'W'W'	B	鈍い黄褐色	95%	No.7 覆土床面 外面一部剥落
3	坏	(11.6)	3.4		W'B'WR	B	明赤褐色	50%	No.6 覆土(-4.3cm) カマド 放射状噴文
4	甕	(17.7)	8.3		B'W'WR	B	鈍い橙	40%	No.1,3 覆土(-5.1cm) 内外面磨耗著しい
5	土錘	覆土			BB'		鈍い黄褐色		残2.2cm 径6.9cm 孔0.4cm 重1.05g

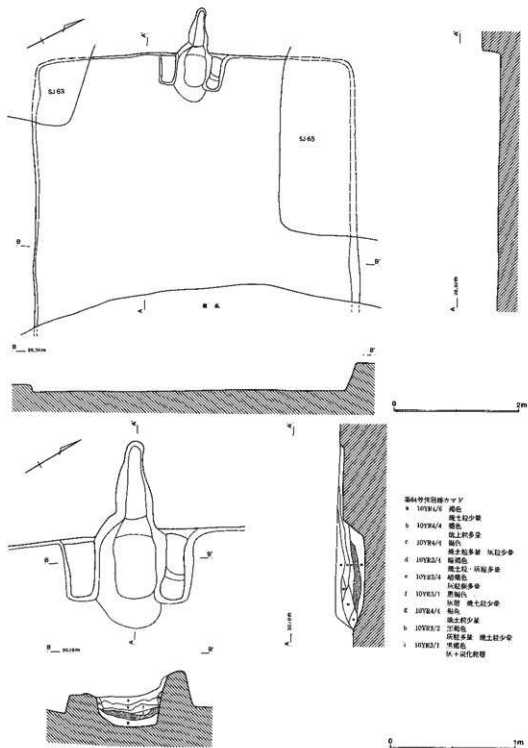


第63号住居跡のスケッチ

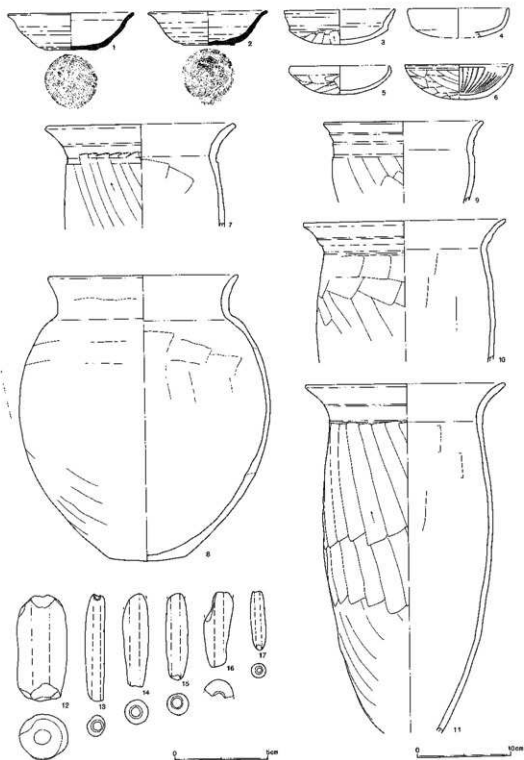
- a 30YR3/4 暗褐色 焼土の遺存
- b 10YR3/3 暗褐色 焼土の遺存
- c 10YR4/4 褐色 炭化土の遺存
- d 10YR2/2 黄褐色 焼土の遺存
- e 10YR3/4 暗褐色 焼土の遺存

0 2.00m

第242图 第63号住居跡



第243図 第64号住居跡



第244图 第61号住居跡出土遺物(1)

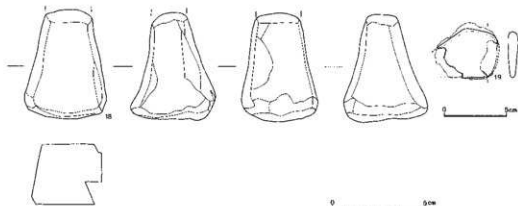
第64号住居跡 (第243図)

サ-5-21グリッドを中心に位置する。コーナー部分において、第63・65号住居跡と重複し、本住居跡が一番古い。南東側は大きく攪乱によって壊されている。形態は方形または長方形となると思われ、残存規模は北西側の壁が5.26m、南西側が3.60m、深さが0.10-0.46mである。主軸方位はN-63°-Wを指す。

床面は平坦で、壁は開きながら立ち上がる。覆土の状態は不明である。

カマドは北西側の壁中央に設置される。燃焼部は床面を7cm程掘り込み、焼土層が明瞭に残る。焼土層の上には灰層が広く残存していた。貯蔵穴、ピットは検出されていない。

出土遺物はあまり多くないが、接合率は良い方である。18は砂岩製の砥石で、四面が使用され、下面には刃跡が残る。19は板状の鉄製品で用途は不明である。



第245図 第64号住居跡出土遺物(2)

第64号住居跡出土遺物観察表 (第244・245図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	(13.4)	3.9	5.7	WSB'R	B	鈍い黄橙	40%	覆土 酸化焰焼成 底部回転糸切り
2	坏	(12.6)	3.6	5.5	WW'SB'	B	鈍い黄橙	45%	覆土 酸化焰焼成 底部回転糸切り
3	坏	11.8	3.7		W'WSB'	B	橙	80%	覆土 内面磨耗著しい
4	坏	(10.6)	3.1		W'B	B	鈍い橙	20%	覆土 胎土層内 内外面磨耗著しい
5	坏	10.5	3.1		B'W'W'	B	橙	70%	覆土 内面磨耗著しい
6	坏	11.5	3.7		B'W'W'R	B	橙	85%	覆土 放射状暗文不明瞭
7	甕	(19.8)	11.1		B'W'W'R	B	橙	30%	カマド
8	甕	(20.0)	30.5	8.2	WDB'R	B	灰 白	40%	覆土 内外面磨耗著しい
9	鉢	(16.9)	8.7		B'W'W'	B	赤 橙	25%	覆土 内外面やや磨耗
10	甕	(21.5)	15.2		WW'DB'R片	B	鈍い橙	60%	覆土 内外面やや磨耗
11	甕	(21.3)	32.3		WRB	B	橙	60%	カマド
12	土鉢		覆土		BW'W'		橙	100%	長5.7cm 径2.7cm 孔1.0cm 重36.20g
13	土鉢		覆土		BB'W'W'R		鈍い橙	100%	長5.8cm 径1.0cm 孔0.5cm 重6.08g
14	土鉢		覆土		BW'W'B'		鈍い橙	100%	残5.0cm 径1.3cm 孔0.5cm 重6.24g
15	土鉢		覆土		BW'W'		橙		残4.6cm 径1.2cm 孔0.5cm 重5.15g
16	土鉢		覆土		SW		橙		残4.1cm 径1.6cm 重4.09g
17	土鉢		覆土		B'		灰 白	100%	長3.2cm 径0.8cm 孔0.3cm 重1.77g
18	砥石		覆土						長さ5.8cm 幅3.7cm 厚さ3.2cm 重量116g 砂岩製
19	板状鉄製品		覆土						重量32.43g 製品ではないかもしれない?

第65号住居跡 (第246・247図)

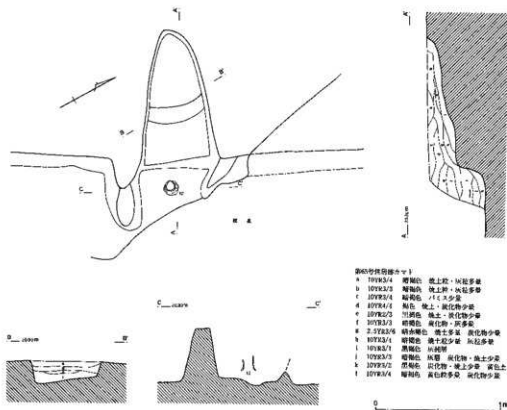
せー5-1グリッドを中心に位置する。第64・66号住居跡を切り、第8号溝跡に切れられ、北側から住居跡中央付近まで攪乱に大きく壊される。形態はやや歪んだ正方形で、規模は長軸7.00m、短軸6.80m、深さ0.40~0.54mである。主軸方位はN-59°-Wを指す。

床面はほぼ平坦で、壁は開き気味に立ち上がる。覆土の観察はできなかった。

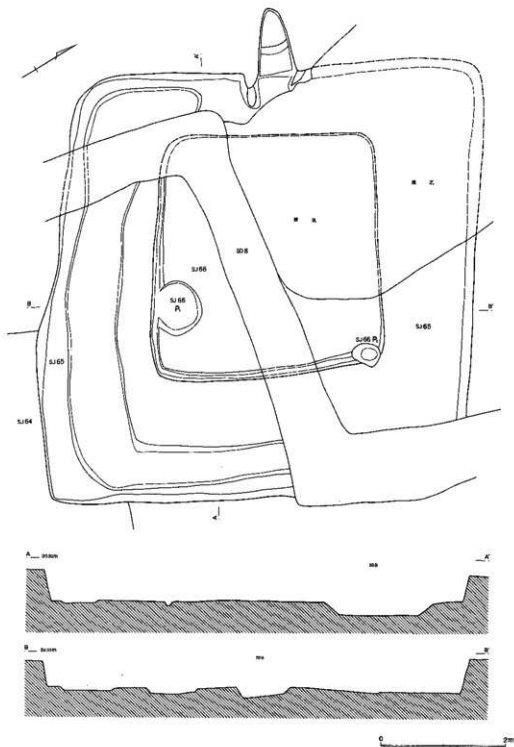
カマドは北西側の壁の中央付近に設置される。右袖と燃焼部の一部は攪乱で壊される。燃焼部の掘り込みはなかったようで、奥壁は垂直に立ち上がり煙道へ続く。煙道にも緩い段がみられる。覆土下層には灰層(j層)と灰層に準ずる層(i層)が約15cm残存している。燃焼部中央では土製支脚が出土している。

貯蔵穴は検出されていない。攪乱に壊された部分にあったものと推察される。壁溝は南半で、壁の内側を巡る形で検出されている。深さは2~12cmだが、幅が53~98cmと極めて広く単なる周溝とするには疑問が残る。

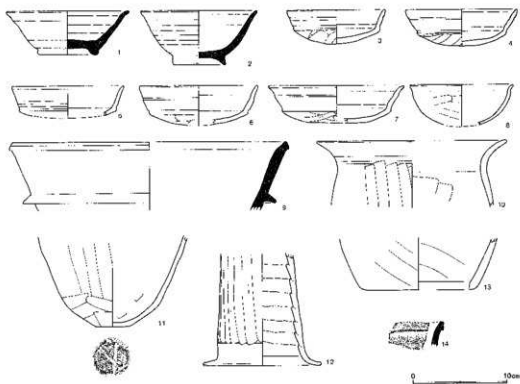
出土遺物は多量に見られるが、調査中に第66号住居跡の遺物と混じりあってしまった。18は絹雲母片岩製の円盤で、周辺を丁寧に打ち欠いているが、用途は判らない。19は貝塚穴痕泥岩でこれ以外にもう1個出土している。20・21は不明鉄製品、22は椀形洋である。図示した以外には極めて小さいが、灰釉陶器・緑釉陶器・比企型坏・S字口縁の破片が各1片出土している。



第246図 第65号住居跡カマド



第247図 第65・66号住居跡



第248図 第65・66号住居跡出土遺物(1)

第66号住居跡 (第247図)

セー5-1グリッドを中心に位置する。第65号住居跡の床面に検出された。第8号溝跡に切断されて、掘乱によっても大きく壊されている。形態は一辺が3.7m程の方形と思われ、遺構確認面からの深さは0.44~0.48mである。主軸方位はN-62°-Wを指す。

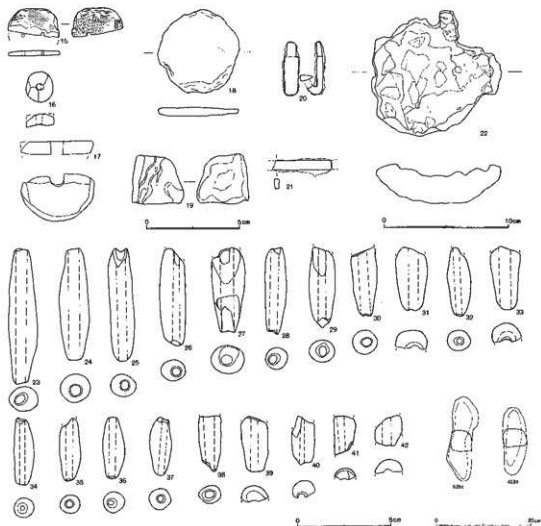
第65号住居跡の床面からの掘り込みは浅く、壁溝以外では5cmに満たない。壁の立ち上がり、覆土の状態は不明とせざるを得ない。

カマドは検出されていない。ピットは2本検出された。2本とも壁溝と繋がっており、深さはP1が10cm、P2が35cmとなる。壁溝は幅12~19cm、深さ2~10cmを測る。

出土遺物は、第65住居跡と一緒に取り上げられてしまった。

第65-66号住居跡出土遺物観察表 (第248・249図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	変色	残存	出土位置・その他	
1	高台杯	12.9	4.7	6.5	BW'WB'	C	浅黄橙	85%	覆土 酸化焙焼成 底部回転糸切り
2	高台杯	(12.3)	5.8	5.8	SW'WB'	C	黄い黄橙	50%	覆土 底部切り無し不明瞭 酸化焙焼成
3	杯	10.4	3.7		W'WB'R	B	鈍い褐	85%	覆土 内外面磨耗著しい
4	杯	(11.8)	3.9		B'W'W	C	褐 灰	30%	覆土 内外面やや磨耗
5	杯	(12.0)	3.2		B'W'S	B	橙	25%	覆土 内外面磨耗著しい
6	杯	(12.6)	4.2		B'WRW	B	浅黄橙	30%	覆土 内外面磨耗著しい
7	杯	(14.5)	4.0		B'WRW'	B	鈍い褐	25%	覆土 内面やや磨耗
8	杯	(10.8)	4.3		B'W'W	B	浅黄橙	25%	覆土 内外面磨耗著しい
9	壺	(29.2)	7.3		WBB'	A	灰 白	10%	覆土 胎土緻密



第249図 第65・66号住居跡出土遺物(2)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
10	甕	(20.2)	7.2		SRWB'	B	黄い黄橙	15%	覆土
11	甕		9.8	3.6	DWB'W'	B	黄い黄橙	45%	覆土 内外面やや磨耗
12	支脚	カマド			SB'W'WR		橙	70%	残高12.0cm 下端径 12.5cm 内面輪痕
13	甌		5.5	12.1	WB'W'	B	橙	30%	覆土 胎土緻密 外面磨耗著しい
14	甕				WW'	B	灰白		覆土 胎土緻密
15	有孔円板								覆土 直径(27.0)mm 厚さ3.0mm 重量2.05g 滑石製 半分欠損
16	白土								覆土 大形 直径16.0mm 厚さ7.0mm 重量2.18g 滑石製 一部欠損
17	紡錘車								覆土 厚さ0.7cm 大径3.7cm 小径3.2cm 孔径0.6cm 重量10.48g 滑石製
18	不明石製品								覆土 長さ4.3cm 幅4.3cm 重量16.69g 絹雲母片岩製
19	貝根穴痕泥着								覆土
20	不明鉄製品								覆土 重量7.06g
21	角棒状鉄製品								覆土 残長4.8cm 重量10.87g

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
22	碗型洋		覆土	東岸286.02g					
23	土鉢	覆土			WW'		鈍い橙	100%	長7.3cm 径1.6cm 孔0.5cm 重13.11g
24	土鉢	覆土			SWB		鈍い黄橙	100%	長6.0cm 径1.6cm 孔0.6cm 重13.35g
25	土鉢	覆土			SBW'		鈍い褐	100%	長6.0cm 径1.4cm 孔0.4cm 重8.26g
26	土鉢	覆土			BWW'S		橙	100%	残5.3cm 径1.4cm 孔0.5cm 重8.00g
27	土鉢	覆土			BB'WW'		明赤褐		残4.5cm 径1.8cm 孔0.6cm 重9.27g
28	土鉢	覆土			BB'WS		浅黄橙	100%	長4.6cm 径1.2cm 孔0.4cm 重4.74g
29	土鉢	覆土			SW'		鈍い橙		残4.3cm 径1.4cm 孔0.5cm 重5.96g
30	土鉢	覆土			SWW'BB'		橙		残3.7cm 径1.4cm 孔0.6cm 重4.57g
31	土鉢	覆土			SW		鈍い褐		残3.4cm 径1.7cm 重4.76g
32	土鉢	覆土			SWB'		鈍い褐		残3.7cm 径1.3cm 孔0.3cm 重3.85g
33	土鉢	覆土			BW'WS		明赤褐		残3.4cm 径1.6cm 重4.50g
34	土鉢	覆土			BB'WW'R		鈍い橙		長3.6cm 径1.1cm 孔0.2cm 重3.76g
35	土鉢	覆土			W'WS		灰 褐		残3.4cm 径1.1cm 孔0.4cm 重3.24g
36	土鉢	覆土			WBB'		鈍い橙	100%	長3.3cm 径1.2cm 孔0.4cm 重3.76g
37	土鉢	覆土			BB'WW'		灰黄褐		長3.1cm 径1.2cm 孔0.4cm 重3.63g
38	土鉢	覆土			KW'S		鈍い橙		残3.0cm 径1.2cm 孔0.6cm 重2.51g
39	土鉢	覆土			W'S		明赤褐		残3.0cm 径1.5cm 重3.44g
40	土鉢	覆土			WB		明黄褐		残2.7cm 径1.3cm 重2.09g
41	土鉢	覆土			W		鈍い橙		残2.1cm 径1.2cm 重1.29g
42	土鉢	覆土			SWW'		橙		残1.6cm 径1.5cm 重1.39g

第67号住居跡 (第250・251図)

セー5-6グリッドを中心に位置する。周辺の重複する住居跡の中で最も新しい。形態は東西にやや長い長方形と思われ、長軸が4.40m、短軸が3.60m程であろうか。深さはカマド周辺では16cm程あるが、南西に向うに従って浅くなり、西壁及び南壁の一部は見られなくなっている。主軸方位はN-90°-Eを指す。

床面は平坦で、壁は開き気味に立ち上がる。覆土の状態は不明である。

カマドは東壁ほぼ中央に設置される。深さが浅いため遺存状態は悪い。燃焼部の掘り込みはなく、僅かな起伏があるが、ほぼ同じ高さで煙道へ移行する。袖は見られなかった。貯蔵穴、ピット、壁溝は検出されていない。

出土遺物は、殆どがカマドからの出土で、特に燃焼部に集中している。

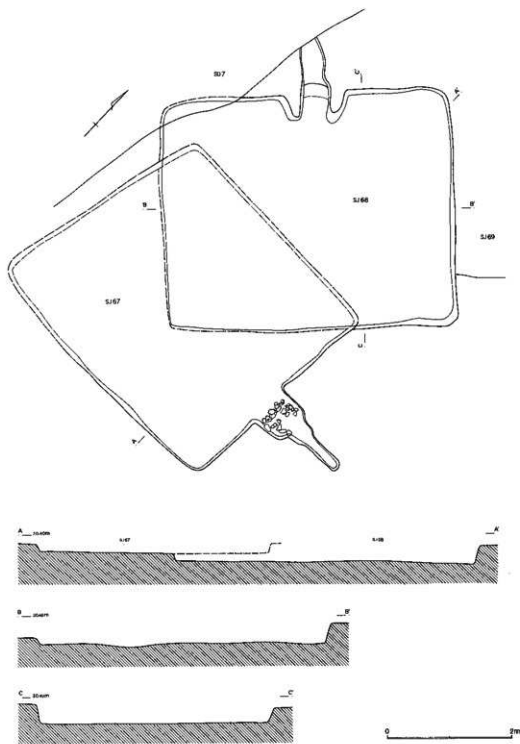
第68号住居跡 (第250・251図)

セー5-11グリッドを中心に位置する。第69・71号住居跡を切り、第67号住居跡、第7号溝跡に切られる。形態は長方形で、規模は長軸4.74m、短軸3.80m、深さ0.15-0.31mである。主軸方位はN-45°-Wを指す。

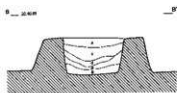
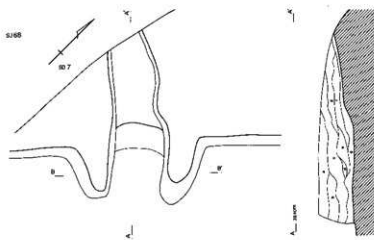
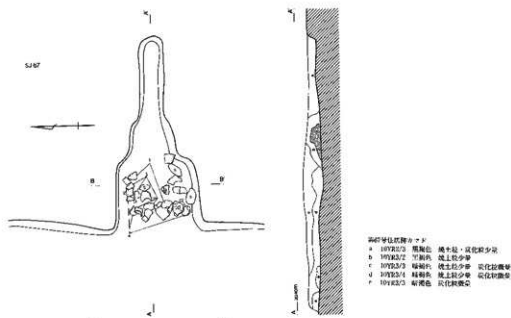
床面は緩やかな起伏が目立ち、壁は開き気味に立ち上がる。覆土の観察はできなかった。

カマドは北壁ほぼ中央に設置される。煙道の先端は第7号溝跡に壊される。燃焼部の掘り込みはなく、奥壁は緩やかに立ち上がる。貯蔵穴、ピットは検出されなかった。

出土遺物は全て覆土からの出土で、図示できなかったが貝果穴泥岩が4個出土している。



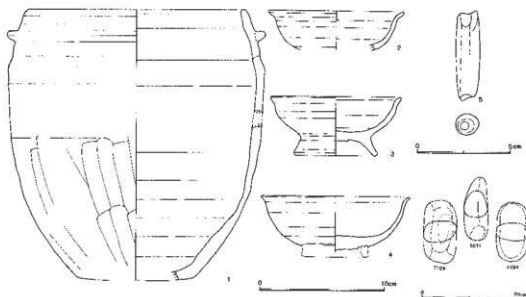
第250图 第67・68号住居跡



- 668号住居跡カマド
- a 10YR1/2 濃い黄褐色 焼土・灰化粒少量
 - b 10YR3/6 暗褐色 焼土粒・灰化粒少量
 - c 10YR3/2 暗褐色 焼土粒・焼土ブロック多量
 - d 5YR5/5 褐色 焼土粒・焼土ブロック多量
 - e 10YR2/1 暗褐色 灰化粒・灰多量
 - f 7.5YR4/1 灰褐色 灰化粒少量 灰多量
 - g 10YR2/2 暗褐色 灰化粒少量

0 1m

第251図 第67・68号住居跡カマド



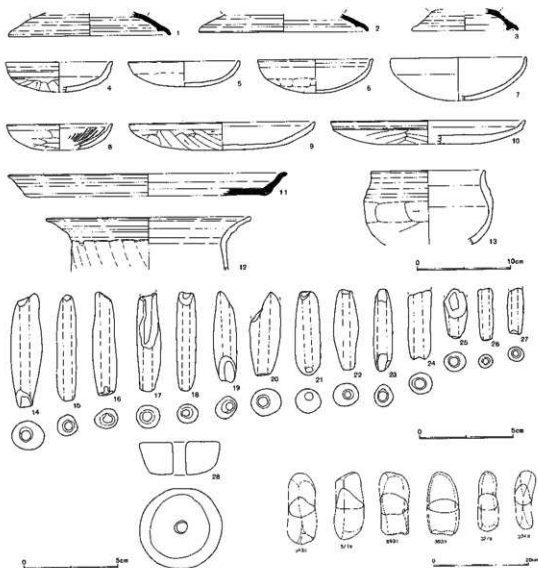
第252図 第67号住居跡出土遺物

第67号住居跡出土遺物観察表 (第252図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	羽釜	(23.0)	29.0	(12.1)	SWRW	B	橙	20%	No10,15他 カマド床面 外面やや磨耗
2	坏	(14.1)	4.2		WBR	B	鈍い橙	20%	No19 カマド ロクロ使用 酸化焙焼成
3	高台碗	(13.8)	6.3	8.6	H'WWR	B	浅黄橙	60%	No11,12他カマド ロクロ使用 酸化焙焼成
4	高台碗	(15.6)	5.7		SB'W'	B	黄い黄橙	50%	No7,8他 カマド ロクロ使用 酸化焙焼成
5	土鏝	覆土			S		浅黄橙		長4.8cm 径1.3cm 孔0.5cm 重6.15g

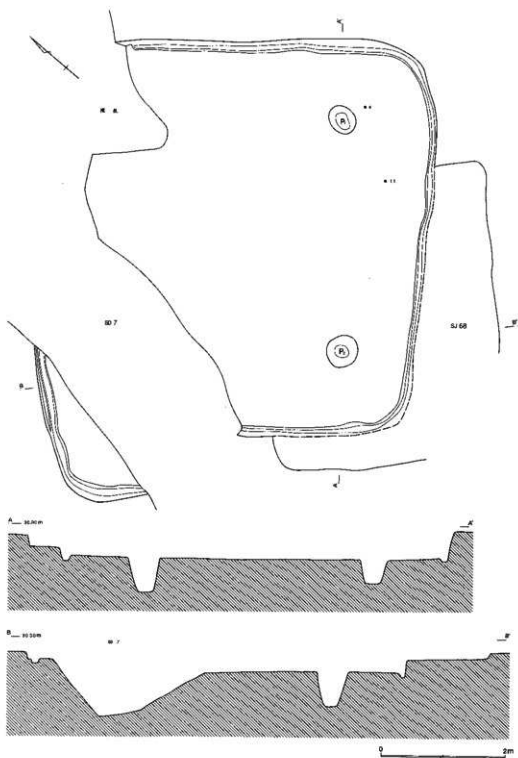
第68号住居跡出土遺物観察表 (第253図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	釜	(17.2)	2.6		SW	B	灰	20%	覆土 産地不明 SJ67と接合
2	釜	(18.0)	1.9		SWB	B	灰	10%	覆土 産地不明
3	釜	(11.2)	2.3		WW'	A	灰	20%	覆土 胎土緻密 東海(湖西)産か
4	坏	(11.2)	3.2		B'W'W	B	浅黄橙	40%	覆土 内外面やや磨耗
5	坏	11.8	2.7		SWBR	B	橙	85%	覆土 カマド 磨耗著しく調彩不明
6	坏	(12.3)	3.6		SWW'B'	B	橙	60%	覆土 内外面磨耗著しい
7	坏	(14.3)	4.6		WBSR	B	鈍い橙	50%	覆土 内外面磨耗著しい
8	坏	(11.2)	2.7		H'WWR	A	明赤褐	15%	覆土 放射状暗文
9	皿	(19.8)	2.9		WBRW	B	鈍い褐	50%	覆土 やや歪み有り
10	皿	21.0	2.5		B'WRW	A	浅黄橙	20%	覆土 内外面やや磨耗
11	盤	(29.8)	2.4		RWWS	H	灰	5%	覆土 内面一部還元化していない
12	壳	21.5	5.7		B'WRW	B	浅黄橙	90%	覆土 内外面磨耗著しい
13	小形壺	(12.2)	7.9		B'WWR	H	灰白	20%	覆土 内外面一部割落
14	土鏝	覆土			SW'B'		黄い黄橙		長6.1cm 径1.7cm 孔0.5cm 重13.44g
15	土鏝	覆土			BW'W'B'		灰黄褐	100%	長5.7cm 径1.1cm 孔0.5cm 重6.01g
16	土鏝	覆土			BB'W'		黄い黄橙	100%	長5.6cm 径1.3cm 孔0.6cm 重6.14g
17	土鏝	カマド			SH		浅黄橙		残5.3cm 径1.3cm 孔0.5cm 重6.48g
18	土鏝	覆土			SBB'		鈍い黄橙		長5.3cm 径1.1cm 孔0.4cm 重5.39g



第253図 第68号住居跡出土遺物

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
19	土鉢	覆土			RSB'		褐 灰		長4.9cm 径1.2cm 孔0.4cm 重4.72g
20	土鉢	覆土			SW'		橙		残4.5cm 径1.6cm 孔0.5cm 重8.48g
21	土鉢	覆土			W'B'B	100%	黄い黄橙		長4.5cm 径1.4cm 孔0.4cm 重7.77g
22	土鉢	覆土			BW'	100%	浅黄橙		長4.3cm 径1.4cm 孔0.4cm 重5.64g
23	土鉢	覆土			WS	100%	灰 赤		長4.4cm 径1.2cm 孔0.5cm 重4.41g
24	土鉢	覆土			SB'		黄い黄橙		残3.7cm 径1.3cm 孔0.6cm 重5.51g
25	土鉢	覆土			B'		浅黄橙		残2.7cm 径1.2cm 孔0.5cm 重2.26g
26	土鉢	覆土			BW'R		黄い黄橙		長2.8cm 径0.8cm 孔0.3cm 重1.56g
27	土鉢	覆土			B'S		褐 灰		残2.5cm 径0.8cm 孔0.3cm 重1.63g
28	紡錘車	覆土			厚さ1.8cm 大径4.1cm 小径3.1cm 孔径0.9cm 重量62.01g 滑石製				



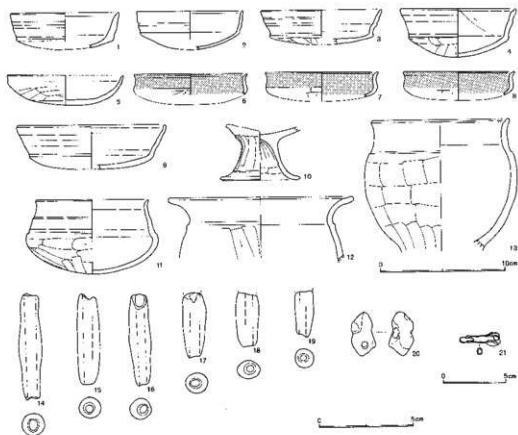
第254図 第69号住居跡

第69号住居跡 (第254回)

セー5-11グリッドを中心に位置する。他の遺構との重複が激しく、第70・71・72号住居跡を切り、第68号住居跡に切られる。第7号溝跡には西側を切断され、北側は擾乱に壊されている。形態は方形となると思われ、規模は長軸6.21m、短軸6.12m、深さ0.10~0.46mである。主軸方位はN-40°-Wを指す。

床面は平坦で、壁は開き気味に立ち上がる。第7号溝跡を境に平面形がやや食い違い、床面の高さに差が生じている。これが何れの原因によるものかは不明である。カマド、貯蔵穴は検出されていない。ピットは2本検出され、柱穴と思われる。壁溝は全周するようで、幅12~26cm、深さ3~11cmを測る。

出土遺物はやや多めに見られるが、接合率が悪い。6・7・8は比企型環である。8の胎土には明瞭に白色針状物質が認められる。20は貝塚穴痕泥岩でこれ以外にもう1個出土している。21は鉄製品で、弓金具と思われる。



第255図 第69号住居跡出土遺物

第69号住居跡出土遺物観察表 (第255回)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	環	(11.5)	3.8		B'W'W'R	B	浅黄橙	20%	覆上 内外面磨耗著しい
2	環	(11.3)	4.1		W'B'W'R	B	浅黄橙	30%	覆上 内外面磨耗著しい

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
3	坏	(12.7)	3.7		WB'WR	B	黄い黄橙	20%	覆土 内面やや磨耗
4	坏	12.3	5.1		B'WR	B	褐灰	80%	No2 覆土床面 ナテ抜き上げ痕明瞭
5	坏	12.3	3.2		B'WW	B	黄黄褐	85%	覆土 内外面磨耗著しい
6	坏	(12.0)	2.3		BWR	B	橙	5%	覆土 比企型坏 白色針状物質確認できず
7	坏	(12.0)	2.7		WB	A	橙	5%	覆土 比企型坏 白色針状物質確認できず
8	坏	(11.8)	2.6		WB針	B	橙	5%	覆土 比企型坏 内外面磨耗著しい
9	坏	(15.7)	4.7		WW'ER	B	褐灰	20%	覆土 内外面磨耗著しい
10	高坏		5.5	(8.1)	WBB'R	H	灰褐	45%	覆土
11	坏	(12.0)	7.9		B'W'WR	H	灰白	70%	No1 覆土床面 内面磨耗著しい
12	甕	(19.6)	6.5		SW'WRB'	A	橙	20%	覆土
13	甕	(14.3)	14.0		SB'W'W	B	鈍い橙	35%	覆土 内外面やや磨耗
14	土鉢	覆土			BW'		黄い黄橙	100%	長5.7cm 径1.2cm 孔0.6cm 重6.18g
15	土鉢	覆土			SRB'		浅黄橙		長4.8cm 径1.2cm 孔0.4cm 重6.22g
16	土鉢	覆土			SW'		黒褐		長4.9cm 径1.2cm 孔0.4cm 重5.37g
17	土鉢	覆土			BWW'		灰褐		残3.5cm 径1.2cm 孔0.5cm 重3.94g
18	土鉢	覆土			SB'W		鈍い橙		残2.9cm 径1.2cm 孔0.4cm 重3.59g
19	土鉢	覆土			WB		浅黄橙		残2.5cm 径1.0cm 孔0.3cm 重2.16g
20	貝塚穴痕泥岩		覆土						
21	小金具		覆土						全長3.3cm 重量2.61g

第70号住居跡 (第256図)

セー4-15グリッドを中心に位置し、壁のごく一部と貯蔵穴を検出しただけである。第69・71～73号住居跡と重複するが、その関係は不明な点が多い。形態、規模は不明とせざるを得ない。

壁は10cm程の立ち上がりを持つ。貯蔵穴は110cm×78cmの長方形で、深さは約75cmを測る。テラス状の段をもつ。

遺物は覆土及び貯蔵穴からの出土だが、覆土中のものには流れ込みも多いと思われる。

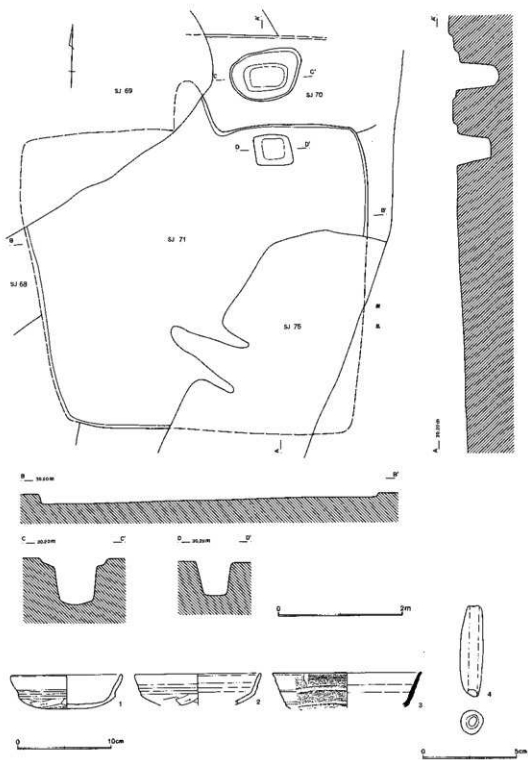
第71号住居跡 (第256図)

セー4-15グリッドを中心に位置する。他の遺構との重複が激しく、第72・73号住居跡を切り、第67・68・69・70・75号住居跡に切られる。第70号住居跡との関係は、床面が5cm前後低くなっており、本住居跡が新しいと考えられるが不明な点が多い。形態はやや歪んだ長方形で、規模は長軸5.50m、短軸4.90m程になるであろう。遺構確認面からの深さは0.12～0.18mを測る。主軸方位はN-7°-Wを指す。

床面は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。カマドは北壁中央に設置されると思われるが、その殆どを第69号住居跡に壊されているため、詳しくは判らない。貯蔵穴はカマド右側に位置し、50cm×

第70号住居跡出土遺物観察表 (第256図)

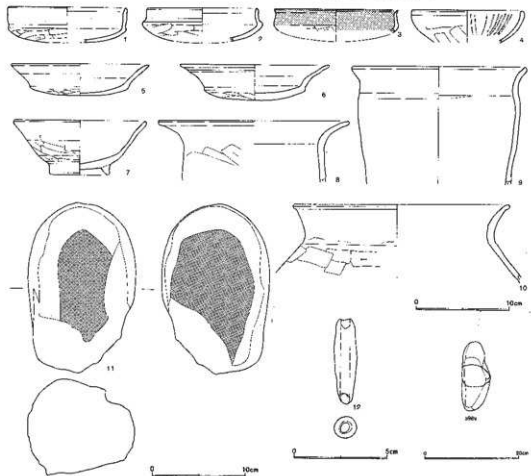
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	11.7	3.6		WBB'S	B	褐	25%	一括 覆土
2	坏	13.4	3.3		WBRB'	A	鈍い橙	20%	覆土
3	高坏	15.8	3.8		WRSB	A	褐灰	20%	貯穴 SJ71と接合 構構波状文 沈線あり
4	土鉢	覆土			BB'		浅黄橙	100%	長4.9cm 径1.2cm 孔0.5cm 重6.35g



第256图 第70号住居跡・出土遺物

60cmの長方形で、深さは約55cmを測る。ピット、壁溝は検出されていない。

遺物は覆土からの出土であるが、混入も多いと思われる。3は比企型環で、胎土に白色針状物質が見られる。11は角閃石安山岩製で砥石であろうか、両面に研磨された面を持つ。



第257図 第71号住居跡出土遺物

第71号住居跡出土遺物観察表 (第257図)

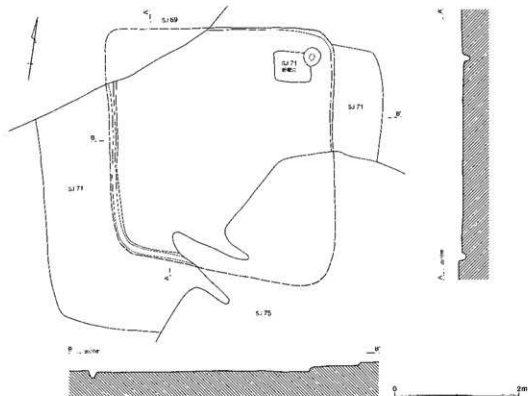
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	環	12.5	3.8		WBB'R	A	黄い黄橙	25%	覆土
2	環	11.6	3.7		WBB'RS	A	鈍い橙	25%	覆土
3	環	(13.2)	2.4		WBB'針	C	鈍い橙	5%	覆土 比企型環 内外面やや磨耗
4	環	11.7	3.6		WBRS	A	橙	15%	覆土 放射状略文
5	環	(14.7)	3.3		WRBSB'	A	明赤褐	15%	覆土
6	環	16.0	3.8		RWB'SB	C	浅黄橙	70%	覆土 胎土粗
7	高台環	14.0	5.8	6.1	W'RSB	B	浅黄橙	60%	覆土 酸化焰焼成 外面体部下ヘラケズリ
8	甎	(20.4)	6.6		B'RS片B	B	橙	25%	覆土 胎土粗
9	甎	18.4	12.7		WBS片	B	橙	45%	覆土 内外面磨耗著しい
10	甎	(22.9)	8.2		RBB'W	A	浅黄橙	25%	覆土
11	砥石?		覆土						長さ18.1cm 幅11.4cm 厚さ10.3cm 重量1.592g 角閃石安山岩製
12	土挿	覆土			BW'W'		灰 褐		長さ4.5cm 径1.2cm 孔0.5cm 重4.72g

第72号住居跡 (第258図)

せー4-15グリッドを中心に位置する。第71号住居跡の床面で確認された。一辺が3.7m前後の方形となると思え、第71号住居跡の床面からの深さは0.03-0.07mである。主軸方位はN-10°-Wを指す。

床面は平坦で、壁の立ち上がりは殆ど見られない。深度がなく覆土の状態は不明である。カマド、貯蔵穴は検出されていない。ピットは第71号住居跡の貯蔵穴に切られる形で1本検出されている。壁溝は西壁から南壁にかけて検出され、幅12-20cm、深さ1-7cmとなっている。

出土遺物は、全く見られず、重複する他の遺構に混じってしまった可能性も考えられる。



第258図 第72号住居跡

第73号住居跡 (第259図)

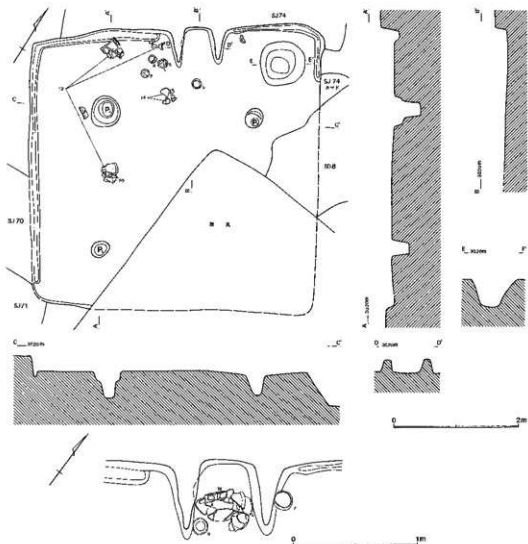
せー4-20グリッドを中心に位置する。第74号住居跡を切り、第70・71号住居跡、第8号溝跡に切られ、南側を擾乱によって壊される。形態は方形に近く、規模は長軸4.66m、短軸4.48m、深さ0.14-0.28mである。主軸方位はN-33°-Wを指す。

床面は中央付近が高くなる傾向にあり、壁は開き気味に立ち上がる。

カマドは北壁中央に設置される。燃焼部の掘り込みは見られず、煙道は壁外には検出されなかった。貯蔵穴は北東コーナーに位置し、72cmの円形で、深さは約44cmを測る。ピットは3本検出され、何れも柱穴と思われる。壁溝は幅9-20cm、深さ2-5cmを測るが、南壁と東壁の一部では途切れ

るようである。

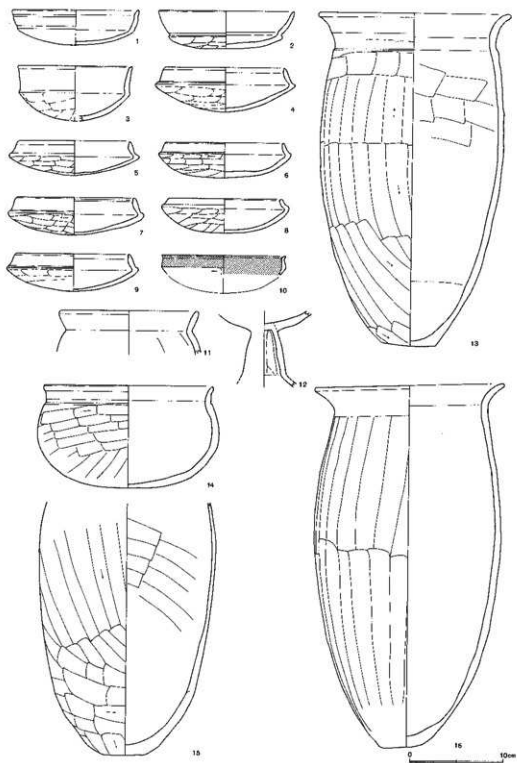
出土遺物は、カマドとカマド左袖周辺で多く見られる。破片は多量だが、接合率は良くない。10は比企型環で、胎土に白色針状物質を含む。24は貝巢穴痕泥岩である。これ以外にも1個出土している。



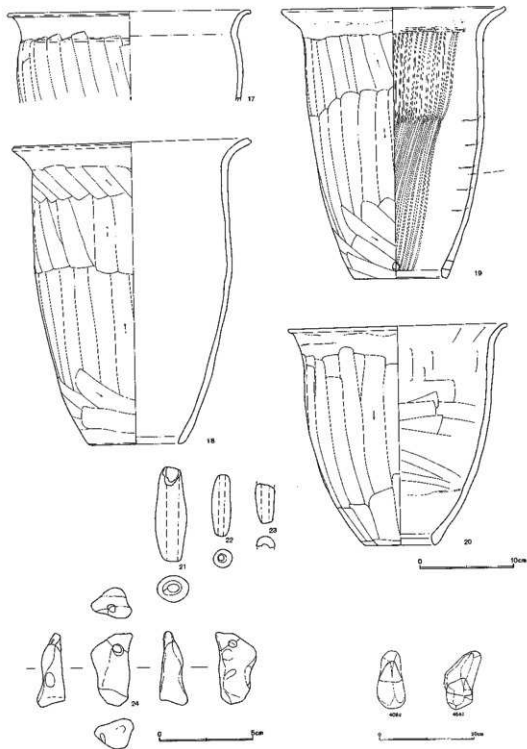
第259図 第73号住居跡

第73号住居跡出土遺物観察表 (第260・261図)

番号	器種	L径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	13.4	3.7		WBR5	C	橙	95%	No4 覆土床面 覆土 内外面磨耗著しい
2	坏	14.3	4.0		WBB'SR	A	明褐	100%	No2 覆土(-2.4cm) 覆土
3	坏	(12.1)	5.9		SBR	B	橙	25%	カマド 一括 内外面磨耗著しい
4	坏	12.8	4.8		WBRB'	A	橙	95%	No12 カマド(+3.9cm) 覆土 磨耗著しい
5	坏	11.9	3.7		WRB5B'	B	鈍い橙	100%	No9 覆土床面 覆土 外部に油煙痕あり
6	坏	12.7	3.8		WBB'R	A	橙	100%	No13 カマド(+4.0cm) 覆土 胎土帯



第260图 第73号住居跡出土遺物(1)



第261圖 第73号住居跡出土遺物(2)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	施成	色調	残存	出土位置・その他
7	坏	12.6	4.1		WBR5W'	B	橙	90%	No14 カマド右袖床面 覆土
8	坏	12.1	3.7		WRBB'	A	黄い赤褐	100%	No5 覆土(-2.1cm) 覆土
9	坏	12.0	4.1		WBR5	B	鈍い橙	95%	No3 覆土(-4.5cm) 覆土 磨耗著しい
10	坏	(13.2)	2.1		WBB'斜	A	鈍い橙	5%	覆土 比企型坏 胎土白色斜状物質含む
11	甕	(14.5)	4.7		WBB'WR	B	鈍い橙	25%	一括 覆土 内外面磨耗著しい
12	高坏		8.1		WBB'R	A	橙	60%	覆土 内外面磨耗著しい
13	甕	20.1	35.6	5.8	WB'BR	B	浅黄橙	95%	No1,6他 覆土床面 内外面やや磨耗
14	鉢	(17.9)	11.0		WB'WR'B'	D	鈍い褐	40%	No7,8 覆土床面 覆土 胎土密
15	甕		27.1	4.6	WBSR	B	明褐灰	40%	覆土 器面かなり荒れている 胎土粗
16	甕	20.2	38.5	4.5	SB'WR'RW	B	黄い黄橙	95%	No11 カマド床面 内外面磨耗著しい
17	甕	(25.6)	9.6		SR'R'片	B	灰 白	40%	No16 ビット3周辺床面 覆土 胎土粗
18	甕	(24.9)	32.3	9.0	WB'WR'	C	鈍い橙	95%	P1 内外面特に内面と外面下端磨耗
19	甕	(23.7)	28.9	9.7	WRBW'	B	浅黄橙	70%	覆土 底部付近に對面する2孔有り
20	甕	(23.3)	23.3	7.5	WBR	C	浅黄橙	60%	No17 覆土床面 胎土緻密
21	土錘		覆土		W		灰褐		長5.1cm 径1.7cm 孔0.6cm 重11.83g
22	土錘		覆土		BWB'		鈍い橙	100%	長3.3cm 径1.0cm 孔0.4cm 重3.43g
23	土錘		覆土		W		橙		残2.1cm 径1.0cm 重1.02g
24	貝塚穴痕記号		覆土						

第74号住居跡 (第262図)

ゼー4-20グリッドを中心に位置する。第73号住居跡、第8号溝跡に切れ、南壁の中央付近を攪乱で壊される。形態は東西に僅かに長い長方形で、規模は長軸4.50m、短軸4.10mで、遺構確認面からの深さは0.28-0.36mである。主軸方位はN-31°-Wを指す。

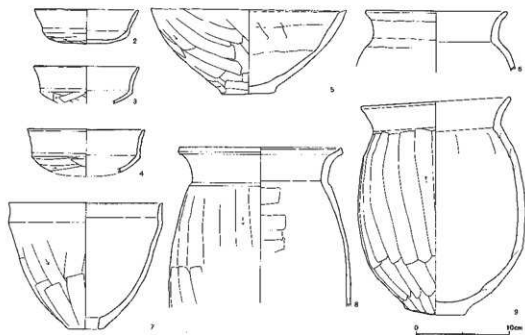
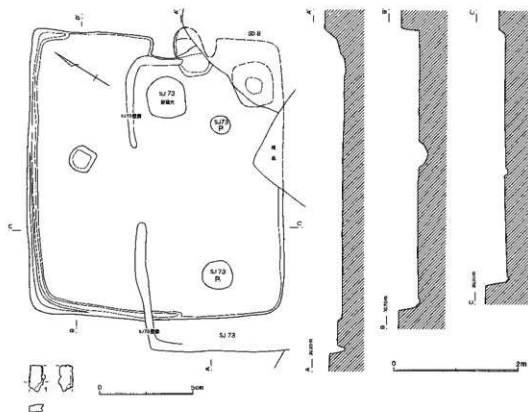
床面は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。覆土の状態は不明である。

カマドは東壁中央よりやや南側に設置される。第8号溝跡と第73号住居跡の壁溝によって壊されている。燃焼部は床面を3cm程掘り込み、煙道は開きながら立ち上がる。覆土の観察はできなかった。貯蔵穴は南東コーナーに位置するが第8号溝跡に切り取られ、底面のみ検出された。床面からの深さは約45cmを測る。ビットは1本検出された。壁溝は北壁から西壁にかけて検出され、幅12-24cm、深さ2-7cmである。北西コーナーでは壁のやや内側を巡っている。

出土遺物は全て覆土からで、土師器の坏・鉢・甕・甕等が認められた。1は滑石製の模造品と思われる。孔の部分が僅かに残る。

第74号住居跡出土遺物観察表 (第262図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	施成	色調	残存	出土位置・その他
1	模造石製品		覆土	長さ14.0cm 幅7.5cm	厚さ4.0cm			重量0.89g	滑石製 中央に孔有り
2	坏	(11.0)	3.6		WRBB'S	B	橙	20%	覆土
3	坏	(11.2)	4.0		WRBB'	C	橙	15%	覆土
4	坏	(12.4)	4.6		WB'RB	B	橙	25%	覆土
5	甕	20.9	9.2	5.8	WBR5B'	B	灰 白	85%	覆土 転用で鉢として使用か
6	甕	(15.0)	6.5		WBB'SWR	B	橙	25%	覆土 胎土密
7	甕	(16.4)	13.5	(2.8)	WBR5	B	橙	40%	覆土
8	甕	(17.2)	16.9		WB'R'片	B	灰 白	40%	覆土 胎土粗
9	甕	(15.8)	22.7	6.5	WBRE'	B	橙	50%	SJ73カマドと接合



第262図 第74号住居跡・出土遺物

第75号住居跡 (第263・264図)

せー4-10グリッドを中心に位置する。第71・72号住居跡を切る。第76号住居跡とも重複し、本住居が旧いと判断された。中央付近から東側は攪乱によって大きく切断される。形態は長方形になると思われるが、北西コーナーは丸みを持つ。残存規模は東西が6.05m、南北6.32m、深さ0.25-0.40mである。主軸方位はN-26°-Wを指す。

床面はほぼ平坦で、壁は開き気味に立ち上がる。覆土の観察はできなかった。

カマドは西壁中央より北側に設置される。燃焼部の掘り込みは見られず、奥壁付近に灰層（1層）が残存する。両袖は粘性のある褐色土で構築され、右袖に2個、左袖に3個の土師器甕が補強材として使用されていた。焚口付近にも甕がまとも出土している。

貯蔵穴は北西コーナーに位置し、直径約100cmの円形で、深さは約48cmを測る。攪乱によって大半が壊されているが北東コーナーにも直径約100cm、深さ14cm程のピットが検出されている。壁溝はカマドの両側に見られ、幅14-24cm、深さ1-8cmである。

出土遺物はやや多く見られるが、混入も多く、接合率は悪い。1は比企型坏で、胎土の白色針状物質は不明瞭である。

第76号住居跡 (第263図)

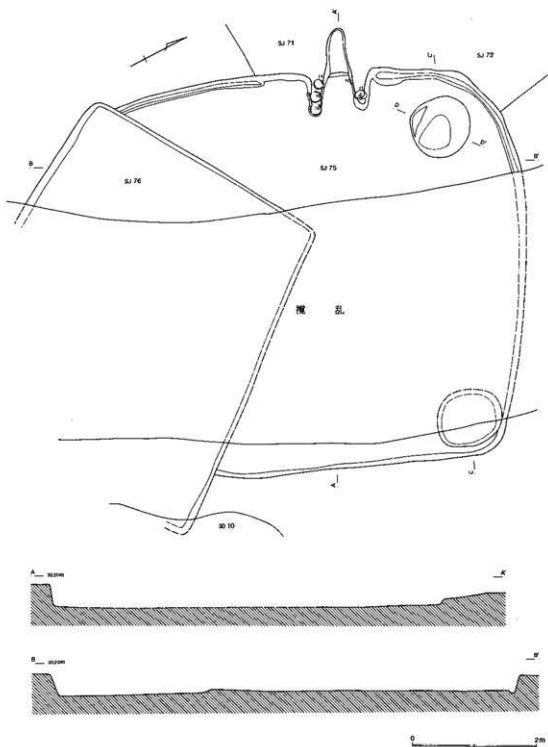
せー4-10グリッドを中心に位置する。第75号住居跡を切り、第10号溝跡に切られる。中央を南北に攪乱によって切断される。形態は長方形となると思われ、規模は長軸5.40m、短軸4.30m前後になると想定される。深さは0.36-0.38mとなっている。主軸方位は長軸を基準とするとN-30°-W程度となる。

床面はほぼ平坦で、第75号住居跡の床面から10cm程下がる。壁は開き気味に立ち上がる。覆土の状態は不明である。カマドは検出されていない。攪乱に壊された部分に設置されていたのだろう。

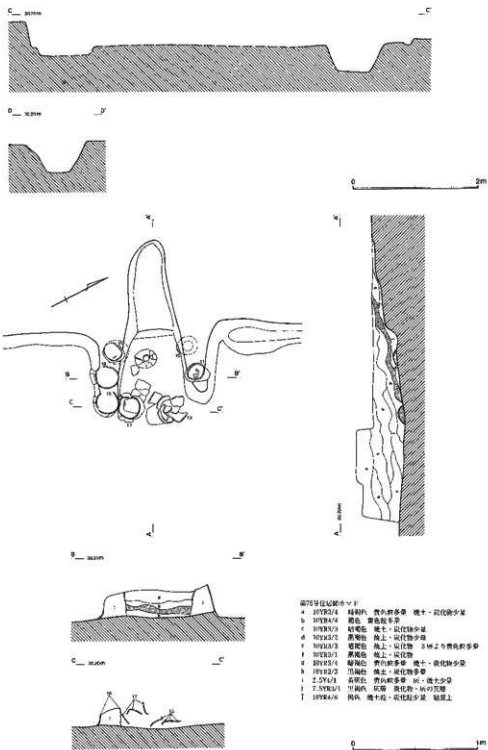
出土遺物は極めて少ないが、他の遺構の遺物として取り上げられた可能性も考えられる。図示できるのは土師器の坏1点のみで、推定口径11.4cm、にぶい黄橙色を示し、10%の残存となっている。焼成は普通、覆土からの出土である（第265図）。これ以外は器種の判別が出来ない程小さな土師器片が数点ある。

第75号住居跡出土遺物観察表 (第265・266図)

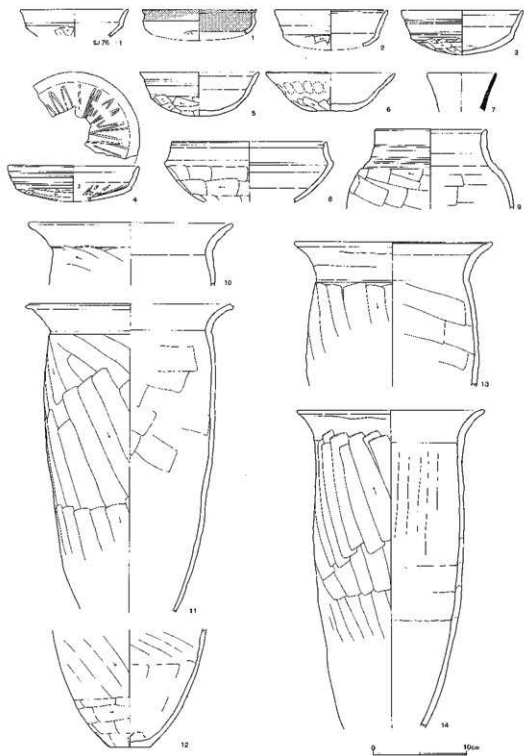
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	(12.0)	2.7		WR	A	橙	5%	覆土 比企型坏 白色針不明瞭
2	坏	(11.9)	3.9		B'W'BW	C	灰黄褐	20%	覆土
3	坏	(12.8)	4.7		B'W'W	C	橙	40%	覆土 口縁端部磨耗
4	坏	(13.7)	3.7		W'W'B'BR	B	灰黄褐	35%	覆土 放射状暗文
5	坏	12.6	4.7		B'W'R	B	黄い黄橙	85%	覆土 全体にやや歪む 内外面磨耗著しい
6	坏	(13.6)	4.1	4.8	B'W'W'R	B	黄い黄橙	40%	覆土 内外面磨耗著しい 混入か
7	壺か	(7.2)	4.2		WB	A	灰	30%	覆土 産地不明 直口壺又は平瓶か
8	鉢	(16.3)	6.5		B'W'WBR	A	鈍い橙	35%	カマド 覆土 口縁端部磨耗著しい
9	壺	(11.7)	8.4		B'W'RW'S	C	橙	80%	覆土 内外面口縁部磨耗著しい
10	甕	(21.5)	6.7		WSRW'B'	C	橙	80%	No4.9 カマド右袖床面 カマド
11	甕	21.6	32.9		WBB'RS	B	橙	90%	No8 カマド左袖(芯)床面 覆土



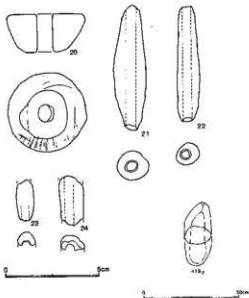
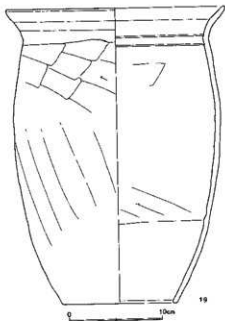
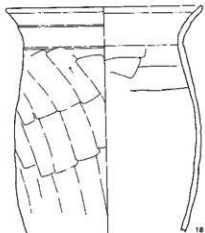
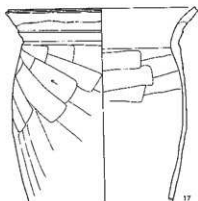
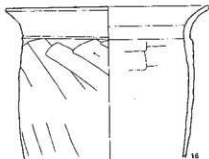
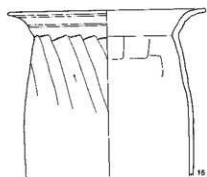
第263图 第75・76号住居跡



第264図 第75号住居跡カマド



第265図 第75・76号住居跡出土遺物(1)



第266図 第75・76号住居跡出土遺物(2)

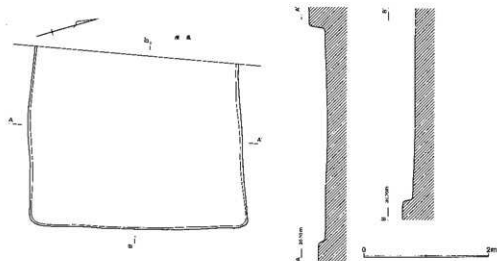
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
12	甕		12.6	4.2	SB'WWR	B	鈍い橙	70%	No6,7 カマド床面 外面磨耗著しい
13	甕	20.8	15.4		WW'BR	B	明褐色	50%	No6 カマド床面 覆土 内外面磨耗著しい
14	甕	19.9	33.9		WW'BR	B	灰白	90%	No1 カマド左袖(-22.6cm) カマド
15	甕	20.3	17.7		W'WBRS	B	明褐色	30%	覆土 内外面やや磨耗
16	甕	21.3	16.3		WB'RPB	B	淡橙	70%	No3 カマド左袖床面 覆土 口縁部磨耗
17	甕	19.9	20.5		WW'BSR	B	鈍い橙	65%	No4,5 カマド床面 カマド 内磨耗著しい
18	甕	20.8	24.0		WB'RW'	B	灰白	65%	No2 カマド左袖(芯) 床面 磨耗著しい
19	甕	(23.3)	41.5	(12.3)	WW'RRB'	B	淡橙	40%	貯穴 内外面磨耗著しい
20	紡錘車		覆土		厚さ2.0cm 人径4.0cm 小径2.0cm 孔径0.8cm 重量52.35g 滑石製				
21	土鍾	覆土			RWWB		橙		長6.7cm 径1.7cm 孔0.6cm 重13.47g
22	土鍾	覆土			RBW'		浅黄橙	100%	長6.2cm 径1.2cm 孔0.5cm 重7.86g
23	土鍾	覆土			BR		浅黄橙		残2.2cm 径1.0cm 孔0.4cm 重1.14g
24	土鍾	覆土			W'BB		黄橙		残2.7cm 径1.3cm 孔0.5cm 重2.22g

第77号住居跡 (第267図)

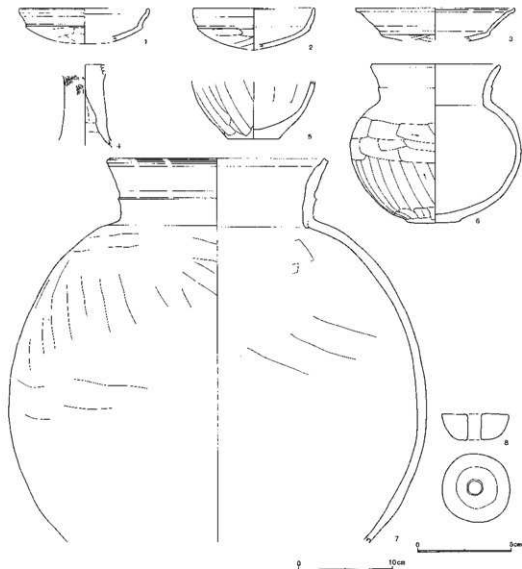
すー4-20グリッドを中心に位置し、西側を攪乱で壊される。形態は方形であろうか。残存規模は東壁が3.46m、南壁2.76mで、深さは0.10-0.24mとなっている。主軸方位はN-72°-Wとなる。

床面はほぼ平坦で、壁は垂直に立ち上がる。覆土の観察はできなかった。カマドは検出されていない。攪乱に壊された西壁に設置されていたものと思われる。

出土遺物はあまり多くない。出土土器は全て土師器で、坏・高坏・甕・壺等が認められた。8は滑石製の紡錘車でやや傷があるものの非常に丁寧な作りである。



第267図 第77号住居跡



第268図 第77号住居跡出土遺物

第77号住居跡出土遺物観察表 (第268図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	13.8	3.5		WRW' H'	B	黄い黄橙	20%	覆土 内外面やや磨耗
2	坏	(12.8)	4.4		B'WW'R	C	橙	45%	覆土 内外面やや磨耗
3	高坏か	(17.0)	3.5		W'H'WR	A	橙	20%	覆土 胎土緻密
4	高坏		8.8		W'WB'	B	橙	80%	覆土 胎土緻密
5	甕		6.6	(5.4)	B'BB'W'	B	灰黄褐色	40%	覆土
6	甕	13.5	17.0	5.5	WB'片	B	淡 橙	80%	覆土
7	壺	22.9	41.0		WBH'片	B	鈍い橙	45%	覆土 内外面磨耗著しい
8	紡錘車				覆土				厚さ1.4cm 大径3.6cm 小径2.2cm 孔径0.7cm 重量31.16g 滑石製

埼玉県埋蔵文化財調査事業同報告書 第151集

前・居立

校園道17号上武道路関係埋蔵文化財発掘調査報告

—Ⅲ—

(第1分冊)

平成7年3月25日 印刷

平成7年3月31日 発行

発行 財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

〒369-01 大里郡大里村大字箕輪字船木884

電話 (0493) 39-3955

印刷 新日本印刷株式会社